



での Microsoft ワークロードのコストの最適化 AWS

AWS 規範ガイド



AWS 規範ガイド: での Microsoft ワークロードのコストの最適化 AWS

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は、Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
概要	1
対象者	1
このガイドの使い方	1
目標とするビジネス成果	3
コスト最適化ジャーニー	4
コストを最適化するための上位のレコメンデーション	7
概要	7
上位のレコメンデーション	7
AWS 最適化とライセンス評価	9
概要	9
評価オプション	9
完全な評価	10
ワークロードの範囲	10
データの収集	11
データを分析する	12
次のステップを計画する	14
評価の影響	15
次のステップ	16
追加リソース	16
Amazon EC2 の Windows	17
停止スケジュールと開始スケジュールの自動化	18
概要	18
ケーススタディ	18
コスト最適化シナリオ	19
コスト最適化に関する推奨事項	21
追加リソース	33
適切なサイズの Windows ワークロード	33
概要	33
コスト最適化シナリオ	34
コスト最適化に関する推奨事項	35
レコメンデーション	44
追加リソース	45
Windows ワークロードに適したインスタンスタイプを選択する	45

概要	45
コスト最適化に関する推奨事項	46
次のステップ	55
追加リソース	57
Windows および SQL Server ワークロードのライセンスの持ち込み	57
概要	57
Amazon EC2 専有ホスト	58
AWS ライセンスオプション	62
Windows Server ライセンスの持ち込み	63
コスト最適化シナリオ	64
コスト最適化に関する推奨事項	70
追加リソース	71
Amazon EC2 での Windows の支出を最適化する	71
概要	71
Savings Plans について	72
コスト最適化シナリオ	78
コスト最適化に関する推奨事項	81
追加リソース	83
AWS ツールを使用したコストのモニタリング	84
概要	84
コスト最適化に関する推奨事項	84
追加リソース	88
SQL Server	89
高可用性とディザスタリカバリソリューションを選択する	90
概要	90
SQL Server Always On 可用性グループ	91
SQL Server Always On フェイルオーバークラスターインスタンス	93
SIOS DataKeeper	95
Always On 可用性グループ	97
分散可用性グループ	98
ログ配布	99
AWS Database Migration Service	101
AWS Elastic Disaster Recovery	102
コスト比較	103
コスト最適化に関する推奨事項	108
追加リソース	109

SQL Server ライセンスを理解する	109
概要	109
AWS ライセンスオプション	109
ライセンス導入によるコストへの影響	111
ライセンスの最適化	111
コスト最適化に関する推奨事項	108
追加リソース	45
SQL Server ワークロードに適した EC2 インスタンスを選択する	118
概要	118
コスト比較	119
コスト最適化シナリオ	120
コスト最適化に関する推奨事項	121
追加リソース	125
インスタンスの統合	125
概要	126
コスト最適化シナリオ	126
コスト最適化に関する推奨事項	128
追加リソース	129
SQL Server エディションの比較	129
概要	129
コストへの影響	130
コスト最適化に関する推奨事項	132
追加リソース	138
SQL Server Developer Edition を評価する	138
概要	138
コストへの影響	138
追加リソース	45
Linux での SQL Server の評価	142
概要	142
コストへの影響	143
コスト最適化に関する推奨事項	144
追加リソース	145
SQL Server バックアップ戦略の最適化	145
概要	145
VSS 対応スナップショットを使用したサーバーレベルのバックアップ	146
を使用した SQL Server バックアップ AWS Backup	148

データベースレベルのバックアップ	150
コスト最適化に関する推奨事項	160
追加リソース	163
SQL Server データベースのモダナイズ	164
概要	164
データベースサービス	164
Amazon RDS と Aurora の比較	165
コスト最適化に関する推奨事項	167
追加リソース	172
SQL Server のストレージの最適化	172
概要	172
Amazon EBS の SSD ストレージタイプ、パフォーマンス、コスト	173
Amazon EBS の一般的な SSD コスト最適化	175
追加リソース	176
Compute Optimizer を使用して SQL Server ライセンスを最適化する	177
概要	177
コスト最適化に関する推奨事項	178
Compute Optimizer の設定	178
追加リソース	180
Compute Optimizer を使用して SQL Server のサイズを最適化する	180
概要	180
Compute Optimizer の設定	181
追加リソース	181
SQL Server ワークロードの Trusted Advisor レコメンデーションを確認する	182
概要	182
コスト最適化に関する推奨事項	182
Trusted Advisorを設定する	183
追加リソース	184
コンテナ	185
Windows アプリケーションをコンテナに移動する	186
概要	186
コスト上の利点	186
コスト最適化に関する推奨事項	187
次のステップ	191
追加リソース	191
Amazon ECS での AWS Fargate タスクのコストの最適化	192

概要	192
コスト上の利点	192
コスト最適化に関する推奨事項	192
次のステップ	199
追加リソース	199
Amazon EKS のコストを可視化する	199
概要	199
コスト上の利点	200
コスト最適化に関する推奨事項	200
次のステップ	204
追加リソース	204
Windows アプリケーションを App2Container でリプラットフォームする	204
概要	204
コスト上の利点	206
コスト最適化に関する推奨事項	206
次のステップ	206
追加リソース	207
[Storage (ストレージ)]	208
Amazon EBS	208
Amazon EBSボリュームを gp2 から gp3 に移行する	208
Amazon EBSスナップショットの変更	213
アタッチされていない Amazon EBSボリュームを削除する	216
Amazon FSx	219
適切なSMBファイルストレージを選択する	220
Amazon でデータ重複排除を有効にする FSx	225
FSx for Windows File Server のデータシャーディングを理解する	227
Amazon でのHDDボリューム使用量を理解する FSx	231
1 つの Availability Zone を使用する	234
AWS Storage Gateway	236
Amazon S3 File Gateway	236
Amazon FSx File Gateway	237
コストへの影響	237
コスト最適化に関する推奨事項	239
追加リソース	242
アクティブディレクトリ	243
Amazon EC2 のセルフマネージド Active Directory	243

概要	243
コストへの影響	243
コスト最適化に関する推奨事項	244
追加リソース	248
AWS Managed Microsoft AD	249
概要	249
コストへの影響	249
コスト最適化に関する推奨事項	249
追加リソース	251
AD Connector	251
概要	251
コストへの影響	251
コスト最適化に関する推奨事項	251
追加リソース	252
.NET	253
最新の にリファクタリングし.NET、Linux に移行する	254
概要	254
コストへの影響	254
コスト最適化に関する推奨事項	255
その他の考慮事項とリソース	256
.NET アプリケーションをコンテナ化する	257
概要	257
コストへの影響	257
コスト最適化に関する推奨事項	259
追加リソース	261
Graviton インスタンスとコンテナを使用する	261
概要	261
コストへの影響	262
コスト最適化に関する推奨事項	264
追加リソース	265
静的 の動的スケーリングをサポートします。NET フレームワークアプリケーション	265
概要	265
コストへの影響	270
コスト最適化に関する推奨事項	271
追加リソース	273
キャッシュを使用してデータベースの需要を減らす	273

概要	273
コストへの影響	273
コスト最適化に関する推奨事項	274
追加リソース	280
サーバーレス を検討してください。NET	280
概要	280
コストへの影響	281
コスト最適化に関する推奨事項	281
追加リソース	285
専用データベースを検討する	285
概要	285
コストへの影響	289
コスト最適化に関する推奨事項	292
追加リソース	293
次のステップ	295
ドキュメント履歴	296
用語集	297
#	297
A	298
B	301
C	303
D	306
E	310
F	312
G	313
H	314
I	315
L	317
M	318
O	322
P	325
Q	327
R	328
S	330
T	334
U	335

V	336
W	336
Z	337
.....	cccxxxix

での Microsoft ワークロードのコストの最適化 AWS

Bill Pfeiffer、Chase Lindeman、Kevin Sookhan、Amazon Web Services (AWS)

2024 年 6 月 ([ドキュメント履歴](#))

概要

このガイドでは、上の Microsoft ワークロードのコストを最適化するための推奨事項、ベストプラクティス、戦略について説明します AWS。このガイドには、ビジネス目標を満たす費用対効果の高い高性能ワークロードの構築と自動化に役立つ基礎知識 AWS、コスト最適化手法、リファレンスアーキテクチャも含まれています。総称して、このガイドは Microsoft on AWS Cost Optimization (MACO) と呼ばれます。MACO ガイドは業界の専門家によって開発され、実際のシナリオに基づいています。

このガイドでは、以下の Microsoft ワークロードについて説明します。

- Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) の Windows
- SQL Server
- コンテナ
- [Storage (ストレージ)]
- アクティブディレクトリ
- .NET

対象者

このガイドは、アーキテクト、エンジニア、管理者、ディレクター、CTOs、技術意思決定者、AWS パートナーを対象としています。は役に立ちますが、AWS 請求、Microsoft テクノロジー、および AWS システム管理に関する経験と基本的な理解を持っている必要はありません。

このガイドの使い方

このガイドを使用して、クラウドへの MACO ジャourneyを計画および実装できます。このガイドを最初から最後まで読んで、で Microsoft ワークロードのコストを最適化するためのオプションとアプローチを包括的に理解することをお勧めします AWS。組織のニーズに基づいて、次のワークロードセクションを確認できます。

- [Amazon EC2 の Windows](#)
- [SQL Server](#)
- [コンテナ](#)
- [\[Storage \(ストレージ\)\]](#)
- [Active Directory](#)
- [.NET](#)

 Important

このガイドで提供されるコードサンプルは、デモンストレーションのみを目的としています。開発環境ですべてのコードをテストしてから、本番環境で使用するのがベストプラクティスです。コードを実装する前に、コードを小さなバッチでテストし、を使用してコードから生じるコスト変更を確認することをお勧めします[AWS Cost Explorer](#)。これにより、エッジケースや、後で問題になる可能性のあるその他の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

 Important

このガイドの料金例は、公開時の料金に基づいています。料金は変更されることがあります。さらに、コストは、AWS リージョン、AWS のサービス クォータ、およびクラウド環境に関連するその他の要因によって異なる場合があります。

目標とするビジネス成果

このガイドは、お客様とお客様の組織が以下のビジネス成果を達成するのに役立ちます。

- AWS 最適化とライセンス評価 (AWS OLA) を使用して、リソース使用率、サードパーティーのライセンス、アプリケーションの依存関係に基づいて、現在のオンプレミス環境とクラウド環境を評価および最適化する方法について説明します。
- Microsoft ワークロードの AWS モダナイゼーション計算ツールを使用して、コスト最適化のビジネスケースを作成します。
- Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の Windows、SQL Server、コンテナ、ストレージ、Active Directory、.NET のワークロードなど、特定の Microsoft ワークロードのコストを最適化します。

コスト最適化ジャーニー

クラウド移行ジャーニーの範囲、タイミング、具体的な道筋は、ビジネス目標、技術要件、その他の要因によって異なります。このセクションでは、[を使用したクラウド財務管理に重点を置き、MACO の推奨事項とベストプラクティスに準拠するクラウド AWS](#) 移行ジャーニーの例を示します。この例を使用して、Microsoft ワークロードのクラウド移行ジャーニーを設計する方法を理解できます。

以下の大まかなタスクは、組織が MACO の推奨事項とベストプラクティスを実装するために実行できるアプローチを示しています。

- タグ付け戦略を確立し、ユーザー定義のコスト配分タグを有効にします。詳細については、「リソースのタグ付けに関する AWS ホワイトペーパーのベストプラクティス」を参照してください。
[AWS](#)
- アプリケーション、チーム、または部門に基づいて予算を定義します。詳細については、請求情報と[コスト管理ユーザーガイドの AWS Budgets](#) 「によるコストの管理」を参照してください。
[AWS](#)
- 最適化 AWS とライセンス評価 (AWS OLA) を実行してコスト削減を加速します。詳細については、AWS ドキュメントの[AWS 「最適化とライセンスの評価」](#) を参照してください。
- を使用して Windows および SQL Server ワークロード用の Bring Your Own License (BYOL) を使用せず Amazon Elastic Compute Cloud Dedicated Hosts。詳細については、このガイドの「[Windows および SQL Server ワークロードのライセンスの持ち込み](#)」セクションを参照してください。
- で SQL Server ライセンスを最適化します AWS。詳細については、このガイドの「[SQL Server ライセンスを理解する](#)」セクションを参照してください。
- Windows ワークロードに適したインスタンスタイプを選択します。詳細については、このガイドの「[Windows ワークロードに適したインスタンスタイプを選択する](#)」セクションを参照してください。
- SQL ワークロードに適したインスタンスタイプを選択します。詳細については、このガイドの「[SQL Server ワークロードに適した EC2 インスタンスを選択する](#)」セクションを参照してください。
- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) を gp2 から gp3 に移行します。詳細については、このガイドの「[Amazon EBS ボリュームを gp2 から gp3 に移行する](#)」セクションを参照してください。

- で EC2 インスタンススケジューラを使用してワークロードを制御します AWS。詳細については、このガイドの「[停止スケジュールと開始スケジュールの自動化](#)」セクションを参照してください。
- SQL Server Developer Edition を使用して、本番稼働以外のワークロードの SQL Server コストを削除します。詳細については、このガイドの「[SQL Server Developer Edition を評価する](#)」セクションを参照してください。
- Amazon FSx for Windows File Server の開発およびテストワークロードには、単一のアベイラビリティゾーンを使用します。詳細については、このガイドの「[1つのアベイラビリティゾーンを使用する](#)」セクションを参照してください。
- を使用して Windows ワークロードを適正化します AWS Compute Optimizer。詳細については、このガイドの「[適切なサイズの Windows ワークロード](#)」セクションを参照してください。
- Savings Plans を使用して、Amazon EC2 の Windows の支出を最適化します。Savings Plans 詳細については、このガイドの「[Amazon EC2 での Windows の支出を最適化する](#)」セクションを参照してください。
- FSx for Windows File Server でデータ重複排除を有効にします。詳細については、このガイドの「[Amazon でデータ重複排除を有効にする FSx](#)」セクションを参照してください。
- FSx for Windows File Server のファイルシステムにデータシャーディングを使用します。詳細については、このガイドの「[FSx for Windows File Server のデータシャーディングを理解する](#)」セクションを参照してください。
- SQL Server のバックアップ戦略を最適化します。詳細については、このガイドの「[SQL Server バックアップ戦略の最適化](#)」セクションを参照してください。
- 静的な .NET Framework アプリケーションが動的スケーリングをサポートするようにします。詳細については、このガイド [静的の動的スケーリングをサポートします。NET フレームワークアプリケーションの「」](#) を参照してください。
- サーバーレス .NET マイクロサービスを使用します。詳細については、このガイドの「[サーバーレスを検討してください。NET](#)」セクションを参照してください。
- Windows アプリケーションをコンテナに移動します。詳細については、このガイドの「[.NET アプリケーションをコンテナ化する](#)」セクションを参照してください。
- を使用して [AWS Compute Optimizer](#)、AWS Fargate for Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) で実行されている Windows コンテナのサイズを適正化します。詳細については、このガイドの「[Compute Optimizer を有効にする](#)」セクションを参照してください。
- 最新の .NET にリファクタリングし、Linux に移行します。詳細については、このガイドの「[最新の.NETにリファクタリングしNET、Linuxに移行する](#)」セクションを参照してください。

- Graviton インスタンスとコンテナを活用します。詳細については、このガイドの「[Graviton インスタンスとコンテナを使用する](#)」セクションを参照してください。
- SQL Server データベースを最新化します。詳細については、このガイドの「[SQL Server データベースのモダナイズ](#)」セクションを参照してください。
- Active Directory インフラストラクチャを設計します。詳細については、このガイドの「[アクティブディレクトリ](#)」セクションを参照してください。

によるクラウド財務管理に焦点を当てたカスタマージャーニーの詳細については AWS、AWS ホワイトペーパー「[クラウド財務管理機能](#)」を参照してください。

コストを最適化するための上位のレコメンデーション

概要

コスト最適化は [AWS Well-Architected フレームワーク](#) の柱の 1 つであり、クラウド移行計画において重要な役割を果たします。このガイドではコスト最適化に関する推奨事項を示しますが、このセクションでは最も影響の大きい推奨事項について説明します。これらのレコメンデーションは迅速に実装でき、組織に大きな影響を与えます。これらのレコメンデーションは、コスト最適化作業全体の基盤を構築するのに役立ちます。

上位のレコメンデーション

次の表に、最も影響の大きいコスト最適化に関する上位の推奨事項を示します。「実装が難しい」列は、実装が最も簡単な (1) から実装が最も難しい (5) までのスケールに基づいて、各最適化を評価します。「削減額の見積もり」列には、推奨される最適化ごとに組織が削減できる削減額のパーセンテージベースの見積もりが表示されます。

最適化	実装の難しさ	推定削減額
適切なサイズの Windows ワークロード	3	25%
Windows および SQL Server ワークロードのライセンスの持ち込み	3	30%
SQL Server Developer Edition を評価する	2	20%
SQL Server ライセンスを理解する	2	最大 50%
停止スケジュールと開始スケジュールの自動化	3	最大 40%

最適化	実装の難しさ	推定削減額
Windows ワークロードに適したインスタンスタイプを選択する	1	10 ~ 30%
最新の にリファクタリングし NET、Linux に移行する	5	10 ~ 20%
Amazon EC2 での Windows の支出を最適化する	3	最大 20 ~ 40%
Amazon EBSボリュームを gp2 から gp3 に移行する	4	最大 20%

Important

上の表の推定削減額は、アカウント内の全体的な AWS 支出ではなく、個々の技術ドメインに適用されます。例えば、インスタンススケジューラをさまざまな環境タイプとサイズに実装して、潜在的な削減額を変更することができます。見積りは、特に Amazon EC2 インスタンスのコストに適用され、他の の全体的な節約を意味するものではありません AWS のサービス。これらの見積もりは、保証ではなくゲージとして提供されます。

MACO の専門家は、コスト最適化についてより詳細に説明できます。ユースケースを深く掘り下げるための会議を設定するには、アカウントチームに問い合わせるか、optimize-microsoft@amazon.com まで E メールでお問い合わせください。

AWS 最適化とライセンス評価

概要

[AWS Optimization and Licensing Assessment \(AWS OLA\)](#) は、リソース使用率、サードパーティーのライセンス、アプリケーションの依存関係に基づいて、現在のオンプレミスおよび既存のクラウド環境を評価および最適化するのに役立ちます。AWS OLA を使用すると、で既存の Microsoft ワークロードに移行 AWS または評価する際にコスト削減を可能にする移行およびライセンス戦略を組織で構築できます AWS。AWS OLA は、以下の達成にも役立ちます。

- 既存のデプロイ、アプリケーションのパフォーマンス、および契約を理解します。
- リソースの適切なサイズ。
- へのロードマップを作成します AWS クラウド。
- 既存の投資を使用し、使用した分だけ支払うことで、コストを削減または排除できます。

AWS OLA を [コスト最適化ジャーニー](#) の最初のステップにすることをお勧めします。を使用して AWS OLA AWS Partner Network を完了できます。これらは、評価データを収集し、ライセンスとインスタンスのコストを最適化するためのレコメンデーションを提供するのに役立ちます。

次の図は、評価プロセスの概要を示しています。



評価オプション

の Microsoft ワークロードには、次の 2 つの AWS OLA オプションから選択できます AWS。

- Lite バージョン – このユースケースでは、すべてのワークロードが VMware にあります。には AWS、 「[RVTools](#)。その後、 は 1 ~ 5 日のターンアラウンドタイムを提供 AWS できます。このアプローチでは、VMware vCenter から直接取得された point-in-time 情報を使用してサイジングレコメンデーションを作成し、オンデマンド料金オプションを提供します。
- フルバージョン – このユースケースでは、さまざまなクラウドプロバイダー、物理サーバー、仮想サーバーで混合環境が実行されています。AWS はオペレーティングシステムエージェントを使用して、14 日から 30 日の使用データを収集します。これにより AWS、 は、アプリケーションの使用パターンに基づいて、情報に基づいたインスタンスのサイズ決定を行うことができます。AWS は、Cloudamize などのいくつかのサードパーティーツールを使用して、 と連携する analysis. AWS works を完了 AWS Partner Network し、料金モデルやさまざまなアーキテクチャを考慮した複数の料金オプションを使用して、最終的な総所有コスト (TCO) 評価を提供できます。

完全な評価

完全な AWS OLA 評価は、1 時間の電話から開始されます。このコール中に、AWS は移行をサポートする最適な AWS インフラストラクチャを決定し、データ収集方法を選択し、完了のタイムラインを設定するのに役立ちます。組織に検出ツールを実装するかどうかは、データ収集方法、組織のサイズ、組織がサーバーのフリートを管理するために使用するツールによって異なります。通常、使用状況データの収集には 2 週間かかります。

完全な AWS OLA プロセスには 30 ~ 45 日かかり、以下のフェーズで構成されます。

- ワークロードの範囲
- データの収集
- データを分析する
- 次のステップを計画する

ワークロードの範囲

まず、自分とチーム AWS と協力して評価の範囲を決定します。これは通常、環境タイプ (非本番環境や本番環境など) ごとに分類されます。スコープには、ワークロードの場所が含まれます。これは、 に移行するワークロード AWS、 ですでに実行されているワークロード AWS (Amazon EC2 用の AWS OLA など)、または他のクラウドプロバイダーで実行されているワークロードなどです。

データの収集

次に、は、リソースの検出とサーバーからのパフォーマンスデータの収集に役立つツールを AWS デプロイします。このツールには、次の 4 つのデプロイオプションがあります。

- ハイパーバイザーをクエリできるツール (VMware vCenter または Hyper-V 認証情報のみが必要)
- 物理マシンまたは仮想マシンにデプロイできるエージェント
- 環境とオペレーティングシステムに応じて SSH、Windows Remote Management (WinRM)、または Windows Management Instrumentation (WMI) を使用したエージェントレス検出
- フラットファイルデータの収集と分析

ツールのデプロイでは、各オプションを組み合わせることで一致させ、結果を統合できます。どのオプションを選択しても IT リソースに負荷がかからないようにすることが重要です。評価プロセスをできるだけターンキーにするために、AWS は を稼働させます。セットアップを支援する簡単な電話以外にも、AWS OLA チームおよび Microsoft スペシャリストソリューションアーキテクトは、総所有コスト (TCO) 分析とレビューのためのレコメンデーションを準備します。

データ収集には通常、CPU 使用率、RAM 使用率、ストレージスループット、IOPS、ネットワークスループットが分析されるまでに 2~3 週間かかります。理想的には、このコレクションは当月のピーク時 (例えば、end-of-month 財務レポート中など) AWS に行われます。は、適切なサイズの AWS インスタンスが何であるかに関する適切な統計サンプルを提供しながら、パフォーマンスがオンプレミスで利用可能なものを超えることを保証するため、ピーク時の使用状況を把握したいと考えています。は、さまざまなプロセッサ世代のパフォーマンスヒューリスティックを使用して使用率メトリクスを AWS マージし、特定のワークロードが必要とする CPU と RAM を正確にターゲットにします。これらのターゲットは通常、オンプレミスで割り当てられているターゲットよりも小さくなります。これにより、インスタンスサイズのコンピューティングコストが削減されるだけでなく、ライセンスコストも最適化されます。

次のダッシュボードビューは、評価でキャプチャできるインフラストラクチャコストの例を示しています。

OLA 2 - Workload, On-Demand: All Infrastructure

Overview

Reports



Infrastructure Summary	
Nodes 448	Compute Cost \$921k
Disks / Storage 1438/540TB	Storage Cost \$531k
Bytes/month (GB) 334k	Network Cost \$211k
License Cost \$0	Total with License Cost \$1.7m
Total: \$1.7m	

Details

[Download](#)

Summary

Compute

Storage

Network

License

Dedicated Host

Q e.g. datacenter name, vm name, ec

[Collapse All](#)

CPU Utilization		Observed Memory			Instance Memory	
Predicted (%)	SLT (%)	Currently Available (GB)	Peak Used (GB)	Recommended Available (GB)	Recommended Max Available (GB)	
20.4	80	34.4	13.1	17.2	17.2	1
76.3	80	34.4	33.3	34.4	34.4	3
8.9	80	17.2	14.8	17.2	17.2	1
101.0	80	51.5	7.3	17.2	17.2	2
2.3	80	8.6	4.0	4.3	4.3	4
32.9	80	8.6	2.8	4.3	4.3	4

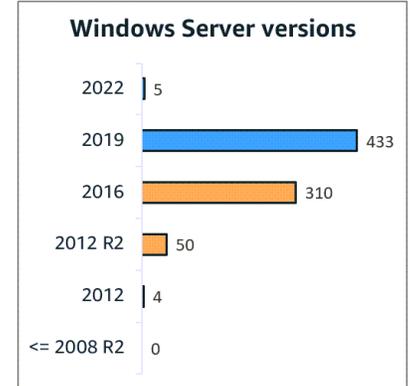
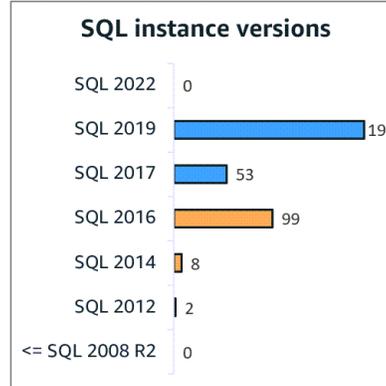
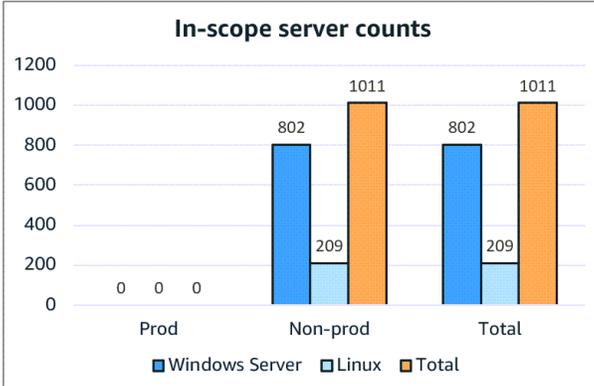
データを分析する

AWS は、データ収集の完了後に報告プレゼンテーションを提供します。はデータ AWS を確認し、検出結果を要約してから、オンプレミスの使用とクラウド移行に関するレコメンデーションを作成します。統合の機会、伸縮性の向上 (ワークロードをオフまたは季節的に調整できる)、適切な SKU の機会 (SQL Server Enterprise Edition が使用されているが、リソース要件と機能の使用法から SQL Server Standard Edition が適していることがわかるなど) を調べることで、コンピューティングコストとライセンスコストを削減できます。コアからライセンスされている SQL Server などの製品では、多くの場合、ワークロードをより高価なコンピューティングインスタンスに配置するのが財務上の意味があります。つまり、CPU プロファイルと RAM と vCPU の比率が、ライセンスインクルードと Bring Your Own License (BYOL) の両方のユースケースのライセンスコア数を減らすために正味の効果をもたらす場合です。

以下は、評価によって収集されたデータに基づく分析の例です。

Collection method:	Migration Evaluator
Additional data used:	
License entitlements:	Received MLS
Prod vs non-prod:	Customer provided
Excluded from scope:	169 server(s) + 0 desktop(s)
SQL dev running ENT/STD:	12 SQL Servers \$316K
Number of SQL passive nodes:	1

				
Virtual servers	Physical servers	RAM	Total cores	Used storage
1,011	0	21.57 TB	4,528	397 TB
(1,011 total servers)		20.09 TiB		369 TiB



一般的な最適化シナリオには、AWS リソース最適化の機会とサードパーティーのライセンス節約の両方を特定することが含まれます。

AWS リソース最適化の機会の例：

- ピーク時の使用に対してオーバプロビジョニングを避けます。
- リソースを過剰に指定したり、十分に使用したりしないようにします。
- インスタンスのサイズを適切に設定し、最新世代の EC2 インスタンスに移行します。
- マネージドデータベースに移行することで、運用コストを節約できます。

サードパーティーのライセンス削減の例：

- 同じワークロードを実行するために必要なコアを減らします。
- 不要な SQL Server Enterprise エディションとアドオンパックを削除します。
- ゾンビサーバーを削除し、古いハードウェアを置き換えます。
- BYOL とライセンス込みオプションを使用して、将来の商用契約を削減します。
- をオープンソースおよびクラウドネイティブソリューションにモダナイズします。

次のステップを計画する

最後に、収集したパフォーマンスデータ AWS を使用して、特定のワークロードのサイズ設定とコストを見積もります。AWS は、スコープ設定された環境を集計して調べ、定量的分析を行うこともできます。これは、最適なオプションがオンプレミスの更新か、への移行かを判断するのに役立ちます AWS。AWS OLA の最後に用意されている TCO 分析の概要 (次の例を参照) を使用して、クラウド経済のビジネスケースを構築できます。

	Option 1: Amazon EC2 shared	Option 1a: Amazon EC2 shared + power management	Option 2: Amazon EC2 mixed	Option 2a: Amazon EC2 mixed + power management
<i>Option details: compute</i>	100% Reserved Instances (RIs)	RIs + on-demand power management	100% RIs	RIs + on-demand power management
<i>Option details: Microsoft licenses</i>	WS LI and SQL BYOL	WS LI and SQL BYOL	WS BYOL or LI+SQL BYOL	WS BYOL or LI+SQL BYOL
Compute costs¹				
Year 1 compute cost	\$414,546	\$482,623	\$504,019	\$513,941
Year 1 vendor license included cost	\$392,858	\$244,415	\$9,804	\$4,783
	\$807,404	\$727,038	\$513,823	\$518,724
<i>Total compute savings in year 1, compared to Option 1</i>	—	10% (\$80,366)	36% (\$293,581)	36% (\$288,680)
Storage and networking costs²				
Annual estimated storage cost	\$336,494	\$336,494	\$336,494	\$336,494
Annual estimated networking cost	\$41,455	\$41,455	\$41,455	\$41,455
	\$377,949	\$377,949	\$377,949	\$377,949
Microsoft license costs**				
WS/CIS annual Software Assurance (SA) + current SPLA/Subs cost	\$0	\$0	\$0	\$0
WS/CIS license + SA + SPLA/Subs true-up cost	\$0	\$0	\$0	\$0
SQL annual SA + current SPLA/Subs cost	\$0	\$0	\$0	\$0
SQL license SA + current SPLA/Subs true-up cost	\$0	\$0	\$0	\$0
	\$0	\$0	\$0	\$0
Total estimated costs	\$1,185,353	\$1,104,987	\$891,772	\$896,673
<i>Annual TCO savings in year 1, compared to Option 1</i>	—	7% (\$80,366)	25% (\$293,581)	24% (\$288,680)

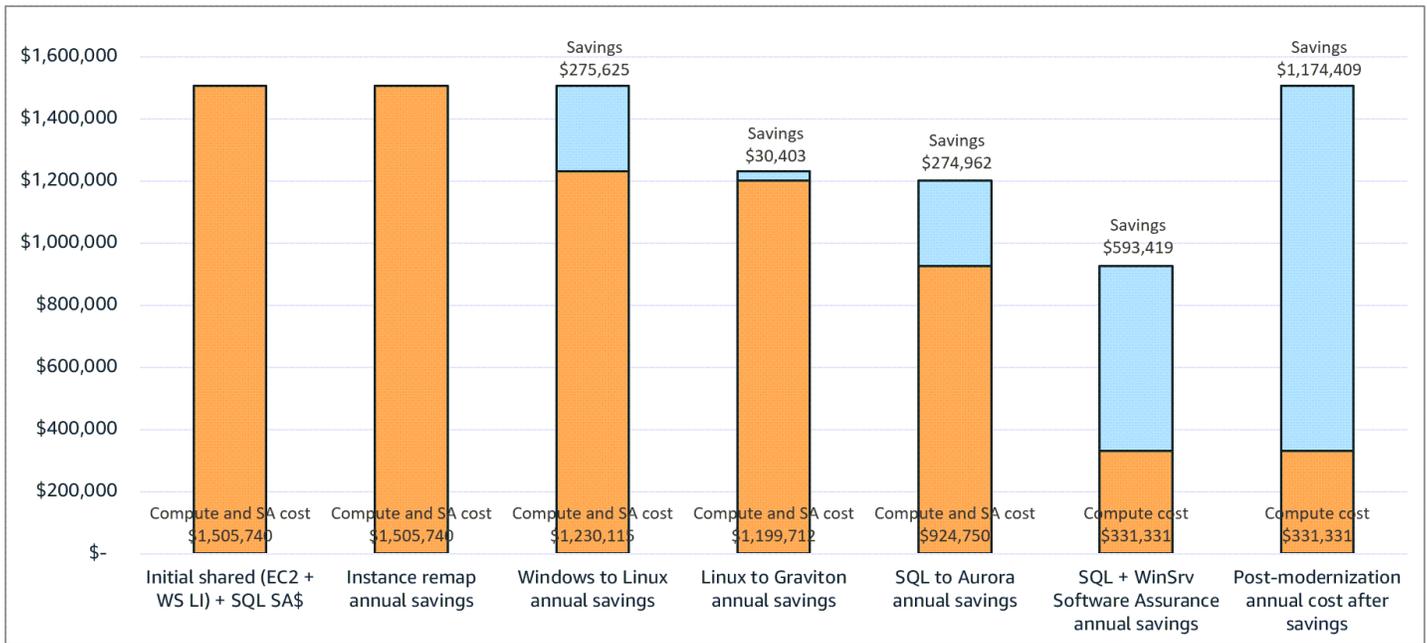
¹ Pricing model used: 3-year, no upfront RI

² Software Assurance and true-up costs provided by Microsoft

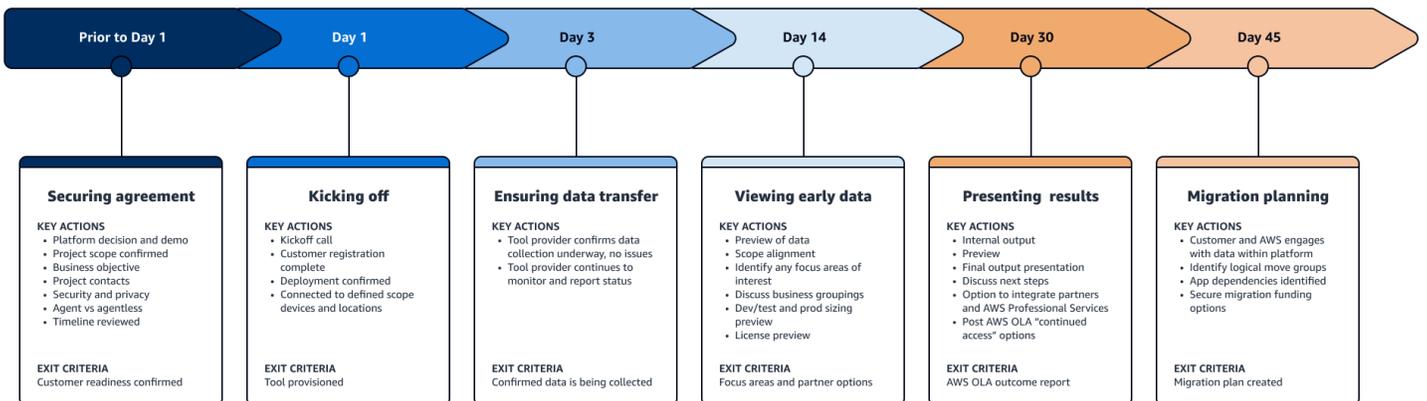
AWS OLA は、次のような提案を行うことで、モダナイゼーションが既存のワークロードに与える影響についてのインサイトも提供します。

- Linux オペレーティングシステムに移動します。
- ARM プロセッサ (AWS Graviton) のアプリケーションサポートを追加します。
- SQL Server ワークロードを Amazon Aurora に移動します。
- Windows と SQL Server のワークロードをオープンソースのテクノロジーに移行することで、ソフトウェア保証を解除します。

次の図は、Windows から Linux への移行や SQL Server から Aurora への移行などのモダナイゼーション手法によって実現できるコスト削減を示しています。



完全な AWS OLA プロセスには、開始から終了まで約 45 日かかります。次の図はタイムラインの例を示しています。



純粋な VMware 環境があり、RVTools、このタイムラインを 1 営業日に短縮できます。さらに、CPU 平均、CPU ピーク、RAM 平均、RAM ピークなどのアセットと使用率データを含むフラットファイルを分析 AWS できます。

評価の影響

通常、平均的なお客様は、適切なサイジング作業により 20~30% のコスト削減を経験します。適切なサイズ設定は、ソースワークロードを使用状況データに基づいて最適なサイズの AWS インスタンスに一致させます。これらの適切なサイジング調整により、AWS 環境の月額コストを削減できるだけでなく、多くの場合、組織内の他の場所でコスト削減につながります。例えば、Windows また

は SQL Server のライセンスが 20~30% 増加すれば、Microsoft との次の調整を減らしたり、追加の line-of-business アプリケーションのライセンスを解放したりできます。SQL Server ワークロードの統合と適切なサイジングは、最も劇的な財務上の利益を実現する場合によくあります。

AWS は、システムをモダナイゼーションバケットに分類するのに役立ちます。一部のシステムはレガシーであり、金銭的には操作できませんが、最も大きな節約が実現されるコンテナやサーバーレスアプリケーションにモダナイズされるシステムもあります。AWS チームとの会話は、クラウドが何を可能にするかについての一般的なトピックから、特定のワークロードをモダナイズする方法と理由についてのより具体的な議論に移行します。AWS また、潜在的なイノベーションの機会を検討するのも役立ちます。

次のステップ

オンプレミス環境または で実行されている Microsoft ワークロードのコスト最適化ジャーニーを開始する場合は AWS、AWS アカウントチームに連絡して、AWS OLA. AWS team メンバーに質問に答えて、AWS OLA が最終的に自分と組織にとって適切な選択であるかどうかの判断を支援してください。または、[AWS OLA オンライン をリクエスト](#)することもできます。

追加リソース

- [AWS 最適化とライセンスの評価](#) (AWS ドキュメント)
- [AWS re:Invent 2022 - \(ENT205\) \(\) で AWS コストを節約し、Microsoft ワークロードを最適化する方法](#) YouTube

Amazon EC2 の Windows

[Amazon Elastic Compute Cloud \(Amazon EC2\)](#) は、Windows ワークロードの実行に最適な、柔軟性が高くスケーラブルなクラウドコンピューティングプラットフォームです。Amazon EC2 を使用して、の安全で信頼性が高く、可用性が高く、適応可能なインフラストラクチャで Windows Server ワークロードをデプロイ、管理、スケーリングできます AWS クラウド。Amazon EC2 で Windows ワークロードを実行する場合の主な利点を以下に示します。

- **スケーラビリティ** — Amazon EC2 では、要件の変化に合わせて Windows ワークロードを簡単にスケーリングできます。需要の増加に対応するために新しい EC2 インスタンスをすばやく作成し、不要になったインスタンスを簡単に終了できます。実際に使用したリソースに対してのみ料金が発生します。
- **柔軟性** — Windows on Amazon EC2 は、汎用インスタンスからメモリやコンピューティング最適化インスタンスまで、さまざまなワークロード要件を満たすように設計された幅広いインスタンスタイプをサポートしています。この柔軟性により、特定の Windows ベースのアプリケーションに最適なインスタンスタイプを選択し、パフォーマンスを最大化し、コストを最小限に抑えることができます。
- **セキュリティ** — ネットワークファイアウォール、データ暗号化、安全なアクセスコントロールなど、Windows ワークロードに複数のセキュリティレイヤー AWS を提供します。つまり、セキュリティ設定と設定を完全に制御しながら、アプリケーションとデータが保護されていることを信頼できます。
- **コスト効率** — pay-as-you-go 料金モデルでは、使用したリソースに対してのみ料金を支払うことができるため、ハードウェアやソフトウェアに先行投資する必要がなくなります。このモデルでは、コストの最適化、設備投資の削減、運用効率の向上も実現できます。これは、あらゆる規模のビジネスに最適な料金モデルです。

ガイドのこのセクションでは、以下のトピックについて説明します。

- [停止スケジュールと開始スケジュールの自動化](#)
- [適切なサイズの Windows ワークロード](#)
- [Windows ワークロードに適したインスタンスタイプを選択する](#)
- [Windows および SQL Server ワークロードのライセンスの持ち込み](#)
- [Amazon EC2 での Windows の支出を最適化する](#)
- [AWS ツールを使用したコストのモニタリング](#)

停止スケジュールと開始スケジュールの自動化

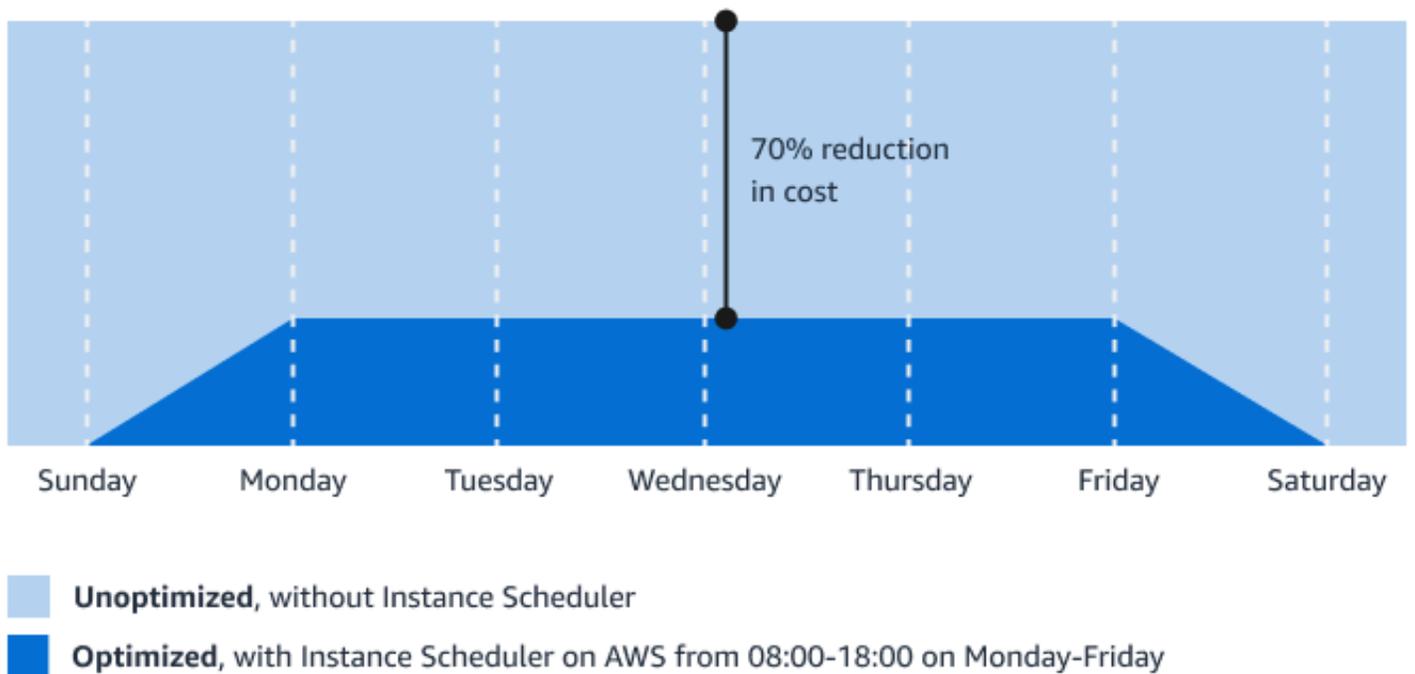
概要

[のインスタンススケジューラ AWS](#)は、[Amazon EC2](#) および Amazon [Amazon Relational Database Service](#) インスタンスの開始と停止を自動化することで、運用コストを削減するのに役立ちます。すべてのインスタンスをフル使用率で継続的に実行したままにすると、使用されていないリソースに対して料金が発生する可能性があります。インスタンススケジューラをオンに AWS すると、営業時間外、週末、または使用量が少ないその他の期間など、必要のない時間帯にインスタンスをオフにできます。これにより、時間の経過とともに大幅なコスト削減につながる可能性があります。

のインスタンススケジューラは、クロスアカウントインスタンススケジューリング、自動タグ付け、およびコマンドラインインターフェイスまたは[AWS Systems Manager](#)メンテナンスウィンドウを使用してスケジュールまたは期間を設定する機能 AWS も提供します。これらの機能により、インスタンスをより効果的かつ正確に管理し、さまざまなプロジェクトやチームにコストを追跡して割り当てることができます。

ケーススタディ

実稼働環境で AWS でインスタンススケジューラを使用して、毎日営業時間外にインスタンスを自動的に停止する会社の例を考えてみましょう。この会社がすべてのインスタンスをフル使用率で実行したままにしておくと、通常の営業時間内にもみ必要なインスタンスに対して最大 70% のコスト削減を実現できます。次の表は、週次使用率を 168 時間から 50 時間に減らす方法を示しています。

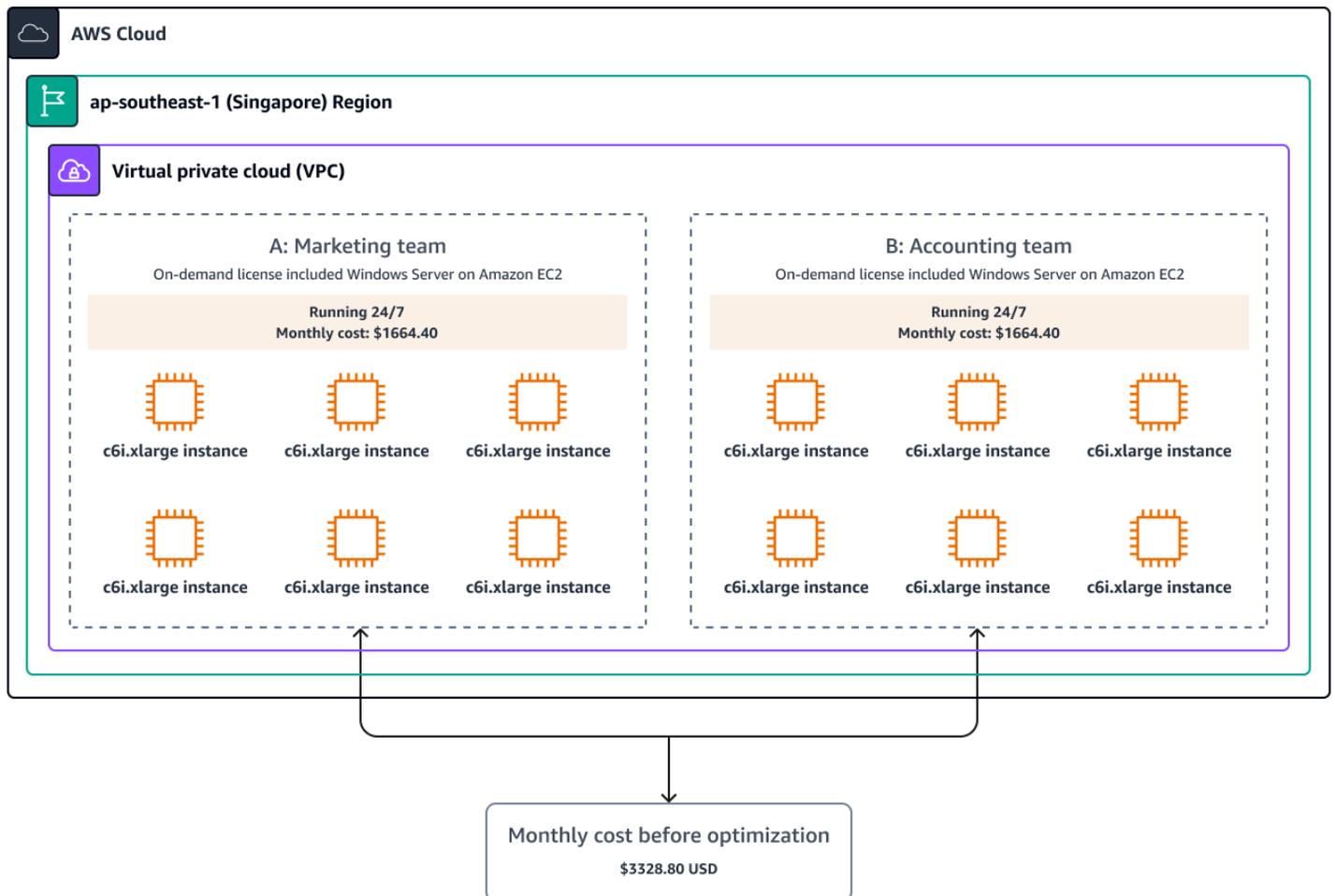


別の例を考えてみましょう。電力会社 Jamaica Public Service Company Limited (JPS) は、データベースを Amazon RDS に移行しました。これで、JPS は Amazon EC2 を使用して API サービスをホストし、他のアプリケーションを実行します。JPS では、のインスタンススケジューラが非本番環境を管理するための主要なツール AWS になりました。JPS は でインスタンススケジューラを使用して開発コストを削減し AWS、チームのニーズと作業スケジュールに基づいて EC2 インスタンスを管理しました。これにより、JPS はコストを 40% 削減できました。詳細については、[「Jamaica Public Service がクラウドに効率的に移行し、インスタンススケジューラを使用してコストを 40% AWS 削減する」](#)の AWS ケーススタディを参照してください。

コスト最適化シナリオ

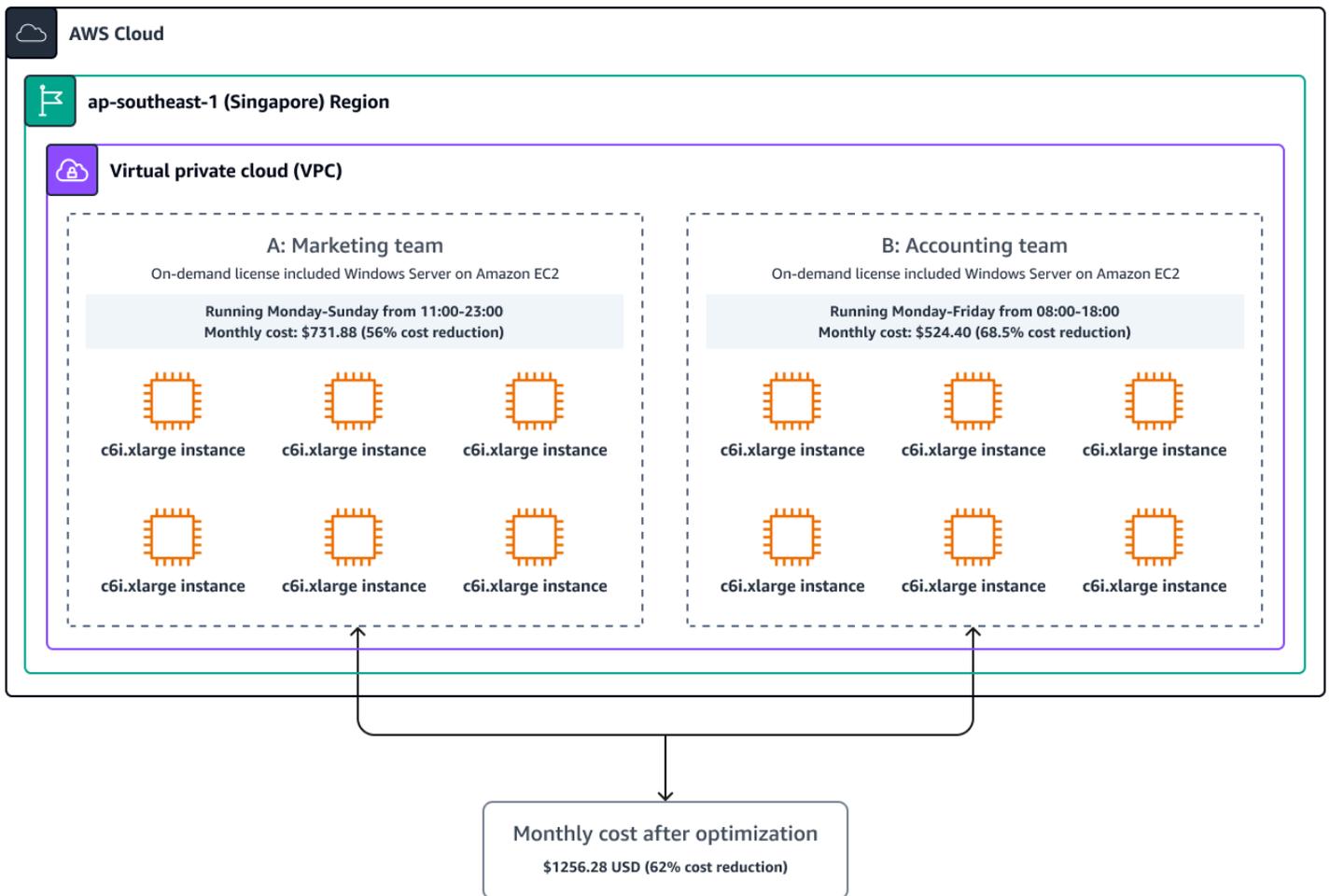
次のシナリオ例は、でインスタンススケジューラを使用するコスト上の利点を説明するのに役立ちます AWS。このシナリオでは、シンガポールのある主要な小売企業が Amazon EC2 に 2 つの Windows 環境をデプロイします。ワークロード A と呼ばれる最初の環境は、マーケティングチームが店舗がオープンしている間にリアルタイムの店舗内トランザクションを分析するために利用されません。ワークロード B と呼ばれる 2 番目の環境は、通常の営業時間内のみ機能するアカウントティングチーム用に予約されています。両方の環境の現在の運用スケジュール (24 時間 365 日) は、現在の使用パターンを考慮すると理想的ではなく、会社の運用コストを削減するために最適化が必要です。

次の図は、最適化前の月額コストを示しています。



例えば、3月には31日があり、そのうち23日は平日です。マーケティングチームがインスタンススケジューラを使用しAWS、必要な場合にのみインスタンスを操作する場合(つまり、1か月あたり730時間ではなく1か月あたり321時間)、毎月932.52 USDを節約できる可能性があります。これにより、運用コストが56%削減されます。アカウントチームにも大きなメリットがあり、インスタンスの使用時間は1か月あたり730時間から230時間に短縮されます。これにより、1,140 USD、つまり68.5%の削減になります。同社は、合計で1か月あたり2,072.52 USD(62%の削減に相当)、つまり年間24,870.24 USDを節約できます。

次の図は、最適化後の月額コストを示しています。



Note

この例の料金は、2023年3月 [AWS Pricing Calculator](#) を使用して決定されました。

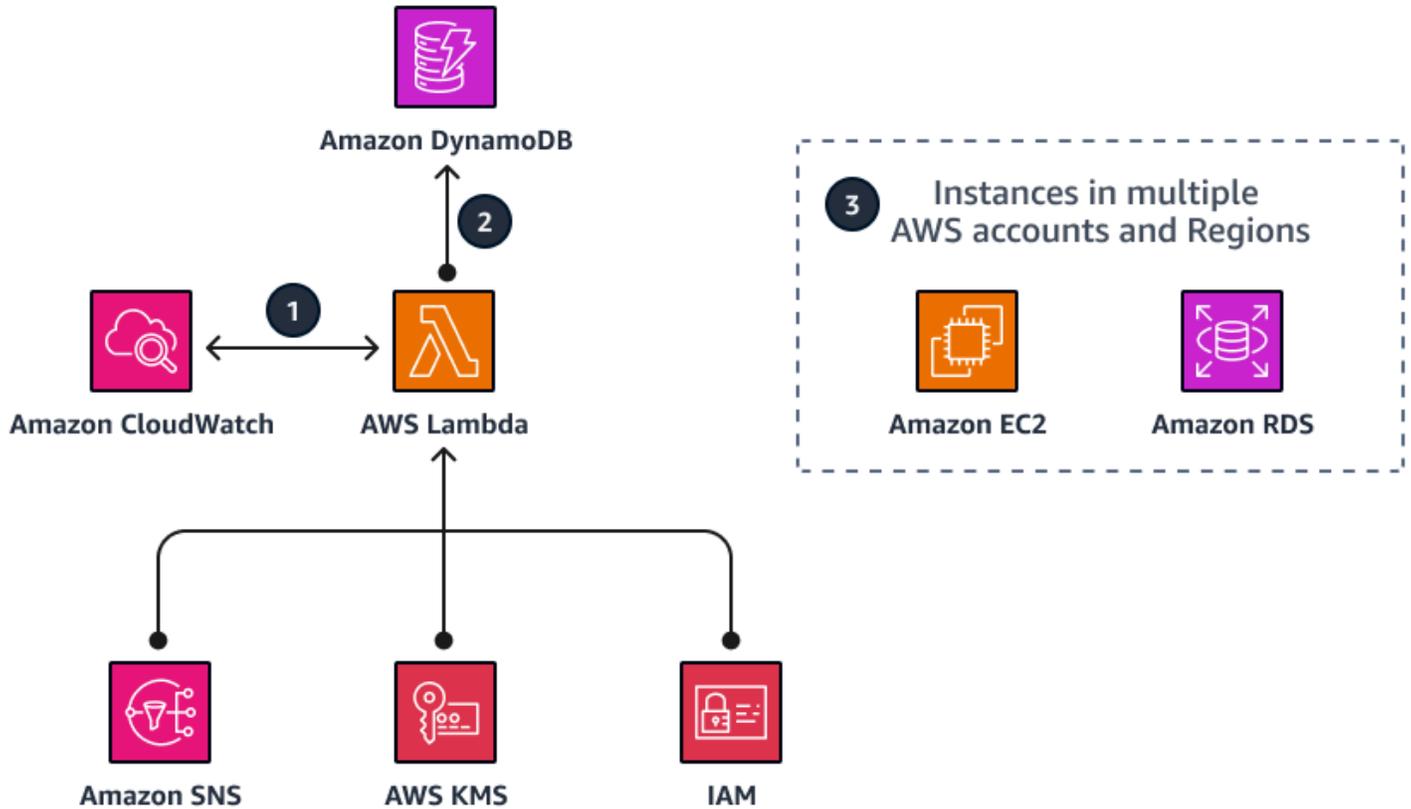
コスト最適化に関する推奨事項

このセクションでは、前のコスト最適化シナリオセクションで説明したシナリオ例に基づいて、`aws-scheduler` で AWS インスタンススケジューラをデプロイおよび設定する方法について説明します。`aws-scheduler` でインスタンススケジューラを使用してコストを最適化するには、次のステップを実行することをお勧めします AWS。

1. インスタンススケジューラスタックを起動する
2. 期間を設定する
3. スケジュールを設定する

4. インスタンスにタグ付けする

次のアーキテクチャ図は、インスタンススケジューラスタック AWS クラウド によって作成される内容を示しています。



この図は、以下のワークフローステップを示しています。

1. AWS CloudFormation テンプレートは、定義した間隔で Amazon CloudWatch イベントを設定します。このイベントは AWS Lambda 関数を呼び出します。設定時に、アカウント AWS リージョンとアカウントを定義します。また、のインスタンススケジューラが、スケジュールを該当する Amazon EC2 インスタンス、Amazon RDS インスタンス、およびクラスターに関連付けるために AWS 使用するカスタムタグを定義します。
2. スケジュール設定値は Amazon DynamoDB に保存され、Lambda 関数は実行されるたびに値を取得します。その後、該当するインスタンスにカスタムタグを適用できます。
3. インスタンススケジューラの初期設定時に、該当する Amazon EC2 および Amazon RDS インスタンスを識別するためのタグキーを定義します。スケジュールを作成すると、指定した名前が、タグ付けされたリソースに適用するスケジュールを識別するタグ値として使用されます。

インスタンススケジューラスタックを起動する

このセクションでは、でインスタンススケジューラの CloudFormation スタックを起動する方法について説明します AWS。

Note

でインスタンススケジューラを実行している間 AWS のサービス に使用される のコストは、お客様の負担となります AWS。2023 年 1 月現在、 us-east-1リージョンでデフォルト設定を使用してこのソリューションを実行する場合のコストは、Lambda の料金で 1 か月あたり約 9.90 USD です。Lambda 無料利用枠の月間使用量クレジットがある場合はそれ以下です。詳細については、ソリューションライブラリの[AWS 「実装ガイド」の「インスタンススケジューラのコスト AWS」](#)セクションを参照してください。

インスタンススケジューラスタックを起動するには、次の手順を実行します。

1. にサインインし、[AWS Management Console起動テンプレート](#)のソリューション (ダウンロード可能なテンプレート) を選択します instance-scheduler-on-aws.template CloudFormation。

Note

実装の開始点として[テンプレートをダウンロード](#)することもできます。

2. テンプレートはデフォルトで米国東部 (バージニア北部) リージョンで起動します。別のリージョンでインスタンススケジューラを起動するには、コンソールナビゲーションバーのリージョンセレクターを使用します。

Note

この例では、アジアパシフィック (シンガポール) リージョンを使用しています。

3. 「スタックの作成」ページの「前提条件 - テンプレートの準備」セクションで、「テンプレートの準備」オプションが選択されていることを確認します。テンプレートソースセクションで、Amazon S3 URL オプションが選択されていることを確認します。
4. 正しいテンプレート URL が Amazon S3 URL テキストボックスにあることを確認し、次へを選択します。

- [[スタックの詳細を指定](#)] ページで、ソリューションのスタックに名前を割り当てます。命名文字の制限については、AWS Identity and Access Management ([IAM](#)) [ドキュメント](#) の「[IAM および STS の制限](#)」を参照してください。このガイドの例のスタック名は `MyInstanceScheduler` と呼ばれます。

Note

スタック名には 28 文字を超える文字を含めることはできません。

- UnderParameters で、テンプレートのパラメータを確認し、必要に応じて変更します。
- [Next (次へ)] を選択します。[[スタックオプションの設定](#)] ページで[次へ] を選択します。
- レビューページで、設定を確認して確認します。テンプレートが IAM リソースを作成することを確認するチェックボックスを選択します。
- [作成] を選択してスタックをデプロイします。

期間を設定する

CloudFormation テンプレートをデプロイすると、ソリューションによって DynamoDB テーブルが作成されます。このテーブルには、独自のカスタム期間ルールとスケジュールを作成するためのリファレンスとして使用できるサンプル期間ルールとスケジュールが含まれています。期間設定の例については、「[ドキュメント](#)」の「[インスタンススケジューラ](#)」のサンプル AWS [スケジュール](#) を参照してください。

このシナリオのステップを完了するには、各ワークロードに対応し、特定のニーズを満たす期間を生成する必要があります。例:

```
Period 1 (Workload A):
  Name: retail-hours
  Days: Monday to Sunday
  Hours: 1100 - 2300
Period 2 (Workload B):
  Name: office-hours
  Days: Monday to Friday
  Hours: 0800 - 1800
```

期間を設定するには、次のステップを実行します。

- [DynamoDB コンソール](#) にサインインし、[で](#) インスタンススケジューラの CloudFormation テンプレートを起動したリージョンと同じリージョンにいることを確認します AWS。

2. ナビゲーションペインで、テーブル を選択し、 という名前のテーブルを選択し
ずConfigTable。
3. テーブル項目の検索 を選択します。
4. 営業時間の期間を作成するには、営業時間項目の期間を選択します。
5. 項目の編集ページで、starttime の値を 0800、endtime を 1800 に変更します。デフォルト値は平
日にそのままにします。

Note

開始時刻と終了時刻の値は、インスタスを起動および停止するタイミングを決定しま
す。一方、平日の値は、このスケジュールが適用される曜日 (この例では月曜日から金曜
日) を決定します。

6. [変更の保存] を選択します。
7. 営業時間を複製し、それを使用して小売時間の新しい期間を作成するには、営業時間項目の期
間を選択します。次に、アクションメニューから重複項目 を選択します。
8. ニーズに合わせて属性を変更します。次の属性は、シナリオ例の要件を満たすために使用されま
す。

```
type: period
name: retail-hours
begintime: 11:00
description: Retail hours
endtime: 23:00
weekdays: mon-sun
```

9. [項目を作成] を選択します。
- 10 DynamoDB でConfigTable、項目リストにリストされている、先ほど作成した 2 つの期間を特定
します。

スケジュールを設定する

のインスタンススケジューラのコテキストでは AWS、スケジュールは 1 つ以上の期間および関連
するタイムゾーンの適用を指します。これらのスケジュールは、タグとしてインスタンスに割り当
てられます。このセクションでは、2 つのサンプルワークロードのさまざまな時間パターンに対応す
るために 2 つのスケジュール (以下を参照) を作成し、そのスケジュールを前のセクションで作成した
期間に関連付ける方法を示します。

```
Schedule 1:  
  Name: singapore-office-hours  
  Period: office-hours  
  Timezone: Asia/Singapore  
Schedule 2:  
  Name: singapore-retail-hours  
  Period: retail-hours  
  Timezone: Asia/Singapore
```

スケジュールを作成して設定するには、次のステップを実行します。

1. [DynamoDB コンソール](#)にサインインし、 でインスタンススケジューラの CloudFormation テンプレートを開始したリージョンと同じリージョンにいることを確認します AWS。
2. ナビゲーションペインで、テーブル を選択し、 という名前のテーブルを選択し
ずConfigTable。
3. テーブル項目 を探索 を選択します。
4. 英国の営業時間のスケジュールを複製し、それを使用して営業時間 (この例ではシンガポールの営業時間) の新しいスケジュールを作成するには、uk-office-hours 項目のスケジュールを選択します。次に、アクションメニューから重複項目 を選択します。
5. ニーズに合わせて属性を変更します。次の属性は、シナリオ例の要件を満たすために使用され
ず。

```
type: schedule  
name: singapore-office-hours  
description: Office hours in Singapore  
periods: office-hours  
timezone: Asia/Singapore
```

6. [項目を作成] を選択します。
7. ステップ 4~6 を繰り返して、次の属性値を使用してシンガポールの小売時間のスケジュールを
作成します。

```
type: schedule  
name: singapore-retail-hours  
description: Retail hours in Singapore  
periods: retail-hours  
timezone: Asia/Singapore
```

8. DynamoDB でConfigTable、作成した 2 つのスケジュールと 2 つの期間を特定します。

インスタンスにタグ付けする

スケジュールを設定したら、タグを使用して、使用する特定のインスタンスにスケジュールを割り当てる必要があります。内のタグエディタを使用して[AWS Resource Groups](#)、Amazon EC2 インスタンスにタグを生成して割り当てることができます。

1. にサインイン[AWS Management Console](#)し、CloudFormation テンプレートを以前に起動したリージョンと同じリージョンにいることを確認します。
2. [Resource Groups コンソール](#)を開きます。ナビゲーションペインで、タグ付け を展開し、タグエディタ を選択します。
3. 「タグ付けするリソースの検索」セクションの「リージョン」で、リージョンを選択します。リソースタイプで、Amazon EC2 または Amazon RDS を選択します。このシナリオでは、ワークロード A の Amazon EC2 インスタンスに焦点を当てます。マーケティングチームはシンガポールリージョンのワークロード A を使用しています。このワークロードのリソースには、部門キーとマーケティング値が既にタグ付けされています。このタグを使用してインスタンスを検索できます。
4. [リソースを検索] を選択します。
5. 検索結果のリストからスケジュールに含めるインスタンスを選択し、選択したリソースのタグを管理するを選択します。
6. 選択したすべてのリソースのタグの編集セクションで、タグを追加 を選択して、インスタンススケジューラのスケジュールタグを EC2 インスタンスに追加します。スケジューラ (以前は DynamoDB で作成) に一致するタグキーと値を使用できます。
7. タグキー には、スケジュール を追加します。タグ値 には、 と 入力しますsingapore-retail-hours。
8. [タグの変更を確認して適用] を選択します。
9. 選択したすべての EC2 インスタンスにタグを適用するには、選択したすべての に変更を適用を選択します。
- 10適用する追加のスケジュールについては、ステップ 3~9 を繰り返します。

検証結果

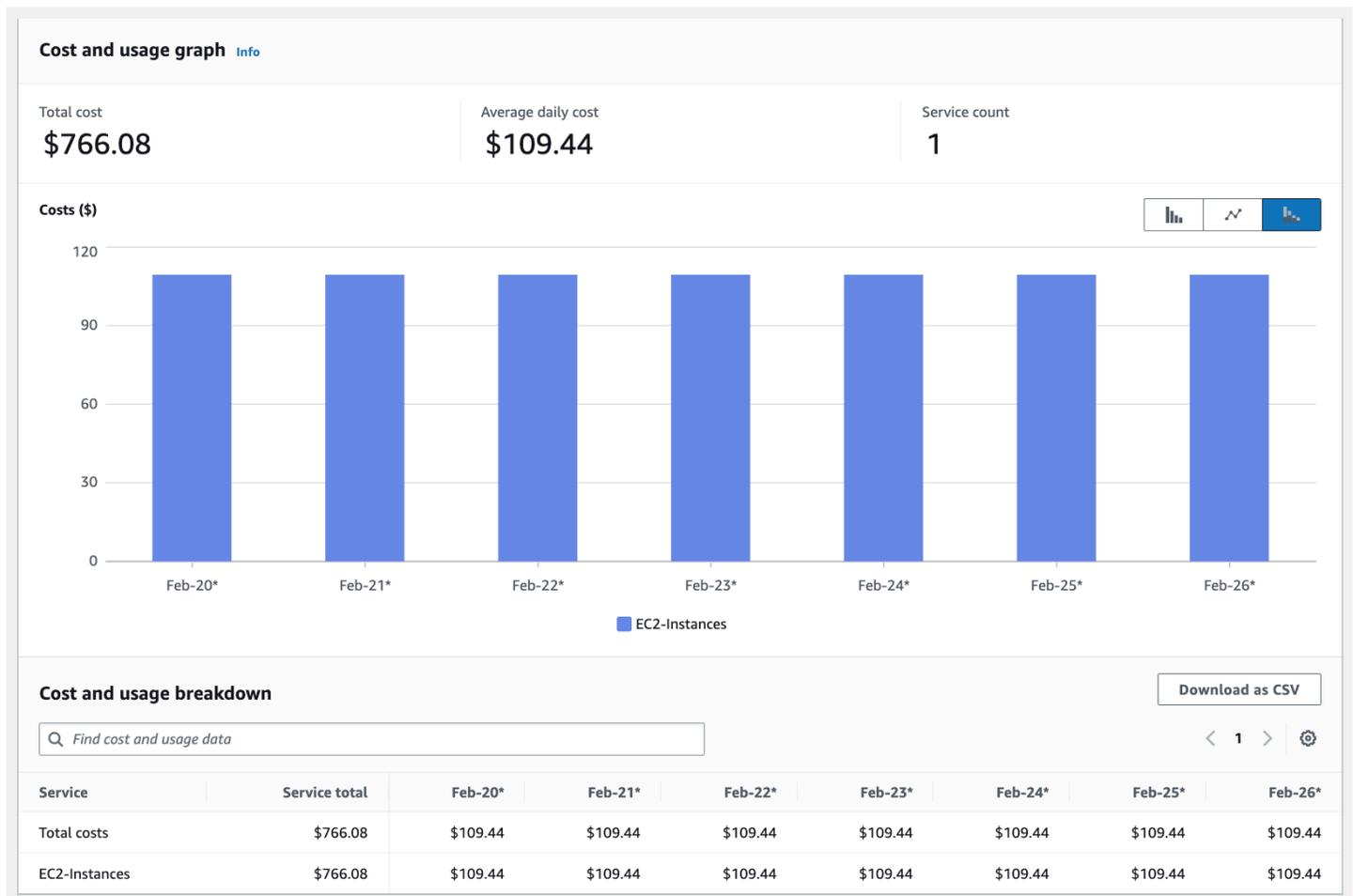
でインスタンススケジューラを使用することによるコストメリットを測定する[AWS Cost Explorer](#)ために を使用することをお勧めします AWS。Cost Explorer を使用して、次の操作を実行できます。

- インスタンススケジューラによって管理されるインスタンスなど、EC2 インスタンスに関連するコストを表示および分析します。

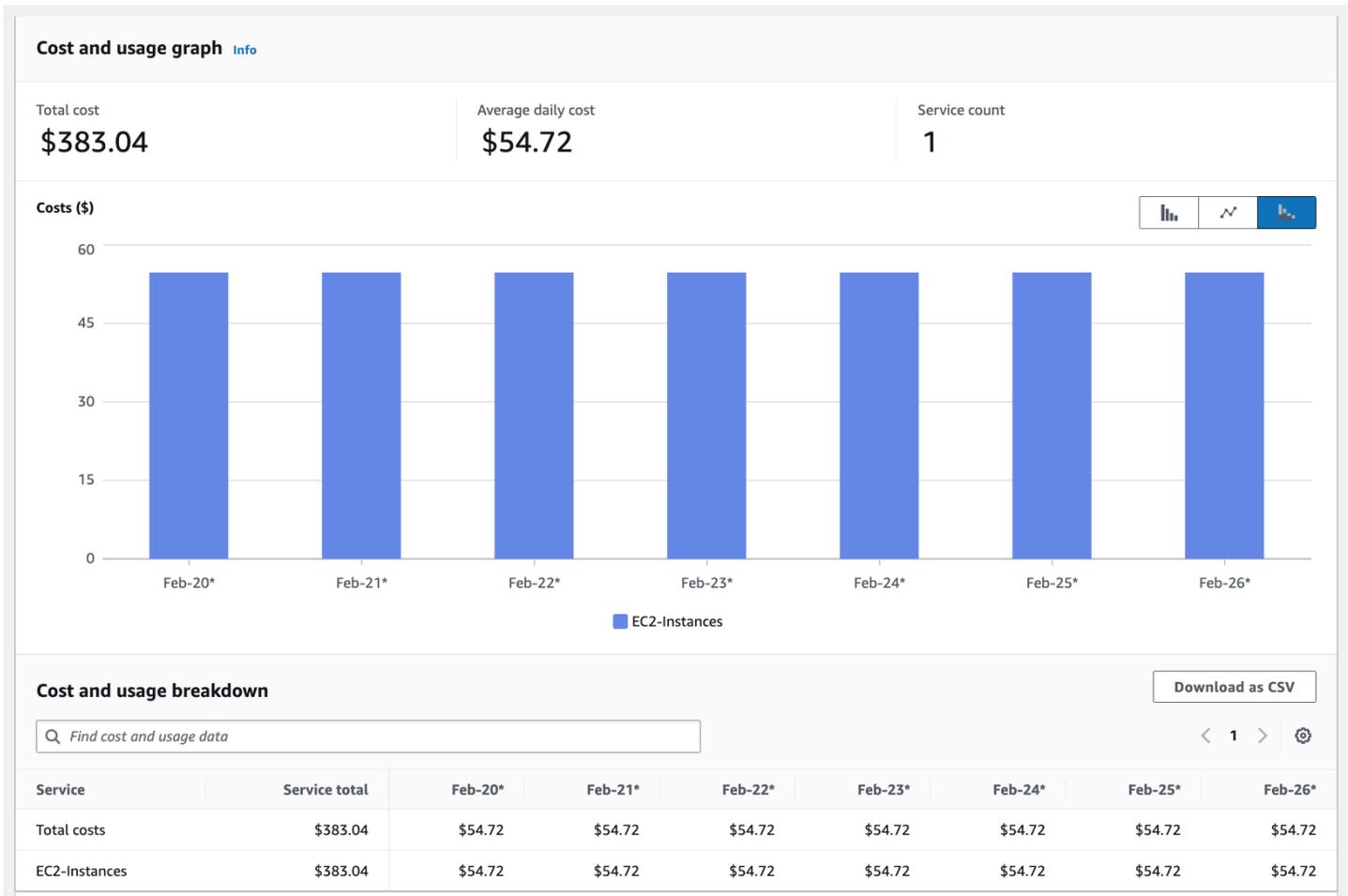
- Cost Explorer ビューをタグでフィルタリングして、特定のワークロードに集中し、インスタンススケジューラを使用して達成されたコスト削減をきめ細かく把握できるようにします。
- インスタンススケジューラの使用による財務上の影響に関するインサイトを取得します。
- さらなるコスト最適化の機会を特定し、データ主導型的意思決定を行って AWS 支出を最適化します。

次のグラフは、インスタンススケジューラを使用して、最適化前の 7 日間 (月曜日から日曜日) にワークロード A とワークロード B を運用するコストを示しています。

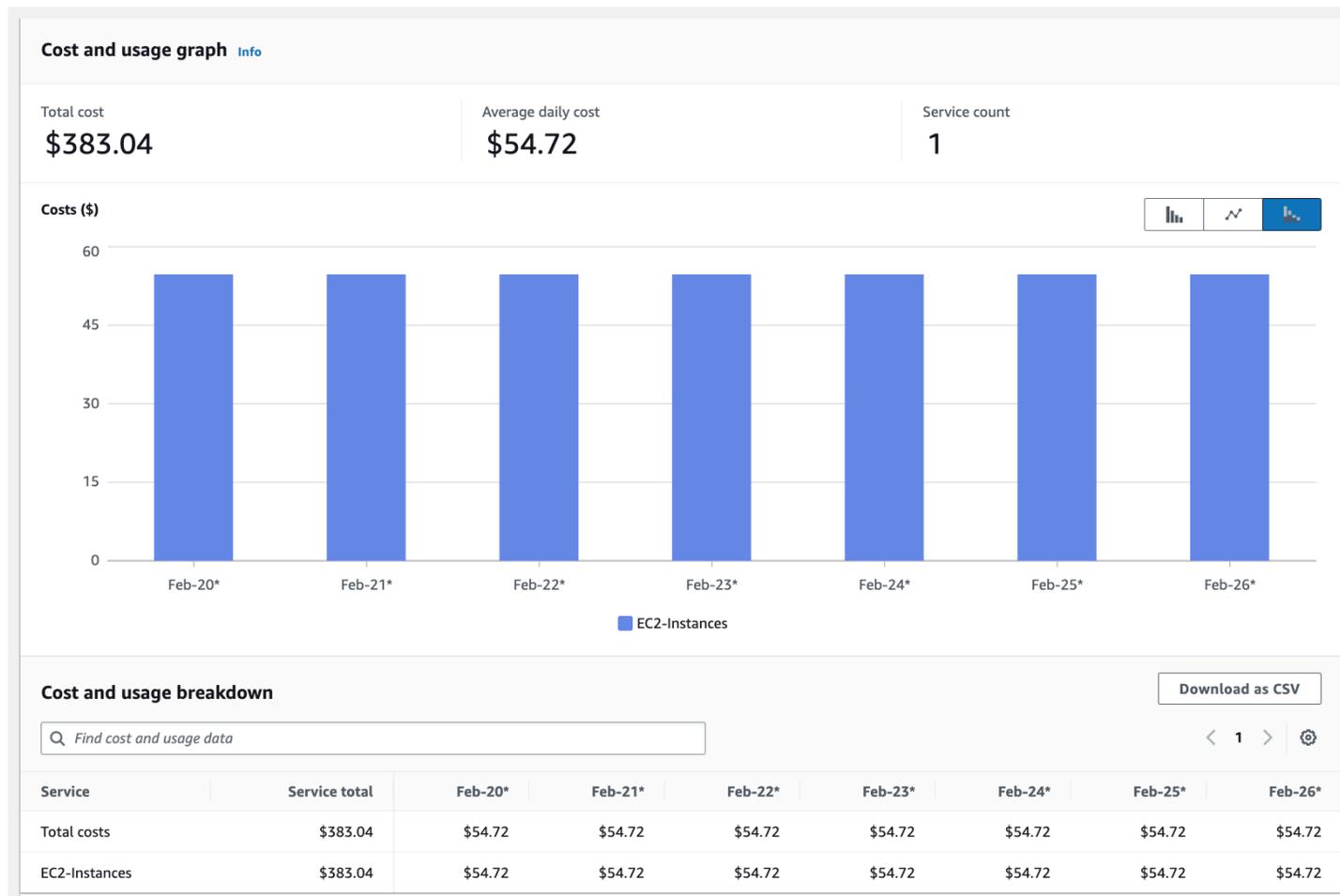
ワークロード A と B の合計費用



ワークロード A の経費

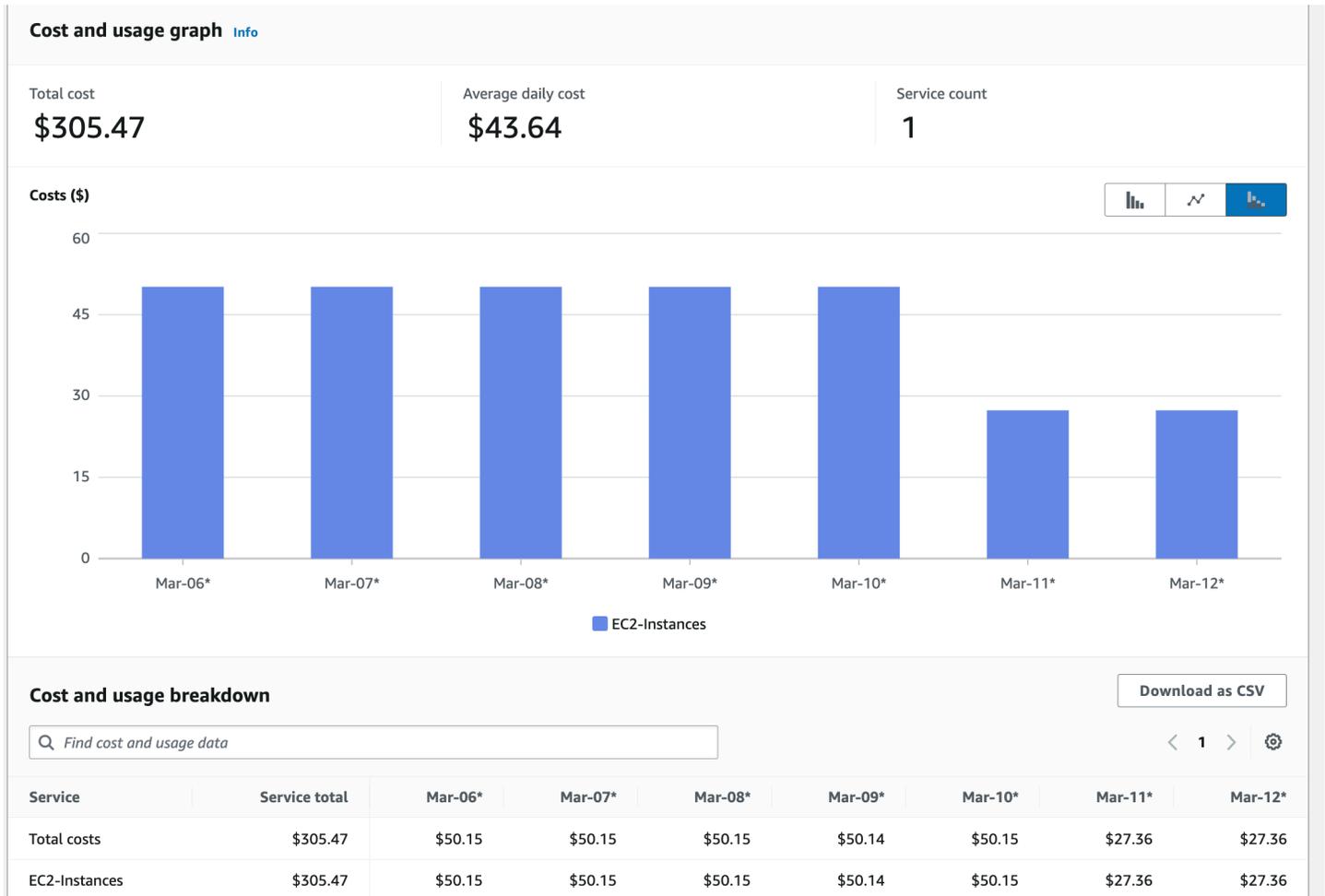


ワークロード B の経費

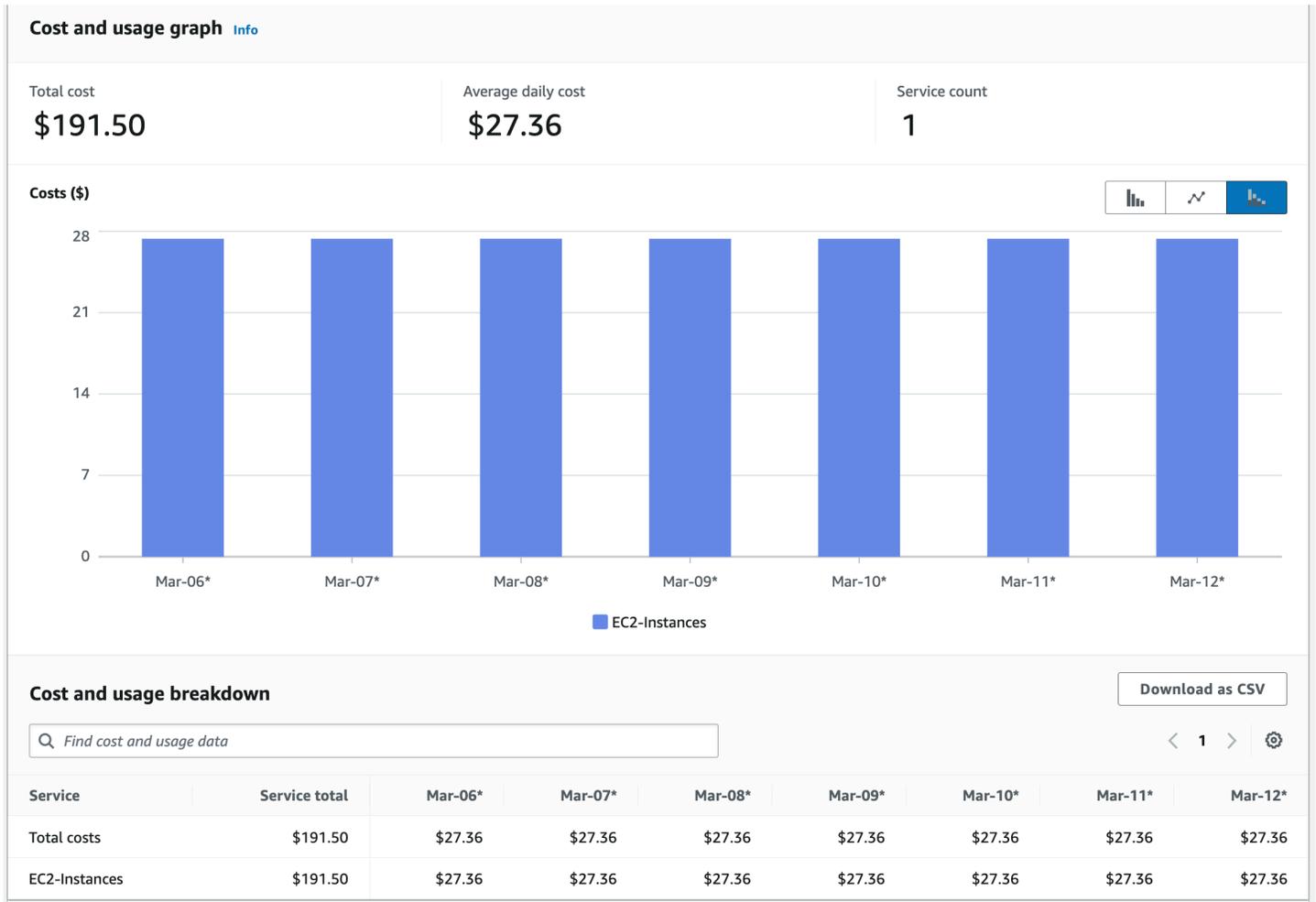


このシナリオでは、Cost Explorer は にインスタンススケジューラを実装した結果生じるコスト削減を示します AWS。次のグラフは、最適化後 7 日間 (月曜日から日曜日) のワークロード A とワークロード B の運用コストを示しています。

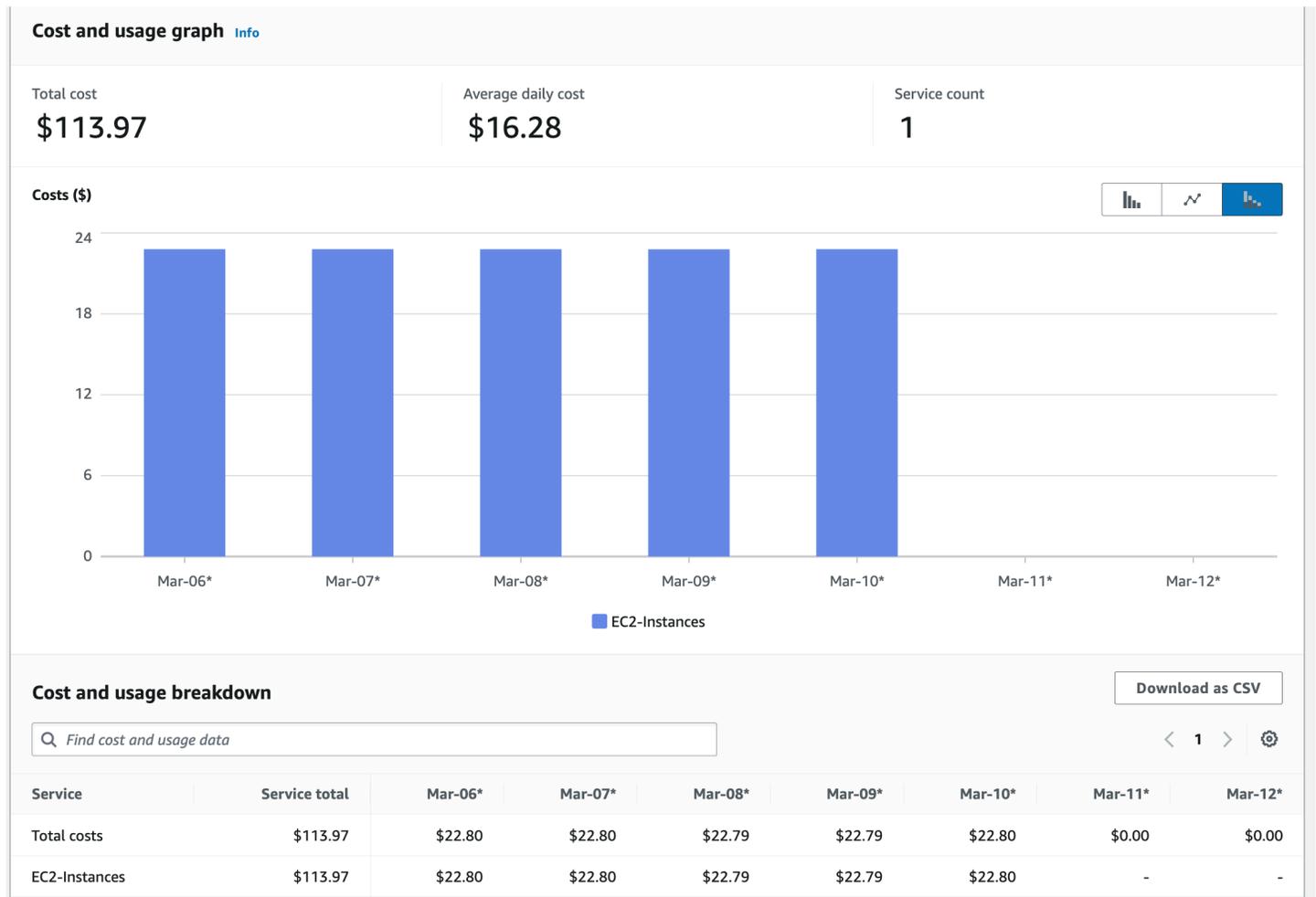
ワークロード A と B の合計費用



ワークロード A の支出



ワークロード B の経費



追加リソース

- [AWS インスタンスの開始と停止を自動化する](#) (AWS ドキュメントのインスタンススケジューラ)
- [基本に戻る: インスタンススケジューラを使用して Amazon EC2 および Amazon RDS リソースコストを制御する](#) (YouTube)
- [AWS リソースのタグ付け](#) (Tagging AWS Resources User Guide)
- [によるコストの分析 AWS Cost Explorer](#) (AWS Billing and Cost Management ドキュメント)

適切なサイズの Windows ワークロード

概要

適切なサイジングは、最も強力なコスト削減ツールの 1 つです。は、[AWS 最適化とライセンス評価 \(AWS OLA\)](#) を使用して潜在的なワークロードを確認することから、を使用して既存のワークロー

トを確認することまで、適切なサイジング情報を収集するためのさまざまな方法 AWS を提供します [AWS Cost Explorer](#)。

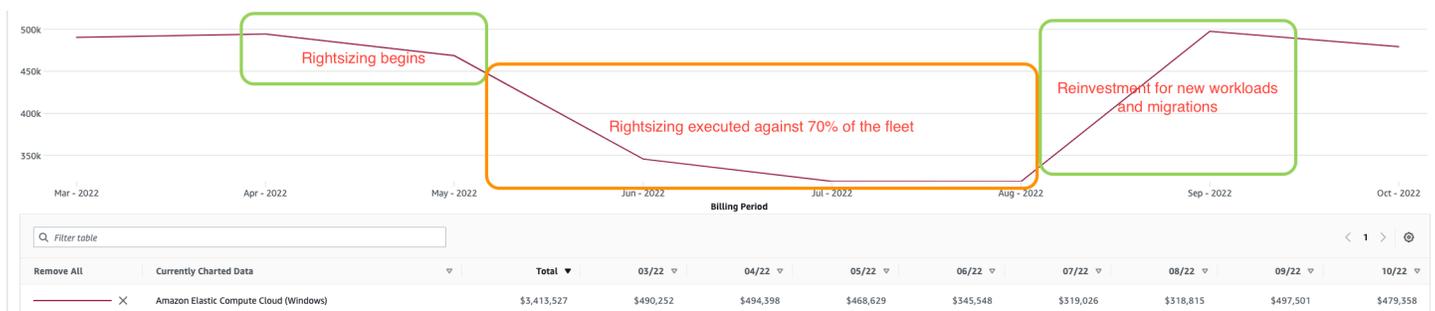
このセクションでは、[AWS Compute Optimizer](#) を使用して Amazon EC2 の適切なサイジングの機会を特定する方法について説明します。Compute Optimizer は、次のタイプの AWS リソースのオーバープロビジョニングとアンダープロビジョニングを防ぐのに役立ちます。

- [Amazon Elastic Compute Cloud \(Amazon EC2\)](#) インスタンスタイプ
- [Amazon Elastic Block Store \(Amazon EBS\)](#) ボリューム
- での [Amazon Elastic Container Service \(Amazon ECS\)](#) サービス AWS Fargate
- [AWS Lambda](#) [Amazon CloudWatch](#) が提供する使用率データに基づく 関数

コスト最適化シナリオ

適切なサイジングの効果を測定することは難しい場合があります。これは、適切なサイジングの取り組みを特定のアプリケーション、チーム、または組織全体に向けて行うことができるためです。例えば、数千のインスタンスをに移行し AWS、フリートの 90% が Windows ワークロードで構成されている組織を考えてみましょう。組織は Compute Optimizer を使用してフリートを分析し、アカウントと全体で大幅なオーバープロビジョニングを検出できます AWS リージョン。その後、[AWS Systems Manager オートメーション](#) を使用して、複数のメンテナンスウィンドウを通じてフリートのサイズを適切に設定できます。その結果、組織はフリートの 70% で適切なサイズのインスタンスタイプを調整し、35% のコスト削減を実現します。

次のダッシュボードは、この例の組織が Compute Optimizer の適切なサイジングレコメンデーションを戦略的に実装したため、数か月にわたって達成された削減額を示しています。その目的は、既存のワークロードを可能な限り効率的に運用し、契約の終了が近づいているワークロードデータセンターからの停滞した移行を再開することでした。



コスト最適化に関する推奨事項

Compute Optimizer を使用してコストを最適化するには、次のステップを実行することをお勧めします。

- Compute Optimizer を有効にする
- Windows ノードのメモリメトリクス収集を有効にする
- Compute Optimizer のレコメンデーションを使用する
- 適切なサイジングのためのインスタンスのタグ付け
- コスト配分タグによる AWS 請求ツールの使用を有効にする
- Automation を使用して適切なサイジングレコメンデーションを実装 AWS Systems Manager する
- 代替のサイズ変更方法を検討する
- Cost Explorer でコストの前後に確認する

Compute Optimizer を有効にする

[Compute Optimizer](#) は、組織レベルまたはの単一アカウントレベルで有効にできます AWS Organizations。組織全体の設定では、すべてのメンバーアカウントのフリート全体の新規および既存のインスタンスの継続的なレポートが提供されます。これにより、適切なサイジングをアクティビティではなく繰り返しの point-in-time アクティビティにすることができます。

組織レベル

ほとんどの組織では、Compute Optimizer を使用する最も効率的な方法は組織レベルです。これにより、マルチアカウントおよびマルチリージョンで組織を可視化し、レビューのためにデータを 1 つのソースに一元化できます。これを組織レベルで有効にするには、次の手順を実行します。

1. [必要なアクセス許可](#)を持つロールを使用して [Organizations 管理アカウント](#)にサインインし、この組織内のすべてのアカウントをオプトインすることを選択します。組織で、[すべての機能が有効になっている](#)必要があります。
2. 管理アカウントを有効にしたら、アカウントにサインインし、他のすべてのメンバーアカウントを表示して、レコメンデーションを参照できます。

Note

Compute Optimizer の [委任管理者アカウント](#) を設定するのがベストプラクティスです。これにより、最小特権の原則を実践できます。これにより、組織全体のサービスへのアクセスを提供しながら、組織の管理アカウントへのアクセスを最小限に抑えることができます。

単一アカウントレベル

コストの高いアカウントをターゲットにしているが、にアクセスできない場合は AWS Organizations、そのアカウントとリージョンで Compute Optimizer を有効にできます。オプトインプロセスの詳細については、Compute [Optimizer ドキュメントの AWS Compute Optimizer](#) 「の開始方法」を参照してください。

Windows ノードのメモリメトリクス収集を有効にする

メモリメトリクスは、組織内で適切に情報に基づいた適切なサイジングのレコメンデーションを行うために必要な必須メトリクスを Compute Optimizer に提供します。これは、レコメンデーションを提供する前に CPU、メモリ、ネットワーク、ストレージの分析が行われているためです。

Windows EC2 インスタンスから Compute Optimizer にメモリメトリクスを渡すには、CloudWatch エージェントを有効にし、60 秒ごとにメモリメトリクスを収集するように設定する必要があります。でメモリメトリクスを使用する場合、追加料金はかかりません CloudWatch。

CloudWatch エージェントを有効にしてメモリメトリクスを設定する

[ComputeOptimize.yml](#) ファイルをダウンロードします。このファイルを使用して、アカウント内のすべてのインスタンスのメモリ収集を有効にできます。テンプレートファイルは、次のコンポーネントを生成します。

- [AWS Systems Manager Parameter Store](#) – メトリクスの収集に必要な CloudWatch エージェントの設定を保存します。
- AWS Identity and Access Management (IAM) ロールと [AWS の マネージドポリシー AWS Systems Manager](#) がアタッチされている – これは Systems Manager Automation ドキュメント用です。
- [AWS Systems Manager ドキュメント](#) – エージェントをインストールして設定します CloudWatch (既存の CloudWatch 設定を置き換えます)。
- [AWS Systems Manager ステートマネージャー](#) の関連付け – これにより、Systems Manager ドキュメントをアカウント内のすべてのインスタンスで実行できます。

⚠ Important

このテンプレートを実行すると、インスタンス上の既存の CloudWatch 設定が上書きされます。

次に、以下の手順を実行します。

1. にサインイン AWS Management Console し、[CloudFormation コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Stacks] を選択します。
3. [スタックの作成] を選択し、[既存のリソースを使用 (リソースのインポート)] を選択します。
4. [次へ] をクリックします。
5. テンプレートリソース で、テンプレートファイルをアップロード を選択します。
6. ファイル を選択し、ComputeOptimize.yml ファイルをアップロードします。
7. [次へ] をクリックします。
8. スタックの詳細を指定 ページのスタック名 でスタックの名前を入力し、次へ を選択します。
9. 「リソースの識別」ページで、インポートするリソースの識別子値を入力します。
10. リソースのインポート を選択します。
11. スタックがデプロイされたら、出力タブを選択して、関連付けのキー、値、説明を見つけてみます。

関連付けの進行状況のモニタリング

1. CloudFormation スタックのデプロイが完了したら、[Systems Manager コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインのノード管理セクションで、ステートマネージャー を選択します。
3. 関連付けページで、関連付けの関連付け ID を選択します。
4. [Execution history (実行履歴の表示)] タブを選択します。
5. 実行 ID 列で、関連付けの実行 ID を選択します。ステータスは成功 である必要があります。

でメトリクスを表示する CloudWatch

メトリクスが に入力されるまで、少なくとも 5 分間待つことをお勧めします CloudWatch。

1. [CloudWatch コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、メトリクス セクションを展開し、すべてのメトリクス を選択します。

3. メトリクスが CWAgent 名前空間の下に表示されることを確認します。

Note

新しいインスタンスに設定を適用するには、関連付けを再実行します。

Compute Optimizer のレコメンデーションを使用する

1つのアカウントと1つのリージョン内で適切なサイジング変更を行うことに焦点を当てた例を考えてみましょう。この例では、Compute Optimizer はすべてのアカウントで組織レベルで有効になっています。適切なサイジングは破壊的なプロセスであり、ほとんどの場合、数週間にわたるスケジュールされたメンテナンス期間中にアプリケーション所有者が正確に実行することに注意してください。

組織の管理アカウント内から Compute Optimizer に移動する場合 (次の手順を参照)、調査するアカウントを選択できます。この例では、us-east-1リージョンの1つのアカウントで実行されているインスタンスが6つあります。6つのインスタンスはすべて過剰にプロビジョニングされています。目標は、Compute Optimizer からの推奨事項に基づいてインスタンスのサイズを変更することです。

過剰にプロビジョニングされたインスタンスを特定し、レコメンデーションの詳細をエクスポートする

1. にサインイン AWS Management Console し、[Compute Optimizer コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、ダッシュボードを選択します。
3. ダッシュボード ページの検索ボックスに、リージョン=米国東部 (バージニア北部) と入力します。次に、「検出結果 = 過剰プロビジョニング」と入力します。これらのフィルターを使用すると、us-east-1リージョン内のすべてのオーバープロビジョニングされたインスタンスを表示できます。
4. 過剰にプロビジョニングされた EC2 インスタンスの詳細なレコメンデーションを確認するには、EC2 インスタンスカードまで下にスクロールし、レコメンデーションを表示 を選択します。
5. エクスポート を選択し、今後の使用のためにファイルを保存します。
6. S3 バケット には、エクスポートファイルの送信先とする Amazon S3 バケットの名前を入力します。

Note

今後のレビューのためにレコメンデーションを保存するには、Compute Optimizer が各リージョンで書き込むことができる S3 バケットが必要です。詳細については、Compute Optimizer ドキュメントの「[の Amazon S3 バケットポリシー AWS Compute Optimizer](#)」を参照してください。

7. エクスポートフィルターセクションで、組織内のすべてのメンバーアカウントのレコメンデーションを含めるチェックボックスをオンにします。
8. リソースタイプで、EC2 インスタンスを選択します。
9. 含める列セクションで、すべて選択チェックボックスをオンにします。
- 10[エクスポート] をクリックします。

レコメンデーションに基づいてインスタンスを選択する

インスタンスのレコメンデーションは、Compute Optimizer によって収集および分析されたパフォーマンスメトリクスに基づいています。最適なインスタンスを選択するには、インスタンスで実行されているワークロードに注意することが重要です。この例では、最新世代の Amazon EC2 [R6i](#) インスタンスから選択できることを前提としています。[R5 T3](#) T3 インスタンスはバースト可能で、ネットワーク帯域幅の機能も低くなります。R5 インスタンスと R6 インスタンスの 1 時間あたりのコストは同じで、ほぼ同じです。ただし、R6 インスタンスのネットワーク帯域幅容量は大きく、最新世代の Intel プロセッサを搭載し、R5 と同じコンピューティングフットプリントを提供します。この例では、R6 はサイズ変更最適なオプションです。

1. [Compute Optimizer コンソール](#) で、ナビゲーションバーから EC2 インスタンスのレコメンデーションを選択します。このページでは、現在のインスタンスタイプと置き換える推奨オプションの比較を示します。
2. 適切なサイズにするインスタンスの ID を取得するには、の管理アカウントから [Amazon S3 コンソール](#) を開きます AWS Organizations。
3. ナビゲーションペインで、バケットを選択し、エクスポートした結果の保存に使用するバケットを選択します。
4. オブジェクト タブで、オブジェクトリストからエクスポートファイルを選択し、ダウンロードを選択します。
5. ファイルからインスタンス情報を抽出するには、Microsoft Excel のデータタブのテキストから列へのボタンを使用できます。

Note

インスタンス IDs は Amazon リソースネーム (ARNs)。必ず区切り文字を「/」に設定し、インスタンス ID を抽出します。または、スクリプトを記述するか、統合開発環境 (IDE) を使用して ARN をトリミングすることもできます。

- Excel では、OVER_PROVISIONED インスタンスのみを表示するように検出結果列をフィルタリングします。これらは、適切なサイジングをターゲットとするインスタンスです。
- 後で簡単にアクセスできるように、インスタンス IDs をテキストエディタに保存します。

適切なサイジングのためにインスタンスにタグを付ける

ワークロードにタグを付けることは、でリソースを整理するための強力なツールです AWS。タグを使用すると、コストをきめ細かく可視化し、チャージバックが容易になります。AWS リソースにタグを追加するための戦略と方法の詳細については、AWS 「[AWS リソースのタグ付けのベストプラクティス](#)」を参照してください。この例では、[AWS タグエディタ](#)を使用して、メンテナンスウィンドウ中にサイズ変更の対象となるオーバープロビジョニングされたインスタンス間でタグ付けを調整することができます。このタグを使用して、変更前後のコストを表示することもできます。

- にサインイン AWS Management Console し、サイズ変更の対象となるインスタンスを含むアカウントの[AWS Resource Groups コンソール](#)を開きます。
- ナビゲーションバーのタグ付けセクションで、タグエディタ を選択します。
- リージョン で、ターゲットリージョンを選択します。
- リソースタイプ で、 を選択します AWS::EC2::Instance。
- [リソースを検索] を選択します。
- リソース検索結果ページで、適切なサイズにするすべてのインスタンスを選択し、選択したリソースのタグの管理 を選択します。
- [タグを追加] を選択します。
- タグキー には、「**ライツサイジング**」と入力します。タグ値 には、有効な を入力します。次に、「確認」を選択し、タグの変更を適用します。

Note

チームやビジネスユニットなどの追加のメタデータを含めると、後で Cost Explorer のでフィルタリングできます。

ユーザー定義タグを作成してリソースに適用した後、アクティベーションのためにタグがコスト配分タグページに表示されるまでに最大 24 時間かかる場合があります。アクティベーション用にタグを選択すると、タグがアクティブになるまでにさらに 24 時間かかる場合があります。

上級ユーザーの場合、ターゲットアカウントとリージョン [AWS CloudShell](#) 内でを使用して、複数のインスタンスにタグを付けることができます。例:

```
bash
#!/bin/bash
# Set variables
TAG_KEY="rightsizing"
TAG_VALUE="type-m5"
# Get a list of instance IDs
INSTANCE_IDS=$(aws ec2 describe-instances --query
  "Reservations[].Instances[].InstanceId" --output text)
# Loop through each instance ID and add the tag
for INSTANCE_ID in $INSTANCE_IDS; do
  aws ec2 create-tags --resources $INSTANCE_ID --tags Key=$TAG_KEY,Value=$TAG_VALUE
done
```

コスト配分タグによる AWS 請求ツールの使用を有効にする

ユーザー定義のコスト配分タグをアクティブ化することをお勧めします。これにより、AWS 請求ツール (Cost Explorer や など) でライツサイジングタグが認識され、フィルタリングできるようになります。AWS Cost and Usage Report。これを有効にしない場合、タグフィルタリングオプションとデータは使用できなくなります。コスト配分タグの使用については、ドキュメントの「[ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化](#)」を参照してください。AWS Billing and Cost Management

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Billing コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインの請求セクションで、コスト配分タグ を選択します。
3. ユーザー定義のコスト配分タグタブで、「ライツサイジング」と入力します。
4. ライツサイジングタグキーを選択し、 を有効化を選択します。

24 時間後、タグは Cost Explorer に表示されます。

Systems Manager Automation を使用して適切なサイジングレコメンデーションを実装する

サイズ変更とは、インスタンスを停止して開始する必要があるシナリオです。このシナリオでは、メンテナンスウィンドウでこの中断を処理し、独自のサイズ変更を処理するために異なるチームが必要になる場合があります。インスタンスタイプを変更する前に、Amazon EC2 [ドキュメントの「互換性のあるインスタンスタイプ」の考慮事項](#)を確認してください。

このセクションのステップ例では、[AWS-ResizeInstance](#) という Systems Manager Automation ドキュメントを使用して、アカウントおよびリージョンごとに適切なサイジングのレコメンデーションを実装します。このアプローチは、ほとんどの組織でさまざまな目的で異なるインスタンスタイプを必要とするため、ほとんどの組織で一般的です。同じ AWS-ResizeInstance オートメーションドキュメントを使用して、単一アカウントおよびマルチアカウントのデプロイをターゲットにすることもできます。

1. にサインイン AWS Management Console し、[Systems Manager コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインの共有リソースセクションで、ドキュメント を選択します。
3. 検索バーで AWS-ResizeInstance と入力し、検索結果から AWS-ResizeInstance を選択します。
4. [オートメーションを実行] を選択します。
5. 「オートメーションランブックの実行」ページで、「シンプル実行」を選択します。
6. 「入力パラメータ」セクションに InstanceId 「」と 「」 と入力します InstanceType。残りのデフォルト値はそのままにしておきます。
7. 実行 を選択し、オートメーションがインスタンスタイプを変更するステップを実行するのを待ちます。

代替のサイズ変更方法を検討する

起動テンプレートを使用してインスタンスをデプロイする場合は、起動テンプレートを適切なサイズのインスタンスタイプで更新し、インスタンスの更新を実行してインスタンスを適切なサイズのバージョンに置き換えることができます。

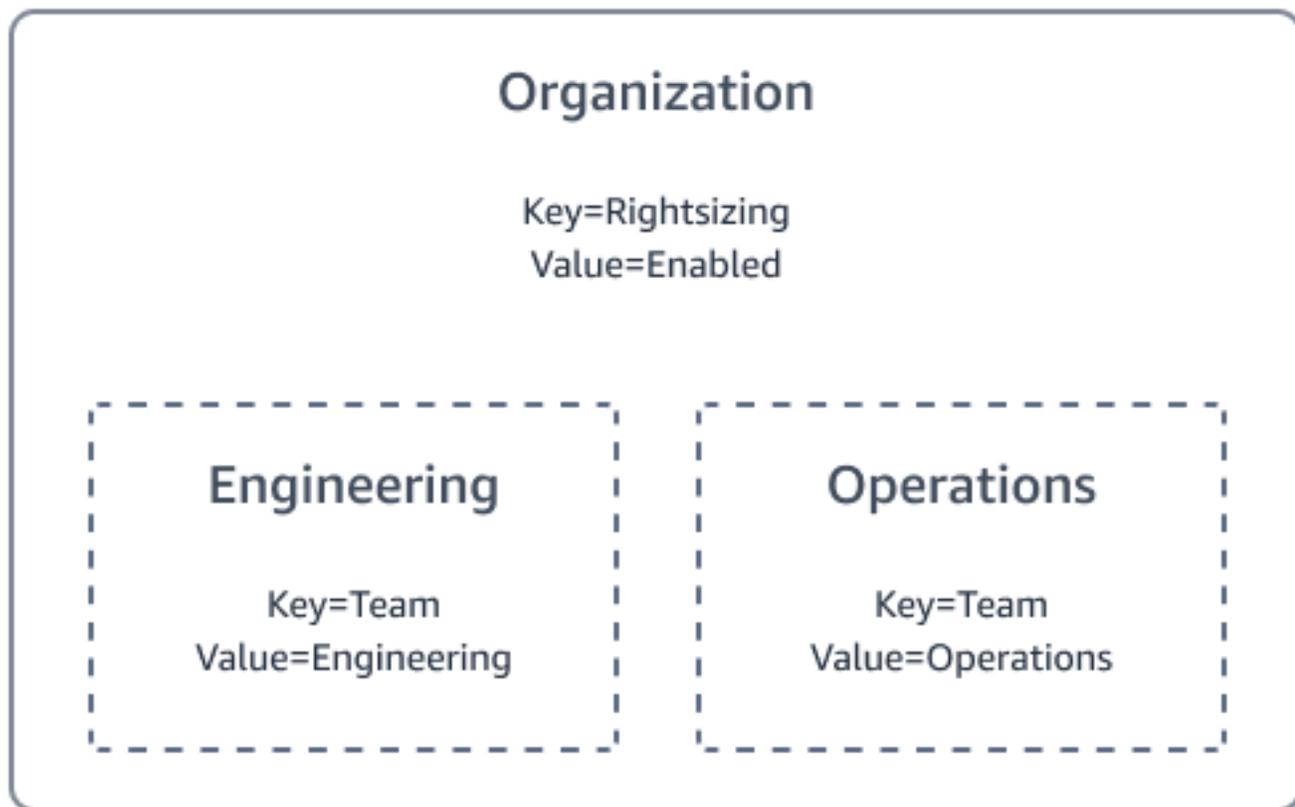
複数のアカウントとリージョンで適切なサイジングプロセスを使用する場合は、カスタム Systems Manager Automation ドキュメントを作成する必要があります。このドキュメントでは、複数のインスタンスをパラメータとしてフィードし、ターゲットインスタンスを同じ送信先インスタンスタイプ

に移行できます (例えば、ソースインスタンスタイプに関係なく、t3a.medium に移行するすべてのインスタンス)。

Cost Explorer でコストの前後に確認する

リソースのサイズを適切に設定したら、Cost Explorer を使用して、適切なサイズ設定タグを使用してコストの前後に表示できます。[リソースタグ](#)を使用してコストを追跡できることを思い出してください。複数のタグレイヤーを使用することで、コストをきめ細かく可視化できます。このガイドで説明する例では、ライツサイジングタグを使用して、すべてのターゲットインスタンスに汎用タグを適用します。次に、チームタグを使用してリソースをさらに整理します。次のステップでは、アプリケーションタグを導入して、特定のアプリケーションの運用に伴うコストへの影響をさらに示します。

次の図は、組織のタグ構造を示しています。



運用チームが所有する本番稼働用ウェブサーバーのサイズを適切に設定するビジネスの例を考えてみましょう。Cost Explorer では、ライツサイジングタグは有効に設定され、チームタグはオペレーションに設定されます。この例では、適切なサイジング作業により、運用コストが 1 時間あたり 0.89 セントから 0.28 セントに削減されます。1 か月あたり 744 時間と仮定すると、適切なサイジング前の年間コストは 7,945.92 USD です。適切なサイジングが完了すると、年間コストは 2,499.84

USD に削減されます。これにより、年間ワークロードコストが 68.5% 削減されます。これを大規模な組織全体に与えた影響を想像してみてください。これはサンプル環境で行われ、インスタンスは主にアイドル状態であることに注意してください。実稼働環境では、10~35% の節約が可能です。

次に、エンジニアリングチームが所有する本番稼働用踏み台ホストの適切なサイジングの影響について考えてみましょう。Cost Explorer では、ライツサイジングタグは有効に設定され、チームタグはエンジニアリングに設定されます。この例では、適切なサイジング作業により、コストが 1 時間あたり 0.75 セントから 0.44 セントに削減されます。1 か月あたり 744 時間と仮定すると、適切なサイジング前の年間コストは 6,696.00 USD です。適切なサイジングが完了すると、年間コストは 3,928.32 USD に減少します。

複数のタグを使用する場合は、データを詳細なコスト詳細に絞り込むことができます。この例では、チームタグはノイズを減らし、チームレベルで影響を表示できるようにします。ライツサイジングタグが有効になっているため、そのタグが有効な値を持つインスタンス、または値が存在しないインスタンスをフィルタリングすることもできます。これにより、特に Cost Explorer レベルで管理アカウント (支払者) に表示される場合、適切なサイジング作業をグローバルに表示できます。このビューでは、すべてのアカウントとインスタンスを表示できます。

単一アカウントレベルで、ライツサイジングタグが有効に設定されている例を考えてみましょう。運用コストは 1 時間あたり 1.64 USD から 1 時間あたり 0.72 USD に減少します。1 か月あたり 744 時間と仮定すると、適切なサイジング前の年間コストは 14,641.92 USD です。適切なサイジングが完了すると、年間コストは 6,428.16 USD に削減されます。これにより、このアカウントのコンピューティングコストが 56% 削減されます。

適切なサイジングジャーニーを開始する前に、次の点を考慮してください。

- AWS には、コスト削減のための多くのオプションがあります。これには [AWS OLA](#) が含まれます。は、に移行する前にオンプレミスインスタンス AWS を確認します AWS。AWS OLA では、適切なサイジングに関する推奨事項とライセンスガイドも提供されます。
- [Savings Plans](#) を購入する前に、すべての適切なサイズ設定を完了してください。これにより、Savings Plans のコミットメントでの購入超過を回避できます。

レコメンデーション

次のステップを実行することをお勧めします。

1. 既存のランドスケープを確認し、Amazon EBS gp2 ボリュームを gp3 ボリュームに変換することを検討してください。

2. [Savings Plans](#)を確認します。

追加リソース

- [AWS Compute Optimizer](#) (AWS ドキュメント)
- [AWS リソースのタグ付けのベストプラクティス](#) (AWS ホワイトペーパー)
- [AWS Compute OptimizerAWS Trusted Advisor \(\) との間でデータを収集する方法 AWS Organizations](#) YouTube
- [パフォーマンスの最適化とライセンスコストの削減: Amazon EC2 SQL Server インスタンス AWS Compute Optimizer の活用](#) (AWS ブログの Microsoft ワークロード)

Windows ワークロードに適したインスタンスタイプを選択する

概要

オンプレミス環境と比較してクラウドで運用されているワークロードの大きな違いは、オーバープロビジョニングの手法です。オンプレミス用の物理ハードウェアを購入する場合、設備投資はあらかじめ決められた期間、通常は 3~5 年間継続することが予想されます。ハードウェアの存続期間中に予想される増加に対応するため、ハードウェアはワークロードが現在必要とするよりも多くのリソースで取得されます。そのため、物理ハードウェアは、実際のワークロードのニーズよりもはるかに過剰にプロビジョニングされることがよくあります。

仮想マシン (VM) テクノロジーは、余剰ハードウェアリソースを利用する効果的な手段として浮上しました。管理者は vCPUs と RAM を使用して VMs を過剰にプロビジョニングし、ハイパーバイザーが未使用のリソースを各 VM に割り当てることで、ビジーサーバーとアイドルサーバー間の物理リソースの使用状況を管理できるようにします。VMs を管理する場合、各 VM に割り当てられた vCPU および RAM リソースは、実際の使用状況の指標ではなく、リソースの輻輳として機能していました。VM リソースの過剰割り当ては、使用可能なコンピューティングリソースの 3 倍を簡単に超える可能性があります。

[Amazon Elastic Compute Cloud \(Amazon EC2\)](#) では、基盤となるハードウェアで VMs を過剰にプロビジョニングする必要はありません。クラウドコンピューティングは運用コストであり、設備投資ではなく、使用した分に対してのみお支払いいただきます。ワークロードに将来より多くのリソースが必要な場合は、事前に必要になるのではなく、実際に必要になったときにプロビジョニングしてください。

適切な [Amazon EC2 インスタンスタイプ](#) を選択するためのオプションは数百あります。Windows ワークロードをクラウドに移行する予定の場合、は [AWS OLA](#) AWS を提供し、現在のワークロードをよりよく理解し、でのパフォーマンスの例を提供します AWS。AWS OLA 分析は、適切な EC2 インスタンスタイプとサイズを実際のオンプレミスの使用状況と一致させることを目的としています。

Amazon EC2 で実行されているワークロードがすでにあり、コスト最適化戦略を検討している場合、ガイドのこのセクションは、Amazon EC2 インスタンスと一般的な Windows ワークロードへの適用性の違いを特定するのに役立ちます。

コスト最適化に関する推奨事項

EC2 インスタンスタイプのコストを最適化するには、以下を実行することをお勧めします。

- ワークロードに適したインスタンスファミリーを選択する
- プロセッサアーキテクチャ間の料金の変動を理解する
- EC2 世代間の価格とパフォーマンスの違いを理解する
- 新しいインスタンスに移行する
- バーストインスタンスを使用する

ワークロードに適したインスタンスファミリーを選択する

ワークロードに適したインスタンスファミリーを選択することが重要です。

Amazon EC2 インスタンスは、次のさまざまなグループに分けられます。

- 汎用
- コンピューティングの最適化
- メモリ最適化
- 高速コンピューティング
- ストレージの最適化
- HPC 最適化

ほとんどの Windows ワークロードは、次のカテゴリに分類されます。

- 汎用
- コンピューティングの最適化

メモリ最適化

これをさらに簡素化するには、各カテゴリのベースライン EC2 インスタンスを検討してください。

- コンピューティング最適化 – C6i
- 汎用 – M6i
- メモリ最適化 – R6i

前世代の EC2 インスタンスでは、プロセッサタイプにわずかな違いがありました。例えば、C5 コンピューティング最適化インスタンスは、M5 汎用インスタンスまたは R5 メモリ最適化インスタンスよりも高速なプロセッサを備えています。最新世代の EC2 インスタンス (C6i、M6i、R6i、C6a、M6a、R6a) はすべて、インスタンスファミリー全体で同じプロセッサを使用します。プロセッサは最新世代のインスタンス間で一貫しているため、インスタンスファミリー間の価格差は RAM の量により大きくなりました。インスタンスの RAM が多いほど、コストも高くなります。

次の例は、us-east-1リージョンで実行されている Intel ベースの 4 vCPU インスタンスの時間単位の料金を示しています。

インスタンス	vCPUs	RAM	時間料金
c6i.xlarge	4	8	0.17 USD
m6i.xlarge	4	16	0.19 USD
r6i.xlarge	4	32	0.25 USD

Note

料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

バーストインスタンス

クラウドコンピューティングでは、使用していないコンピューティングリソースをオフにして課金を回避するのがベストプラクティスですが、すべてのワークロードを必要なたびにオフにできるわけではありません。一部のワークロードは長期間アイドル状態のままですが、1日24時間アクセス可能である必要があります。

バーストインスタンス (T3) は、コンピューティングコストを低く抑えながら、急増または使用率の低いワークロードを 1 日を通してオンラインに維持する方法を提供します。バースト可能な EC2 インスタンスには、インスタンスが短時間使用できる vCPU リソースの最大量があります。これらのインスタンスは、[バースト CPU クレジット](#) に基づくシステムを使用します。これらのクレジットは、1 日を通してアイドル期間中に蓄積されます。バースト可能なインスタンスは、vCPU と RAM の比率が異なるため、場合によってはコンピューティング最適化インスタンス、その他の汎用インスタンスの代わりに使用できます。

次の例は、us-east-1 リージョンで実行されている T3 インスタンス (バーストインスタンス) の時間単位の料金を示しています。

インスタンス	vCPUs	RAM (GB)	時間料金
t3.nano	2	0.5	0.0052 USD
t3.micro	2	1	0.0104 USD
t3.small	2	2	0.0208 USD
t3.medium	2	4	0.0416 USD
t3.large	2	8	0.0832 USD
t3.xlarge	4	16	0.1664 USD
t3.2xlarge	8	32	0.3328 USD

Note

料金は、us-east-1 リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

プロセッサアーキテクチャ間の料金の変動を理解する

[インテル](#) プロセッサは、EC2 インスタンスの設立当初から標準となっています。C5, M5 などの旧世代の EC2 インスタンスは、Intel をプロセッサアーキテクチャ (デフォルト) として示していません。R5 C6i, M6i などの新世代の EC2 インスタンスには、インテルプロセッサの使用を示す「i」が含まれています。R6i

プロセッサアーキテクチャの注釈の変更は、プロセッサオプションの追加導入によるものです。Intel と最も同等のプロセッサは [AMD](#) (「a」で表されます) です。AMD EPYC プロセッサは同じ x86 アーキテクチャを使用し、インテルプロセッサと同様のパフォーマンスを低価格で提供します。次の料金例に示すように、AMD EC2 インスタンスでは、Intel インスタンスと比較してコンピューティングコストが約 10% 削減されます。

インテルインスタンス	時間料金	AMD インスタンス	価格	% 差
c6i.xlarge	0.17 USD	c6a.xlarge	0.153 USD	10%
m6i.xlarge	0.192 USD	m6a.xlarge	0.1728 USD	10%
r6i.xlarge	0.252 USD	r6a.xlarge	0.2268 USD	10%

Note

料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

3 番目の主要なプロセッサアーキテクチャオプションは、EC2 インスタンスの [AWS Graviton プロセッサ](#) (「g」で示されます) です。によって設計された Graviton プロセッサは AWS、Amazon EC2 で最高の価格パフォーマンスを提供します。現在の Graviton プロセッサは、Intel プロセッサよりも 20% 安価であるだけでなく、20% 以上のパフォーマンスの向上も実現します。次世代の Graviton プロセッサは、このパフォーマンスの差をさらに拡大することが予想され、テストではパフォーマンスが 25% 向上することがわかります。

Windows Server は、ARM アーキテクチャに基づく Graviton プロセッサでは実行できません。実際、Windows Server は x86 プロセッサでのみ動作します。Windows Server に Graviton ベースのインスタンスを使用して 40% の料金パフォーマンスの向上を実現することはできませんが、特定の Microsoft ワークロードで Graviton プロセッサを引き続き使用できます。例えば、[新しいバージョンの .NET は Linux で実行できます](#)。つまり、これらのワークロードは ARM プロセッサを使用し、より高速で手頃な価格の Graviton EC2 インスタンスからメリットを得ることができます。

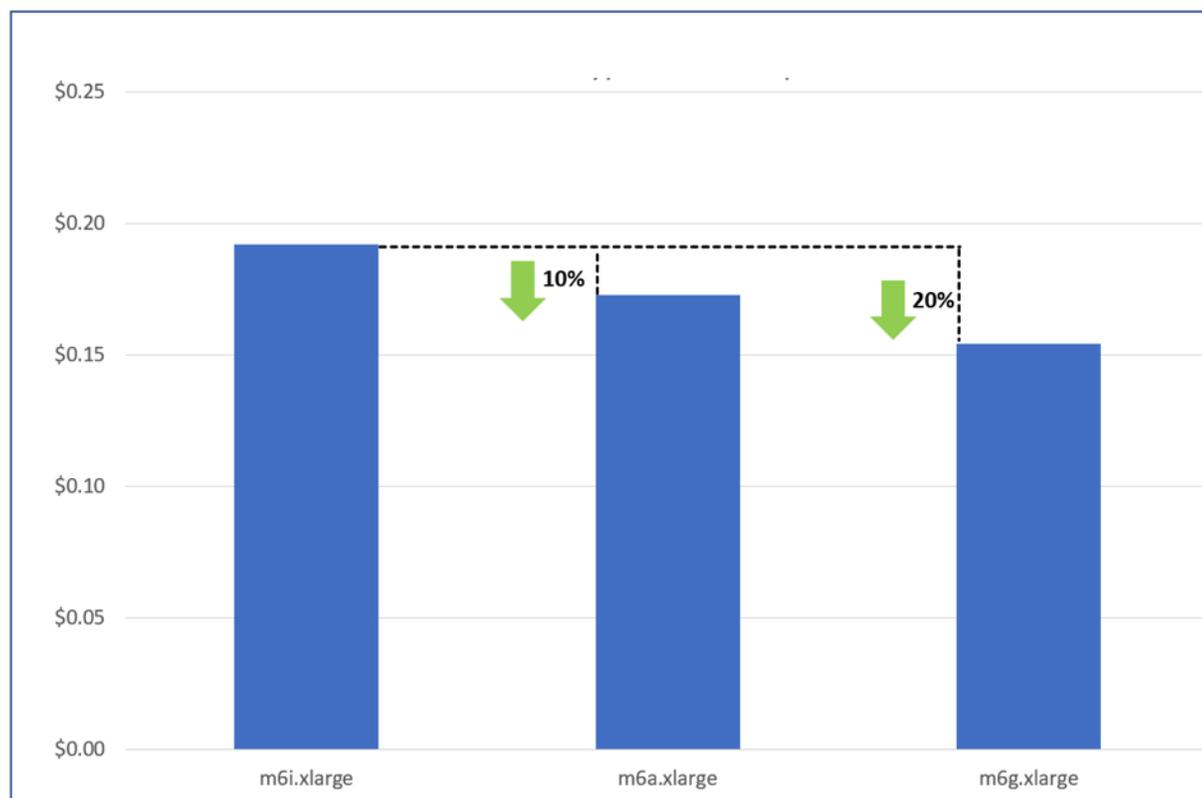
次の例は、us-east-1リージョンで実行されている Graviton インスタンスの時間単位の料金を示しています。

インテルインスタンス	時間料金	Graviton インスタンス	時間料金	% 差
c6i.xlarge	0.17 USD	c6g.xlarge	0.136 USD	20%
m6i.xlarge	0.192 USD	m6g.xlarge	0.154 USD	20%
r6i.xlarge	0.252 USD	r6g.xlarge	0.2016 USD	20%

Note

料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

次のグラフは、M シリーズインスタンスの料金を比較したものです。



EC2 世代間の価格パフォーマンスの違いを理解する

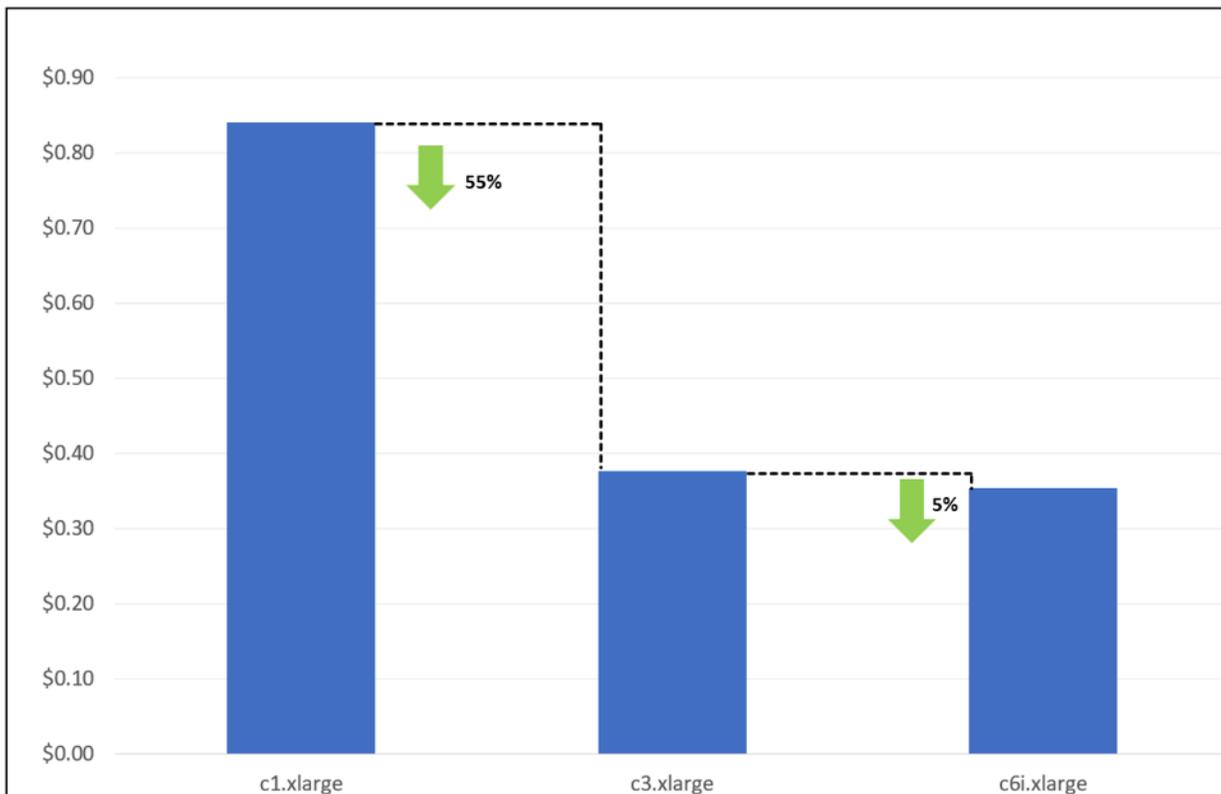
Amazon EC2 の最も一貫した特徴の 1 つは、各新世代が前世代よりも優れた価格パフォーマンスを提供することです。次の表に示すように、後続のリリースごとに、新世代の EC2 インスタンスの料金が下がります。

コンピューティング最適化インスタンス	時間料金	汎用インスタンス	時間料金	メモリ最適化インスタンス	時間料金
C1.xlarge	0.52 USD	M1.xlarge	0.35 USD	r1.xlarge	該当なし
C3.xlarge	0.21 USD	M3.xlarge	0.266 USD	r3.xlarge	0.333 USD
C5.xlarge	0.17 USD	M5.xlarge	0.192 USD	r5.xlarge	0.252 USD

Note

料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

次の表は、C シリーズインスタンスのさまざまな世代のコストを比較したものです。



ただし、次の表に示すように、第 6 世代のインスタンスは第 5 世代と同じ料金です。

コンピューティング最適化インスタンス	時間料金	汎用インスタンス	時間料金	メモリ最適化インスタンス	時間料金
C5.xlarge	0.17 USD	M5.xlarge	0.192 USD	r5.xlarge	0.252 USD
C6i .xlarge	0.17 USD	M6i .xlarge	0.192 USD	r6i.xlarge	0.252 USD

Note

料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

同じコストがかかりますが、プロセッサの高速化、ネットワークスループットの向上、Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) のスループットと IOPS の向上により、新世代のは優れた価格パフォーマンスを提供します。

料金パフォーマンスの最も重要な改善の 1 つは、[X2i インスタンス](#) の強化です。この世代のインスタンスは、前世代よりも最大 55% 高い価格パフォーマンスを提供します。次の表に示すように、x2iedn はすべてのパフォーマンスの側面 (すべて前世代と同じ価格) の改善を示しています。

インスタンス	時間料金	vCPUs	RAM	プロセッサ速度	インスタンスストレージ	ネットワーク	Amazon EBS スループット	EBS IOPS
x1e.2xlarge	1.66 USD	8	244	2.3 GHz	237GB SSD	10 Gbps	125 MB/秒	7400
x1iedn.2xlarge	1.66 USD	8	256	3.5 GHz	240GB NVMe SSD	25 Gbps	2500 MB/秒	65000

Note

料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

シナリオ例

配送車両を追跡し、SQL Server のパフォーマンスを向上させる分析会社の例を考えてみましょう。MACO SME がこの会社のパフォーマンスのボトルネックを確認すると、会社は x1e.2xlarge インスタンスから x2iedn.xlarge インスタンスに移行します。新しいインスタンスサイズは小さくなりますが、x2 インスタンスの機能強化により、バッファプール拡張機能を使用することで SQL Server のパフォーマンスと最適化が向上します。これにより、企業は SQL Server Enterprise Edition から SQL Server Standard Edition にダウングレードできます。また、SQL Server のライセンスを 8 vCPUs から 4 vCPUs。

最適化前 :

[サーバー]	EC2 インスタンス	SQL Server エディション	月額コスト
ProdDB1	x1e.2xlarge	エンタープライズ	3,918.64 USD

[サーバー]	EC2 インスタンス	SQL Server エディション	月額コスト
ProdDB2	x1e.2xlarge	エンタープライズ	3,918.64 USD
合計			7,837.28 USD

最適化後：

[サーバー]	EC2 インスタンス	SQL Server エディション	月額コスト
ProdDB1	x2iedn.xlarge	標準	1,215.00 USD
ProdDB2	x2iedn.xlarge	標準	1,215.00 USD
合計			2,430.00 USD

合わせて、x1e.2xlarge インスタンスから x2iedn.xlarge インスタンスへの変更により、このシナリオ例では、本稼働データベースサーバーで月額 5,407 USD を節約できます。これにより、ワークロードの総コストが 69% 削減されます。

Note

料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド時間単位の料金に基づいています。

新しいインスタンスに移行する

古い世代の Amazon EC2 は Xen ハイパーバイザーで実行され、新しい世代は [AWS Nitro System](#) で実行されます。Nitro System は、ホストハードウェアのほぼすべてのコンピューティングリソースとメモリリソースをインスタンスに配信します。これにより、全体的なパフォーマンスが向上します。[Xen から Nitro ベースのインスタンスに移行する場合は](#)、特別な考慮事項があります。例えば、[AWS Windows AMIs](#) は、Microsoft インストールメディアで使用されるデフォルト設定とカスタマイズで設定されます。カスタマイズには、最新世代のインスタンスタイプ ([Nitro System 上に構築されたインスタンス](#)) をサポートするドライバーと設定が含まれます。

カスタム Windows AMIs または 2018 年 8 月以前に作成された Amazon が提供する Windows AMIs [「最新世代のインスタンスタイプへの移行」](#) の手順を完了することをお勧めします。Amazon EC2

バーストインスタンスを使用する

バーストインスタンスはコンピューティングコストを節約する良い方法ですが、以下のシナリオでは避けることをお勧めします。

- デスクトップエクスペリエンス [を使用する Windows Server の最小仕様](#) には、2 GB の RAM が必要です。Windows Server では t3.micro インスタンスまたは t3.nano インスタンスを使用しないようにします。RAM の最小量がないためです。
- ワークロードが急増しているが、バーストクレジットを構築するのに十分な時間アイドル状態にならない場合、通常の EC2 インスタンスを使用する方が、バースト可能なインスタンスを使用するよりも効率的です。 [CPU クレジットをモニタリング](#) して確認することをお勧めします。
- ほとんどのシナリオでは、SQL Server でバーストインスタンスを使用しないことをお勧めします。SQL Server のライセンスは、インスタンスに割り当てられた vCPU の数に基づいています。SQL Server が 1 日の大半アイドル状態の場合、完全に活用されていない SQL ライセンスに対して料金が発生します。これらのシナリオでは、複数の SQL Server インスタンスをより大きなサーバーに統合することをお勧めします。

次のステップ

Amazon EC2 Windows インスタンスのコストを最適化するには、次のステップを実行することをお勧めします。

- 最新世代の EC2 インスタンスを使用して、最適な価格のパフォーマンスを実現します。
- AMD プロセッサで EC2 インスタンスを使用すると、コンピューティングコストを 10% 削減できます。
- ワークロードに一致する EC2 インスタンスタイプを選択して、リソース使用率を最大化します。

次の表は、Windows ワークロードの一般的な開始点の例を示しています。SQL Server ワークロードを強化するためのインスタンスストレージボリュームや、vCPU と RAM の比率が大幅に向上する EC2 インスタンスなど、追加のオプションを使用できます。ワークロードを徹底的にテストし、などのモニタリングツールを使用して必要な調整 AWS Compute Optimizer を行うことをお勧めします。

ワークロード	一般的な	オプションです。
アクティブディレクトリ	T3, M6i	R6i
ファイルサーバー	T3, M6i	C6i
ウェブサーバー	T3, C6i	M6i, R6i
SQL Server	R6i	x2iedn, X2iezn

EC2 インスタンスタイプを変更する必要がある場合、プロセスには通常、サーバーの再起動が単純にしか必要ありません。詳細については、Amazon EC2 [ドキュメントの「インスタンスタイプを変更する」](#)を参照してください。

インスタンスタイプを変更する前に、次の点を考慮することをお勧めします。

- インスタンスタイプを変更する前に、Amazon EBS でバックアップされたインスタンスを停止する必要があります。インスタンスの停止中は、必ずダウンタイムを計画してください。インスタンスを停止し、インスタンスタイプの変更を行うと、数分かかります。インスタンスを再起動すると、アプリケーションの起動スクリプトによってかかる時間が変動する場合があります。詳細については、Amazon EC2 [ドキュメントの「インスタンスの停止と起動」](#)を参照してください。
- インスタンスを停止して起動すると、はインスタンスを新しいハードウェア AWS に移動します。インスタンスにパブリック IPv4 アドレスがある場合、はそのアドレスを AWS 解放し、インスタンスに新しいパブリック IPv4 アドレスを付与します。変更されないパブリック IPv4 アドレスが必要な場合は、[Elastic IP アドレス](#)を使用します。
- インスタンスで[休止](#)が有効になっている場合、インスタンスタイプを変更することはできません。
- [\[Spot Instance\]](#) (スポットインスタンス) のインスタンスタイプを変更することはできません。
- インスタンスが Auto Scaling グループにある場合、Amazon EC2 Auto Scaling は停止したインスタンスを異常としてマークし、インスタンスを終了して代替インスタンスを起動することがあります。インスタンスタイプを変更するときに、そのグループのスケーリングプロセスを中断することで、これを防ぐことができます。詳細については、Amazon EC2 [Auto Scaling ドキュメントの「Auto Scaling グループのプロセスを停止および再開する Auto Scaling」](#)を参照してください。
- NVMe インスタンスストアボリュームを使用してインスタンスのインスタンスタイプを変更すると、更新されたインスタンスに追加のインスタンスストアボリュームが含まれる場合があります。これは、すべての NVMe インスタンスストアボリュームが Amazon マシンイメージ (AMI) またはインスタンスブロックデバイスマッピングで指定されていない場合でも使用できるためです。それ

以外の場合、更新したインスタンスには、元のインスタンスの起動時に指定したのと同じ数のインスタンスストアボリュームが設定されます。

追加リソース

- [Amazon EC2 インスタンスタイプ](#) (AWS ドキュメント)
- [AWS 最適化とライセンス評価](#) (AWS ドキュメント)

Windows および SQL Server ワークロードのライセンスの持ち込み

概要

Microsoft ワークロードと既存のエンタープライズライセンス契約に多額の投資がある場合は、これらのワークロードをサポートするいくつかの AWS オプションから選択できます。これには、[ライセンス込み \(が提供する AWS\)](#) オプションと [Bring Your Own License \(BYOL\)](#) オプションが含まれます。[Amazon EC2 Dedicated Hosts](#) を使用して、既存の Microsoft ライセンス契約を最大限に活用し、Windows Server をに持ち込むことができます AWS。これにより、Amazon EC2 インスタンスのコストを最大 50% 削減できます。Windows ライセンスはインスタンスコストの約半分を占めるため、Windows Server を Dedicated Hosts AWS でに持ち込むと、大幅なコスト削減につながります。Windows Server は[デフォルト \(共有\) テナンシー](#)に持ち込むことができないため、で Windows Server の既存のライセンスを使用する場合は、Dedicated Hosts が最適です AWS。

Dedicated Hosts は Windows Server BYOL インスタンスではありません。また、既存の SQL Server ワークロードのオンプレミスライセンスに合わせて柔軟に調整することもできます。Dedicated Hosts は、基盤となるサーバーの物理コアを公開し、物理コアレベルで SQL Server のライセンスを取得できるようにします。これは、SQL Server ライセンスがインスタンスに割り当てられた仮想 CPUs の数に基づいているデフォルトの (共有) テナンシーでは不可能です。この機能を使用すると、オンプレミスのライセンス戦略と一致する方法で、AWS で SQL Server ワークロードのライセンスを取得できます。そのため、対象となる Windows ライセンスを使用することで、インスタンスコストのコスト削減に加えて、デフォルトの (共有) テナンシーと比較して SQL Server ライセンスコストを最大 50% 削減できます。このシナリオの詳細については、このガイドの「[SQL Server ライセンスを理解する](#)」セクションを参照してください。

Amazon EC2 専有ホスト

Amazon EC2 Dedicated Host は、基本的に が EC2 コンピューティングサービスを実行するために AWS 使用するのと同じ EC2 ホストです。違いは、これらのホストは 1 人のお客様専用であり、基盤となる物理インフラストラクチャに排他的にアクセスできることです。Dedicated Hosts を使用すると、リソースを他の AWS 顧客と共有するのではなく、お客様専用のハードウェアでインスタンスを実行できます。これにより、クラウドリソースをより詳細に制御でき、Windows Server や SQL Server などの独自のソフトウェアライセンスを 持ち込むことでコストを削減できます AWS。

以下に留意してください。

- Dedicated Host は、単一のお客様専用の物理サーバーです。Dedicated Host のソケットと物理コアを可視化することで、ソケット単位、コア単位、VM 単位のソフトウェアライセンス契約などのライセンスコンプライアンス要件に対応できます。
- 同じインスタンスファミリーの複数のインスタンスサイズをサポートできる Dedicated Hosts は、異種の Dedicated Hosts と呼ばれます。これらの [インスタンスファミリー](#) には T3, A1, C5, M5, R5, C5n, R5n、および M5n が含まれます。対照的に、他のインスタンスファミリーは、同じ Dedicated Host で 1 つのインスタンスサイズのみをサポートします。これらは同種 Dedicated Hosts と呼ばれます。
- Dedicated Hosts はホストごとに課金されます。つまり、Dedicated Host で実行されているインスタンスの数に関係なく、Dedicated Host ごとに課金されます。Dedicated Host の料金は、選択したインスタンスファミリー、リージョン、および支払いオプションによって異なります。ワークロードに最適な設定を選択して、希望するパフォーマンスとコストの成果を実現できます。

この図は、共有テナンシーインスタンスと Dedicated Hosts の違いを示しています。



同種専用ホスト

M6i Dedicated Host を使用するシナリオを考えてみましょう。M6i と R6i Dedicated Hosts には 2 つのソケット、64 の物理コアがあり、同じサイズのインスタンスタイプをサポートします。これらは同種 Dedicated Hosts と呼ばれます。つまり、1 つの M6i Dedicated Host で起動できるインスタンスの数は、インスタンスのサイズによって異なります。

例:

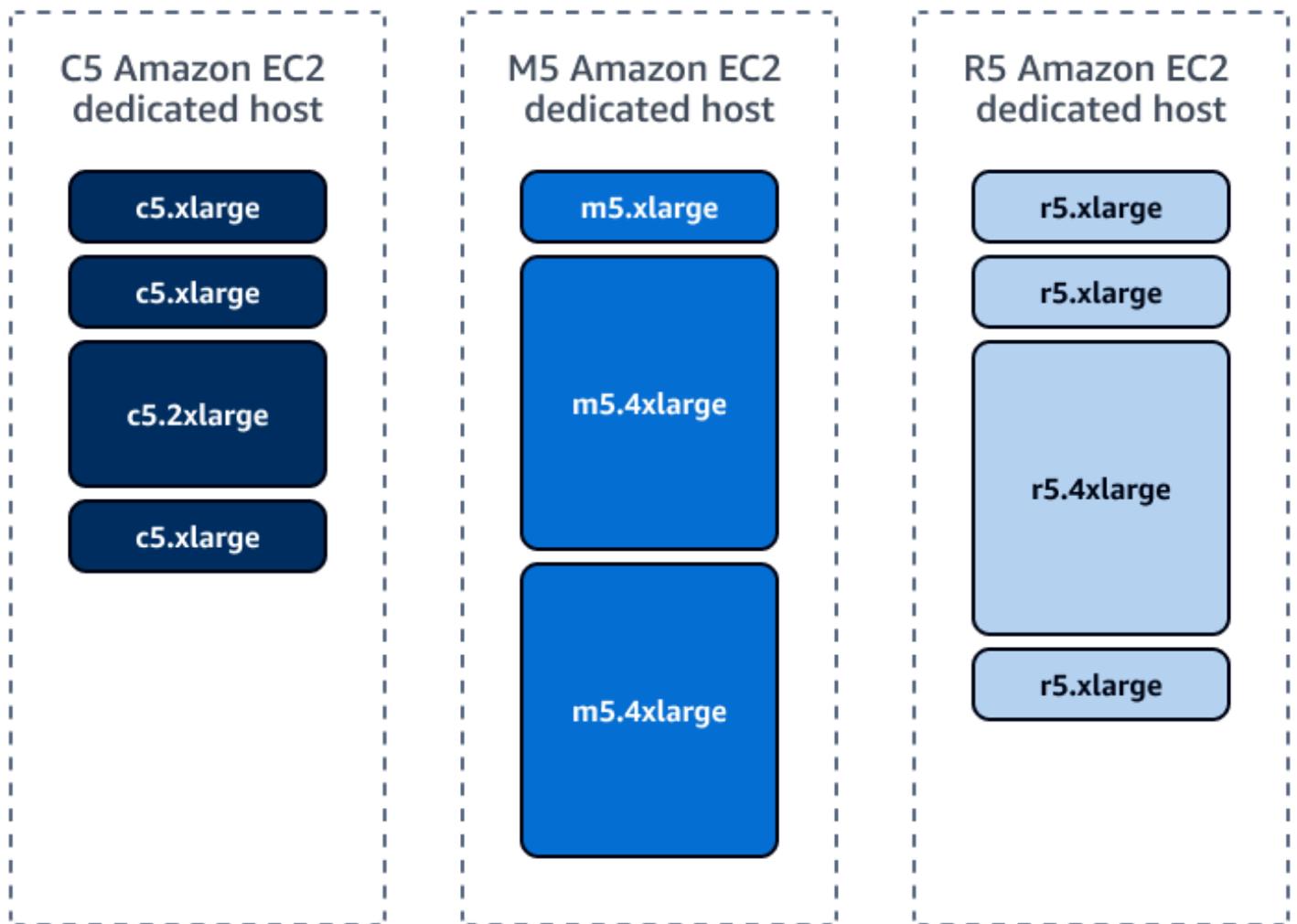
- xlarge (4 vCPUs) の場合、この Dedicated Host で最大 32 個の m6i.xlarge インスタンスを起動できます。
- 8xlarge (32 vCPUs) の場合、この Dedicated Host で最大 4 つの m6i.8xlarge インスタンスを起動できます。
- メタル (128 vCPUs の場合は、この Dedicated Host で最大 1 つの m6i.metal インスタンスを起動できます。

次の図は、M6 インスタンスの Dedicated Host オプションを示しています。



異種専用ホスト

同じホストで複数のインスタンスサイズをサポートする Dedicated Hosts は、異種の Amazon EC2 Dedicated Hosts と呼ばれます。次の図は、`2xlarge`、`xlarge`、`4xlarge` など、さまざまなインスタンスサイズを持つ `C5`、`M55`、`R5` Dedicated Hosts の例を示しています。



Dedicated Host 管理

Amazon EC2 Dedicated Hosts の管理については、次の点を考慮することをお勧めします。

- Dedicated Hosts を最大限に活用するには、[組織内の複数のアカウント間で 1 つのホストを共有できます](#)。ホスト共有により、リソースの最適化が可能になり、ホストで使用可能なすべてのスロットを使用することでコスト削減につながります。ビジネスユニット間で Dedicated Host を共有することで、ワークロード間の分離を維持しながら、IT インフラストラクチャを一元化し、リソース使用率を向上させることができます。の組織に属 AWS Organizations して、組織内で共有が有効になっている場合、組織内のコンシューマーには共有 Dedicated Host へのアクセスが自動的に付与されます。それ以外の場合、コンシューマーはリソース共有への参加の招待を受け取り、その招待を受け入れた後で、共有 Dedicated Host へのアクセス許可が付与されます。
- Windows Server 2019 は BYOL を使用できる最新バージョンであるため、ライセンス込みモデルで Dedicated Hosts で Windows Server 2022 を実行できます。Dedicated Hosts で Windows

Server 2022 を使用する場合は、Windows Server 2022 ライセンス込みインスタンスを使用する必要があります。

- [AWS License Manager](#) は、AWS およびオンプレミス環境のさまざまなベンダーからのソフトウェアライセンスを管理するための包括的なソリューションです。[License Manager を使用すると](#)、ソフトウェアライセンスの使用方法をより詳細に可視化し、制御できるため、コスト削減とコンプライアンスの向上につながります。License Manager を使用して、独自のライセンス条件をエミュレートするルールを設定できます。これにより、これらのルールを適用し、ライセンスの誤用を防ぐことができます。これにより、コンプライアンス違反のリスクが軽減され、ライセンス管理プロセスが向上します。
- License Manager を使用すると、ホスト [リソースグループ](#) を使用してホストの配置、リリース、復旧を自動化できます。これにより、生産性が向上し、管理オーバーヘッドが削減されます。License Manager は、ライセンスルールに基づいて、AWS およびオンプレミス環境全体のライセンス使用状況を一元的に把握できるため、組織全体の増分ライセンス購入、コンプライアンス、ベンダー監査を簡単に管理できます。さらに、License Manager は AWS Organizations および AWS Resource Access Manager (AWS RAM) と統合して、アカウントとリージョン間でライセンス設定を共有します。これにより、スケジュールに基づいて環境全体のレポートを作成し、ライセンスルールを 1 つの で一元管理できます AWS アカウント。最終的には、ガバナンスを改善し、複雑さを軽減できます。
- 1 つのリージョン内で Dedicated Hosts の高可用性を設計する場合は、本番稼働に不可欠なワークロード用に、最低 2 つのアベイラビリティゾーンに最低 2 つの Dedicated Hosts を割り当てていることを確認してください。詳細については、[Amazon EC2 Dedicated Hosts for Microsoft Windows on AWS reference deployment](#)」を参照してください。
- Dedicated Host インスタンスファミリーごとに、インスタンスサイズごとに実行できるインスタンスの数の制限があります。詳細については、Amazon EC2 ドキュメントの「[Dedicated Hosts Configuration Table](#)」を参照してください。

AWS ライセンスオプション

ライセンスは、次の主要なカテゴリに分類されます。

- ライセンス込み – このライセンスオプションを使用すると、使用した分のみ支払うライセンスをオンデマンドで購入して使用できます。これは、ライセンスの使用に柔軟性を求め、前払いコストを回避したいユースケースに最適です。さまざまな Windows Server、SQL Server、およびその他の Microsoft 製品から選択できます。
- ライセンスモビリティを備えた BYOL 製品 – 既存のライセンスがあり、クラウドで使用する場合は、このライセンスオプションにより、[Microsoft ライセンスモビリティプログラム](#) を通じて独

自のライセンスをクラウドに持ち込むことができます。ソフトウェアアシュアランス付き SQL Server (SA) などのライセンスモビリティを備えた製品は、共有テナンシーまたは専用テナンシーのいずれかに持ち込むことができます。これにより、AWS インスタンスのコストが削減されます。

- ライセンスモビリティのない BYOL 製品 – ライセンスモビリティのない Windows Server などの Microsoft 製品の場合、は、これらの製品をクラウドで使用するための専用オプション AWS を提供します。さらに、Dedicated Hosts は物理コアレベルでライセンスを有効にし、ワークロードの実行に必要なライセンスを 50% 以上節約できます。Dedicated Hosts は、ほとんどの場合実行される安定した予測可能なワークロードに最適です。

Windows Server ライセンスの持ち込み

独自の Windows ライセンスの導入は、既存の投資を活用して AWS コストを削減できるため、ライセンス最適化の最も効果的な戦略の 1 つです。特定の BYOL シナリオでは SA やライセンスモビリティのメリットは必要ありませんが、Amazon EC2 専用インフラストラクチャは常に必要です。資格を得るには、2019 年 10 月 1 日より前に永続的ライセンスを購入しているか、2019 年 10 月 1 日より前に有効なエンタープライズ登録でそれらを調整として追加している必要があります。これらの特定の BYOL シナリオでは、2019 年 10 月 1 日より前に利用可能なバージョンにのみライセンスをアップグレードできます。例えば、2017 年に SA を削除した場合、2019 年ではなく Windows Server 2016 までしかデプロイできません。ただし、2019 年への BYOL の対象となる最後のバージョンです AWS。詳細については、AWS ドキュメントの「[ライセンス – Windows Server](#)」を参照してください。

ライセンスを導入すると、で Microsoft ワークロードを実行するコストに大きな影響を与える可能性があります AWS。独自のライセンスを持ち込む場合、クラウドで実行されているインスタンスに追加のライセンスコストを支払う必要はなく、大幅なコスト削減につながります。

次の表は、さまざまな設定で単一の c5.xlarge インスタンスを 24 時間 365 日実行した場合のオンデマンドの月額コストを示しています。

構成	月額料金 (USD)
Windows Server + SQL Server Enterprise Edition	1,353.00 USD (LI)
Windows Server + SQL Server Standard Edition	609.00 USD (LI)

構成	月額料金 (USD)
Windows Server のみ	259.00 USD (LI)
コンピューティングのみ (Linux)	127.00 USD

既存のライセンスを使用すると、ライセンスコストを削減し、全体的な AWS 請求額を節約できます。

Amazon EC2 Dedicated Hosts で BYOL の対象となるには、Windows Server や SQL Server などの独自のソフトウェアライセンスを持参する必要があります。BYOL を使用すると、で既存のライセンスを使用でき AWS、コスト削減につながります。独自のライセンスを持ち込むには、ソフトウェアベンダーのライセンス権限があり、ソフトウェアのインストールメディアまたはイメージも提供する必要があります。インストールメディアまたはイメージを使用して、Dedicated Hosts でインスタンスを起動できます。BYOL AMI の作成の詳細については、AWS ブログの [Microsoft ワークロードの AMIs を作成する方法](#) を参照してください。

Note

Auto に設定されたライセンスタイプは、[AWS ライセンス込みオプション](#) と同等です。このオプションを使用すると、不要なオンデマンド支出が発生する可能性があります。[ライセンスタイプ](#) を切り替える必要があります。

コスト最適化シナリオ

ライセンスの適切なサイジングと最適化は、のコスト最適化の重要な要素です AWS。適切な戦略を実装すれば、Amazon EC2 Dedicated Hosts と BYOL オプションを使用することで、ライセンスコストを削減し、コンプライアンスを維持し、ライセンス投資から最大限の価値を得ることができます。

このセクションでは、次のシナリオ例について説明します。

- T3 Dedicated Hosts によるコスト削減
- SQL Server BYOL を使用した共有テナンシーと Dedicated Hosts の比較
- 高可用性 SQL Server デプロイ

T3 Dedicated Hosts によるコスト削減

T3 Dedicated Hosts は、従来の固定 CPU リソースを提供する他の Amazon EC2 Dedicated Hosts とは異なります。対照的に、T3 Dedicated Hosts は CPU リソースを共有し、ベースライン CPU パフォーマンスを提供し、必要に応じてバーストできるバースト可能なインスタンスをサポートします。CPU リソースの共有はオーバーサブスクリプションとも呼ばれ、単一の T3 Dedicated Host が同等の汎用 Dedicated Hosts の最大 4 倍のインスタンスをサポートできるようにします。

T3 Dedicated Hosts は、他の Amazon EC2 Dedicated Host よりも高いインスタンス密度を提供することで、TCO を削減します。バースト可能な T3 インスタンスを使用すると、これまでよりも多くのインスタンスを統合し、low-to-moderate 平均 CPU 使用率のホスト数を減らすことができます。T3 Dedicated Hosts は、他の Amazon EC2 Dedicated Hosts よりも多くの vCPU とメモリの組み合わせで、より小さなインスタンスサイズを提供します。インスタンスサイズが小さいほど TCO が削減され、オンプレミスホストと同等以上の統合比率を実現できます。

T3 Dedicated Hosts は low-to-moderate 、CPU 使用率が高く、Microsoft Windows デスクトップ、Windows Server、SQL Server、Oracle データベースなどのソケット単位、コア単位、または VM 単位のソフトウェアライセンスの対象となる BYOL ソフトウェアの実行に最適です。

T3 Dedicated Hosts を使用して Windows Server Datacenter ライセンスを削減する (コアあたり)

オンプレミス環境では、VMware ホストの物理 CPUs を簡単にオーバーサブスクライブし、高レベルの統合を実現できるという事実を活用しています。

次の例を考えます。現在、オンプレミス環境で 10x36 コア、384 GB の RAM VMware ホストを使用しています。さらに、各ホストは 96x2 vCPU、4 GB RAM Windows Server 仮想マシンを実行し、平均 CPU 使用率は低くなります。

仮想マシンを T3 Dedicated Hosts に移行することで、現在のオンプレミス VMware ホストと比較して RAM の量が 2 倍になるため、より高い統合レベルを実現できるようになりました。T3 Dedicated Hosts では、ホストコストを 50% 削減して、同じ数のサーバーを実行できます。これにより、Windows Server のライセンスコストを 33% 削減できます。次の表は、T3 Dedicated Hosts の使用による節約額を示しています。

	オンプレミスの VMware ホスト	T3 Dedicated Hosts	削減量
物理サーバー	10	5	

	オンプレミスの VMware ホスト	T3 Dedicated Hosts	削減量
ホストあたりの物理コア	36	48	
ホストあたりの RAM (GB)	384	768	
ホストあたり 2 つの vCPU、4 GB RAM VMs	96	192	
VMs の総数	960	960	
Windows Server Datacenter ライセンスの合計 (コアあたり) = (サーバー数 x 物理コア数)	10 * 36 = 360	5 * 48 = 240	33%

SQL Server BYOL を使用した共有テナンシーと Dedicated Hosts の比較

Amazon EC2 Dedicated Hosts の価値を示す実用的な例を考えてみましょう。このシナリオでは、組織は 240 コアのオンプレミス環境で SQL Server ワークロードを実行し、同じワークロードを に費用対効果の高い方法でデプロイしたいと考えています AWS。この組織が独自のライセンス (BYOL) を持ち込む場合、SA に対して引き続き支払いを行い、コア数を減らすとコストに直接影響します。

次の図は、Microsoft の使用権限と SQL Server の AWS 節約額を比較したものです。

Microsoft entitlements (Enterprise Agreements)		SQL Server savings with AWS	
	Number of cores		AWS BYOL/Dedicated Hosts cores
SQL Server Enterprise edition	208	AWS shared vCPUs	120
SQL Server Standard edition	32		20
Total SA cost	\$341,000		\$197,418
			96
			-
			\$151,355

AWS 共有テナンシーでインスタンスを適切にサイジングすることで、SQL Server のライセンスを 140 コアに減らすことができます。これにより、SA コストは 197,000 USD になります。

Amazon EC2 Dedicated Hosts を使用すると、物理コアレベルで SQL Server のライセンスを取得できます。これは、SQL Server のライセンスがインスタンスに割り当てられた vCPUs の数に基づいている共有テナンシーでは不可能です。したがって、それぞれ 48 コアを持つ 2 つの R5 Dedicated Hosts を使用することで、共有テナンシーに必要な 140 個の vCPUs。R5 Dedicated Hosts をデプロイし、ワークロードを物理レベルでライセンスすることで、必要な数の SQL Server Enterprise Edition ライセンスを 96 コアに減らすことができます。つまり、ライセンス要件を満たし、大幅なコスト削減を実現しながら、SQL Server ワークロードの最大 192 コア (ハイパースレッディングに対応) をデプロイできます。

この場合、組織は年間約 341,000 USD の SA コストを支払います。共有テナンシーを適切にサイジングした後、140 個の vCPUs。Amazon EC2 Dedicated Hosts は、コストをさらに 151,000 USD (約 56% 削減) に削減します。

高可用性 SQL Server デプロイ

この例では、コストがでの SQL Server のデプロイにどのように影響するかを、ライセンスに関するさまざまな考慮事項とともに分析します AWS。組織が 3 つのアプリケーションをサポートするために 6 つの SQL Server Enterprise サーバー AWS をにデプロイする必要があるとします。これらのサーバーには高可用性が必要で、それぞれ 16 個の vCPUs と 256 GB の RAM があります。以下のシナリオの詳細を参照してください。

- Server – SQL Server
- オペレーティングシステムエディション – Windows Server Datacenter 2019
- SQL Server エディション – SQL Server Enterprise 2019
- vCPU – 16
- メモリ (GB) – 256
- 数量 – 6

パフォーマンスを犠牲に AWS せずに のコストを最適化するには、CPU、メモリ、ネットワーク、ディスク (IOPS/BW) の使用率に基づいてインスタンスのサイズを適切に設定することをお勧めします。ワークロードを適切なサイズに調整したら、16 個の vCPUs。ただし、このインスタンスタイプには、ワークロードに必要なメモリが 2 倍含まれています。さらなる最適化はまだ可能です。

シナリオ 1

組織は、Windows と SQL Server の両方のライセンス込みオプションを使用して、AWS 共有テナンシーに 6 つの SQL Server Enterprise サーバーをデプロイします。このオプションでは、Windows

および SQL Server ライセンスのコストがインスタンス料金に組み込まれます。以下のシナリオの詳細を参照してください。

- 共有テナンシー (インスタンス) – x2iedn.4xlarge
- 時間単位のコスト (USD) – 10.0705 USD
- ユニットあたりの月額コスト (USD) – 7,351.47 USD
- サーバー数 – 6
- CPU – 16
- メモリ – 512
- 6 台のサーバーの月額コスト – 44,108 USD

シナリオ 2

組織には、共有テナンシーの SQL Server 用の SA と BYOL があります。つまり、組織は Windows のライセンス込みオプションを使用しますが、インスタンスに割り当てられた vCPUs の数に基づいて独自の SQL Server ライセンスを提供します。組織には、それぞれ 16 vCPUs を持つ 6 個の SQL Server Enterprise サーバーがあるため、合計 96 vCPUs が必要です。以下のシナリオの詳細を参照してください。

- 共有テナンシー (インスタンス) – x2iedn.4xlarge
- 時間単位のコスト (USD) – 4.0705 USD
- ユニットあたりの月額コスト (USD) – 2971.47 USD
- サーバー数 – 6
- CPU – 16
- メモリ – 512
- BYOL コア – 96
- 6 台のサーバーの月額料金 – 17,828 USD

SA に独自の SQL Server ライセンスを取り込むことで、このシナリオの組織は、SQL Server のライセンス込みオプションを使用するよりもコスト削減を実現できます。正確なコスト削減は、特定のライセンス契約の料金と条件によって異なります。このシナリオでは、SQL Server Enterprise ライセンスをに持ち込むと、AWS コストが 1 か月あたり 26,280 USD 削減されます AWS。

シナリオ 3

組織には、Amazon EC2 Dedicated Hosts 上の Windows サーバーと SQL Server の両方に BYOL があります。つまり、組織は物理コアレベルでライセンスを割り当て、ホストの物理コアのみをライセンスできるようにします。物理コアレベルでのライセンスにより、必要なライセンスに影響を与えることなく、最大数のインスタンスをデプロイできます。このライセンスモデルは、Windows Server Datacenter および SQL Server Enterprise Edition で一般的に使用されます。

このシナリオでは、2 つの X2iezn Amazon EC2 Dedicated Hosts を使用します。各ホストには 24 個の物理コアと 48 個の vCPUs があります。これにより、それぞれ 16 個の vCPUs と 256 GB の RAM を備えた 6 台の SQL Server Enterprise サーバーに十分な容量が提供されます。以下のシナリオの詳細を参照してください。

- 専用ホストの数 – 2
- インスタンスファミリー – x2iezn
- 時間単位のコスト (USD) – 11.009 USD
- ユニットあたりの月額コスト (USD) – 8,036 USD
- 物理コア – 48
- 使用可能な vCPU – 96
- 必要な Windows Server コアライセンス – 24
- SQL Server Enterprise コアに必要なライセンス – 24
- 月額コスト – 16,073

2 つの X2iezn ファミリー Amazon EC2 Dedicated Hosts の合計コストは、1 か月あたり 16,073 USD です。料金の詳細については、このシナリオの AWS Pricing Calculator [見積り](#) を参照してください。このシナリオの組織は、Windows ライセンスを導入することで、1 か月あたり 1,755.65 USD を節約できます。Amazon EC2 Dedicated Hosts を使用している場合は、必要な SQL Server ライセンスの数を減らすこともできます。共有テナンシーでは、それぞれ 16 個の vCPUs を持つ 6 個の SQL Server Enterprise サーバーをカバーするために、96 個の SQL Server Enterprise ライセンスが必要になります。ただし、Amazon EC2 Dedicated Hosts を使用し、物理コアレベルでライセンスすることで、必要なライセンスの数を 48 コアに減らすことができます。

以下の詳細では、例 3 のコストを比較し、BYOL オプションを使用して Amazon EC2 Dedicated Hosts にワークロードをデプロイすることでどれだけ節約できるかを他のシナリオと比較します。

- オンプレミスサーバー – SQL Server

- vCPU – 16
- メモリ – 256
- サーバー数 – 6
- シナリオ 1 の月額コスト: Windows (LI) + SQL Server Enterprise (LI) – 44,108 USD
- シナリオ 2 の月額コスト: Windows (LI) + SQL Server Enterprise (BYOL) – 17,828 USD
- シナリオ 3 の月額コスト: Amazon EC2 Dedicated Host での Windows (LI) + SQL Server Enterprise (BYOL) – 16,073 USD

Note

コストはオンデマンド料金に基づいています。Savings Plans または Dedicated Reserved Instances を使用することで、コストをさらに削減できます。これらのオプションは、オンデマンド料金と比較して大幅なコスト削減を実現する柔軟な料金モデルを提供します。これらのプランでは、1 年または 3 年の期間をコミットできます。詳細については、このガイドの [Amazon EC2 での Windows の支出の最適化](#) セクションを参照してください。

Amazon EC2 Dedicated Hosts では、次の支払いオプションを検討してください。

- [Dedicated Hosts](#) (Amazon EC2 ドキュメント)
- [Dedicated Host Reservations](#) (Amazon EC2 ドキュメント)
- [Savings Plans](#) (Amazon EC2 ドキュメント)

が Dedicated Host の料金をサポートする [AWS Pricing Calculator](#) ようになりました。これにより、適切な基盤となる Dedicated Host を選択できます。

コスト最適化に関する推奨事項

を使用してコストを最適化するには、次のステップを実行することをお勧めします AWS Cost Explorer。

1. [Cost Explorer を有効にする](#)。
2. Cost Explorer を使用して、Amazon EC2 Dedicated Host デプロイの [コストと使用状況を表示および分析](#) します。

3. BYOL を実行していることを検証します。Amazon EC2 コンソールのインスタンスまたは AMI ページ、または `describe-images` または `describe-instances` コマンドによって返されるレスポンスで、次のプラットフォームの詳細と使用状況オペレーション値を表示できます。
 - プラットフォームの詳細: Windows、使用オペレーション: RunInstances:0002 (ライセンス込み)
 - プラットフォームの詳細: Windows BYOL、使用オペレーション: RunInstances:0800

追加リソース

- [ライセンスタイプ変換の対象となるライセンスタイプ](#) (AWS License Manager ドキュメント)
- [AWS License Manager および Dedicated Host ワークショップ](#) (AWS License Manager ワークショップ)
- [Amazon EC2 Dedicated Hosts FAQs](#) (AWS ドキュメント)
- [VM Import/Export を使用してオンプレミスから Windows Server Bring-Your-Own-License AMIs を作成する方法](#) (ブログの AWS Microsoft ワークロード)
- [VM Import/Export](#) (AWS ドキュメント)
- [Amazon Web Services and Microsoft: よくある質問](#) (AWS ドキュメント)
- [License Manager でのライセンスタイプの変換](#) (AWS License Manager ドキュメント)
- [Amazon EC2 Dedicated Hosts に高可用性 SQL Server をデプロイする](#) (AWS クラウドオペレーションと移行ブログ)

Amazon EC2 での Windows の支出を最適化する

概要

サーバーを に移行することに関する最大の懸念の 1 つは、インフラストラクチャコスト AWS です。クラウドの利点の 1 つがオンデマンドでリソースに料金を支払うことは事実ですが、24 時間 7 日 365 日利用可能な本稼働ワークロードがあります。[Savings Plans](#)は、EC2 インスタンス、AWS Lambda、および 全体での定常状態 AWS の使用でコストを削減するように設計されています AWS Fargate。

Savings Plans は柔軟な料金モデルを提供し、一貫した SageMaker 使用量 (1 時間あたり 10 USD など) を約束する代わりに、Amazon EC2、Fargate、Lambda、および Amazon の使用料金を削減するのに役立ちます。1 年または 3 年間にわたって一定の時間単位のコンピューティング支出をコミットすると、その使用量に対する割引を受けることができます。

Savings Plans では、3 つの異なる支払いオプションから選択できます。

- 前払いなしオプションは前払いを必要とせず、コミットメントは純粹に月単位で請求されます。
- 一部前払いオプションでは、Savings Plans の料金が低くなります。コミットメントの半分以上が前払いされ、残りは月単位で請求されます。
- All Upfront オプションは最低料金で、コミットメント全体が 1 回の支払いで請求されます。

Savings Plans の有効期限と今後のキューに登録されている Savings Plans は、[AWS Cost Explorer](#) で追跡できます。Savings Plans アラートを使用すると、プランの有効期限の 1、7、30、または 60 日前、またはコミットメントが購入キューに入っているときに、事前 E メールアラートを受け取ることができます。これらの通知は、有効期限日にも警告します。最大 10 人の E メール受信者に通知を送信できます。

Savings Plans について

すべてのタイプのコンピューティング使用量には、オンデマンドレートと Savings Plans レートがあります。1 時間あたり 10 USD のコンピューティング使用量をコミットすると、Savings Plans 料金が最大 10 USD のすべての使用量に対して Savings Plans 料金が請求されます。コンピューティング支出コミットメントを超える使用量は、通常のオンデマンド料金で請求されます。の [Cost Explorer](#) を使用して Savings Plans の使用を開始できます [AWS Management Console](#)。

[Cost Explorer](#) で提供される推奨事項を使用して最大の節約を実現することで、Savings Plans へのコミットメントを簡単に行うことができます。[Cost Explorer](#) 推奨される時間単位のコミットメントは、過去のオンデマンド使用量と、プランタイプ、期間、支払いオプションの選択に基づいています。Savings Plans は、最初にプランを購入したアカウントに適用され、次に一括請求ファミリー内の他のアカウントと共有されます。

Note

の Savings Plans 共有オプション [AWS Organizations](#) はデフォルトで有効になっています。このオプションは、支払者アカウントの [AWS Billing コンソール](#) で拒否できます。[レコメ](#)
[ン](#)
[デー](#)
[ション](#) ページにアクセスして、対象となる使用量を節約するために [AWS](#) 推奨する Savings Plans を確認できます。これらのレコメ~~ン~~デー~~ション~~はいつでも更新できるため、最適な Savings Plans を簡単に購入できます。

Compute Savings Plans

Compute Savings Plans は、最も柔軟性が高く、コスト削減に役立ちます。これらのプランは、インスタンスファミリー、サイズ、アベイラビリティゾーン、リージョン、オペレーティングシステム、テナンシーに関係なく、EC2 インスタンスの使用に自動的に適用されます。また、Fargate または Lambda の使用にも適用されます。例えば、Compute Savings Plans では、C4 インスタンスから M5 インスタンスへの変更、ワークロードの EU (アイルランド) から EU (ロンドン) へのシフト、EC2 から Fargate または Lambda へのワークロードの移動をいつでも行うことができます。Savings Plans の料金は自動的に引き続きお支払いいただきます。

EC2 Instance Savings Plans

EC2 Instance Savings Plans は、リージョン内の個々のインスタンスファミリーの使用に対するコミットメント (バージニア北部で一貫したレベルの M5 の使用をコミットするなど) と引き換えに、最も深い割引を提供します。これにより、アベイラビリティゾーン、サイズ、オペレーティングシステム、テナンシーに関係なく、そのリージョンで選択したインスタンスファミリーのオンデマンド料金に対する割引が自動的に提供されます。EC2 Instance Savings Plans を使用すると、そのリージョンのファミリー内のインスタンス間で使用量を変更できます。例えば、Windows を実行している c5.xlarge から Linux を実行している c5.2xlarge に移行し、Savings Plans の料金を自動的に利用できます。

Compute と EC2 Instance Savings Plans はどちらも、Amazon EMR、Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS)、Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) クラスターの一部である EC2 インスタンスに適用されます。Amazon EMR、Amazon EKS、および Amazon ECS の料金は Savings Plans の対象外ですが、基盤となる EC2 インスタンスはです。EC2 Compute Savings Plans の方が適用範囲が広いため、EC2 Instance Savings Plans は Compute Savings Plans よりも優先して適用されます。

Note

Savings Plans は、コミットメント後に簡単に変更することはできません。Savings Plans オプションのいずれかを確約する前に、慎重に計画することをお勧めします。Savings Plans は、コミットメントと引き換えにオンデマンド料金と比較して低価格を提供し、期間中にキャンセルすることはできません。

時間単位のコミットメントの例

Savings Plans を購入する場合、プランの有効期間に対して時間単位の金銭的コミットメントを行います。1 時間あたり 10 USD のコンピューティング使用量をコミットすると、Savings Plan の料金は、1 時間あたり最大 10 USD のすべての使用量に自動的に適用されます。コミットメントを超える使用量は、通常のオンデマンド料金で請求されます。Cost Explorer の Savings Plans 購入レコメンドーションツールを使用して、削減額を最大化できる推奨コミットメントを取得できます。特定のプランの時間単位の財務コミットメントは、プランの期間中は変更できません。使用量の分析後にコミットメントを引き上げる場合は、追加の Savings Plans を購入して、超過使用量をカバーすることができます。

Savings Plans の利点

リザーブドインスタンスと比較して、Savings Plans は、Savings Plans Savings Plans が提供する幅広いコンピューティングオプションを活用しながら、コストを削減できるより柔軟な料金モデルを提供します。Savings Plans は、コンピューティングのニーズが変化しても割引を提供します。これにより、追加の管理オーバーヘッドを発生させることなく、絶えず変化する動的環境に対応することができます。Savings Plans を使用するその他の利点は次のとおりです。

- 使いやすい – 金銭的コミットメントと引き換えに自動割引を受けることができます。
- 柔軟性 — 複数の使用タイプに適用される単一のコミットメント。
- 削減の可能性 — 節約にはさまざまな方法があります。次の例を考えます。
 - [Compute Savings Plans を使用した Windows Server ワークロードの 60% 削減 \(d2.8xlarge、3 年、全額前払い、ウィンドウ、共有テナンシー、us-east-2\)](#)
 - [EC2 Instance Savings Plans を使用した Windows Server ワークロードの 73% 削減 \(d2.8xlarge、3 年、全額前払い、ウィンドウ、共有テナンシー、us-east-2\)](#)
 - [エクセプト以外のインスタンスタイプ \(t3 ファミリー、3 年、全額前払い、ウィンドウ、共有テナンシー、us-east-2\) で 28~41% の節約](#)
 - Windows Server で 25~40% の平均削減額

Note

EC2 Instance Savings Plans は、柔軟性が低いため、Compute Savings Plans よりも大幅な割引を提供します。割引料金での使用をコミットします。

すべてのタイプのコンピューティング使用量には、Savings Plan の料金とオンデマンドの料金があります。次の表は、すべてのオペレーティングシステムタイプの Savings Plans とオンデマンド料金を示しています。Savings Plans の料金はコミットされた使用量に対して課金され、コミットメントを超える使用量は通常のオンデマンド料金で課金されます。

Instance name	Savings Plans の料金	オンデマンド削減額	オンデマンドレート	オペレーティングシステム	リージョン	お支払い方法	期間の長さ
x2iedn.xlarge	0.32 USD	61%	0.83 USD	Linux	米国東部 (バージニア北部)	前払いなし	3
x2iedn.xlarge	2.01 USD	50%	1.02 USD	Windows	米国東部 (バージニア北部)	前払いなし	3
x2iedn.xlarge	1.02 USD	20%	2.52 USD	Windows ライセンス込み + SQL Server Enterprise Edition	米国東部 (バージニア北部)	前払いなし	3
x2iedn.xlarge	0.32 USD	61%	0.83 USD	BYOL	米国東部 (バージニア北部)	前払いなし	3

Savings Plans にはオペレーティングシステムが含まれており、BYOL には別の割引があります。これらはすべて、[Compute Savings Plans 計算ツール](#) で分類されます。

リザーブドインスタンス 料金モデル

AWS には、リザーブドインスタンスと呼ばれるコミットメントに基づく別の料金モデルがあります。このモデルは、既にコミットメントを行った後にコンピューティングが変更され、リザーブドインスタンスが使用できなくなると問題になる可能性があります。Savings Plans は、[スタンダードおよびコンバーティブルリザーブドインスタンス](#) と同様のコスト削減を実現するように設計されてい

ますが、柔軟性ははるかに高くなります。Compute Savings Plans は、インスタンスファミリー、サイズ、オペレーティングシステム、テナンシー、またはリージョンに関係なく、EC2 インスタンスの使用に対して低価格を提供します。また、最大限の柔軟性も実現します。

次の表は、Savings Plans とリザーブドインスタンスのどちらかを選択するのに役立ちます。

	Reserved Instance	EC2 Instance Savings Plans	Compute Savings Plans
平均 1 年間の割引	最大 38%	最大 29%	最大 29%
平均 3 年間の割引	最大 58%	最大 73%	最大 60%
インスタンスファミリー	Fixed	Fixed	柔軟性
インスタンスサイズ	固定 (Linux ではない)	柔軟性	柔軟性
地域別	1 リージョン	1 リージョン	柔軟性
オペレーティングシステム	Fixed	柔軟性	柔軟性
サービス	Amazon EC2 または Amazon RDS	Amazon EC2	Amazon EC2、Fargate、Lambda
支払いオプション	全額、一部、前払いなし	全額、一部、前払いなし	全額、一部、前払いなし
インスタンス制限	アベイラビリティゾーンあたり 20	無制限	無制限

Note

Savings Plans は、時間単位の金銭的コミットメントに基づいて割引を提供することで機能します。時間単位の財務コミットメントは、プランの期間中にキャンセルまたは変更することはできませんが、追加の使用量をカバーするために追加の Savings Plans を購入すること

はできます。これにより、フリートの拡大に合わせて一貫した時間単位のコミットメントを維持できます。

[AWS Cost Explorer](#) や [AWS クラウド Intelligence Dashboards](#) などのツールを使用して、コミットメントを追跡できます。Cost Explorer は、組織が Savings Plans カバレッジ戦略を計画するのに役立つカバレッジターゲットラインを提供します。ワークロードの 75% が定常状態の場合、75% が適切なターゲットです。これにより、動的ワークロードに基づくオンデマンド/可変支出の 25% が残ります。これを 85% まで増やす必要がある場合は、Savings Plans のコミットメントをもう 1 つ購入して、時間単位の金銭的コミットメントを増やすことができます。

Note

リザーブドインスタンスの代わりに Savings Plans を購入することをお勧めしますが、リザーブドインスタンスを既に購入している場合は、2 つのコミットメントモデルを連携させることができます。

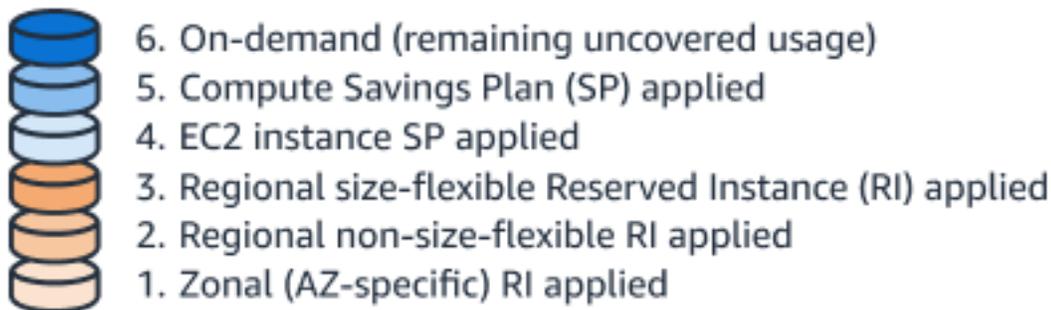
リザーブドインスタンスを購入しても、Savings Plans オプションを試し始める例を考えてみましょう。この組み合わせには、最終請求に適用されるロジックがあります。に適用できる階層は次のとおりです AWS アカウント。

1. ゾーンリザーブドインスタンスは、そのインスタンスを所有するアカウントに適用されます。リザーブドインスタンスに残り時間がある場合は、組織の残りの部分に適用されます。
2. Windows 用のサイズ柔軟なリージョンリザーブドインスタンスは、それを所有するアカウントの一致する使用に適用されます。残っているものは、組織の残りの部分にロールアウトされます。
3. サイズ柔軟なリージョンリザーブドインスタンスは、そのインスタンスを所有するアカウント (ファミリー内の最小インスタンスからより大きなインスタンスまで) に適用され、その後組織の残りの部分に適用されます。
4. リージョン リザーブドインスタンスは、未使用のオンデマンドキャパシティ予約に適用されません。
5. EC2 Instance Savings Plans は、それを購入したアカウント内に適用されます。
6. Compute Savings Plans は、それを購入したアカウント内に適用されます。

Note

割引は、最も割引率の高い使用量から始まり、最も割引率の低い使用量まで減ります。Windows インスタンスは、従来、最も一般的なインスタンスタイプ (T3, M6C5 など) では Linux よりも割引の可能性が低くなっています。つまり、ほとんどの場合、Linux インスタンスは Windows インスタンスよりも多くの利点があります。

次の図は、リザーブドインスタンスを Savings Plans から除算した後の料金を示しています。Compute と EC2 Instance Savings Plans はどちらも、最初に実行中のインスタンスに適用され、次に未使用のオンデマンドキャパシティ予約に適用されます。



コスト最適化シナリオ

このセクションでは、ライセンス込みの請求モデルを使用する Amazon EC2 Dedicated Hosts および Amazon EC2 インスタンスのコスト最適化シナリオについて説明します。

Amazon EC2 専有ホスト

オンプレミスの Windows ワークロードを に移行するシナリオを考えてみましょう AWS。データセンターには次のサーバーがあります。

- 16 vCPU と 128 GB RAM を搭載した 2 台のサーバー
- 32 vCPU と 164 GB RAM を搭載した 2 台のサーバー
- 8 vCPU と 64 GB RAM を搭載した 1 台のサーバー
- vCPU と 32 GB RAM を搭載した 16 台のサーバー

さらに、引き継ぐのに十分なライセンス AWS があるため、 に独自のライセンスを持ち込むことができるかと仮定します。次の表は、 で使用できるサーバーインスタンスを示しています AWS。

インスタンスタイプ	CPU	RAM	量
r5.4xlarge	16	128	2
r5.8xlarge	32	256	2
r5.2xlarge	8	64	1
r5.xlarge	4	32	16
			21

分析では、これらの 21 台の仮想マシンを R5 インスタンスファミリーホストを持つ 2 つの Dedicated Hosts に分散できることを示しています。次の表は、これら 2 つの Dedicated Hosts のコストを示しています。

Dedicated Host オンデマンドシナリオ	前払い	1 か月	1 年	3 年	AWS Pricing Calculator
オンデマンド	なし	10,123 USD	121,475 USD	364,392 USD	AWS Pricing Calculator 見積り
1 年間の Savings Plans	なし	7,447 USD	89,362 USD	–	AWS Pricing Calculator 見積り
3 年間の Savings Plans	なし	5,476 USD	65,712 USD	197,128 USD	AWS Pricing Calculator 見積り
前払いによる 3 年間の Savings Plans	84,438 USD	2,755 USD	117,499 USD	183,618 USD	AWS Pricing Calculator 見積り

に移行するサーバーがある場合 AWS、1 年間の Savings Plan s の最終料金は、オンデマンド料金で 121,475 USD ではなく、89,362 USD です。これは、1 年後に 26.5% の割引になります。AWS より長期間の の在留を検討している場合は、3 年間の Savings Plan s を選択して、より深いコスト削減を実現できます。3 年が経過すると、364,392 USD ではなく 197,128 USD を支払います。これにより、3 年後に合計額の 46% が削減されます。

ライセンスを含む Amazon EC2 インスタンス

単一の 3 層アプリケーションを に移行し AWS、 が提供するライセンスを使用するシナリオを考えてみましょう AWS。さらに、アプリケーションが次のサーバーで動作すると仮定します。

- 2 つの vCPUs と 4 GB RAM を備えた 2 つのウェブサーバー
- 8 つの vCPUs と 16 GB RAM を備えた 2 つのアプリケーションサーバー
- 16 個の vCPUs と 64 GB RAM を備えた 2 つのデータベースサーバー (SQL Server Standard Edition を使用)

次の表は、 で使用できるサーバーインスタンスを示しています AWS。

インスタンスタイプ	CPU	RAM	量
c5.large	2	4	2
c5.2xlarge	8	16	2
r5.2xlarge	8	64	2
			6 サーバー

次の表は、 におけるこれらのサーバーのコストを示しています AWS。

によって含まれるライセンス AWS	前払い	1 か月	1 年	3 年	AWS Pricing Calculator
オンデマンド	なし	3,912 USD	46,950 USD	140,849 USD	AWS Pricing Calculator 見取り

によって含まれるライセンス AWS	前払い	1 か月	1 年	3 年	AWS Pricing Calculator
1 年間の Savings Plans	なし	3,466 USD	41,952 USD		AWS Pricing Calculator 見積り
前払いなしの 3 年間の Savings Plans	なし	3,189 USD	38,264 USD	114,804 USD	AWS Pricing Calculator 見積り
前払いによる 3 年間の Savings Plans	112,110 USD	なし	なし	なし	AWS Pricing Calculator 見積り

オンデマンド料金で実稼働環境 (24 時間 365 日) でこれらのサーバーを実行する場合は、月額 3,912 USD の料金を支払います。この月額費用の支払いは、1 年後には 46,950 USD、3 年後には合計 140,849 USD になります。

前払いなしで 1 年間の Savings Plans を選択した場合、月額料金は 3,466 USD に減少します。最初の 1 年の終わりには、41,952 USD を支払います。これは合計 11% の割引です。前払いなしで 3 年間の Savings Plans を選択した場合、月額料金は 3,189 USD に減少します。3 年が経過すると、114,804 USD を支払います。これにより、18.5% の節約になります。

コスト最適化に関する推奨事項

どちらのシナリオも、ワークロードを計画および予測するときにコストを削減するのに役立ちます AWS。2 番目のシナリオの割引は、1 番目のシナリオと比較して少ないことを認識することが重要です。2 番目のシナリオでは、ライセンス料金はクラウドサーバーの料金に含まれています。AWS ライセンス料金には割引はありませんが、いつでもライセンスを持ち込むことができ (特定のシナリオの場合)、常に最適なコンピューティング/インスタンス料金を保証 AWS できます。

コンピューティングリソースとインスタンスリソースの AWS 支出を制御するには、次の操作を行うことをお勧めします。

- アクセスレコメンデーション
- 必要に応じてレコメンデーションをカスタマイズする
- 時間単位のコミットメントを確認する

アクセスレコメンデーション

[Amazon EC2 コンソール](#)を使用して、Savings Planのレコメンデーションにアクセスできます。推奨事項をダウンロードして、後で CSV 形式で確認することもできます。詳細については、[Savings Plans ドキュメント](#)の「Savings Plans のモニタリング」を参照してください。

必要に応じてレコメンデーションをカスタマイズする

[Amazon EC2 コンソール](#)を開き、インスタンス セクションを展開し、Savings Savings Plansを選択します。このページには、レコメンデーションを行う前と後にインスタンスとコンピューティングの料金が表示されます。レコメンデーションには、次の要素を調整することもできます。

- 期間 – 1~3 年など
- 支払いオプション – 前払い、一部前払い、前払いなしなど
- 履歴 – 過去 7、30、60 日など

時間単位のコミットメントを確認する

同じ例を使用して、24 時間 365 日稼働しているインスタンスがあるとして、Savings Planを使用することをお勧めします。サイズに応じて、オンデマンド料金は 1 時間あたり 120 USD です。1 時間あたり 90 USD をコミットすることもできますが、これはリージョン、インスタンス、購入オプションによって異なる場合があります。この例では、オンデマンドコストと比較して 25% 節約できます。また、定義したしきい値を下回っている場合は、使用率とカバレッジを追跡し、予算が終了したときにアラートを設定することもできます。

レコメンデーションを確認する

Savings Plan sの推奨事項を慎重に確認することをお勧めします。AWS は、お客様の許可なしに何も変更しません。これらはレコメンデーションにすぎず、適用するかどうかはユーザー次第です。

プランを購入する

[Amazon EC2 コンソール](#)を開き、インスタンス セクションを展開し、Savings Savings Plansを選択します。次に、Savings Plans の購入 を選択します。要件に基づいて、期間、リージョン、インスタ

ンスファミリー、時間単位のコミットメント、支払いオプション、さらには開始日まで選択できません。Compute Savings Plans、EC2 Instance Savings Plans、および SageMaker Savings Plans から選択できます。詳細については、[Savings Plans ドキュメント](#)の「Savings Plans の購入」を参照してください。

使用率レポートを取得する

Savings Planを購入すると、使用率レポートを取得できます。このレポートは、の使用率の確認、購入したプランが割引をカバーして最大化するのに十分かどうかの確認、新しい割引のキャンセルまたは追加に役立ちます。このレポートは、CSV などの他の形式にエクスポートできます。詳細については、Savings Plans [ドキュメント](#)の「[使用率レポートの使用](#)」を参照してください。 Savings Plans

購入のベストプラクティスに従う

Savings Plans を購入する前に、次のベストプラクティスに従うことをお勧めします。

- を使用して[AWS Trusted Advisor](#)、アイドル状態の EC2 リソースを削除します。
- Savings Plans の購入前に適切なサイジングを実行します。
- 30 ~ 60 日間一貫して維持する時間単位の料金を設定します。
- 組織が慣れている限り、一貫した時間料金をカバーするコミットメントを購入します。需要や季節の変動を考慮してください。
- Savings Plans 予算を四半期ごとに見直して、一貫したレート (Savings Plans カバレッジの 70% のカバレッジターゲットなど) を維持します。料金が希望するカバレッジを下回った場合は、カバレッジ目標を達成するための調整として追加の Savings Plans を購入します。

追加リソース

- [Amazon EC2 リザーブドインスタンスの Savings Plans](#) (AWS ホワイトペーパー)
- [Savings Plans が AWS 使用状況にどのように適用されるかを理解する](#) (Savings Plans ドキュメント)
- [EC2 Windows Server および SQL Server インスタンスの 1 秒あたりの請求の発表](#) (AWS ドキュメント)
- [AWS コスト最適化シリーズ: Savings Plans Video | Amazon Web Services](#) (YouTube)

AWS ツールを使用したコストのモニタリング

概要

コストの可視性は、コストを最適化する上で重要な要素です。AWS には、コストを視覚化し、それらのコストに応じてアラートを作成するために使用できるツールが多数あります。これらには、支出の追跡と報告に役立つ AWS Budgets などのツールが含まれます。このセクションでは、Windows の AWS 支出をモニタリングする特定の手法について説明します。これにより、予算要件に応じて追跡して対応できます。これには、Windows EC2 リソースに必要なタグの追加が含まれます。これらのタグを使用すると、を使用して Windows EC2 およびその他の Microsoft サービスを適切にモニタリングできます AWS Budgets。

支出をモニタリングし、AWS ツールでアラートを作成することで、現在の支出、予測支出、および支出の異常についてより詳細に把握できます。[Savings Plans](#) を使用して時間単位の EC2 インスタンス料金を削減する場合は、Savings Plan の全体的な使用率とカバレッジを確認することをお勧めします。これにより、削減額を継続的に実現できます。AWS Cost Explorer を使用して Savings Plan インベントリを表示し、以前の使用状況に基づいて追加の Savings Plans のレコメンデーションを取得できます。を使用してを設定することで [AWS Budgets](#)、特定の支出を追跡することもできます [AWS Cost Anomaly Detection](#)。

コスト最適化に関する推奨事項

、Cost Explorer AWS Budgets、および異常検出を使用してコストを最適化するには、次のステップを実行することをお勧めします。

- Windows EC2 リソースにタグを付ける
- を使用してアラートを設定する AWS Budgets
- コスト異常検出を有効にする
- リアルタイムの支出分析を取得する
- Cost Explorer を使用して Windows のライセンス込み支出を表示する

Windows EC2 リソースにタグを付ける

AWS 支出を効果的にモニタリングするには、モニタリングするワークロードの [タグ付け戦略](#) を確立する必要があります。これは、一般的な使用支出ではなく、リソースをカテゴリ別にグループ化し、特定の支出について通知を受けるために重要です。コストに役立つだけでなく、[AWS Systems](#)

[Manager オートメーション](#) などの他の目的にも使用できるタグ付けリソースを使用できます。さらに、[必要なタグ](#) の管理を実装することをお勧めします。

AWS Budgets、Cost Explorer、およびコスト異常検出の支出を追跡するには、適切なタグが設定されていることを確認する必要があります。タグを使用して、それらのタグに一致する項目に特定の予算を設定して、支出の増加時にアラートを受け取ることができます。

例えば、Key=OS Value=Windows などのシンプルなタグを使用できます。これにより、すべての Windows インスタンスが 1 つのグループにまとめられ、支出を追跡できます。Systems Manager などの他の項目にもタグを使用できます。タグを作成したら、コスト追跡のためにタグをアクティブ化する必要があります。特定の リソースにアタッチされている[AWS Config タグをモニタリングするルール](#)を追加することを検討してください。は、適切なタグが含まれていないリソースが実行されている場合にアラートを送信 AWS Config できます。これにより、Windows EC2 の支出を正確に把握できます。

タグを設定したら、でカスタム予算を作成できます AWS Billing。これにより、Windows EC2 の使用状況を可視化できます。日次予算または月次予算を設定できます。

を使用してアラートを設定する AWS Budgets

このシナリオ例では、Windows EC2 の日次予算を作成します。これは、自動調整オプションを使用して支出を追跡し、それに応じて予算を調整する定期的な予算です。静的環境がある場合は、代わりに固定予算を使用できます。必ずベースラインの時間範囲 (30 日など) を選択してください。

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Cost Management コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Budgets] を選択します。
3. ページの上部で、[Create budget] を選択します。
4. [Budget setup] (予算の設定) で、[Customize (advanced)] (カスタマイズ (高度)) を選択します。
5. UnderBudget タイプで、Cost budget を選択します。[次へ] を選択します。
6. UnderDetails、予算名 に予算の名前を入力します。例えば、Windows EC2 は を消費します。
7. 予算額 の設定、期間 では日次 を選択します。
8. 予算更新タイプ では、予算期間後にリセットされる予算の予算の繰り返しを選択します。
9. 開始日 では、開始日または期間を選択して、予算額に対する追跡を開始します。
10. バジェットメソッドで、自動調整 (新規) を選択します。
11. ベースライン時間範囲 で、カスタム範囲 を選択し、30 日を入力します。
12. [次へ] をクリックします。

13. Budget scope セクションで、特定の AWS コストディメンションをフィルタリングを選択します。ここでは、タグを使用して適切なディメンションを作成します。AWS Budgets は、フィルター内のオプションとしてプラットフォームタイプをサポートしていません。このため、OS タグを適用する必要があります。
14. フィルターの追加を選択し、ディメンションからタグオプションを選択します。
15. OS タグを選択し、その Windows 値を選択してタグの予算を作成します。
16. [次へ] をクリックします。
17. アラートの設定 ページで、アラートしきい値の追加を選択します。ここでは、50% のしきい値と 100% のしきい値の 2 つのアラートを設定します。50% のしきい値アラートが月の中間点より前に超過すると、警告が表示されます。これにより、支出が予想よりも大きいかどうかを確認し、月末になる前に対応できます。
18. しきい値には、50 と入力し、予算額の % を選択します。
19. トリガーで、実際のを選択します。
20. E メール受信者には、E メールアドレスを入力します。しきい値 100 のアラートをもう 1 つ追加します。

Note

この例では、アラートにシンプルな E メール通知を使用しますが、[Amazon Chime](#) または [Slack](#) を使用することもできます。

コスト異常検出を有効にする

コストタグを使用して、異常である支出アラートを設定できます。例えば、[AWS Cost Anomaly Detection](#) を使用して支出のモニターを作成し、システムがアカウントの異常な支出を検出したときにアラートを受け取ることができます。

以前に作成した Key=OS および Value=Windows タグのモニターとアラートを設定するには、次の手順を実行します。

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Cost Management コンソール](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コスト異常検出] を選択します。
3. コストモニタータブを選択し、モニターの作成を選択します。
4. ステップ 1 で、モニタータイプとしてコスト配分タグを選択します。
5. コスト配分タグキーで、Windows EC2 の使用を選択します。

6. コスト配分タグ値 で、Windows を選択します。
7. モニターに という名前を付けるには、Windows EC2 の使用 と入力します。
8. [次へ] をクリックします。
9. アラートのサブスクリプションを作成するには、新しいサブスクリプションの作成 を選択します。既存のサブスクリプションがある場合は、[既存のサブスクリプションを選択] を選択します。
10. サブスクリプション名 には、Windows EC2 の消費異常 を入力します。
11. アラート頻度 で、日次概要 を選択します。
12. アラート受信者 には、E メールアドレスを入力します。
13. しきい値の追加 を選択します。しきい値に 10 と入力し、予想速度 を上回った割合を選択します。
14. [Create monitor] (モニターの作成) を選択します。

支出をリアルタイムで表示する

アラートは Windows EC2 の支出をモニタリングするのに役立つツールですが、支出をリアルタイムで表示する場合は Cost Explorer を使用する必要があります。Cost Explorer で EC2 コストを分析および削減する方法については、この動画をご覧ください。EC2 詳細については、の [AWS「Supports You | Understanding and Reducing Your EC2 Costs」](#) ビデオをご覧ください YouTube。

Windows のライセンス込み支出を表示する

Cost Explorer を使用して、アカウント内の EC2 Windows の支出を表示できます。Windows のライセンス込みの支出を確認するには、Cost Explorer で次の正しい [フィルター](#) を設定する必要があります。

- プラットフォーム で、Windows (Amazon VPC) を選択します。API オペレーションで、RunInstance:0002 を選択します。これは、ライセンスに含まれる Windows EC2 インスタンスの AWS Billing コードです。
- BYOL インスタンスの使用量を表示する場合は、RunInstance:0002 を RunInstance:0800 に変更します。これは Windows EC2 BYOL の請求コードです。

Cost Explorer でこの可視性を使用すると、Windows EC2 に費やしているものを正確に絞り込むために、コストをすばやくフィルタリングできます。AWS 支出をさらに深く掘り下げたい場合は、AWS Cost and Usage Report を使用して個々のインスタンスレベルで支出に絞り込むことができます。

す。Amazon で視覚化できるレポートを生成 QuickSight し、カスタマイズされたダッシュボードを構築することもできます。

詳細については、の [AWS 「Supports You - Visualizing Your Cost and Usage Reports」](#) ビデオをご覧ください YouTube。

追加リソース

- [必要なタグを設定する AWS Config](#) (AWS Config ドキュメント)
- [AWS Budgets チュートリアル - のアラートの設定 AWS Billing | Amazon Web Services](#) (YouTube)
- [AWS Cost and Usage Report クエリライブラリ](#) (AWS Well-Architected Labs)

SQL Server

お客様は、他のクラウドプロバイダーよりも AWS 15 年以上にわたって Microsoft ワークロードを実行しています。これは主に、AWS がクラウド内の Microsoft アプリケーションで最も経験豊富で、Windows Server と Microsoft SQL Server に最適なプラットフォームを以下の領域で提供することが主な理由です。

- パフォーマンスと信頼性の向上
- セキュリティと ID サービスの強化
- 移行サポートの強化
- 最も幅広く、最も深い機能
- 総所有コスト (TCO) の削減
- 柔軟なライセンスオプション

AWS は、Active Directory、.NET、SQL Server、Windows Desktop as a Service、サポートされているすべてのバージョンの Windows Server など、SQL Server に依存する Windows アプリケーションの構築と実行に必要なすべてをサポートします。の実績ある専門知識 AWS があれば、Windows ワークロードのリフトアンドシフト、リファクタリング、モダナイズを簡単に行うことができます。

ガイドのこのセクションでは、以下のトピックについて説明します。

- [高可用性とディザスタリカバリソリューションを選択する](#)
- [SQL Server ライセンスを理解する](#)
- [SQL Server ワークロードに適した EC2 インスタンスを選択する](#)
- [インスタンスの統合](#)
- [SQL Server エディションの比較](#)
- [SQL Server Developer Edition を評価する](#)
- [Linux での SQL Server の評価](#)
- [SQL Server バックアップ戦略の最適化](#)
- [SQL Server データベースのモダナイズ](#)
- [SQL Server のストレージの最適化](#)
- [Compute Optimizer を使用して SQL Server ライセンスを最適化する](#)
- [Compute Optimizer を使用して SQL Server のサイズを最適化する](#)
- [SQL Server ワークロードの Trusted Advisor レコメンデーションを確認する](#)

高可用性とディザスタリカバリソリューションを選択する

概要

復旧時間目標 (RTO) や復旧時点目標 (RPO) など、[ディザスタリカバリ \(DR\) の目標](#) も満たしながら、AWS ビジネスニーズを満たす SQL Server デプロイ用のアーキテクチャを設計することをお勧めします。以下のソリューションは、SQL Server ワークロードのコストを最適化しながら、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の SQL Server に適したアーキテクチャを設計するのに役立ちます。

- SQL Server Always On 可用性グループ – SQL Server Always On 可用性グループは、SQL Server データベースに高可用性およびディザスタリカバリ (HA/DR) ソリューションを提供します。可用性グループは、フェイルオーバーされるユーザーデータベースのセットで構成されます。Always On 可用性グループもデータベースレベルで冗長性を提供しますが、共有ストレージは必要ありません。各レプリカには独自のローカルストレージがあります。この機能は HA/DR ソリューションとしてデプロイできます。詳細については、Microsoft [ドキュメントの「Always On 可用性グループとは」](#) を参照してください。
- SQL Server Always On フェイルオーバークラスターインスタンス (FCI) – SQL Server Always On FCIs Windows Server フェイルオーバークラスターリング (WSFC) を使用して、SQL Server インスタンスレベルで HA を提供します。FCIs データベースをホストするために共有ストレージが必要です。共有ブロックストレージまたは共有ファイルストレージを使用できます。例えば、Amazon FSx for Windows File Server または Amazon FSx for NetApp ONTAP を複数のアベイラビリティゾーンを持つ共有ストレージソリューションとして使用できます。詳細については、Microsoft [ドキュメントの「Always On フェイルオーバークラスターインスタンス \(SQL Server\)」](#) を参照してください。
- SIOS DataKeeper – SIOS DataKeeper は、アベイラビリティゾーンと の両方にまたがる SQL Server FCI を有効にすることで、HA と DR の両方の要件を満たすのに役立ちます AWS リージョン。SIOS DataKeeper は、ローカルの Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) ボリュームを使用してクラスター化された仮想 SAN を作成し、HA のアベイラビリティゾーン間の同期レプリケーションを使用し、リージョンと 間の非同期レプリケーションを使用してディザスタリカバリを行います。詳細については、SIOS [ドキュメントの「Windows アプリケーションの高可用性保護」](#) を参照してください。
- 分散可用性グループ – 分散可用性グループは、2 つの個別の Always On 可用性グループにまたがる特殊なタイプの可用性グループです。可用性グループは、2 つの別々のリージョン (us-east-1 や など) にまたがって存在できます us-west-1。基盤となる Always On 可用性グループは 2 つの異なる WSFC クラスターに設定されているため、分散可用性グループは可用性グループ

プの可用性グループと考えることができます。分散可用性グループをデプロイするには、SQL Server Enterprise Edition が必要です。詳細については、Microsoft ドキュメントの「[分散可用性グループ](#)」を参照してください。

- ログ配信 — リージョンが影響を受けて利用できなくなった場合に、ログ配信を実装して複数のリージョンのデータベースを保護できます。トランザクションとログの配送頻度に応じて、数分で RPO と RTO を実現できます。詳細については、Microsoft ドキュメントの「[ログ配信 \(SQL Server\) について](#)」を参照してください。
- AWS Elastic Disaster Recovery – Elastic Disaster Recovery は、DR AWS 目的で任意のインフラストラクチャから別のサーバーのレプリケーションを管理する Software as a Service (SaaS) アプリケーションです。Elastic Disaster Recovery を使用して、リージョン間で SQL Server をレプリケートすることもできます。Elastic Disaster Recovery は、オペレーティングシステム、インストールされているすべてのアプリケーション、すべてのデータベースを含む仮想マシン全体をステージングエリアにレプリケートするエージェントベースのソリューションです。詳細については、[Elastic Disaster Recovery ドキュメントの「Elastic Disaster Recovery とは」](#)を参照してください。
- AWS Database Migration Service (AWS DMS) – は AWS、別のリージョンを含むもの間でのデータのライブ移行 AWS DMS をサポートします。この機能を使用して、別のリージョンに個別の SQL Server インスタンスをセットアップし、ディザスタリカバリデータベースとして使用できます。詳細については、AWS DMS ドキュメントの「[とは AWS Database Migration Service](#)」を参照してください。

SQL Server Always On 可用性グループ

SQL Server Enterprise Edition を高可用性 [Always On 可用性グループ](#) にのみ使用している場合は、基本的な可用性グループを利用して SQL Server Standard Edition にダウングレードできます。Always On 可用性グループの代わりに基本的な可用性グループを使用することで、コストを 65 ~ 75% 削減できます。

Note

異なる SQL Server エディション間のコストの違いの詳細については、このガイドの「[SQL Server エディションの比較](#)」セクションを参照してください。

特徴

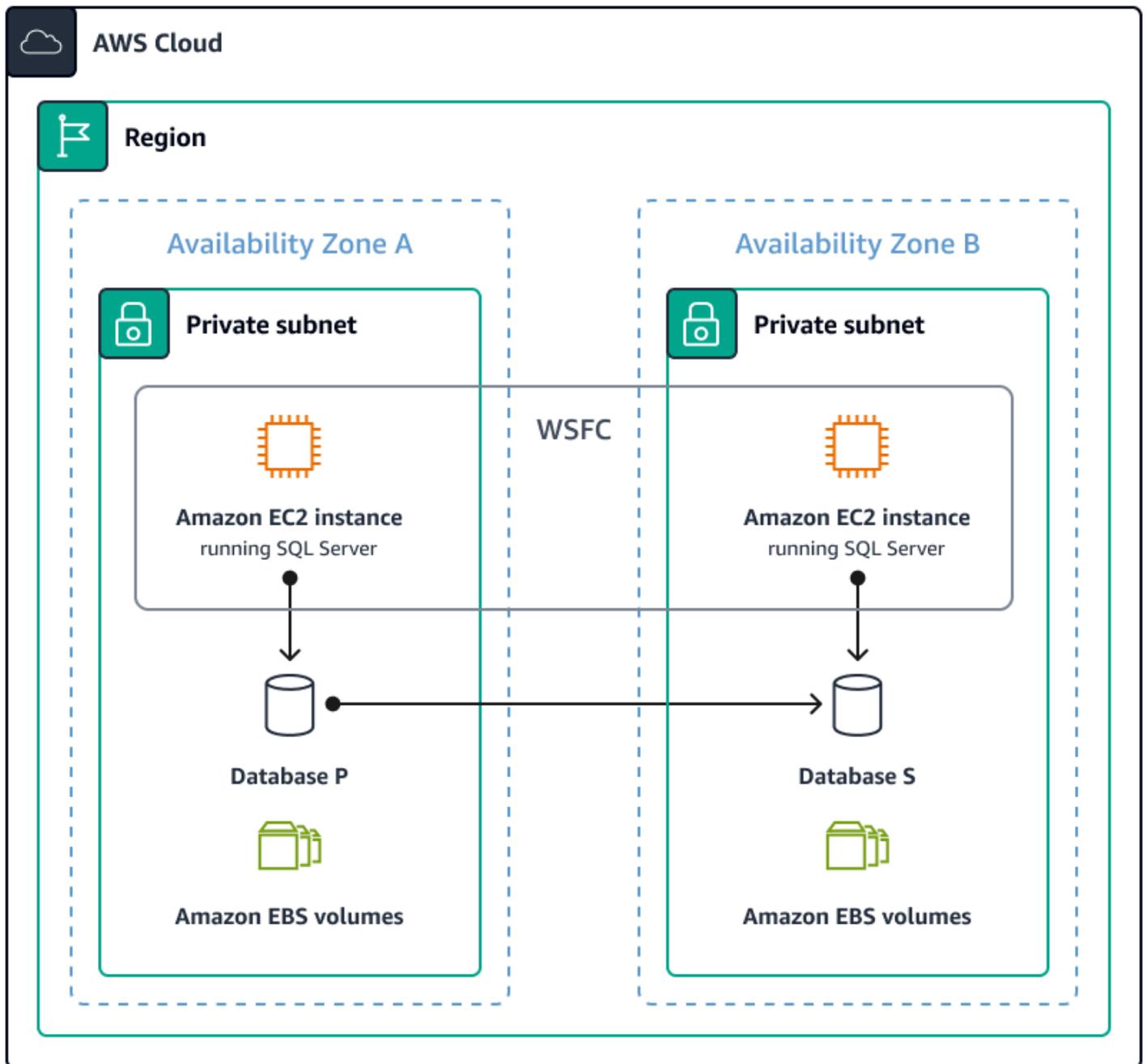
- SQL Server Standard Edition で使用可能

- 2つのレプリカの制限 (プライマリとセカンダリ)
- セカンダリレプリカへの読み取りアクセスなし
- セカンダリレプリカの整合性チェックなし

制約事項

- 可用性グループごとに1つの可用性データベースのみのサポート
- 基本的な可用性グループを分散可用性グループの一部にすることはできません

次の図は、Windows Server フェイルオーバークラスターソリューションのアーキテクチャの例を示しています。



SQL Server Always On フェイルオーバークラスターインスタンス

フェイルオーバークラスターインスタンス (FCIs)を使用して、ダウンタイムを最小限に抑え、データ損失のリスクを軽減しながら、データベースの継続的なオペレーションを確保できます。FCIsは、リードレプリカ設定なしで SQL Server データベースの高可用性を求める場合に、信頼性の高いソリューションを提供します。

可用性グループとは異なり、FCIs は SQL Server Enterprise Edition を必要とせずに、信頼性の高いフェイルオーバーソリューションを提供できます。代わりに、FCIs SQL Server Standard Edition のライセンスのみが必要です。FCIs、SQL Server のライセンスコストを 65~75% 削減できます。

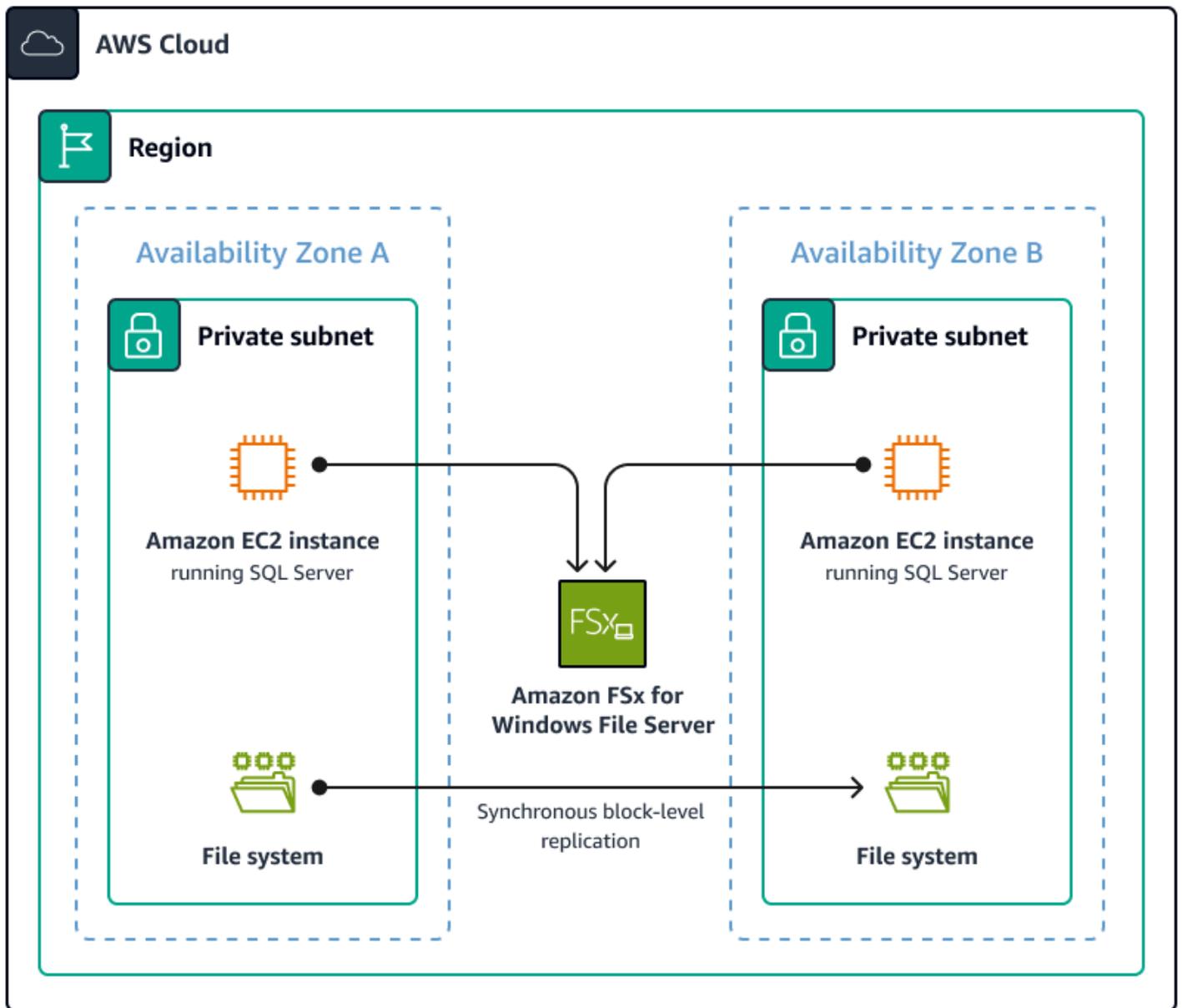
Note

SQL Server エディション間のコストの違いの詳細については、このガイドの「[SQL Server エディションの比較](#)」セクションを参照してください。

以下の点を考慮します。

- Amazon FSx for Windows File Server は、SQL Server FCI 共有ストレージ要件を満たすための強力なソリューションを提供します。FSx for Windows File Server を使用すると、ストレージレプリケーションソリューションのライセンスを購入し、共有ストレージを自分で管理する必要がなくなります。これにより、30~40% の大幅なコスト削減を実現できます。詳細については、AWS ストレージブログの「[Amazon FSx for Windows File Server を使用して Microsoft SQL Server の高可用性デプロイを簡素化する](#)」の投稿を参照してください。
- [ソフトウェアアシュアランスのメリットの概要](#) (ダウンロード可能な PDF) と Bring Your Own License (BYOL) モデルを使用すると、セカンダリサーバーがパッシブである限り、パッシブフェイルオーバーのメリットを活用できます。これにより、クラスターのパッシブノードにライセンスを提供する必要がないため、SQL ライセンスのコスト削減につながります。

次の図は、FSx for Windows File Server を使用した SQL Server FCI のアーキテクチャの例を示しています。



SIOS DataKeeper

SQL Server FCIs を にデプロイする場合は、共有ストレージ要件を検討することをお勧めします AWS。従来のオンプレミスインストールでは、共有ストレージ要件を満たすためにストレージエリアネットワーク (SAN) が通常使用されますが、これは では実行可能なオプションではありません AWS。Amazon FSx for Windows File Server は、上の SQL Server FCI に推奨されるストレージソリューションですが AWS、異なる にクラスターサーバーを追加できないようにするための制限があります AWS リージョン。

[SIOS DataKeeper](#) を使用して、アベイラビリティゾーンとリージョンの両方をカバーする SQL Server FCI を作成できます。同時に、コストを 58~71% 削減できます。SIOS DataKeeper は、FCI の高可用性のメリットを実現するのに役立ちます。これにより、SIOS DataKeeper は組織にとって費用対効果と信頼性に優れたソリューションになります。

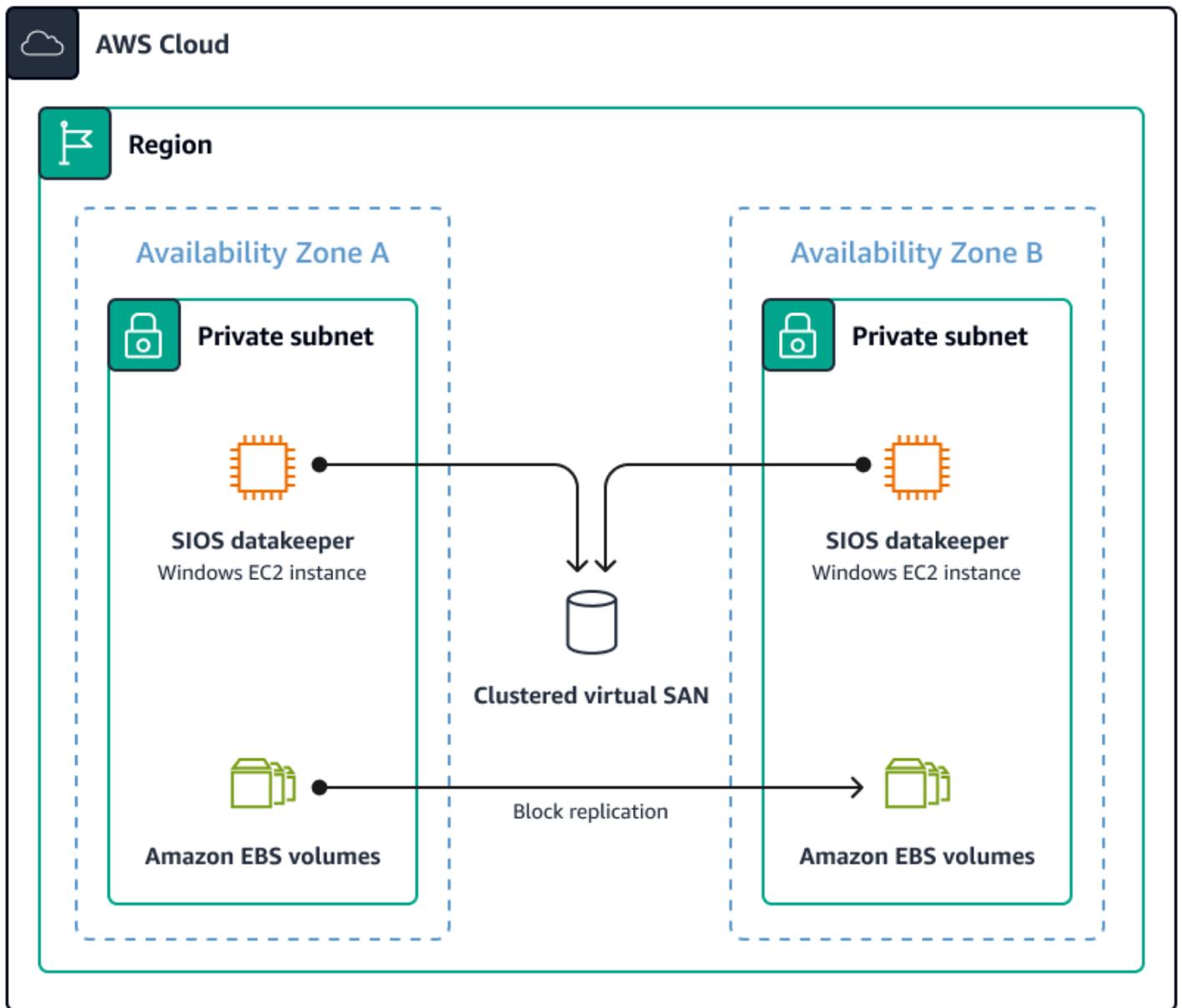
SIOS を使用する際には、次の追加の利点を考慮してください DataKeeper。

- SIOS DataKeeper は、ローカル EBS ボリュームを使用してクラスター化された仮想 SAN を作成し、アベイラビリティゾーン間の同期レプリケーションを使用して高可用性を実現します。ディザスタリカバリのために、SIOS DataKeeper はリージョン間で非同期レプリケーションを使用します。
- SIOS DataKeeper は、SQL Server Standard Edition を使用してエンタープライズクラスのクラスターリング機能を提供します。これにより、SQL Server Enterprise Edition を使用する SQL Server Always On 可用性グループによる高可用性の実装と比較して、SQL Server のライセンスコストが 65~75% 削減されます。SIOS を使用すると DataKeeper、組織のニーズを満たす可用性、柔軟性、費用対効果の高い SQL Server 環境を作成できます。

Note

SQL Server エディション間のコストの違いの詳細については、このガイドの「[SQL Server エディションの比較](#)」セクションを参照してください。

次の図は、クラスター化された仮想 SAN ソリューションを使用した SQL Server FCI のアーキテクチャの例を示しています。

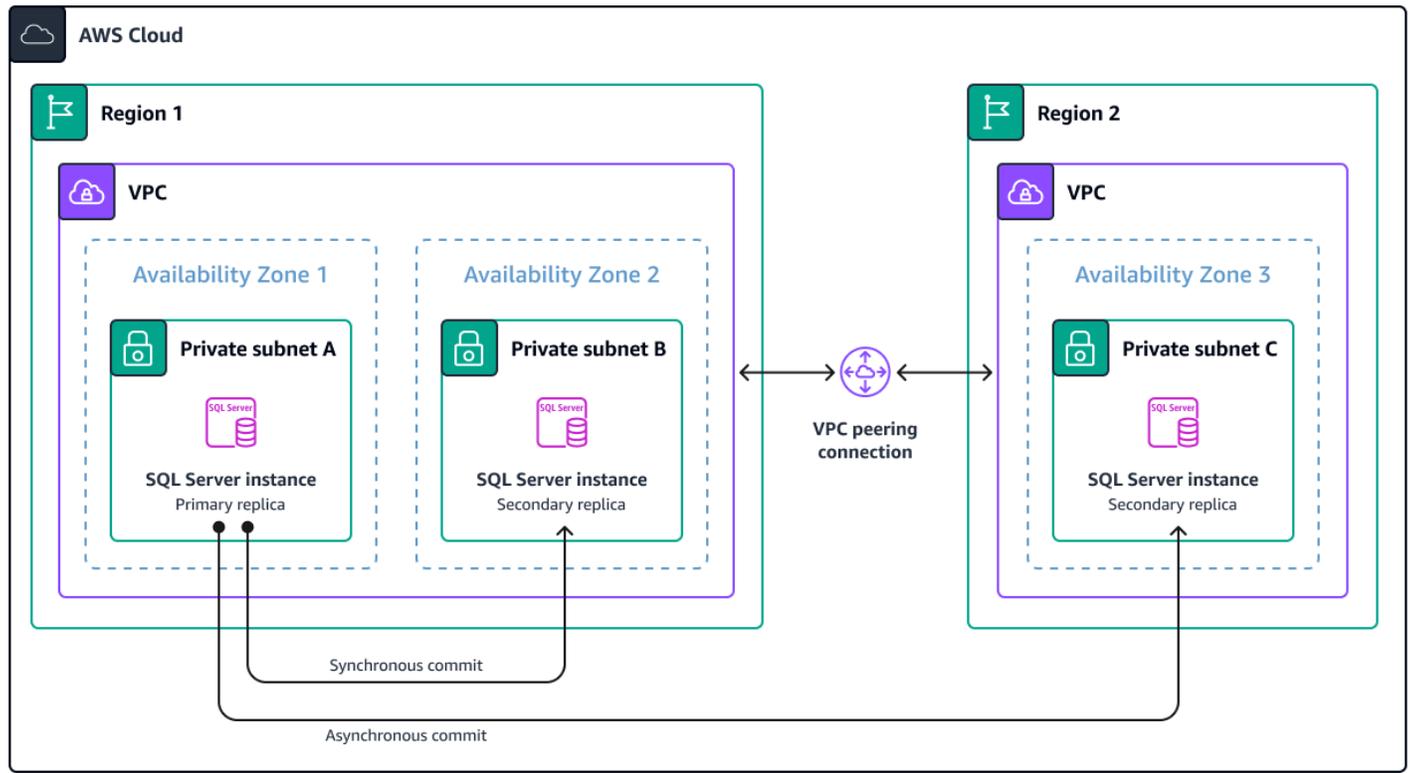


Always On 可用性グループ

Always On 可用性グループは、高可用性とディザスタリカバリの両方の目的で使用できます。SQL Server を 1 つのリージョンの 2 つのアベイラビリティゾーンにデプロイすることで、高可用性を実現できます。リージョン間で可用性グループを拡張することで、ディザスタリカバリを実現できます。

次の図は、Always On 可用性グループに基づくソリューションのアーキテクチャの例を示しています。図のリージョン 1 のレプリカは、可用性グループの自動フェイルオーバーを提供する同期コ

ミットを使用しています。リージョン 2 のレプリカは非同期コミットを使用していますが、これには可用性グループの手動フェイルオーバーが必要です。



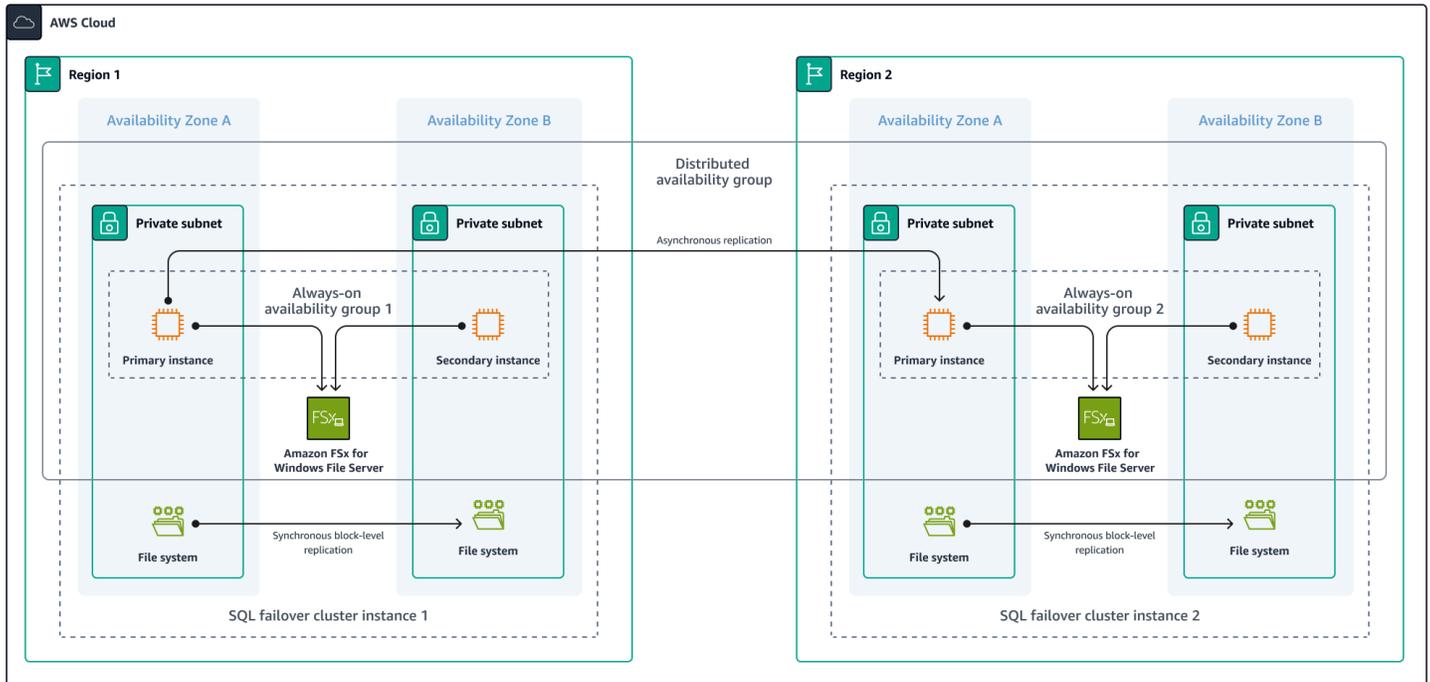
分散可用性グループ

信頼性やディザスタリカバリを侵害できないミッションクリティカルな SQL Server デプロイの場合は、マルチリージョンアプローチをお勧めします。可用性グループを複数のリージョンに分散させることは、ビジネス継続性を維持し、ダウンタイムを最小限に抑えるための最も回復力のあるソリューションです。

このアーキテクチャは、共有ストレージ、同期ブロックレベルのレプリケーション、SQL Server FCI など、Amazon FSx for Windows File Server の機能を最大限に活用します。FCIs これらの機能により、複数のアベイラビリティゾーンにまたがる高可用性 SQL Server 環境を作成できます。この設定を別のリージョンにレプリケートすることで、最も深刻な中断にも対応できる完全冗長システムが得られます。このソリューションを際立たせるのは、ソリューションが提供する柔軟性とセキュリティのレベルです。分散可用性グループのドメインに依存しないアーキテクチャにより、基盤となる Windows クラスターサーバーは異なる Active Directory ドメインに参加できます。証明書ベースの認証により、SQL Server 環境に対する最大限の保護が保証され、マルチリージョン DR 戦略に対する高い RTO および RPO 要件が提供されます。マルチリージョンアーキテクチャの構築の

詳細については、「[「アーキテクチャブログ」の「フィールドノート: FCI と分散可用性グループを使用した SQL Server のマルチリージョンアーキテクチャの構築」](#)を参照してください。AWS

次の図は、分散可用性グループを使用するマルチリージョンソリューションのアーキテクチャの例を示しています。



ログ配布

ログ配布は、予期しない停止が発生した場合にリージョン間でデータベースを保護するための、実績があり、信頼性が高く、費用対効果の高い方法です。組織は、数十年にわたってログ配信を使用してデータを保護してきました。

にログ配信を実装すると AWS、トランザクションの頻度とログ配信ジョブに応じて、RPO と RTO を数分で実現できます。万が一、リージョンにアクセスできなくなった場合、ログ配信はデータを安全かつ回復可能に保ちます。

ログ配信を使用する利点として、次の点を考慮してください。

- リージョン間のディザスタリカバリの回復力のためにログ配信を使用することで、コストを削減し、ビジネス要件を満たすことができます。ログ配信では、SQL Server Standard Edition または SQL Server Web Edition のライセンスのみが必要なため、TCO が削減されます。

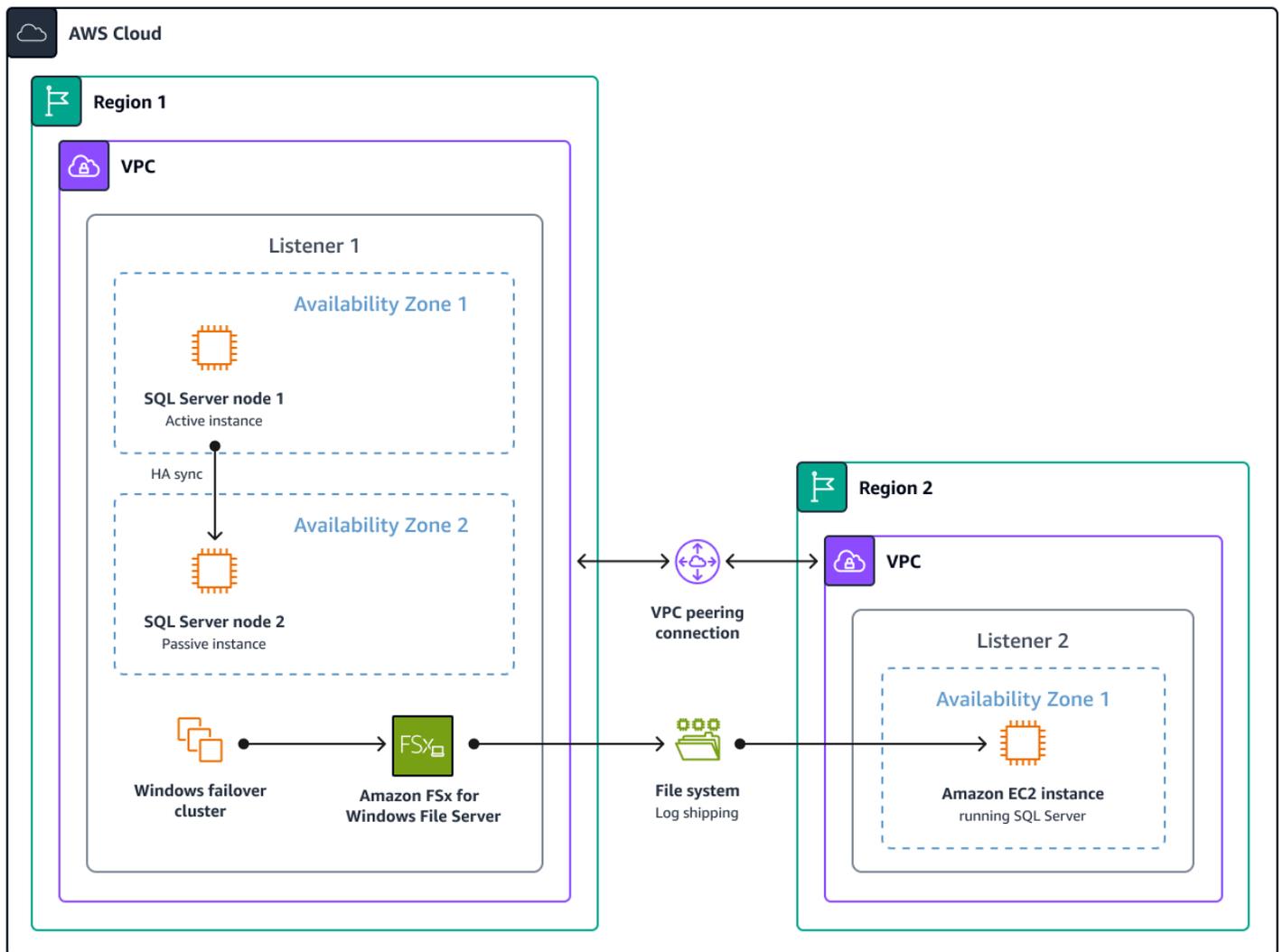
- アクティブな [ソフトウェアアシユアランス](#) でログ配信を使用することで、ディザスタリカバリ/パッシブサーバーからライセンスコストを取り除きます。ソフトウェアアシユアランスでログ配信を使用する場合、プライマリ/アクティブ SQL Server のみのライセンスが必要です。
- SQL Server Enterprise Edition でリージョン間で分散可用性グループを設定する必要がなくなるため、SQL Server のライセンスコストが 65~75% 削減されます。これを行うには、SQL Server Standard Edition と SQL Server FCIs をログ配信と組み合わせて使用して、ディザスタリカバリの要件を満たすことができます。

Note

SQL Server エディション間のコストの違いの詳細については、このガイドの [「SQL Server エディションの比較」](#) セクションを参照してください。

詳細については、AWS アーキテクチャブログの [「Amazon FSx for Windows 設定で SQL Server FCIs のログ配信を使用して SQL Server DR を拡張する」](#) を参照してください。

次の図は、ログ配送ソリューションのアーキテクチャの例を示しています。

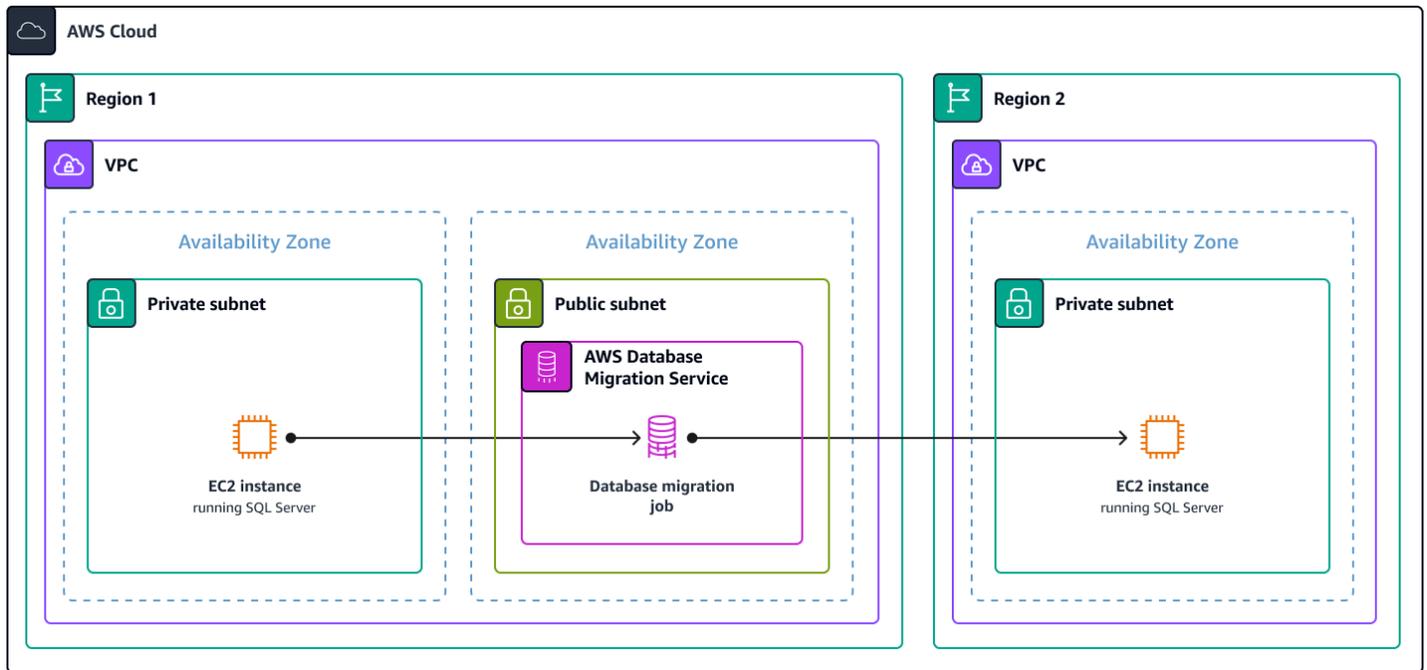


AWS Database Migration Service

AWS Database Migration Service (AWS DMS) を使用して、アプリケーションのニーズに基づいて HA/DR ソリューションを設計できます。AWS DMS を使用すると、同じリージョン (HA) またはリージョン (DR) 間でセカンダリ SQL Server データベースにデータを簡単にコピーできます。このアプローチは技術的に健全であり、リソースの使用量を最適化しながらインフラストラクチャへの投資を最大化できます。

AWS DMS は費用対効果の高いサービスです。転送プロセス中に使用される CPU リソースと追加のログストレージに対してのみ課金されます。つまり、大幅な追加コストを発生させることなく、このソリューションのメリットを享受できます。を使用して AWS DMS、ライセンスとリソースの使用に関連するコストを最小限に抑えながら、データが利用可能でアクセス可能になるようにすることができます。

次の図は、に基づくソリューションのアーキテクチャの例を示しています AWS DMS。



AWS Elastic Disaster Recovery

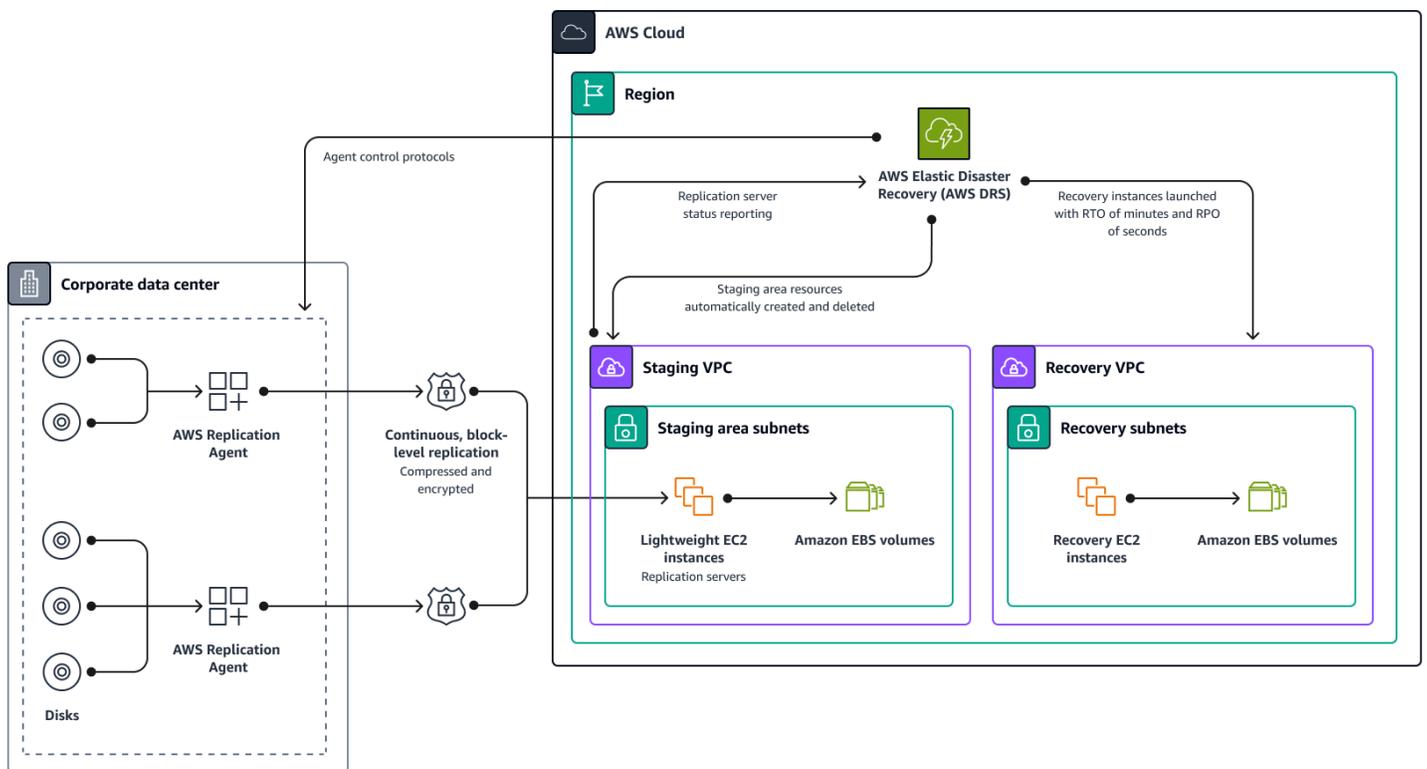
一部の組織では、重要なビジネスアプリケーションすべてにディザスタリカバリ計画が設定されていることを確認する必要があります。以前は、これらの組織の多くが従来のディザスタリカバリソリューションに多額の投資を行っていました。そのためには、重複するインフラストラクチャ全体を事前に構築して維持する必要があります。このアプローチはコストがかかり、時間がかかり、スケールリングが困難です。

これで、AWS Elastic Disaster Recovery を使用してディザスタリカバリインフラストラクチャを事前に構築する必要がなくなります。ディザスタリカバリマシンは、必要になるまで Elastic Disaster Recovery で起動されないため、使用した分に対してのみ料金が発生します。つまり、ソフトウェアライセンスと高性能コンピューティングコストを大幅に削減できます。

さらに、ディザスタリカバリソリューションのステージング領域には、低コストの Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) ボリュームが含まれています。EBS ボリュームは、重複リソースのプロビジョニングコストをさらに削減します。これにより、ビジネス要件を満たす堅牢で信頼性の高いディザスタリカバリソリューションを維持しながら、全体的なディザスタリカバリコストを削減できます。Elastic Disaster Recovery を使用すると、コアビジネス活動に集中できますが、AWS はディザスタリカバリソリューションの基盤となるインフラストラクチャを処理します。

SQL Server では、Elastic Disaster Recovery を費用対効果の高いディザスタリカバリオプションとして使用できます。アクティブなソフトウェアアシュアランスを使用する場合、耐障害性が高く可用性の高い SQL Server アーキテクチャにおけるパッシブノードのライセンスがカバーされます。ただし、パッシブサーバーがオンラインになるためのコンピューティングコストは引き続き発生します。Elastic Disaster Recovery を使用すると、プライマリサーバーはアクティブなソフトウェアアシュアランスを維持しなくても DR 環境にレプリケートでき、ディザスタリカバリのコンピューティングコストを支払う必要はありません。このコスト削減の組み合わせにより、SQL Server のディザスタリカバリコストを 50% 以上削減できます。

次の図は、Elastic Disaster Recovery に基づくソリューションのアーキテクチャの例を示しています。



詳細については、AWS ブログの [Microsoft ワークロードの「を使用して復元された DR サイトで SQL Server の高可用性を設定する AWS Elastic Disaster Recovery 方法」](#) を参照してください。

コスト比較

次の表は、このセクションで説明する HA/DR ソリューションのコストを比較したものです。この比較では、以下の仮定が使用されています。

- インスタンスタイプ – r5d.xlarge

- ライセンスタイプ — Windows と SQL Server の両方に含まれるライセンス
- [Region] (リージョン) - us-east-1

ソリューション	高可用性	ディザスタリカバリ	Enterprise Edition	Standard Edition	コスト
ログ配布	なし	はい	はい	あり	SQL Server Enterprise Edition: 32,674.8 USD (2 ノード) SQL Server Standard Edition: 14,804.4 USD (2 ノード)
Always On 可用性グループ	はい	はい	あり	はい。ただし、基本的な可用性グループ (2 ノード)	SQL Server Enterprise Edition: 32,674.8 USD (2 ノード) SQL Server Standard Edition: 14,804.4 USD (2 ノード)
Always On FCIs	あり	いいえ	あり	はい (2 ノード)	SQL Server Standard Edition:

ソリューション	高可用性	ディザスタリカバリ	Enterprise Edition	Standard Edition	コスト
					14,804.4 USD
分散可用性グループ	はい	はい	はい	なし	SQL Server Enterprise Edition: 65,349.6 USD (4 ノード)

ソリューション	高可用性	ディザスタリカバリ	Enterprise Edition	Standard Edition	コスト
Elastic Disaster Recovery	なし	はい	はい	あり	<p>概算。1 インスタンスと 1 TB のストレージのレプリケーションに対して 107.48 USD/月</p> <p>注: Elastic Disaster Recovery は、レプリケートサーバーごとに時間単位で請求されます。コストは、ディスクの数、ストレージのサイズ、ドリルまたはリカバリの起動回数、またはレプリケートするリージョンに関係なく同じです。</p>

ソリューション	高可用性	ディザスタリカバリ	Enterprise Edition	Standard Edition	コスト
SIOS データキーパー	はい	はい	はい	あり	ソフトウェア アシュアランス付きの Always On 可用性グループ (2 ノード、24 コア): 213,480 USD SIOS DataKeeper とソフトウェア アシュアランスを備えた SQL Server Standard Edition で実行されている 2 ノード SQL Server クラスター: 61,530 USD (2 ノード)
AWS DMS	なし	はい	はい	あり	r5.xlarge インスタンスと 1 TB のストレージに対して 1 か月あたり 745.38 USD

コスト最適化に関する推奨事項

組織の要件を満たす HA/DR ソリューションを選択するには、次のステップを実行することをお勧めします。

- このガイドの「[SQL Server ワークロードに適した EC2 インスタンスを選択](#)」セクションを確認してください。
- ワークロードのピーク時にパフォーマンスカウンターを実行して、ワークロードの IOPS とスループットの要件を決定します。
 - $IOPS = \text{ディスク読み取り/秒} + \text{ディスク書き込み/秒}$
 - $\text{スループット} = \text{ディスク読み取りバイト/秒} + \text{ディスク書き込みバイト/秒}$
- パフォーマンスとコスト削減を向上させるには、次のストレージボリュームタイプを使用します。
 - tempdb およびバッファプール拡張用の NVMe インスタンスストレージ
 - データベースファイルの io2 ボリューム
- Amazon EC2 上の SQL Server のコスト最適化に関する推奨事項 [AWS Trusted Advisor](#) には、を使用します。SQL Server 最適化チェック Trusted Advisor を実行するためにのエージェントをインストールする必要はありません。は、仮想 CPUs (vCPUs)、バージョン、エディションなどの Amazon EC2 SQL Server ライセンス込みインスタンス設定 Trusted Advisor を検査します。次に、はベストプラクティスに基づいてレコメンデーション Trusted Advisor を作成します。
- Amazon EC2 インスタンスと Amazon EBS の両方の適切なサイジングレコメンデーション AWS Compute Optimizer に使用します。
- を使用して [AWS Pricing Calculator](#)、コスト見積もりのための HA/DR 戦略を設計します。
- SQL Server Enterprise Edition から SQL Server Standard Edition へのダウングレードが可能なオプションかどうかを判断するには、[sys dm_db_persisted_sku_features](#) の動的管理ビューを使用して、現在のデータベースでアクティブなエディション固有の機能を特定します。

Note

ライセンス込み EC2 インスタンスを使用する場合は、SQL Server エディションの変更に Side-by-side 移行が必要です。

- RTO と RPO が定義されたデータベースを復旧できる設計をより適切に設計するために、半年または毎年のディザスタリカバリドリルを実行します。これは、アーキテクチャの弱点を特定するのにも役立ちます。

追加リソース

- [Amazon FSx for Windows File Server を使用して Microsoft SQL Server の高可用性デプロイを簡素化する](#) (AWS ストレージブログ)
- [フィールドノート: FCI と分散可用性グループを使用した SQL Server のマルチリージョンアーキテクチャの構築](#) (AWS アーキテクチャブログ)
- [での SQL Server のディザスタリカバリの設計 AWS: パート 1](#) (AWS データベースブログ)
- [Amazon FSx for Windows での Microsoft SQL の高可用性](#) (YouTube)
- [Amazon EBS による Microsoft SQL Server のパフォーマンスの最大化](#) (AWS ストレージブログ)
- [オンプレミスストレージパターンと AWS ストレージサービスの比較](#) (AWS ストレージブログ)
- [データセンターの NAS を Amazon FSx File Gateway に置き換える計画](#) (AWS ストレージブログ)
- [での高可用性 SQL Server デプロイのコストの最適化 AWS](#) (AWS ストレージブログ)
- [\(の Microsoft ワークロード\) を使用して SQL Server Always On 可用性グループのディザスタリカバリを設定する AWS Elastic Disaster Recovery](#)方法 AWS
- [を使用して復元された DR サイトで SQL Server の高可用性を設定する方法 AWS Elastic Disaster Recovery](#) (の Microsoft ワークロード AWS)

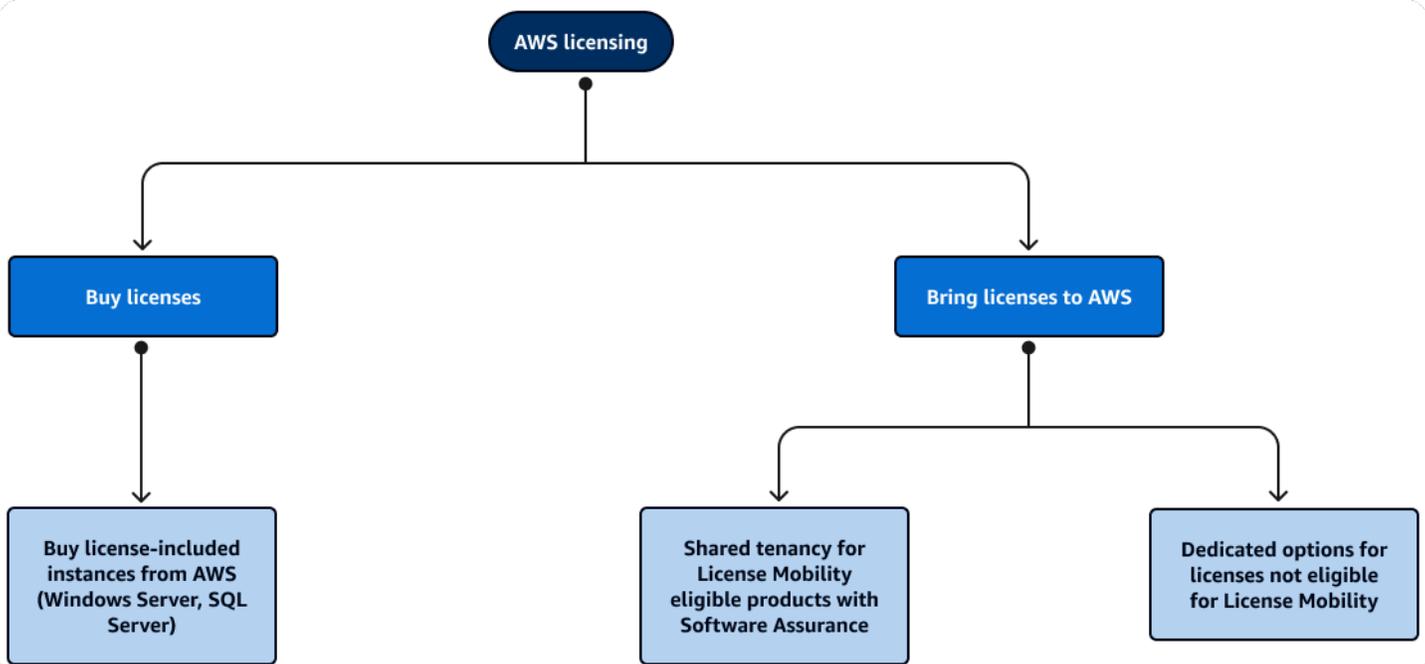
SQL Server ライセンスを理解する

概要

ますます多くの企業がワークロードをクラウドに移行するにつれて、クラウドプラットフォームのコストを最適化することが最優先事項となっています。ライセンスは、での Microsoft ワークロードの実行に関連する最も重要なコストの 1 つです AWS。このセクションでは、SQL Server の Microsoft ライセンスを最適化 AWS して のコストを最適化する方法について説明します。

AWS ライセンスオプション

AWS は、ライセンスの柔軟なコスト最適化の選択肢を幅広く提供します。これらのライセンスオプションは、コスト削減、コンプライアンスの維持、ビジネスニーズの達成に役立つように設計されています。



AWS はライセンスを 3 つの主要なタイプに分類します。

1. ライセンス込み – このライセンスオプションを使用すると、使用した分のみの料金で、オンデマンドでライセンスを購入して使用できます。ライセンス込みオプションは、ライセンスの使用に柔軟性が必要で、前払いコストを回避したいシナリオに最適です。Windows Server、SQL Server、およびその他の Microsoft 製品の範囲から選択できます。
2. ライセンスモビリティを備えた Bring Your Own License (BYOL) 製品 – このライセンスオプションは、既存のライセンスを既に持っていてクラウドで使用するシナリオ向けに設計されています。AWS では、Microsoft の [ライセンスモビリティ](#) プログラムを通じて、お客様が独自のライセンスをクラウドに持ち込むことができます。SQL Server with Software Assurance (SA) などのライセンスモビリティを持つ製品を、共有テナンシーまたは専用テナンシーに持ち込んで、AWS インスタンスコストを削減できます。
3. ライセンスモビリティのない BYOL 製品 – Windows Server などのライセンスモビリティを持たない Microsoft 製品では、これらの製品をクラウドで使用するための専用オプション AWS が提供されます。さらに、専用ホストは物理コアレベルでライセンスする機会を提供します。これにより、ワークロードの実行に必要なライセンスを 50% 以上節約できます。専用ホストは、ほとんどの場合に実行される安定した予測可能なワークロードに最適なオプションです。

ライセンス導入によるコストへの影響

ライセンスの導入は、で Microsoft ワークロードを実行するコストに大きな影響を与える可能性があります。独自のライセンスを持ち込む場合、クラウドで実行されているインスタンスに追加のライセンスコストを支払う必要はありません。これにより、大幅なコスト削減につながる可能性があります。

次の比較は、1 つの c5.xlarge インスタンスを 24 時間 365 日実行した場合のオンデマンドの月額コストを示しています。

- Windows Server + SQL Server Enterprise Edition: 1,353 USD/月 (ライセンス込み)
- Windows Server + SQL Server Standard Edition: 609 USD/月 (ライセンス込み)
- Windows Server のみ: 259 USD/月 (ライセンス込み)
- コンピューティングのみ (Linux): 127 USD/月

最終的には、独自のライセンスを持ち込むと、で Microsoft ワークロードを実行するコストに大きな影響を与える可能性があります。既存のライセンスを使用すると、ライセンスコストを削減し、全体的な AWS 請求額を節約できます。

ライセンスの最適化

AWS 最適化とライセンス評価 (AWS OLA) は、コンピューティングとライセンスのコストを削減することでライセンスを最適化するのに役立ちます。AWS OLA は、で実行されているワークロード AWS、または移行が予定されているワークロードのライセンス要件を評価するように設計されています。AWS OLA は、ライセンスの使用を最適化するための推奨事項を提供します。

ライセンスの使用を最適化するための重要な戦略の 1 つは、[インスタンスの適切なサイジングです](#)。適切なサイジングには、CPU、メモリ、ストレージの要件に基づいてワークロードに適したインスタンスタイプを選択する必要があります。適切なインスタンスサイズを選択することで、コスト効率の高い方法でリソースを使用していることを確認することができます。これにより、大幅なコスト削減につながる可能性があります。

Microsoft ソフトウェアライセンスでは、ソフトウェアが実行されるコアの数は、ライセンスコストを決定する上で重要な要素です。例えば、Windows Server および SQL Server ライセンスは通常、コア数でライセンスされます。インスタンスのサイズを適切に設定することで、Microsoft ソフトウェアが実行されるコアの数を減らし、インスタンスのコストと必要なライセンスの数の両方を減らすことができます。

コスト最適化に関する推奨事項

ライセンスの最適化は、でのコスト最適化の重要な要素です AWS。適切な戦略を実装することで、ライセンスコストを削減し、コンプライアンスを維持し、ライセンス投資から最大限の価値を実現できます。このセクションでは、ライセンス最適化のいくつかの戦略の概要を説明します。

対象となる Windows Server ライセンスの持ち込み

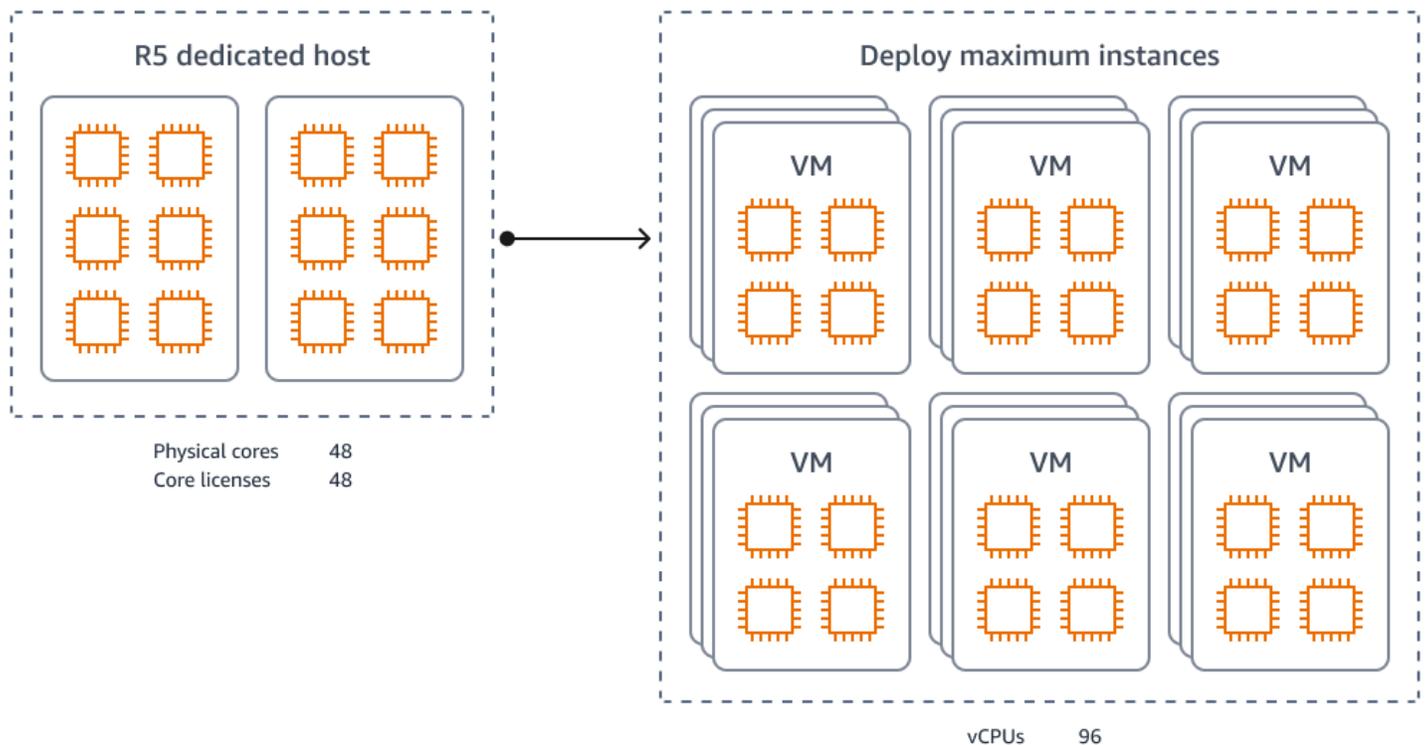
独自の Windows Server ライセンスの導入は、ライセンス最適化の最も効果的な戦略の 1 つです。この戦略により、既存の投資を活用して AWS 支出を削減できます。

例えば、1/10/2019 より前にライセンスを購入した場合、またはその日付より前に署名された有効なエンタープライズ契約の下でライセンスを補正として購入した場合、Windows Server 2019 以前のバージョンを [Amazon EC2 Dedicated Hosts](#) にデプロイできます。このルールは、Microsoft が 2019 年に、Windows Server などのライセンスモビリティのない製品のライセンス条件を、[リストされたプロバイダー](#) (Alibaba AWS、Google Cloud など) にデプロイしたときに行った変更に基づいています。新しい条件では、独自の Windows Server ライセンスを に持ち込むことはできません AWS が、代わりにライセンス込みインスタンスを使用する必要があります。ただし、その日より前に永続的ライセンスを購入した場合、それらの Windows Server ライセンスを Amazon EC2 Dedicated Hosts にデプロイすることはできます。

物理レベルのライセンス

物理コアレベルでのライセンスにより、ホストの物理コアのみのライセンスが可能になり、必要なライセンス数に影響を与えることなく、最大数のインスタンスをデプロイできます。これは通常、Windows Server Datacenter および SQL Server Enterprise Edition を使用して行われます。

例として、48 コアの R5 専用ホストを考えてみましょう。これは 96 個の vCPUs。Windows Server Datacenter Edition を使用する場合、必要なライセンスは 48 個のみです。これにより、次の図に示すように、最大 96 個の vCPUs を持つインスタンスの組み合わせをデプロイできます。



このアプローチは、ホストで実行できるインスタンスの数を最大化するのに十分なワークロードがある場合に、特に費用対効果が高くなります。物理コアレベルでライセンスすることで、インスタンスごとに追加のライセンスコストを回避し、ライセンス投資に可能な限り最高の価値を実現できます。

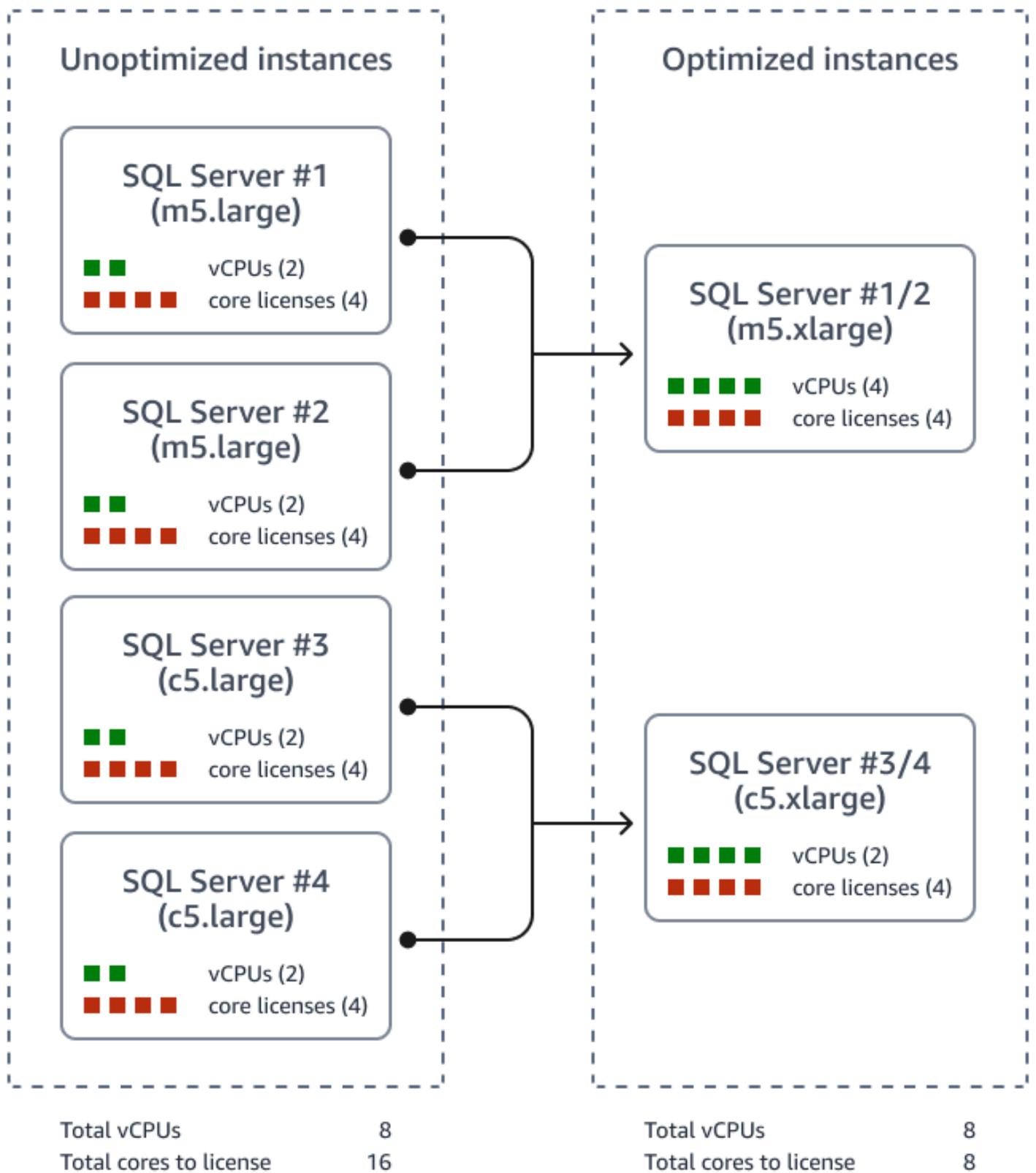
SQL Server の物理コアレベルでのライセンス

共有テナンシーでは、SQL Server のライセンスはインスタンスに割り当てられた vCPUs の数に基づいています。これとは対照的に、専用ホストでは、物理コアレベルまたは vCPU レベルで SQL Server Enterprise Edition をライセンスできます。

前の R5 専用ホストの例と同様に、物理コアレベルで SQL Server Enterprise Edition をライセンスする場合、ホストのライセンスに必要な SQL Server Enterprise Edition ライセンスは 48 個のみです。これとは対照的に、vCPU によるライセンスのみのオプションである共有テナンシーでは、同じワークロードに対して 96 個の SQL Server Enterprise Edition ライセンスが必要です。したがって、専用ホストは、共有テナンシーと比較して、SQL Server のライセンスコストを最大 50% 節約できます。これは、対象となる Windows ライセンスを導入することでインスタンスコストを節約することに加えて行われます。

SQL Server インスタンスを統合する

[SQL Server の統合](#)は、複数の SQL Server インスタンスを 1 つのサーバーに結合するプロセスです。SQL Server では、インスタンスに vCPUs が 2 つしかない場合でも、インスタンスごとに最低 4 つのコアライセンスが必要です。つまり、コアが 4 つ未満のサーバーで SQL Server を実行すると、これらのインスタンスの過剰ライセンスが発生し、必要以上のライセンスが使用される可能性があります。



例えば、2つのインスタンスを2つのvCPUsとそれぞれ4つのvCPUsと1つのインスタンスに統合すると、ライセンス要件が50%削減されます。これは、8つのコアライセンスではなく4つのコアライセンスしか必要ないためです。

統合の詳細については、このガイドの「[SQL Server 統合](#)」セクションを参照してください。

SQL Server エディションのダウングレード

[SQL Server エディションの変更](#)は、ライセンスの使用を最適化し、コストを削減するための重要な戦略です。SQL Server の Enterprise エディションは Standard エディションよりもかなりコストがかかるため、ダウングレードすると大幅なコスト削減につながる可能性があります。

透過的なデータ暗号化 (TDE) と Always On 可用性グループは、SQL Server Enterprise Edition の2つの一般的な機能です。ただし、これらの機能には費用対効果の高い代替手段があり、SQL Server Enterprise Edition の完全な機能セットを必要としない場合に検討できます。例えば、SQL Server 2019 から SQL Server Standard Edition で TDE を取得できます。Always On 可用性グループの代わりに、FSx for Windows File Server の共有ストレージでのフェイルオーバークラスタリングを使用して、SQL Server Standard Edition で高可用性を実現できます。

SQL Server Enterprise Edition から SQL Server Standard Edition にダウングレードすることで、ライセンスコストを大幅に削減できます。詳細については、AWS ストレージブログの投稿の「[高可用性 SQL Server デプロイのコストの最適化 AWS](#)」を参照してください。

ライセンスコストの削減に加えて、SQL Server エディションをダウングレードすると、ソフトウェアアシュアランスの支出を削減し、将来の調整を回避できます。未使用のライセンスをシェルフに返却すると、追加のライセンスコストを回避し、ライセンス投資から最大限の価値を得ることができません。

SQL Server ワークロードを慎重に評価し、ビジネスニーズにとって重要な機能を判断することが重要です。詳細については、AWS 「[規範ガイド](#)」の「[環境の評価](#)」を参照し、Microsoft SQL Server データベースが SQL Server Enterprise エディション固有の機能を使用しているかどうかを判断します。

SQL Server の適切なエディションを選択し、SQL Server Enterprise Edition の機能に代わるものを使用すると、コンプライアンスを維持し、ビジネスニーズを満たすと同時に、大幅なコスト削減を実現できます。ダウングレードオプションの詳細については、このガイドの「[SQL Server エディションの比較](#)」セクションを参照してください。

非本番環境で SQL Server Developer Edition を使用する

非本番環境では、オンプレミス環境で MSDN サブスクリプションを使用することで、Enterprise や Standard Edition などの SQL Server のライセンス対象エディションをデプロイできます。ただし、MSDN サブスクリプションにはライセンスモビリティはありません。したがって、に移行すると AWS、これらのライセンスを引き継ぐことはできません。代わりに SQL Server Developer Edition を使用する必要があります。

SQL Server Developer Edition は、無料で利用できる SQL Server のフル機能のエディションです。このエディションは、SQL Server バージョン 2016 以降で使用できます。Microsoft のウェブサイトからダウンロードできます。SQL Server Developer Edition は、本番稼働用データに接続していない限り、開発、テスト、ステージングなど、本番稼働以外のすべての環境で使用することを想定しています。

SQL Server Developer Edition を非本番環境で使用すると、追加のライセンスコストを回避できます。詳細については、このガイドの「[SQL Server Developer Edition の評価](#)」セクションを参照してください。

SQL Server ワークロードの CPU を最適化する

場合によっては、RAM やネットワークの制限などの他の要因により、ワークロードに必要な CPUs 数よりも多くのインスタンスタイプを選択する必要がある場合があります。ただし、AWS は、このような状況でライセンスコストを最適化するのに役立つソリューションを提供します。

SQL Server コアライセンスを導入するほとんどのお客様と同様に、EC2 インスタンスでハイパースレッディングを無効にするか CPUs をオフにして、ホストで使用できる CPUs の数を制限できます。このオプションを使用すると、RAM などの他のインスタンス機能を活用しながら、追加のライセンスを購入するコストを節約できます。このオプションは、BYOL を使用している場合にのみ使用でき、SQL Server または Windows Server にライセンスが含まれている場合は使用できません。

例えば、ワークロードに必要なメモリが 128 GB で、SQL Server のコアが 8 つしか必要ないために r5.4xlarge インスタンスをデプロイする場合、アクティブな CPUs が 8 つしかないインスタンスの起動時にハイパースレッディングを無効にすることができます。これにより、アクティブに使用されている 8 つのコアのライセンスのみが必要なため、必要な SQL Server ライセンスの 50% を節約できます。

インスタンスタイプ	合計 vCPUs	CPUs の最適化機能を備えたアクティブな vCPU	SQL Server ライセンスの節約
r5.4xlarge	16	8	50%
r5.12xlarge	48	8	83%

ライセンス込みの Windows Amazon マシンイメージ (AMI) で CPUs の最適化機能を使用する場合、すべてのコアで Windows ライセンスの料金を引き続き支払う必要があります。AMIs のため、インスタンスのサイズを適切に設定し、インスタンスタイプを定期的に再評価することが重要です。

インスタンスのサイズを適切に設定すれば、ワークロードに最も費用対効果の高いインスタンスタイプを使用していることを確認することができます。では、新しいインスタンスタイプ AWS が導入されるため、これらの新しいインスタンスがより少ないコアでワークロード要件を満たすことができるかどうかを評価することが重要です。

追加リソース

- [Amazon Web Services and Microsoft: よくある質問](#) (AWS ドキュメント)

SQL Server ワークロードに適した EC2 インスタンスを選択する

⚠ Important

このセクションを読む前に、このガイドの「[SQL Server のライセンスを理解する](#)」セクションと「[Windows ワークロードに適したインスタンスタイプを選択](#)」セクションを読むことをお勧めします。

概要

Microsoft SQL Server は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスで 15 年以上実行されています。はその経験を AWS 積んでおり、最小限の仕様から高パフォーマンスのマルチリージョンクラスターまで実行されている SQL Server ワークロードに合わせて Amazon EC2 インスタンスを開発するのに役立ちます。

SQL Server 用の正しい EC2 インスタンスの選択は、ワークロードに大きく依存します。SQL Server のライセンス方法、メモリの使用方法、SQL Server の機能が Amazon EC2 製品とどのように連携するかを理解することは、アプリケーションに最適な EC2 インスタンスに導くのに役立ちます。

このセクションでは、さまざまな SQL Server ワークロードと、ライセンスとコンピューティングのコストを最小限に抑えるために特定の EC2 インスタンスと組み合わせる方法について説明します。

コスト比較

Amazon EC2 では、Windows Server と SQL Server のライセンスに応じて、自分のライセンス使用 (BYOL) または支払いを行うことができます。pay-as-you-go ライセンスの場合、Windows Server および SQL Server ライセンスのライセンスコストは、EC2 インスタンスの時間単位のコストにペイクされます。例えば、異なる AMIs 異なる料金で持つことができます。AMI の料金は、AMI が実行される SQL Server エディションによって異なります。

Windows Server と SQL Server の料金は明細化されません。などのツールでは、項目別料金はありません [AWS Pricing Calculator](#)。ライセンス込みオフリングのさまざまな組み合わせを選択した場合、次の表に示すように、ライセンスコストを推定できます。

EC2 インスタンス	AMI	コンピューティング料金	Windows ライセンス料金	SQL ライセンス料金	合計料金
r5.xlarge	Linux (コンピューティング料金)	183.96 USD	-	-	183.96 USD
r5.xlarge	Linux + SQL デベロッパー	183.96 USD	\$0	\$0	183.96 USD
r5.xlarge	Windows Server (LI)	183.96 USD	134.32 USD	-	318.28 USD
r5.xlarge	Windows + SQL デベロッパー	183.96 USD	134.32 USD	\$0	318.28 USD
r5.xlarge	Windows + SQL Web (LI)	183.96 USD	134.32 USD	49.64 USD	367.92 USD

EC2 インスタンス	AMI	コンピューティング料金	Windows ライセンス料金	SQL ライセンス料金	合計料金
r5.xlarge	Windows + SQL Standard (LI)	183.96 USD	134.32 USD	350.4 USD	668.68 USD
r5.xlarge	Windows + SQL Enterprise (LI)	183.96 USD	134.32 USD	1,095 USD	1,413.28 USD

Note

前の表の料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド料金に基づいています。

SQL Server を実行する最も費用対効果の高い方法は、上位エディションの機能が必要になるまで下位エディションのままにしておくことです。詳細については、このガイドの「[SQL Server エディションの比較](#)」セクションを参照してください。SQL Server Web エディションから SQL Server Standard エディションへのアップグレードは、SQL Server ライセンスコストの 7 倍以上、Standard エディションから Enterprise エディションへの移行コストの 3 倍以上です。ライセンスコストの格差は考慮すべき重要な要素であり、このセクションの残りの部分で説明します。

コスト最適化シナリオ

配送車両を追跡する分析会社が SQL Server のパフォーマンスの向上を検討しているシナリオの例を考えてみましょう。MACO の専門家が会社のパフォーマンスのボトルネックを確認すると、会社は x1e.2xlarge インスタンスから x2iedn.xlarge インスタンスに移行します。インスタンスサイズは小さくなりますが、x2 インスタンスの機能強化により、バッファプール拡張を使用することで SQL Server のパフォーマンスと最適化が向上します。これにより、同社は SQL Server Enterprise Edition から SQL Server Standard Edition にダウングレードし、SQL Server のライセンスを 8 vCPUs から 4 vCPUs ことができました。

最適化前：

[サーバー]	EC2 インスタンス	SQL Server エディション	月額コスト
ProdDB1	x1e.2xlarge	エンタープライズ	3,918.64 USD
ProdDB2	x1e.2xlarge	エンタープライズ	3,918.64 USD
合計			7,837.28 USD

最適化後：

[サーバー]	EC2 インスタンス	SQL Server エディション	月額コスト
ProdDB1	x2iedn.xlarge	標準	1,215.00 USD
ProdDB2	x2iedn.xlarge	標準	1,215.00 USD
合計			2,430.00 USD

x1e.2xlarge インスタンスから x2iedn.xlarge インスタンスへの変更を組み合わせることで、サンプル顧客は本番データベースサーバーで 1 か月あたり 5,407 USD を節約できました。これにより、ワークロードの総コストが 69% 削減されました。

Note

前の表の料金は、us-east-1リージョンのオンデマンド料金に基づいています。

コスト最適化に関する推奨事項

メモリ最適化インスタンス

SQL Server の最も重要な側面の 1 つは、メモリへの依存度を理解することです。SQL Server は、オペレーティングシステムで使用されていない使用可能なすべての RAM を使用しようとします (デフォルトのインストールでは最大 2 TB)。これはパフォーマンス上の理由から行われます。メモリ内

のデータを操作する方が、ディスクからデータを常にプルして変更し、ディスクに書き戻すよりもはるかにパフォーマンスが高くなります。代わりに、SQL Server はアタッチされたデータベースからできるだけ多くのデータをロードしようとし、そのデータを RAM に保持します。データに加えられた変更はメモリ内で発生し、後でディスクに強化されます。

Note

SQL Server が変更を書き込む方法の詳細な説明については、Microsoft [ドキュメントの「ページの書き込み」](#)を参照してください。

SQL Server は大量の RAM でパフォーマンスが向上するため、通常、[Amazon EC2 メモリ最適化](#) インスタンスタイプから始めることをお勧めします。メモリ最適化インスタンスは汎用性が高く、さまざまなオプションを提供します。R ファミリーは 1 対 8 の vCPU 対 RAM の比率を持ち、インテルプロセッサ、AMD プロセッサ、拡張ネットワーキング、拡張 EBS パフォーマンス、インスタンスストレージ、拡張プロセッサ速度のオプションがあります。メモリを大量に消費するワークロードの場合、同じオプションの多くを組み合わせることで vCPU と RAM の比率を 1 対 32 に拡張する X ファミリーもあります。メモリ最適化インスタンスは汎用性があるため、あらゆる形状とサイズの SQL Server ワークロードに適用できます。

最小リソース (4 vCPUs未満) 未満のワークロード

一部のユースケースはバースト (T3) インスタンスでうまく機能しますが、SQL Server ワークロードにバーストインスタンスを使用しないことをお勧めします。SQL Server のライセンスは、インスタンスに割り当てられた vCPUs の数に基づいています。SQL Server が 1 日の大部分アイドル状態でバーストクレジットを取得している場合は、完全に活用されていない SQL ライセンスに対して料金を支払います。さらに、SQL Server にはサーバーあたり 4 コアの最小ライセンス要件があります。つまり、4 vCPUs 分のコンピューティング能力を必要としない SQL Server ワークロードがある場合、使用していない SQL Server ライセンスを支払います。このようなシナリオでは、[複数の SQL Server インスタンス](#)をより大きなサーバーに統合するのが最善です。

最小限のリソース (64 GB 未満の RAM) を使用するワークロード

64 GB RAM 未満の SQL Server ワークロードの多くは、高パフォーマンスや高可用性を優先しません。これらのタイプのワークロードでは、アプリケーションが Microsoft のライセンス制限の対象である場合、SQL Server Web エディションが適している可能性があります。

⚠ Important

SQL Server Web Edition には、Microsoft のライセンス条項に基づいてユースケースが制限されています。SQL Server Web Edition のライセンスは、パブリックアクセスやインターネットアクセスが可能なウェブページ、ウェブサイト、ウェブアプリケーション、およびウェブサービスをサポートします。line-of-business アプリケーション (顧客関係管理、エンタープライズリソース管理、その他の類似アプリケーションなど) のサポートには使用できない場合があります。

SQL Server Web エディションは、最大 32 vCPUs と 64 GB の RAM までスケールでき、SQL Server Standard エディションよりも 86% 安価です。リソースの少ないワークロードでは、Intel のものよりも 10% 安価なコンピューティング料金の r6a などの AMD メモリ最適化インスタンスを使用することも、コンピューティングコストと SQL ライセンスコストを最小限に抑える良い方法です。

平均リソース (128 GB 未満の RAM) のワークロード

SQL Server Standard Edition は、最大 128 GB の RAM の SQL Server ワークロードの大部分で使用されます。SQL Server Standard Edition は、SQL Server Enterprise Edition よりも 65~75% 安価で、48 個の vCPUs と 128 GB の RAM までスケールアップできます。通常、128 GB の RAM 制限は 48 vCPU の制限より前にヒットするため、SQL Server Enterprise Edition へのアップグレードを避けたいほとんどのお客様が焦点を当てています。

SQL Server には、[バッファプール拡張](#) と呼ばれる機能があります。この機能により、SQL Server はディスクの一部を使用して RAM の拡張として機能します。バッファプール拡張は、Amazon EC2 インスタンスストレージで使用される NVMe SSDs のように、超高速ストレージと組み合わせるとうまく機能します。[Amazon EC2](#) インスタンスストレージを含む Amazon EC2 インスタンスは、インスタンス名に「d」で示されます (例: r5d、r6id、x2iedn)。

バッファプール拡張は、通常の RAM に代わるものではありません。ただし、128 GB を超える RAM が必要な場合は、r6id.4xlarge や x2iedn.xlarge などの EC2 インスタンスでバッファプール拡張を使用して、Enterprise Edition ライセンスへのアップグレードを遅らせることができます。

ハイパフォーマンスワークロード (128 GB 未満の RAM)

高いパフォーマンスを必要とする SQL Server ワークロードは、多くのリソースに依存するため、コスト最適化が困難です。ただし、EC2 インスタンスの違いを理解することで、間違った選択をできなくなる可能性があります。

次の表は、さまざまなメモリ最適化 EC2 インスタンスとそのパフォーマンス制限を示しています。

	r5b	r6idn	r7iz	x2iedn	x2iezn
プロセッサ	3.1 GHz 第 2 世代インテル Xeon プロセッサ	3.5 GHz 第 3 世代インテル Xeon プロセッサ	3.9 GHz 第 4 世代インテル Xeon スケーラブルプロセッサ	3.5 GHz 第 3 世代インテル Xeon プロセッサ	4.5 GHz 第 2 世代インテル Xeon プロセッサ
CPU と RAM の比率	1:8	1:8	1:8	1:32	1:32
最大 vCPU	96	128	128	128	48
最大 RAM	768 GB	1,024 GB	1,024 GB	4,096 GB	1,536 GB
インスタンスストレージ	–	NVMe SSD (4x 1900 GB)	–	NVMe SSD (2x 1900 GB)	–
io2 Block Express	サポート	サポート対象	サポート対象	サポート	–
最大 EBS IOPS	260,000	350,000	160,000	260,000	80,000
最大 EBS スループット	60 Gbps	80 Gbps	40 Gbps	80 Gbps	19 Gbps
最大ネットワーク帯域幅	25 Gbps	200 Gbps	50 Gbps	100 Gbps	100 Gbps

各インスタンスは異なる目的に使用されます。SQL Server ワークロードを理解することは、最適なインスタンスタイプを選択するのに役立ちます。

属性の詳細 :

- r5b – r5b の「b」属性は、このインスタンスタイプが高 EBS パフォーマンスに重点を置いていることを意味します。第 5 世代のメモリ最適化インスタンスでは、r5b が推奨されていました。これは、io2 Block Express ボリュームを利用し、最大ストレージ IOPS が 260,000 に達した最初のインスタンスタイプでした。r5b インスタンスタイプは、高い EBS パフォーマンスニーズに対する費用対効果の高い代替手段です。
- r6idn — 第 6 世代のメモリ最適化インスタンスは、前世代よりも大幅に改善されました。r5b からの EBS パフォーマンスの強化は、r6idn でさらにステップが取られ、最大 IOPS が 350,000 に引き上げられます。r6idn には、SQL Server のパフォーマンスをさらに向上させるために、tempdb およびバッファプール拡張用のインスタンスストアボリュームもあります。
- x2iedn – x2iedn は r6idn と似ています。EBS、ネットワーク、NVMe SSD インスタンスストレージの拡張レベルは同等ですが、メモリワークロードが高く CPU 量が少ない (SQL Server のライセンスコストが低い) 場合、vCPU と RAM の比率は 1:32 です。
- x2iezn – x2iezn の「z」属性は、このインスタンスタイプが高プロセッサパフォーマンスに重点を置いていることを示します。Cascade Lake プロセッサは、最大 4.5 GHz のオールコアターボ周波数を備えています。この EC2 インスタンスを 1:32 の vCPU 対 RAM の比率と組み合わせて、vCPU の数を低く抑えるシナリオで使用することをお勧めします。これにより、SQL Server のライセンスコストを抑えることができます。
- r7iz – r7iz の「z」属性は、このインスタンスタイプがプロセッサの高いパフォーマンスに重点を置いていることを示します。Sapphire rapids プロセッサは、最大 3.9 GHz のオールコアターボ周波数を備えています。x2iezn インスタンスと同様に、r7iz は高周波数プロセッサのパフォーマンスを優先しますが、vCPU と RAM の比率は 1:8 です。

追加リソース

- [汎用 Amazon EC2 インスタンス](#) (AWS ドキュメント)
- [比較ツール](#) (Vantage)
- [ライセンス – SQL Server](#) (AWS ドキュメント)

インスタンスの統合

このセクションでは、ライセンスコストを最小限に抑え、リソース使用率を最大化するために、複数の SQL Server インスタンスを同じサーバーに結合するコスト最適化手法に焦点を当てます。

概要

インスタンスの作成は、SQL Server データベースエンジンのインストールプロセスの一部です。SQL Server インスタンスは、独自のサーバーファイル、セキュリティログイン、システムデータベース (マスター、モデル、msdb、tempdb) を含む完全なインストールです。インスタンスには独自のファイルとサービスがすべて存在するため、インスタンスが相互に干渉することなく、同じオペレーティングシステムに複数の SQL Server インスタンスをインストールできます。ただし、インスタンスはすべて同じサーバーにインストールされるため、コンピューティング、メモリ、ネットワークなどの同じハードウェアリソースを共有します。

通常、「ビジー」インスタンスが共有ハードウェアリソースを過剰に使用しないように、本番環境ではサーバーごとに 1 つの SQL Server インスタンスのみを使用します。各 SQL Server インスタンスに独自のリソースを持つ独自のオペレーティングシステムを提供することは、リソースガバナンスに依存するよりも優れた境界です。これは、大量の RAM と CPU リソースを必要とする高性能 SQL Server ワークロードに特に当てはまります。

ただし、すべての SQL Server ワークロードが大量のリソースを使用するわけではありません。例えば、一部の組織では、コンプライアンスまたはセキュリティの目的で、各顧客に独自の専用 SQL Server インスタンスを割り当てます。通常アクティブではない小規模なクライアントの場合は、最小限のリソースで SQL Server インスタンスを実行することを意味します。

[「Microsoft SQL Server 2019: ライセンスガイド」に記載されているように](#)、SQL Server を実行している各サーバーは、最低 4 つの CPU ライセンスを考慮する必要があります。つまり、vCPUs、4 つの vCPUs に対して SQL Server のライセンスを取得する必要があります。SQL [Server Standard Edition](#) を使用する場合、[Microsoft のパブリック SQL Server](#) 料金に基づく、3,945 USD の差分です。最小限のリソースを使用して単一の SQL Server インスタンスで複数のサーバーを実行している組織では、未使用のリソースをライセンスする必要が生じるため、合計コストがかかる場合があります。

コスト最適化シナリオ

このセクションでは、それぞれが 1 つの SQL Server インスタンスを持つ 4 つの Windows Server サーバーを実行する場合と、複数の SQL Server インスタンスを同時に実行する 1 つの大きな Windows Server サーバーを実行する場合の違いを比較するシナリオの例について説明します。

各 SQL Server インスタンスが 2 つの vCPUs と 8 GB RAM のみを必要とする場合、1 時間あたりのコンピューティングコスト 0.096 USD に加えて、SQL Server ライセンスの合計コストは 7,890 USD です。

EC2 インスタンス	vCPUs	RAM	価格	ライセンス vCPUs	SQL Server ライセンスコストの合計
m6i.large	2	8	0.096	4	7,890 USD

これを 4 台のサーバーに拡張すると、SQL Server ライセンスの合計コストは 31,560 USD で、1 時間あたりのコンピューティングコストは 0.384 USD になります。

EC2 インスタンス	vCPUs	RAM	価格	ライセンス vCPUs	SQL Server ライセンスコストの合計
m6i.large 4 個	2	32	0.384	16	31,560 USD

4 つの SQL Server インスタンスすべてを 1 つの EC2 インスタンスに結合すると、コンピューティングリソースとコンピューティングの合計量は同じままになります。ただし、不要な SQL Server のライセンスコストを排除することで、ワークロードを実行する合計コストを 15,780 USD 削減できます。

EC2 インスタンス	vCPUs	RAM	価格	ライセンス vCPUs	SQL Server ライセンスコストの合計
m6i.2xlarge	8	32	0.384	8	15,780 USD

Note

前の表では、us-east-1リージョンで Windows Server を実行している Amazon EC2 サーバーのコンピューティングコストは、時間単位のオンデマンド料金を示しています。SQL Server Standard Edition のライセンスコストは、[Microsoft のパブリック SQL Server 料金](#)を指します。

コスト最適化に関する推奨事項

SQL Server インスタンスの統合を検討している場合、最大の懸念は、統合する各インスタンスのリソース消費です。各サーバーのワークロードパターンをよりよく理解するには、長期間にわたってパフォーマンスメトリクスを取得することが重要です。リソース消費モニタリングの一般的なツールには、[Amazon CloudWatch](#)、[Windows Performance Monitor](#) (perfmon)、SQL Server の[ネイティブモニタリングツール](#)などがあります。

SQL Server ワークロードを組み合わせて、互いに干渉することなく同じサーバーリソースを使用できるかどうかを分析するときは、次の質問を検討することをお勧めします。

- 定常状態で消費されるリソース (CPU、メモリ、ネットワーク帯域幅)
- スパイク時に消費されるリソース (CPU、メモリ、ネットワーク帯域幅)
- スパイクはどのくらいの頻度で発生しますか？ スパイクは一貫していますか？
- あるサーバーのリソーススパイクは、別のサーバーのリソーススパイクと一致していますか？
- SQL Server が使用するストレージ [IOPS とスループット](#)は何ですか？

SQL Server インスタンスを組み合わせる計画を進める場合は、クラウドオペレーションと移行プログラムの「[1 つの Amazon EC2 インスタンスで SQL Server の複数のインスタンスを実行する](#)」を参照してください。AWS この投稿では、SQL Server で設定変更を行い、インスタンスを追加する方法について説明します。開始する前に、同じサーバーに複数のインスタンスがインストールされている場合の小さな違いを考慮してください。

- デフォルトの SQL Server データベースインスタンスの名前は MSSQLSERVER、ポート 1433 を使用します。
- 同じサーバーにインストールされる追加のインスタンスは、それぞれ「名前付き」データベースインスタンスです。
- 各名前付きインスタンスには、一意のインスタンス名と一意のポートがあります。
- [SQL Server ブラウザ](#)を実行して、名前付きインスタンスへのトラフィックを調整する必要があります。
- 各インスタンスは、データベースデータファイルと個別のログインに別々の場所を使用できます。
- SQL Server の[最大サーバーメモリ設定](#)は、各インスタンスのパフォーマンスニーズに応じて設定する必要があります。合計も、基盤となるオペレーティングシステムに十分なメモリを残します。
- SQL Server の[ネイティブバックアップおよび復元機能](#)、または移行や統合[AWS DMS](#)に使用できます。

追加リソース

- [SQL Server Licensing Datasheet](#) (AWS クラウド運用と移行のブログ)
- [SQL Server 複数インスタンス設定ブログ記事](#) (AWS クラウド運用と移行ブログ)
- [SQL Server ベストプラクティスガイド](#) (AWS 規範ガイドドキュメント)

SQL Server エディションの比較

概要

Microsoft SQL Server ライセンスは、Windows ワークロード環境の最大費用の 1 つです。SQL Server のライセンスコストは、ワークロードを実行するためのコンピューティングコストを超えて簡単に拡張できます。間違ったエディションを選択した場合、使用していない機能や不要な機能に対して料金が発生する可能性があります。このセクションでは、機能や相対コストなど、次の SQL Server エディションを比較します。

- エンタープライズ – SQL Server Enterprise Edition は、高性能、無制限の仮想化、複数のビジネスインテリジェンス (BI) ツールを備えたデータセンター機能を提供します。
- Standard – SQL Server Standard Edition は、小規模な組織や部門に基本的なデータ管理とビジネスインテリジェンスを提供します。
- Web – SQL Server Web Edition は、ウェブホストまたはウェブ付加価値プロバイダー (VAPs) である企業に適しています。このエディションは、総所有コストが低く、小規模から大規模なウェブプロパティのスケラビリティと管理性機能を提供します。

Important

SQL Server Web Edition を使用して、パブリックおよびインターネットにアクセスできるウェブページ、ウェブサイト、ウェブアプリケーション、ウェブサービスのみをサポートできます。SQL Server Web Edition を使用してアプリケーション (顧客関係管理やエンタープライズリソース管理アプリケーションなど) をサポート line-of-business することはできません。

- デベロッパー – SQL Server Developer Edition には Enterprise Edition のすべての機能が含まれていますが、開発のみを目的としています。
- Express – SQL Server Express Edition は無料のデータベースで、学習やデスクトップアプリケーションの構築に使用できます。Express エディションを他のエディションに更新できます。

Note

SQL Server Evaluation Edition は 180 日間のトライアル期間で利用できます。

コストへの影響

Microsoft リセラーから SQL Server ライセンスを購入し、ソフトウェアアシュアランス AWS を使用して持ち込むことができます。または、ライセンス込みの Amazon EC2 AMIs を持つ pay-as-you-go モデルで SQL Server ライセンスを使用することもできます。

Microsoft リセラーから SQL Server ライセンスを購入する場合、コアライセンスは 2 個パックで販売されるため、サーバーごとに最低 4 個のコアをライセンスする必要があります。次の表は、Enterprise エディションと Standard エディションのコスト比較を示しています。

Version	SQL Server Enterprise Edition (2 コアパック)	SQL Server Standard Edition (2 コアパック)	削減量
2022	15,123 USD	3,945 USD	74%
2019	13,748 USD	3,586 USD	74%

Note

前の表の料金は、Microsoft の [SQL Server 2022](#) および [SQL Server 2019](#) のパブリック料金に基づいています。

次のコスト比較は、ライセンス込みの Amazon EC2 AMIs を使用して SQL Server のさまざまなエディションをホストしていることを示しています。この比較では、SQL Server は us-east-1 リージョンの r6i.xlarge (4 vCPU) でホストされます。

インスタンス	コンピューティングコスト	Windows ライセンスコスト	SQL Server ライセンスコスト	合計
R6i .xlarge (Linux)	183.96 USD	–	–	183.96 USD
R6i .xlarge + Windows	183.96 USD	134.32 USD	–	318.28 USD
R6i .xlarge + SQL Server Web Edition	183.96 USD	134.32 USD	49.35 USD	367.63 USD
R6i .xlarge + SQL Server Standard Edition	183.96 USD	134.32 USD	350.4 USD	668.68 USD
R6i .xlarge + SQL Enterprise Edition	183.96 USD	134.32 USD	1,095 USD	1,413.28 USD

ワークロードに適した SQL Server エディションを選択することで、SQL Server のライセンスコストを最大 95% 削減できます。次の表は、r6i.xlarge インスタンスでの SQL Server ライセンスのコストを比較したものです。

エディション	% の削減
スタンダードとエンタープライズの比較	68%
ウェブと標準の比較	86%
ウェブとエンタープライズの比較	95%

ほとんどのシナリオでは、組織は Enterprise から Standard Edition に切り替えますが、Standard または Enterprise Edition から Web Edition に切り替えることができます。

コスト最適化に関する推奨事項

スケーリング制限、高可用性、パフォーマンス、セキュリティに基づいて、ワークロードに最適なエディションを選択できます。次の表は、SQL Server エディションでサポートされている機能を示しています。これは、使用するエディションを決定するのに役立ちます。この比較は、[SQL Server 2016 SP1 以降のバージョン](#) に適用されます。

[Scaling limits] (スケーリング履歴)

次の表は、さまざまな SQL Server エディションのスケーリング制限を比較したものです。

機能	Enterprise Edition	Standard Edition	Web エディション	Express エディション
SQL Server Database Engine、SQL Server Analysis Services (SSAS)、または SQL Server Reporting Services (SSRS) の単一のインスタンスで使用される最大コンピューティングキャパシティ	オペレーティングシステムの最大数	4 ソケットまたは 24 コアのいずれか小さい方に制限されます	4 ソケットまたは 16 コアのいずれか小さい方に制限されます	4 ソケットまたは 4 コアのいずれか小さい方に制限されます
SQL Server データベースエンジンのインスタンスあたりのバッファプールの最大メモリ	オペレーティングシステムの最大数	128 GB	64 GB	1410 MB
SQL Server データベースエンジ	最大メモリ設定の 32 倍	最大メモリ設定の 4 倍	該当なし	該当なし

機能	Enterprise Edition	Standard Edition	Web エディション	Express エディション
インスタンスあたりのバッファプール拡張の最大容量				
リレーショナルデータベースの最大サイズ	524 PB	524 PB	524 PB	10 GB
列ストアキャッシュまたはメモリ最適化データの最大メモリ	オペレーティングシステムの最大数	32 GB	16 GB	352 MB

アプリケーションに必要なコア数が 16 コア未満 (32 vCPUs で RAM が 64 GB 未満の場合は、SQL Server Web Edition から評価を開始できます。ワークロードに 64 GB を超えるメモリやその他の高可用性オプションが必要な場合は、SQL Server Standard Edition にアップグレードする必要があります。

SQL Server Web Edition を使用して、パブリックおよびインターネットにアクセス可能なウェブページ、ウェブサイト、ウェブアプリケーション、ウェブサービスをサポートできますが、SQL Server Web Edition を使用してビジネスアプリケーションをサポートすることはできません。SQL Server Web Edition のユースケースの詳細については、[Microsoft Licensing Support](#) または Microsoft リセラーにお問い合わせください。

SQL Server Standard Edition は、最大 24 コア (48 vCPUs) と 128 GB のメモリのワークロードに使用できます。ただし、[バッファプール拡張](#)を使用して、r6id EC2 [インスタンスに存在するもののように、SQL Server Standard Edition がローカルインスタンスストレージ](#) を利用できるようにすることができます。これにより、メモリは最大メモリ設定の 4 倍まで拡張されます。この機能の組み合わせにより、メモリ要件が増加し始めたときにサーバーが Enterprise Edition にアップグレードする必要がなくなる可能性があります。

バッファプール内のデータベースページと[ページの平均寿命](#)カウンターを検索することで、メモリ使用率を特定できます。ページの平均寿命は、ページがディスクにフラッシュされるまでの時間を示し

ます。このカウンターのデフォルト値は 300 です。ページが数時間または数日間メモリに格納されている場合、割り当てられたメモリが減少する可能性があります。

高可用性

次の表は、さまざまな SQL Server エディションの高可用性機能を比較したものです。

機能	Enterprise Edition	Standard Edition	Web エディション	Express エディション
サーバーコアサポート 1	はい	はい	はい	あり
ログ配布	はい	はい	はい	なし
データベースのミラーリング	あり	完全安全モード	監視者としてのみ	監視者としてのみ
バックアップ圧縮	はい	はい	いいえ	なし
Always On フェイルオーバークラスターインスタンス	16 ノード	2 ノード	なし	なし
Always On 可用性グループ	2 つの同期セカンダリレプリカを含む最大 8 つのセカンダリレプリカ	なし	いいえ	なし
基本的な可用性グループ	なし	2 ノード	なし	なし
オンラインページとファイルの復元	あり	いいえ	いいえ	なし

機能	Enterprise Edition	Standard Edition	Web エディション	Express エディション
オンラインインデックス作成	あり	いいえ	いいえ	なし
オンラインスキーマの変更	あり	いいえ	いいえ	なし
高速リカバリ	あり	いいえ	いいえ	なし
ミラーリングされたバックアップ	あり	いいえ	いいえ	なし
ホット追加メモリと CPU	あり	いいえ	いいえ	なし
暗号化バックアップ	はい	はい	いいえ	なし
Microsoft Azure へのハイブリッドバックアップ (URL へのバックアップ)	はい	はい	いいえ	なし
ディザスタリカバリ用のフェイルオーバーサーバー	はい	はい	いいえ	なし
高可用性を実現するフェイルオーバーサーバー	はい	はい	いいえ	なし

その他の一般的な機能

次の表は、さまざまな SQL Server エディションの最も一般的な機能を比較したものです。機能の詳細なリストについては、Microsoft ドキュメントの「[SQL Server 2019 のエディションとサポートされている機能](#)」を参照してください。

機能	Enterprise Edition	Standard Edition	Web エディション	Express エディション
(パフォーマンス) リソースの追加	あり	いいえ	いいえ	なし
(セキュリティ) 透過的データベース暗号化 (TDE)	はい	はい	はい	なし
(セキュリティ) 拡張キー管理 (EKM)	あり	いいえ	いいえ	なし
(レプリケーション) Oracle パブリケーション	あり	いいえ	いいえ	なし
(レプリケーション) ピアツーピアトランザクションレプリケーション	あり	いいえ	いいえ	なし
変更データキャプチャ	はい	はい	いいえ	なし

SQL Server Developer エディション

開発、QA、テスト、ステージング、UAT 環境など、本番稼働以外のワークロードはすべて、SQL Server Developer Edition を使用して SQL Server のライセンスコストを 100% 削減できます。[SQL Server をダウンロードしたら](#)、共有テナンシーを使用して EC2 インスタンスに SQL Server Developer Edition をインストールできます。SQL Server Developer Edition には専用インフラストラクチャは必要ありません。詳細については、このガイドの [SQL Server Developer Edition](#) に関する推奨事項を参照してください。

エディションの切り替え

既存のワークロードの場合、あるエディションから別のエディションに切り替えるには広範なテストが必要です。Enterprise エディションまたは Standard エディションで実行されているワークロードをチェックして、エディション固有の機能が使用されているかどうか、およびそれらの機能に代替ソリューションがあるかどうかを確認するのがベストプラクティスです。例えば、データベースがエンタープライズレベルの機能を使用しているかどうかを確認する場合は、次のコマンド例に示すように、すべてのデータベースで [動的管理ビュー \(DMV\)](#) を実行できます。

```
SELECT feature_name FROM sys.dm_db_persisted_sku_features; GO
```

SQL メンテナンスジョブの一部としてオンラインのインデックス再作成など、T-SQL ではキャプチャできない Enterprise Edition の機能があります。これらは手動で検証する必要があります。

移行に関する考慮事項

SQL Server のライセンスを取得する方法によって、エディションを切り替えるためのオプションが決まります。SQL Server AMIs を含む AMIs インスタンスの料金にライセンスコストが含まれており、ライセンスコストは AMI にバインドされます。EC2 [AWS 請求コード](#) を使用して、AMI に含まれる SQL Server のバージョンを確認できます。AWS ライセンス込みインスタンスの場合、オペレーティングシステム内で SQL Server エディションを変更しても、AMI に関連する請求は変更されません。SQL Server の新しいエディションを実行する AMI を使用して、データベースを新しい EC2 インスタンスに移行する必要があります。

独自のライセンスを持ち込む場合は、柔軟性が高まります。通常、新しいバージョンを実行している別の EC2 インスタンスに移行することをお勧めします。これにより、何かが計画どおりに進まない場合に簡単にフェイルバックできます。ただし、既存のサーバーを使用する必要がある場合でも side-by-side、SQL Server をインストールしてインスタンス間でデータベースを移行できます。side-by-side エディションのダウングレードの詳細については、MSSQLTips ウェブサイトの [「SQL Server でのエディションのアップグレードとダウングレード」](#) を参照してください。MSSQLTips

追加リソース

- [SQL Server 2022 のエディションとサポートされている機能](#) (Microsoft Learn)
- [sys.dm_db_persisted_sku_features \(Transact-SQL\)](#) (Microsoft Learn)
- [どのバージョンの SQL Server を使用すればよいですか？](#) (プレントオザール無制限)
- [AWS Pricing Calculator](#) (AWS)

SQL Server Developer Edition を評価する

概要

[SQL Server Developer Edition](#) は、Enterprise Edition のすべての機能を含む SQL Server の無料エディションであり、非本番環境で使用できます。Microsoft デベロッパーネットワーク (MSDN) ライセンスを使用できないクラウドでは、SQL Server Developer Edition は、開発およびテストワークロードのライセンスを提供することなくコストを削減する優れた方法です。これは、大規模な開発環境とテスト環境を実行し、不要なコストを削減しようとするチームにとって特に当てはまります。

実稼働環境は、アプリケーションのエンドユーザー (インターネットウェブサイトなど) がアクセスする環境として定義され、そのアプリケーションのフィードバックや承認テストの収集以外にも使用されます。本番環境を構成するその他のシナリオは次のとおりです。

- 本番データベースに接続する環境
- 本番環境のディザスタリカバリまたはバックアップをサポートする環境
- アクティビティのピーク時に本番環境にローテーションされるサーバーなど、少なくともある程度の時間本番環境に使用される環境

ライセンスの詳細については、ドキュメントの AWS [「Amazon Web Services and Microsoft: Frequently Asked Questions」](#) を参照してください。

コストへの影響

SQL Server Developer Edition を非本番環境のワークロードに使用すると、開発環境とテスト環境で現在の SQL Server ライセンスコストの 100% を節約できます。

SQL Server version	SQL Server Enterprise Edition (2 コアパック)	SQL Server Standard Edition (2 コアパック)	SQL Server Developer エディション
2022	15,123 USD	3,945 USD	空き
2019	13,748 USD	3,586 USD	空き

Note

前の表の料金は、Microsoft の [SQL Server 2022 および SQL Server 2019](#) のパブリック料金に基づいています。

次の表は、4 つの vCPUs で実行され、us-east-2リージョンでオンデマンド料金を使用するさまざまな SQL Server エディションのコストを比較したものです。これは、のライセンス込みインスタンスに依存するシナリオに適用されます AWS。

EC2 インスタンス	AMI	コンピューティング料金	Windows ライセンス料金	SQL Server ライセンス料金	合計料金
r5.xlarge	Linux (コンピューティング料金)	183.96 USD	–	–	183.96 USD
r5.xlarge	Linux + SQL Server Developer Edition	183.96 USD	\$0	\$0	183.96 USD
r5.xlarge	Windows Server (LI)	183.96 USD	134.32 USD	–	318.28 USD
r5.xlarge	Windows + SQL Server	183.96 USD	134.32 USD	\$0	318.28 USD

EC2 インスタンス	AMI	コンピューティング料金	Windows ライセンス料金	SQL Server ライセンス料金	合計料金
	Developer Edition				
r5.xlarge	Windows + SQL Server Web Edition (LI)	183.96 USD	134.32 USD	49.64 USD	367.92 USD
r5.xlarge	Windows + SQL Server Standard Edition (LI)	183.96 USD	134.32 USD	350.4 USD	668.68 USD
r5.xlarge	Windows + SQL Server Enterprise Edition (LI)	183.96 USD	134.32 USD	1,095 USD	1,413.28 USD

コスト最適化シナリオ

データ統合性企業が新しい買収を行った後、新しく取得したワークロードをマネージドホスティングプロバイダーの現在の場所から移行し、他のワークロードと統合したいと考えていました AWS クラウド。初期料金は、会社の SQL Server ワークロードが、現在のマネージドサービスプロバイダー AWS よりも で実行されているコストが 60% 高いことを示しています。MACO SME は見積もりを評価し、お客様が実際に開発環境とテスト環境のマネージドホスティングプロバイダーで SQL Server ライセンスの料金を支払っていることを確認しました。移行中に非本番環境のワークロードを SQL Server Developer Edition に切り替えることで、SQL Server のライセンスを 40% 削減しました。

Amazon EC2 に含まれる SQL Server ライセンス

[ライセンス込み AMIs](#) を使用する EC2 インスタンスに SQL Server がある場合、Enterprise Edition から Developer Edition に直接変換することはできません。ライセンス込みインスタンスのライセン

スコストは AMI にバインドされます。SQL Server がオペレーティングシステム内からアンインストールされた場合でも、EC2 インスタンスにはライセンスコストが課金されます。

Developer Edition に変換するには、[SQL Server Developer Edition をダウンロード](#)し、新しい EC2 インスタンスにインストールしてから、データベースを移行する必要があります。さまざまな方法を使用して EC2 インスタンス間で SQL Server データベースを移行できます。詳細については、「Microsoft [SQL Server データベースのガイドへの移行](#)」の「[SQL Server データベースの移行方法](#)」を参照してください。AWS クラウド [自動 SQL Server Developer ソリューション](#)を使用して、移行する新しいインスタンスを準備することもできます。

Amazon EC2 の SQL Server BYOL

BYOL を使用する SQL Server インスタンスがある場合は、次のインプレース変換または side-by-side ダウングレードオプションから選択できます。

- Microsoft ウェブサイトから [SQL Server Developer Edition](#) をダウンロードします。手動または自動インストールの手順については、AWS ブログの「[SQL Server Developer デプロイの自動化](#)」の投稿を参照してください。
- [SQL Server のネイティブバックアップと復元](#)を使用して、データベースを移行したり、ある SQL インスタンスから別の SQL インスタンスにデータベースをデタッチ/アタッチしたりできます。
- 一括デプロイには [自動化ツール](#)を使用します。

Note

SQL Server Developer Edition は、非本番環境専用です。

追加リソース

- [EC2 に SQL Server Developer Edition をデプロイするための SQL Server Developer デプロイの自動化](#) (AWS ブログ)
- [SQL 2022 の料金](#) (Microsoft)
- [SQL 2019 の料金](#) (Microsoft)
- [ライセンスオプション](#) (Amazon EC2 の SQL Server)
- [AWS Pricing Calculator](#) (Amazon EC2 の SQL Server ドキュメント)
- [Microsoft SQL Server 2019 ライセンスガイド](#) (Microsoft からダウンロード)

- [SQL Server 2022 Developer Edition](#) (Microsoft からダウンロード)

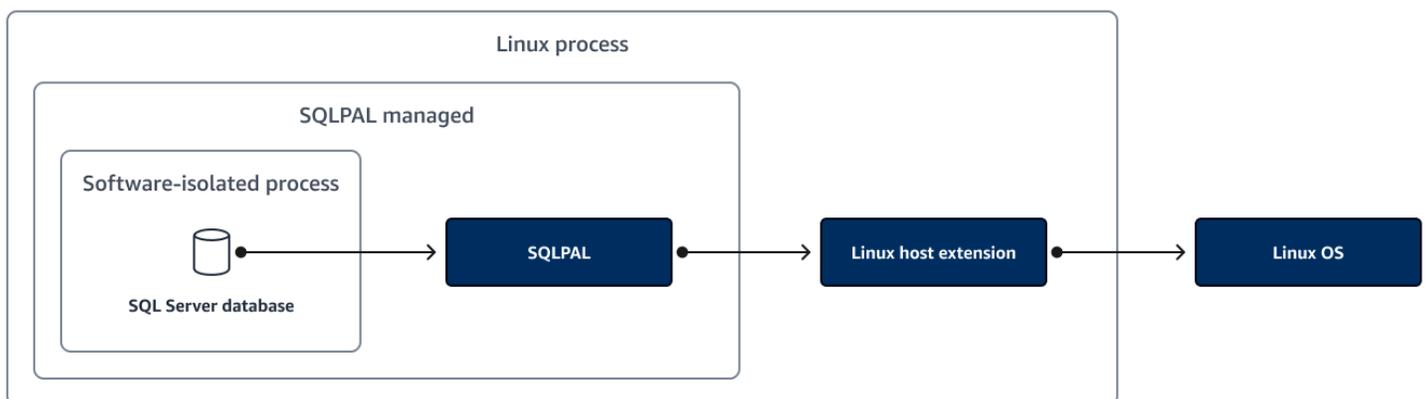
Linux での SQL Server の評価

概要

SQL Server 2017 以降、SQL Server を Linux オペレーティングシステムにインストールできるようになりました。SQL Server on Linux はエンタープライズ対応であり、柔軟性、高性能、セキュリティ機能、TCO の削減、HA/DR 機能、優れたユーザーエクスペリエンスを提供します。Windows Server の SQL Server から Linux の SQL Server に切り替えることで、Windows Server のライセンスコストを節約できます。

Linux の場合、SQL Server は Red Hat Enterprise Linux (RHEL)、SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、Ubuntu、および Amazon Linux 2 にデプロイできます。SQL Server データベースエンジンは、Windows Server と Linux の両方で同じ方法で実行されますが、Linux を使用する場合、特定のタスクにいくつかの基本的な変更があります。Linux と Windows で SQL Server Always On アプリケーションを実行する際の主な違いの 1 つは、フェイルオーバークラスタリングに関連しています。Windows Server ホストに Always On 可用性グループをデプロイする場合、[フェイルオーバークラスタリングをサポートする組み込み機能として Windows Server フェイルオーバークラスタリング \(WSFC\)](#) と Active Directory を利用できます。ただし、WSFC も Active Directory も Linux でのフェイルオーバークラスタリングをサポートすることはできません。Linux で SQL Server のフェイルオーバークラスタリングを起動する場合は、[AWS Launch Wizard](#) を使用して、[ClusterLabs Pacemaker](#) を使用して Linux インスタンスでのクラスターのセットアップと SQL のインストールを簡素化できます。

Windows と Linux 上の SQL Server は共通のコードベースを共有します。つまり、SQL Server コアエンジンは Linux で実行するようにまったく変更されていません。SQL Server は、次の図に示すように、プラットフォーム抽象化レイヤー (SQLPAL) を導入しました。



SQLPAL は、SQL Server と基盤となるオペレーティングシステム間の呼び出しと通信の抽象化を担当します。ホスト拡張機能は、単にネイティブ Linux アプリケーションです。低レベルのオペレーティングシステム関数は、I/O、メモリ、CPU 使用率を最適化するためのネイティブ呼び出しです。ホスト拡張機能が起動すると、SQLPAL をロードして初期化し、SQL Server を起動します。SQLPAL は、残りのコードに必要な翻訳を提供する分離されたソフトウェアプロセスを起動します。この新しいレイヤーを SQL Server アーキテクチャに追加すると、オペレーティングシステムに関係なく、Windows で SQL Server を非常に強力にしたのと同じエンタープライズレベルのコア機能と利点を利用できます。

コストへの影響

r5.2xlarge インスタンスの場合、Windows Server のライセンスコストは各シナリオで約 268 USD 削減されます。この削減は、より安価な SQL Server エディションを使用する場合と比較して、サーバーコストの合計の割合が高くなります。次の表にコスト削減を示します。

インスタンス	エディション	Windows での SQL Server の月額コスト	Linux での SQL Server の月額コスト	削減量
r5.2xlarge	Web	735 USD	466 USD	37%
r5.2xlarge	標準	1,337 USD	1,068 USD	20%
r5.2xlarge	エンタープライズ	2,826 USD	2,558 USD	10%

Note

前の表の料金見積もりは、us-east-1リージョンのオンデマンド料金に基づいており、で直接表示できます [AWS Pricing Calculator](#)。

SMB セグメントの ISV 顧客が開発環境のコストを節約しようとしているシナリオの例を考えてみましょう。Windows サーバーのセットで SQL Server Developer Edition を既に使用している。Windows with SQL Server Developer Edition から Linux with SQL Server Developer Edition に切り替えることで、ISV のお客様は開発ワークロードを 33% 削減できます。次の表は、このシナリオの次の推定コストを示しています。

見積り	月額コスト
Windows + SQL Server	9,307.72 USD
Linux + SQL Server	6,218.36 USD
推定コスト削減	3,089.36 USD (33%)

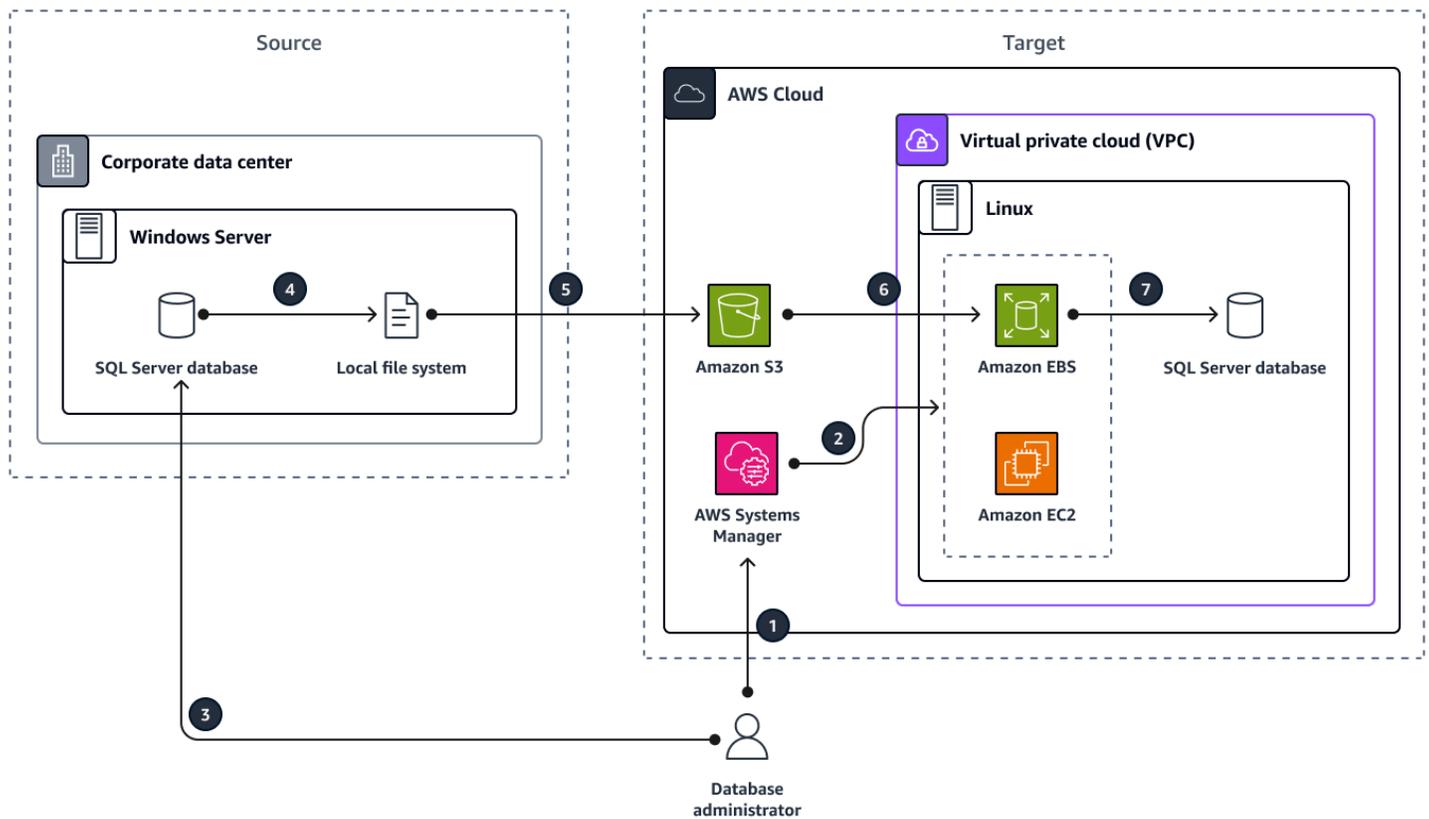
別のシナリオ例では、ある企業がライセンス込みの SQL Server EC2 インスタンスを Windows から Linux に移行します。同社は、Windows Server のライセンスコストを年間合計 300,000 USD 削減します。これは、請求額の AWS 約 20% です。

コスト最適化に関する推奨事項

次の点を考慮することをお勧めします。

- SQL Server on Linux は、SQL Server 2017 以降でサポートされています。
- 切り替えを行うには、[Microsoft SQL Server データベースの Windows から Linux へのプラットフォーム変更アシスタント](#)を使用できます。リプラットフォームアシスタントは、一般的な非互換性をチェックし、Windows ホストからデータベースをエクスポートし、Ubuntu 16.04 で Microsoft SQL Server 2017 を実行している EC2 インスタンスにデータベースをインポートすることで、既存の SQL Server ワークロードを Windows から Linux オペレーティングシステムに移行するのに役立つスクリプトツールです。
- SQL Server の[バックアップおよび復元](#)機能を使用して、Windows 上の SQL Server から Linux に切り替えることもできます。
- を使用すると、Linux または Ubuntu の SQL Server に簡単かつ迅速にデプロイできます[AWS Launch Wizard](#)。Launch Wizard は、アプリケーションのニーズに基づいて、スタンドアロンシナリオと高可用性シナリオの両方で Linux または Ubuntu に SQL Server をデプロイできます。詳細については、AWS ブログの[Microsoft ワークロードの投稿の「Linux で SQL Server AWS Launch Wizard Always on Linux にデプロイする」](#)を参照してください。

次の図は、Microsoft SQL Server データベースの Windows から Linux へのプラットフォーム変更アシスタントを使用するソリューションのアーキテクチャを示しています。



追加リソース

- [SQL Server on Linux の概要](#) (Microsoft Learn)
- [SQL Server on Linux のインストールガイド](#) (Microsoft Learn)
- [を使用した SQL Server Always on Linux へのデプロイ AWS Launch Wizard](#) (Microsoft ワークロードの AWS ブログ)
- [Linux での高可用性 SQL Server](#) (AWS オープンソースブログ)

SQL Server バックアップ戦略の最適化

概要

ほとんどの組織は、目標復旧時点 (RPO)、前回のバックアップからの最大許容時間、目標復旧時間 (RTO)、サービスの中断とサービスの復旧の間の最大許容遅延に関する現在の要件を満たすために、[Amazon EC2](#) 上の SQL Server 上のデータを保護する適切なソリューションを探しています。EC2 インスタンスで SQL Server を実行している場合は、データのバックアップを作成し、デー

データを復元するための複数のオプションがあります。SQL Server on Amazon EC2 でデータを保護するバックアップ戦略には、次のようなものがあります。

- Windows Volume Shadow Copy Service (VSS)-enabled [Amazon Elastic Block Store \(Amazon EBS\)](#) スナップショットまたは [AWS Backup](#) を使用するサーバーレベルのバックアップ
- SQL Server での [ネイティブバックアップと復元を使用したデータベースレベルのバックアップ](#)

[データベースレベルのネイティブバックアップ](#) には、次のストレージオプションがあります。

- [Amazon EBS ボリューム](#) を使用したローカルバックアップ
- [Amazon FSx for Windows File Server](#) または Amazon FSx for NetApp ONTAP によるネットワークファイルシステムのバックアップ
- を使用した Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) へのネットワークバックアップ [AWS Storage Gateway](#)
- Amazon S3 for SQL Server 2022 への直接バックアップ

このセクションでは、次の操作を行います。

- ストレージスペースを節約するのに役立つ機能を強調
- さまざまなバックエンドストレージオプション間のコストを比較します。
- これらの推奨事項の実装に役立つ詳細なドキュメントへのリンクを提供します

VSS 対応スナップショットを使用したサーバーレベルのバックアップ

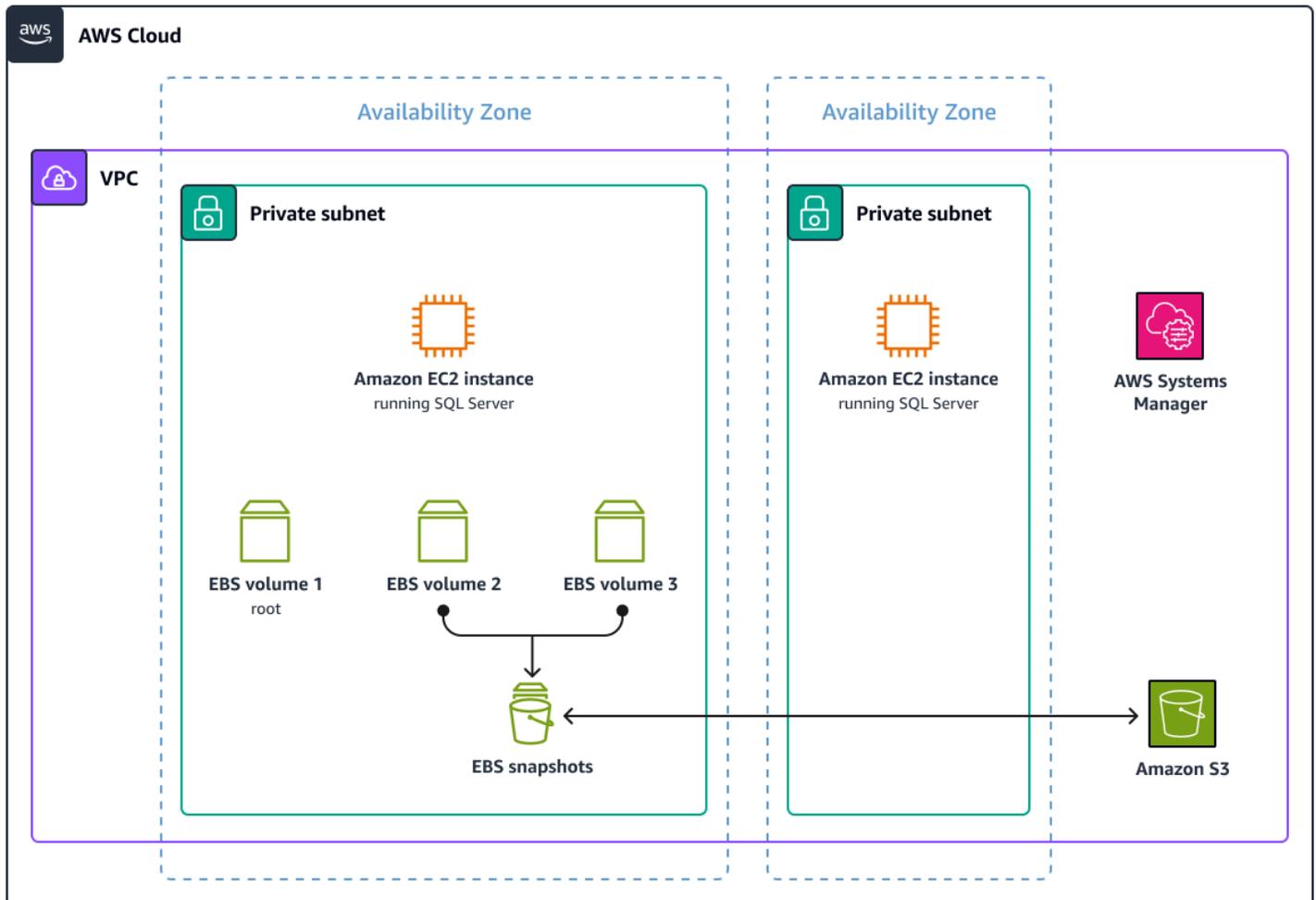
VSS 対応スナップショットアーキテクチャでは、AWS Systems Manager [Run Command](#) を使用して、SQL Server インスタンスに VSS エージェントをインストールします。Run Command を使用して、オペレーティングシステムとアプリケーションバッファをディスクにフラッシュし、I/O オペレーションを一時停止し、EBS ボリュームのスナップショットを作成し point-in-time、I/O を再開するワークフロー全体を呼び出すこともできます。

この Run Command は、ターゲットインスタンスにアタッチされたすべての EBS ボリュームの自動スナップショットを作成します。ユーザーデータベースファイルは、通常は他のボリュームに保存されるため、ルートボリュームを除外する選択もできます。複数の EBS ボリュームをストライピングして SQL Server ファイル用の 1 つのファイルシステムを作成する場合、Amazon EBS は、1 つの API コマンドで Crash-consistent なマルチボリュームのスナップショットもサポートします。アプリケーション整合性のある [VSS 対応 EBS スナップショットの詳細については、Amazon EC2 ド](#)

ドキュメントの「[VSS アプリケーション整合性スナップショットを作成する](#)」を参照してください。

Amazon EC2

次の図は、VSS 対応スナップショットを使用したサーバーレベルのバックアップのアーキテクチャを示しています。



VSS 対応スナップショットを使用する際には、次の利点を考慮してください。

- DB インスタンスの初期のスナップショットには、フル DB インスタンスのデータが含まれています。同じ DB インスタンスの後続のスナップショットは増分です。つまり、直近のスナップショット以降に変更されたデータのみが保存されます。
- EBS スナップショットは point-in-time リカバリを提供します。
- [スナップショットから、新しい SQL Server EC2 インスタンスに復元する](#)ことができます。

- インスタンスが Amazon EBS を使用して暗号化されている場合、またはデータベースが TDE を使用してインスタンスで暗号化されている場合、そのインスタンスまたはデータベースは同じ暗号化で自動的に復元されます。
- 使用している [自動化されたクロスリージョンバックアップ](#) をコピーできます。
- スナップショットから EBS ボリュームを復元すると、アプリケーションがすぐにアクセスできるようになります。つまり、基盤となる 1 つ以上の EBS ボリュームをスナップショットから復元した後に、SQL Server をすぐにオンラインにすることができます。
- 復元したボリュームは、デフォルトでは、アプリケーションが初めてブロックを読み込む際に、Amazon S3 から基盤のブロックを取得します。これにより、EBS ボリュームをスナップショットから復元した後に、パフォーマンスの低下が生じる場合があります。ボリュームは、最終的には通常のパフォーマンスに追いつきます。ただし、このようなパフォーマンスの低下は、[高速スナップショット復元 \(FSR\)](#) のスナップショットを使うことで回避できます。
- [EBS スナップショットのライフサイクル管理](#) を使用できます。

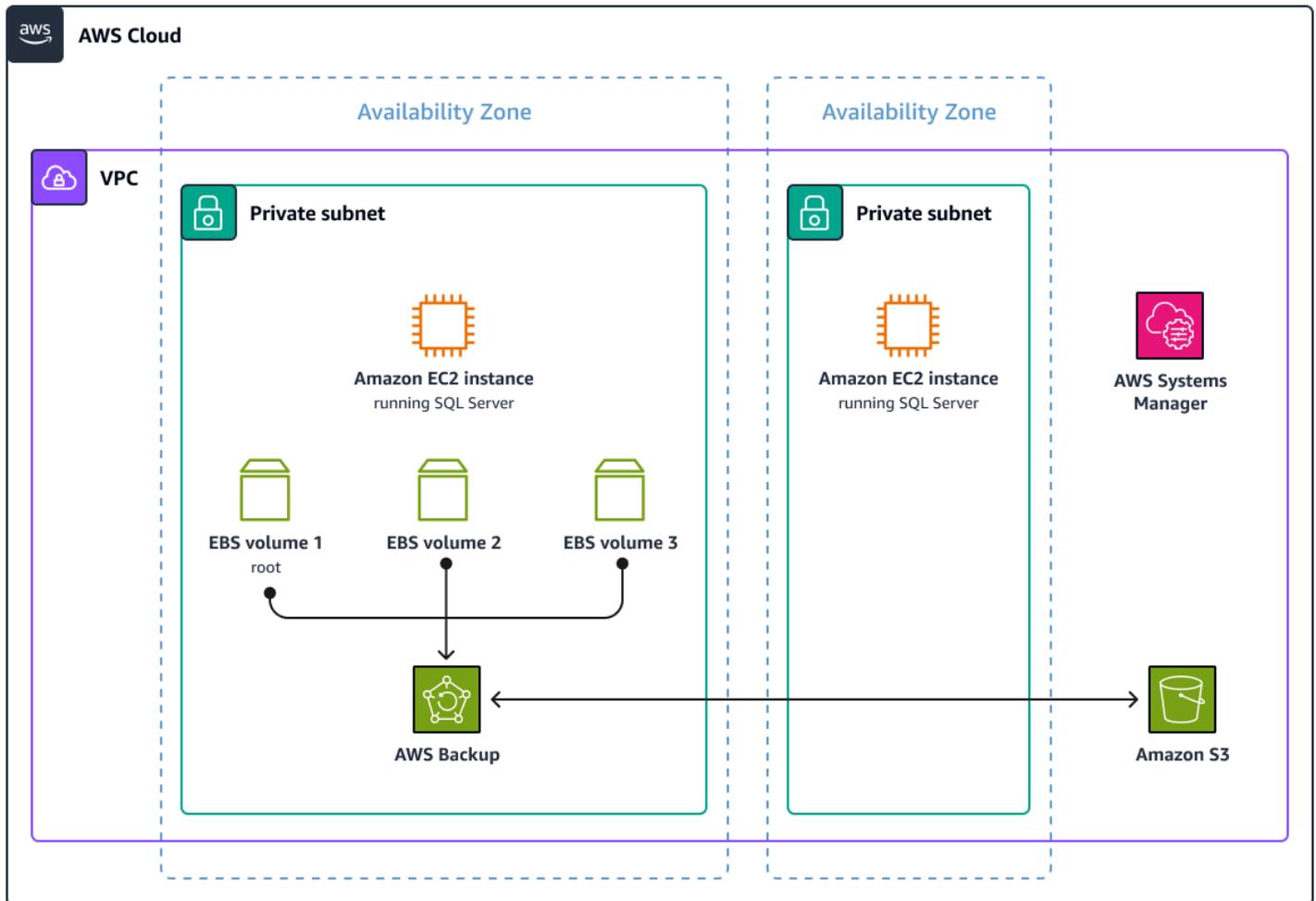
VSS 対応スナップショットを使用する際には、次の制限事項を考慮してください。

- SQL Server インスタンスの暗号化されたスナップショットを使用してクロスリージョン point-in-time リカバリを実行することはできません。
- 暗号化されていないインスタンスの暗号化されたスナップショットを作成することはできません。
- スナップショットは EBS ボリュームレベルで作成されるため、個々のデータベースを復元することはできません。
- インスタンス自体を復元することはできません。
- DB インスタンスのスナップショットは、DB インスタンスと同じ AWS Key Management Service (AWS KMS) キーを使用して暗号化する必要があります。
- Storage I/O は、スナップショットのバックアッププロセス中に一瞬 (約 10 ミリ秒) 中断します。

を使用した SQL Server バックアップ AWS Backup

[AWS Backup](#) を使用して、全体のデータ保護を一元化および自動化できます AWS のサービス。は、大規模なデータ保護を簡素化する、費用対効果が高く、フルマネージド型のポリシーベースのソリューション AWS Backup を提供します。AWS Backup は、規制コンプライアンス義務をサポートし、ビジネス継続性の目標を達成するのにも役立ちます。と AWS Backup を併用すると AWS Organizations、データ保護 (バックアップ) ポリシーを一元的にデプロイして、組織の および AWS アカウント リソース全体でバックアップアクティビティを設定、管理、管理できます。

次の図は、を使用した EC2 上の SQL Server のバックアップおよび復元ソリューションのアーキテクチャを示しています AWS Backup。



を使用して SQL Server をバックアップする次の利点を考慮してください AWS Backup。

- バックアップのスケジュール設定、保持の管理、ライフサイクル管理を自動化できます。
- バックアップ戦略を組織全体で一元化し、複数のアカウントとにまたがることができます AWS リージョン。
- バックアップアクティビティのモニタリングとアラートを全体で一元化できます AWS のサービス。
- デイザスタリカバリ計画のリージョンを横断したバックアップを実装できます。
- このソリューションは、クロスアカウントバックアップをサポートしています。
- 二次的なバックアップ暗号化を使用した、安全なバックアップを実行できます。
- すべてのバックアップは、暗号化キーを使用した AWS KMS 暗号化をサポートしています。
- このソリューションは、TDE と連携しています。

- AWS Backup コンソールから復旧ポイントに復元することができます。
- SQL Server インスタンス全体をバックアップできます。これには、すべての SQL Server データベースが含まれます。

データベースレベルのバックアップ

以下のアプローチでは、Microsoft SQL Server ネイティブのバックアップ機能を使用します。SQL Server 上のインスタンスの、個々のデータベースのバックアップを作成し、個々のデータベースを復元することができます。

SQL Server ネイティブのバックアップと復元に使用されるオプションは、以下もサポートしています。

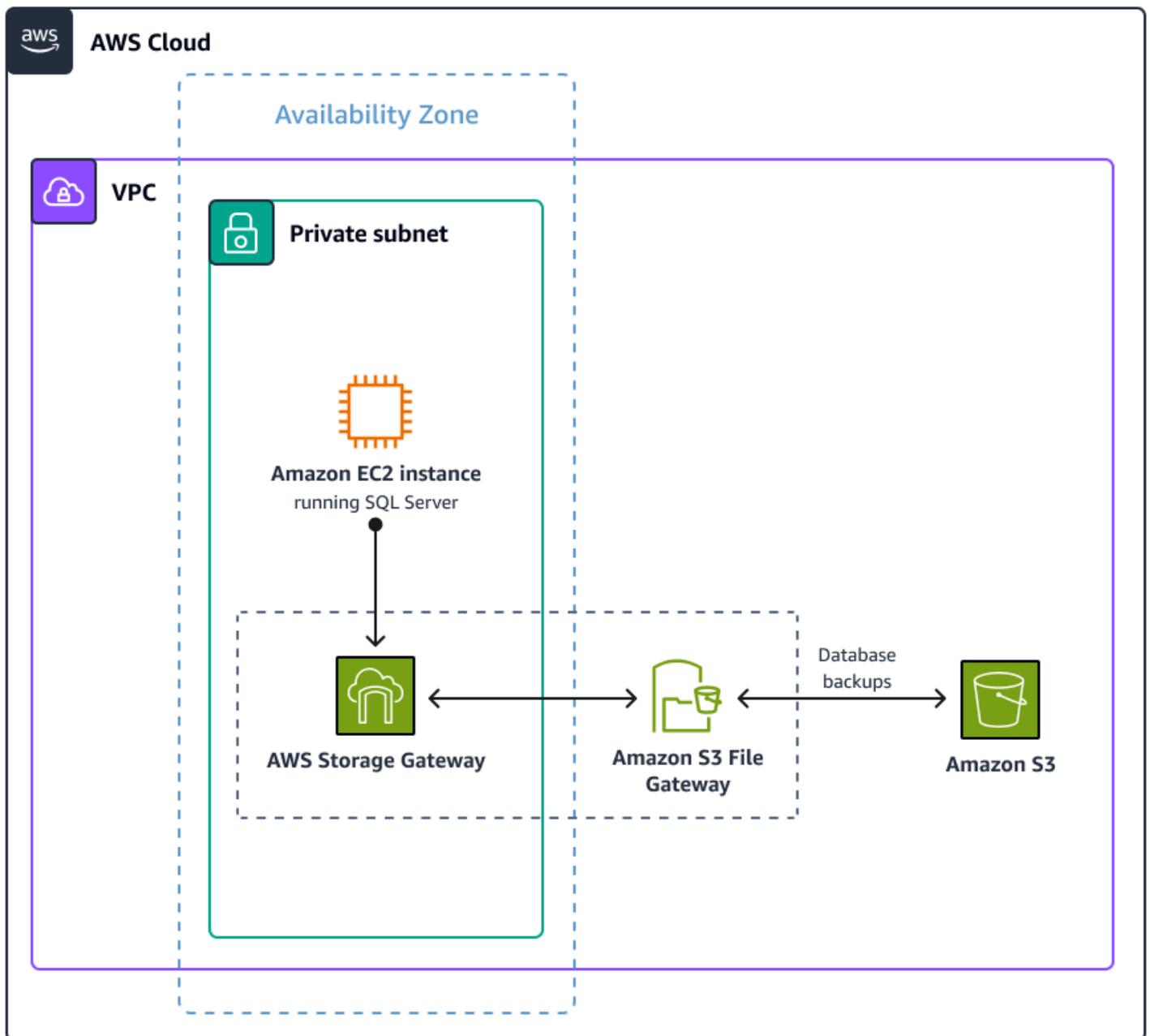
- 圧縮と複数ファイルのバックアップ
- フルバックアップ、差分バックアップ、T ログバックアップ
- TDE で暗号化されたデータベース

SQL Server のネイティブバックアップと Amazon S3 への復元

Amazon EC2 の SQL Server は、SQL Server データベースのネイティブバックアップと復元をサポートしています。SQL Server データベースのバックアップを作成して、バックアップファイルを、既存のデータベースか、新しい SQL Server EC2 インスタンス、Amazon RDS for SQL Server、オンプレミスサーバーのいずれかに復元することができます。

Storage Gateway は、オンプレミスアプリケーションがクラウドストレージに実質的に無制限でアクセスできる、ハイブリッドクラウドのストレージサービスです。Storage Gateway を使用して Microsoft SQL Server データベースを Amazon S3 に直接バックアップできるため、オンプレミスのストレージフットプリントが削減され、Amazon S3 を使用して耐久性、スケーラビリティ、コスト効率の高いストレージを実現できます。

次の図は、Storage Gateway と Amazon S3 を使用するネイティブバックアップおよび復元ソリューションのアーキテクチャを示しています。



Storage Gateway でネイティブ SQL Server バックアップを使用する利点を次に示します。

- ストレージゲートウェイを、EC2 インスタンスのサーバーメッセージブロック (SMB) ファイル共有としてマッピングし、バックアップを Amazon S3 に送信できます。
- バックアップは S3 バケットに直接送信されるか、Storage Gateway ファイルキャッシュを介して送信されます。
- 複数ファイルのバックアップがサポートされています。

Storage Gateway を使用したネイティブバックアップには、次の制限事項を考慮してください。

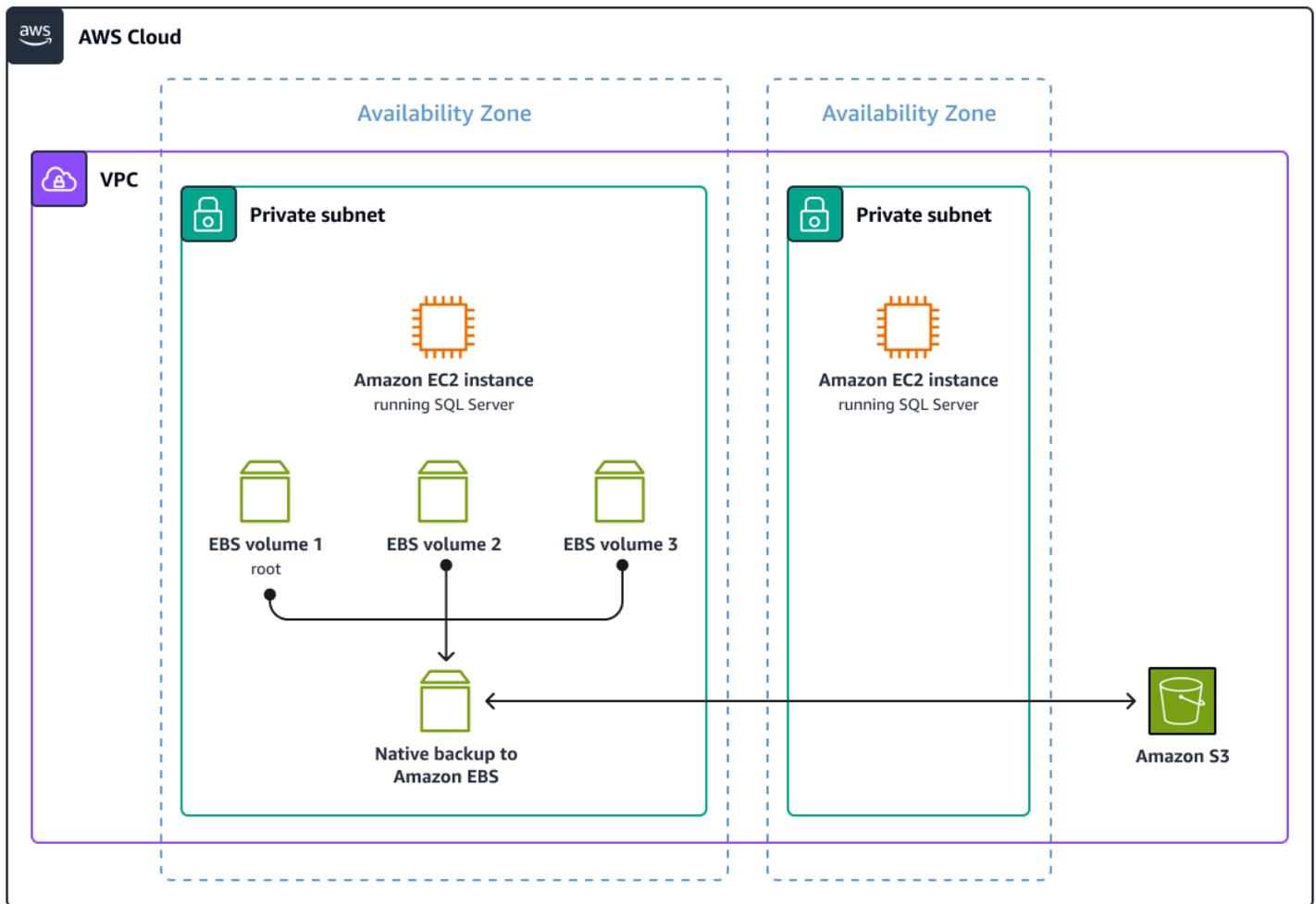
- バックアップと復元をデータベースごとに設定する必要があります。
- バックアップファイル用の [Amazon S3 ライフサイクルポリシー](#) の管理が必要になります。

Storage Gateway のセットアップ方法の詳細については、AWS ブログの投稿 [を使用して Amazon S3 に SQL Server バックアップを保存する AWS Storage Gateway](#) を参照してください。

EBS ボリュームへの SQL Server のネイティブバックアップ

SQL Server データベースのネイティブバックアップを作成し、そのファイルを Amazon EBS ボリュームに保存できます。Amazon EBS は、きわめて高性能なブロックストレージサービスです。EBS ボリュームは伸縮自在で、暗号化をサポートしています。これらは、EC2 インスタンスにデタッチおよびアタッチできます。同じ EBS ボリュームタイプまたは別の EBS ボリュームタイプの EC2 インスタンスで SQL Server をバックアップできます。異なる EBS ボリュームにバックアップする利点の 1 つが、コストを削減できることです。

以下の図は、EBS ボリュームへのネイティブバックアップのアーキテクチャを示したものです。



EBS ボリュームへの SQL Server ネイティブバックアップを使用する利点を以下に示します。

- SQL Server の EC2 インスタンスにある個々のデータベースのバックアップを作成し、すべてのインスタンスを復元するのではなく個々のデータベースを復元することができます。
- 複数ファイルのバックアップがサポートされています。
- バックアップジョブを SQL Server エージェントと SQL Server ジョブエンジンを使用してスケジュールできます。
- 選択したハードウェアによって、パフォーマンス上の利点が得られます。例えば、st1 ストレージボリュームを使用するとスループットを高めることができます。

EBS ボリュームへのネイティブバックアップを使用する際には、次の制限事項を考慮してください。

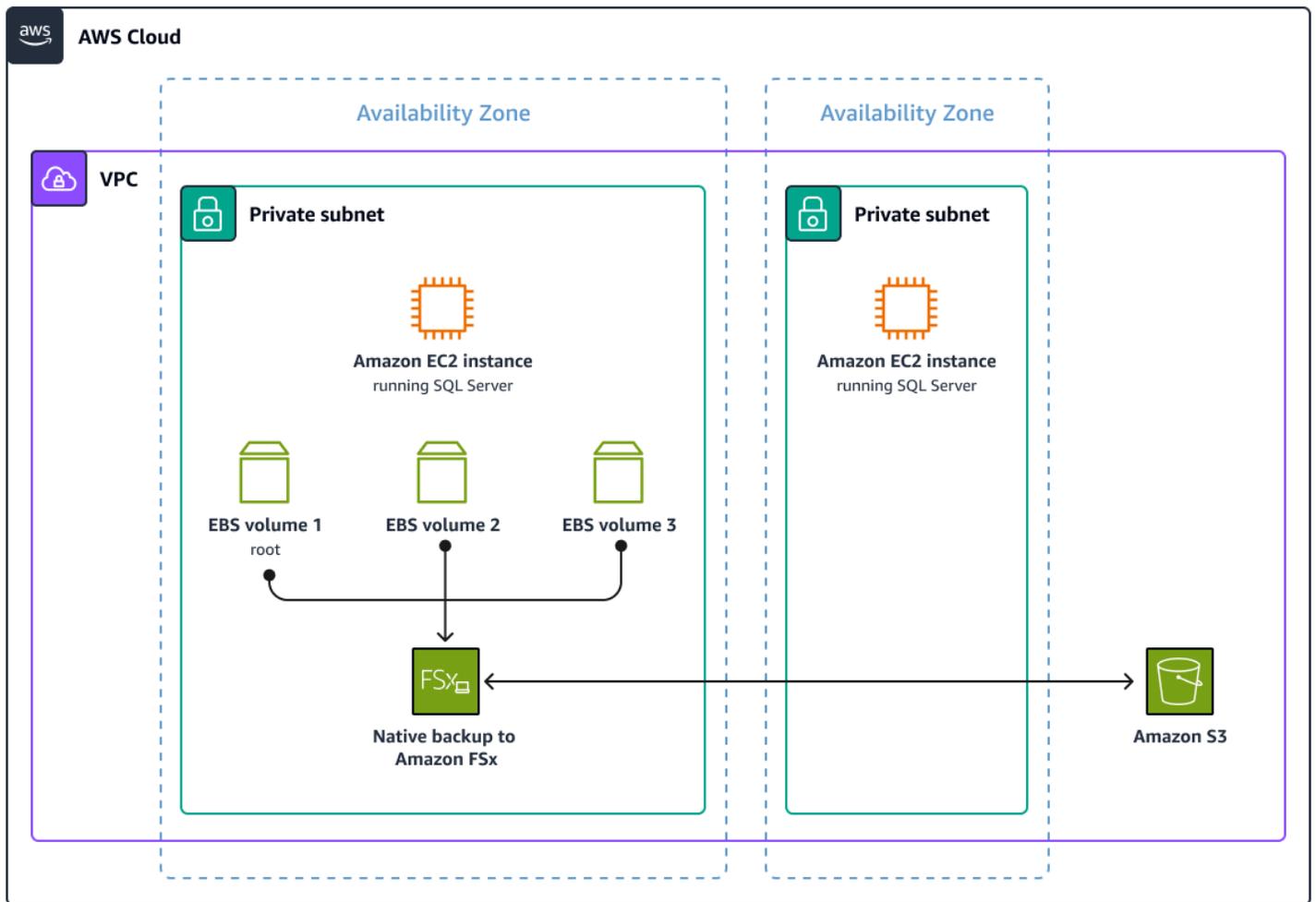
- EBS ボリュームから Amazon S3 にバックアップを移動するときは、手動で行う必要があります。

- 大規模なバックアップの場合は、Amazon EC2 のディスク容量を管理する必要があります。
- EC2 インスタンスでは、Amazon EBS のスループットがボトルネックになる可能性があります。
- Amazon EBS にバックアップを保存するには追加のストレージが必要になります。

Amazon FSx for Windows File Server への SQL Server ネイティブバックアップ

[Amazon FSx for Windows File Server](#) は、フルマネージド型のネイティブ Windows ファイルシステムであり、高速で予測可能で一貫したパフォーマンスを実現するように設計された最大 64 TB のストレージを提供します。FSx for Windows File Server での [マルチ AZ ファイルシステムデプロイのネイティブサポート](#) AWS が導入されました。ネイティブサポートにより、複数のアベイラビリティゾーンにまたがる高可用性と冗長性 AWS を備えたに Windows ファイルストレージを簡単にデプロイできます。では、[SMB 継続的可用性 \(CA\) ファイル共有](#) のサポート AWS も導入されました。FSx for Windows File Server を、SQL Server データベースのバックアップストレージとして使用できます。

以下の図は、FSx for Windows File Server への、SQL Server のネイティブバックアップのアーキテクチャを示したものです。



FSx for Windows File Server へのネイティブ SQL Server バックアップを使用する利点を以下に示します。

- お使いの SQL Server データベースを Amazon FSx ファイル共有にバックアップすることができます。
- SQL Server インスタンスにある個々のデータベースのバックアップを作成し、すべてのインスタンスを復元するのではなく個々のデータベースを復元することができます。
- マルチパートバックアップがサポートされています。
- バックアップジョブを SQL Server エージェントとそのジョブエンジンを使用してスケジュールできます。
- インスタンスのネットワーク帯域幅は、Amazon EBS と比較して高くなります。

FSx for Windows File Server へのネイティブ SQL Server バックアップを使用する際には、次の制限事項を考慮してください。

- AWS Backup または を使用して、Amazon FSx から Amazon S3 にバックアップを手動で移動する必要があります AWS DataSync。 FSx
- 大規模なバックアップでは、Amazon FSx のディスク容量の管理のため、追加のオーバーヘッドが必要になる場合があります。
- EC2 インスタンスのネットワークスループットがボトルネックになる可能性があります。
- FSx for Windows File Server にバックアップを保存するには追加のストレージが必要になります。

Amazon FSx for NetApp ONTAP への SQL Server バックアップ

FSx for ONTAP のスナップショットは常にクラッシュ整合性がありますが、アプリケーション整合性のあるスナップショットを作成するには、データベースを休止 (または I/O を一時停止) する必要があります。FSx for ONTAP で NetApp SnapCenter (SQL Server を含む特定のアプリケーションのプラグインを備えたオーケストレーションツール) を使用すると、アプリケーション整合性のあるスナップショットを作成し、追加料金なしでデータベースを保護、レプリケート、クローン化できます。

NetApp SnapCenter

NetApp SnapCenter は、アプリケーション整合性のあるデータ保護のための統合プラットフォームです。 はスナップショットをバックアップと SnapCenter 呼びます。このガイドでは、同じ命名規則を採用しています。 は、アプリケーション整合性のあるバックアップ、復元、クローンを管理するための単一のペイン SnapCenter を提供します。特定のデータベースアプリケーションに SnapCenter プラグインを追加して、アプリケーション整合性のあるバックアップを作成します。SQL Server 用 SnapCenter プラグインには、データ保護ワークフローを簡素化する以下の機能があります。

- フルバックアップとログバックアップの詳細度を持つバックアップと復元のオプション
- インプレース復元と代替場所への復元

の詳細については SnapCenter、AWS ストレージブログの [「Amazon FSx for NetApp ONTAP NetApp SnapCenter でを使用して SQL Server ワークロードを保護する」](#) の投稿を参照してください。

バックアップのコスト最適化

以下のオプションは、への SQL Server バックアップの保存コストを削減するのに役立ちます AWS。

- バックアップファイルの作成中に [SQL Server](#) 圧縮を有効にし、可能な限り小さいファイルを送信します。例えば、3:1 の圧縮率は、ディスク容量を約 66% 節約していることを示します。これらの列をクエリするには、次の Transact-SQL ステートメントを使用できます: `SELECT backup_size/compressed_backup_size FROM msdb..backupset;`
- S3 バケットへのバックアップでは、[Amazon S3 Intelligent-Tiering](#) ストレージクラスを有効にして、ストレージコストを 30% 削減します。
- FSx for Windows File Server または FSx for ONTAP に向かうバックアップの場合、1 つのアベイラビリティゾーンを使用してコストを 50% 削減します (複数のアベイラビリティゾーンを使用する場合と比較)。料金情報については、「[Amazon FSx for Windows File Server の料金](#)」および「[Amazon FSx for NetApp ONTAP の料金](#)」を参照してください。
- SQL Server 2022 の最も効率的なオプションは、Amazon S3 への直接バックアップです。Storage Gateway を回避することで、追加コストを節約できます。

バックアップのテスト結果のベンチマーク

このセクションでは、このガイドで説明するバックアップソリューションのパフォーマンスベンチマークテストの結果に基づいて、サンプル 1 TB データベースのコストとパフォーマンスの観点から以下のオプションを比較します。

- EC2 インスタンス仕様 – Windows Server 2019 および SQL Server 2019 Developer Edition を使用した r5d.8xlarge
- データベース仕様 – TDE が無効になっている状態で 1 TB のサイズ

テストは、ソースとして r5d.8xlarge インスタンスと 1 TB の SQL Server データベースを使用して実行されました。ソースシステムはベストプラクティスに従って設定され、ソースデータベースには 4 つのデータファイル (それぞれ 250 GB) と 1 つのログファイル (50 GB) が別々の gp3 ボリュームに分散されていました。SQL Server のネイティブ BACKUP コマンドには、10 個のバックアップファイルへの書き込みが含まれます。圧縮を使用してバックアップパフォーマンスを最適化し、ネットワーク経由で送信され、ターゲットに書き込まれるデータの量を減らします。すべてのテストケースで、ストレージのパフォーマンスがボトルネックでした。

この種のテストの考えられる構成は、無限に近いバリエーションがあります。このテストでは、パフォーマンス、コスト、スケーラビリティ、実際のユースケースの最適化に焦点を当てました。次の表は、バックアップターゲットオプションでキャプチャされたパフォーマンスメトリクスを示しています。

バックアップオプション	レベル	実行期間 (Appx)	バックアップレート	1 か月あたりのコスト USD*
ローカル EBS st1 HDD へのネイティブバックアップ、2 TB	データベース	00:30:46 分	554.7 Mbps	92.16 USD
ローカル EBS SSD gp3 へのネイティブバックアップ、2 TB	データベース	00:22:00 分	512 Mbps	193.84 USD
FSx for Windows File Server HDD へのネイティブバックアップ、2 TB @512 Mbps スループット	データベース	00:20:58 分	814.0 Mbps	1,146 USD
FSx for Windows File Server SSD へのネイティブバックアップ、2 TB @512 Mbps スループット	データベース	00:20:00 分	814.0 Mbps	1,326 USD
2 TB gp3 を使用した S3 File Gateway m6i.4xlarge (16 vCPU、64 GB) へのネイティブバックアップ	データベース	00:23:20 分	731.5 Mbps	470.42 USD
EBS VSS スナップショット	EBS ボリューム	00:00:02 秒 00:00:53 秒	該当なしのスナップショット	51 USD

バックアップオプション	レベル	実行期間 (Appx)	バックアップレート	1 か月あたりのコスト USD*
AWS Backup (AMI バックアップ)	AMI	00:00:04 秒 00:08:00 分	該当なしのスナップショット	75 USD
Amazon S3 への SQL Server のネイティブバックアップ (SQL Server 2022)	データベース	00:12:00 分	731.5 Mbps	最初の 50 TB/月、1 GB あたり 0.023 USD、1 か月あたり 23.55 USD
FSx for ONTAP へのネイティブバックアップ (を使用 SnapCenter)	データベース	-	-	440.20 USD

前の表では、次のことを前提としています。

- データ転送と Amazon S3 のコストは含まれません。
- ストレージ料金はインスタンス料金に含まれています。
- コストは us-east-1 リージョンに基づいています。
- スループットと IOPS は 10% 増加し、複数のバックアップでは、1 か月で全体の変化率が 10% になります。

テスト結果は、最速オプションが FSx for Windows File Server へのネイティブ SQL Server データベースバックアップであることを示しています。Storage Gateway およびローカルにアタッチされた EBS ボリュームへのバックアップは、コスト効率の高いオプションですが、パフォーマンスは低下します。サーバーレベルのバックアップ (AMI) では、パフォーマンス、コスト、管理性を最適化 AWS Backup するためにを使用することをお勧めします。

コスト最適化に関する推奨事項

Amazon EC2 で SQL Server をバックアップするための考えられる解決策を理解することは、データを保護し、バックアップのニーズを満たすようにし、重要なイベントから復旧するための計画を整える上で重要です。このセクションで調べた SQL Server インスタンスとデータベースをバックアップおよび復元するさまざまな方法は、データを保護し、組織の要件を満たすバックアップおよび復元戦略を考案するのに役立ちます。

このセクションでは、以下のバックアップオプションについて説明します。

- 圧縮
- Amazon S3 Intelligent-Tiering
- 単一のアベイラビリティゾーン
- URL へのバックアップ

これらのオプションごとに提供されるガイドは高レベルです。これらの推奨事項を組織で実装する場合は、アカウントチームに連絡することをお勧めします。その後、チームは Microsoft スペシャリスト SA と協力して会話を主導できます。optimize-microsoft@amazon.com に E メールを送信して連絡することもできます。

要約すると、次のことをお勧めします。

- SQL Server 2022 を使用している場合は、Amazon S3 へのバックアップが最もコスト効率の高いオプションです。
- SQL Server 2019 以前の SQL Server エディションを使用している場合は、最もコスト効率の高いオプションとして、Amazon S3 でバックアップされた Storage Gateway へのバックアップを検討してください。

圧縮

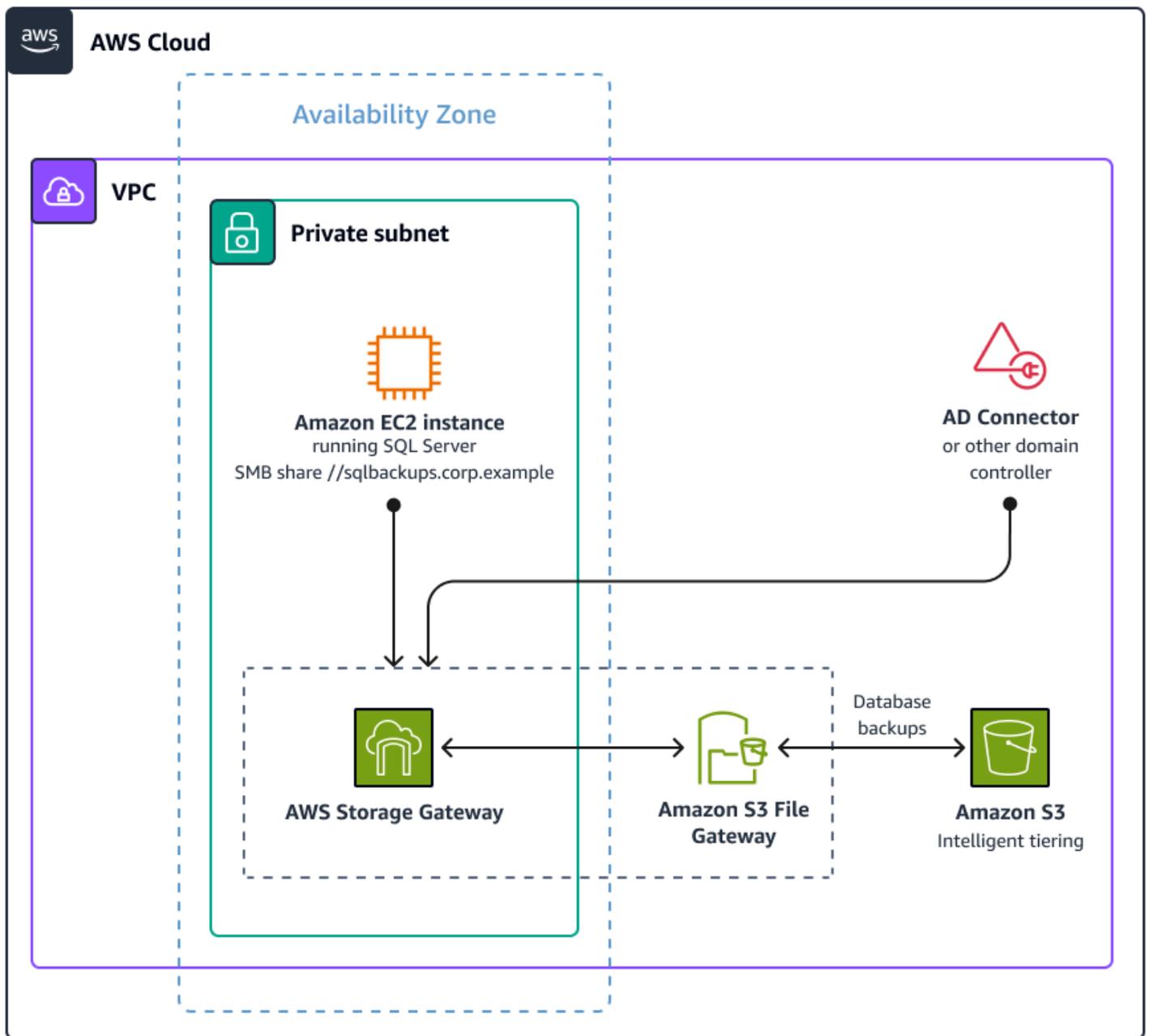
圧縮の目的は、各バックアップで消費されるストレージを減らすことです。これは、さまざまなストレージオプションにとって有益です。SQL Server インスタンスのレベルで [SQL Server](#) バックアップの圧縮を有効にする必要があります。次の例は、バックアップデータベースで圧縮キーワードを追加する方法を示しています。

```
BACKUP DATABASE <database_name> TO DISK WITH COMPRESSION (ALGORITHM =
QAT_DEFLATE)
```

Amazon S3 Intelligent-Tiering

Amazon S3 バケットへのバックアップの場合、[Amazon S3 Intelligent-Tiering](#) を Amazon S3 File Gateway [ストレージクラス](#) として有効にできます。これにより、ストレージコストを最大 30% 削減できます。次に、Active Directory ドメイン と統合できる SMB ファイル共有を使用して、S3 File Gateway を SQL サーバーにマウントします。<https://docs.aws.amazon.com/filegateway/latest/files3/CreatingAnSMBFileShare.html#configure-SMB-settings>これにより、共有のアクセスコントロール、既存のサービスアカウントを活用する機能、一般的な Microsoft に焦点を当てたファイルプロトコルを使用した Amazon S3 へのアクセスが可能になります。ドメインコントローラーに直接接続していない可能性のあるアカウントでは、[Active Directory Connector](#) を使用して、オンプレミスまたはクラウドでの Active Directory との通信を容易にすることができます。ゲートウェイで Active Directory 設定を構成するには、Active Directory へのリクエストをプロキシするドメインコントローラーの Active Directory Connector IPs を指定する必要があります。

次の図は、S3 Intelligent-Tiering に基づくソリューションのアーキテクチャを示しています。



デフォルトでは、S3 バケットに書き込まれたバックアップファイルは標準階層を使用します。バックアップファイルを標準階層から S3 Intelligent-Tiering に変換するには、[ライフサイクルルール](#)を作成する必要があります。を使用して S3 Intelligent-Tiering [AWS Management Console](#)を有効にすることもできます。詳細については、ドキュメントの[Amazon S3 Intelligent-Tiering の使用開始](#)を参照してください。AWS

単一のアベイラビリティーゾーン

シングルアベイラビリティーゾーンファイルシステムを作成するには、[FSx for Windows File Server ファイルシステム](#) を作成するときに [シングル AZ](#) オプションを選択します。Amazon FSx は、Windows Volume Shadow Copy Service を使用して、ファイルシステムの耐久性の高いバックアップ (Amazon S3 に保存) を毎日取得し、いつでも追加のバックアップを取ることができます。単一アベイラビリティーゾーンの使用に関するいくつかの問題に注意してください。例えば、ファイルシステムがプロビジョニングされている影響を受けるアベイラビリティーゾーンが一度に数時間ダウンすると、SMB ファイル共有にアクセスできなくなります。データへのアクセスが必要な場合は、ソースリージョン内の利用可能なアベイラビリティーゾーンのバックアップから復元する必要があります。詳細については、このガイドの「[単一のアベイラビリティーゾーンを使用する](#)」セクションを参照してください。

URL へのバックアップ

SQL Server 2022 の場合、[URL へのバックアップ](#) 機能を使用すると、Amazon S3 への直接バックアップが可能になります。これは、[で実行されている SQL Server 2022 の理想的なバックアップアプローチ](#) AWS です。ストレージレイヤーで Amazon S3 の全機能を取得し、この機能を容易にするために以前のバージョンで必要なアプライアンスの AWS Storage Gateway コストを排除できます。この機能を実装する際に考慮すべき主なコストは、データ転送コストと選択した S3 ストレージクラスの 2 つです。Amazon S3 のネイティブディザスタリカバリ機能が必要な場合は、[クロスリージョンレプリケーション](#) で [クロスリージョンデータ出力コスト](#) が発生することを考慮する必要があります。このオプションの設定方法の詳細については、ブログの Microsoft ワークロードの [Amazon S3 への SQL Server データベースのバックアップ](#) AWS 」を参照してください。

追加リソース

- [Amazon EC2 上の SQL Server のバックアップおよび復元オプション](#) (AWS 規範ガイド)
- [を使用した Amazon RDS の Point-in-time リカバリと継続的バックアップ](#) AWS Backup (AWS ストレージブログ)
- [Amazon FSx for NetApp ONTAP NetApp SnapCenter でを使用して SQL Server ワークロードを保護する](#) (AWS ストレージブログ)
- [Amazon S3 Intelligent-Tiering の使用開始](#) (AWS 入門リソースセンター)
- [Amazon RDS for SQL Server のバックアップおよび復元戦略](#) (AWS データベースブログ)
- [オンプレミスの Microsoft SQL Server データベースを Amazon EC2 に移行する](#) (AWS 規範ガイド)

- [Amazon EC2 に Microsoft SQL Server をデプロイするためのベストプラクティス \(AWS ホワイトペーパー\)](#)

SQL Server データベースのモダナイズ

概要

スケーラビリティ、パフォーマンス、コスト最適化のためにレガシーデータベースをモダナイズするジャーニーを始めると、SQL Server などの商用データベースで課題に直面する可能性があります。商用データベースは高価で、顧客をロックし、ペナルティライセンス条項を提供します。このセクションでは、SQL Server からオープンソースデータベースへの移行とモダナイズのオプションの概要と、ワークロードに最適なオプションの選択について説明します。

SQL Server データベースを Amazon Aurora PostgreSQL などのオープンソースデータベースにリファクタリングして、Windows および SQL Server のライセンスコストを節約できます。Aurora などのクラウドネイティブな最新のデータベースは、オープンソースデータベースの柔軟性と低コストを商用データベースの堅牢でエンタープライズグレードの機能にマージします。可変ワークロードまたはマルチテナントワークロードがある場合は、[Aurora サーバーレス V2](#) に移行することもできます。これにより、ワークロードの特性に応じてコストを 90% 削減できます。さらに、[Babelfish for Aurora PostgreSQL などの機能](#)、[AWS Schema Conversion Tool \(AWS SCT\)](#) などのツール、および [AWS Database Migration Service \(AWS DMS\)](#) などのサービス AWS を提供し、での SQL Server データベースの移行とモダナイズを簡素化します AWS。

データベースサービス

Windows 上の SQL Server から Amazon Aurora、Amazon RDS for MySQL、Amazon RDS for PostgreSQL などのオープンソースデータベースに移行すると、パフォーマンスや機能を損なうことなく、大幅なコスト削減を実現できます。以下の点を考慮します。

- Amazon EC2 の SQL Server Enterprise Edition から Amazon RDS for PostgreSQL または Amazon RDS for MySQL に切り替えると、最大 80% のコスト削減につながります。
- Amazon EC2 の SQL Server Enterprise Edition から Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションまたは Amazon Aurora MySQL 互換エディションに切り替えると、最大 70% のコスト削減につながります。

従来のデータベースワークロードの場合、Amazon RDS for PostgreSQL と Amazon RDS for MySQL は要件に対応し、リレーショナルデータベースに費用対効果の高いソリューションを提供しま

す。Aurora は、これまで高価な商用ベンダーに限定されていた多くの可用性とパフォーマンス機能を追加しました。Aurora の障害耐性機能は追加コストです。ただし、他の商用ベンダーの同様の機能と比較して、Aurora の障害耐性コストは、同じタイプの機能に対して商用ソフトウェアが請求するよりも依然として安価です。Aurora アーキテクチャは、標準の MySQL および PostgreSQL デプロイと比較してパフォーマンスが大幅に向上するように最適化されています。

Aurora はオープンソースの PostgreSQL および MySQL データベースと互換性があるため、移植性にはさらに利点があります。最適なオプションが Amazon RDS for PostgreSQL、Amazon RDS for MySQL、または Aurora のいずれであっても、ビジネス要件を理解し、必要な機能を最適なオプションにマッピングする必要があります。

Amazon RDS と Aurora の比較

次の表は、Amazon RDS と Amazon Aurora の主な違いをまとめたものです。

カテゴリ	Amazon RDS for PostgreSQL または Amazon RDS for MySQL	Aurora PostgreSQL または Aurora MySQL
パフォーマンス	優れたパフォーマンス	3 倍以上のパフォーマンス
フェイルオーバー	通常 60 ~ 120 秒*	通常 30 秒
スケーラビリティ	最大 5 つのリードレプリカ 秒単位の遅延	最大 15 個のリードレプリカ ミリ秒単位の遅延
[Storage (ストレージ)]	最大 64 TB	最大 128 TB
ストレージ HA	1 つまたは 2 つのスタンバイを持つマルチ AZ、それぞれデータベースコピー	デフォルトでは、3 つの Availability Zones にまたがる 6 つのデータコピー
バックアップ	日次スナップショットとログのバックアップ	Amazon S3 への継続的な非同期バックアップ
Aurora のイノベーション	該当なし	100 GB データベースの高速クローン作成

カテゴリ	Amazon RDS for PostgreSQL または Amazon RDS for MySQL	Aurora PostgreSQL または Aurora MySQL
	リードレプリカの自動スケーリング	
	クエリプラン管理	
	Aurora Serverless	
	グローバルデータベースを使用したクロスリージョンレプリカ	
	クラスターキャッシュ管理**	
	パラレルクエリ	
	データベースアクティビティストリーミング	

*トランザクションが大きいとフェイルオーバー時間が長くなることがある

**Aurora PostgreSQL で利用可能

次の表は、このセクションで説明するさまざまなデータベースサービスの推定月額コストを示しています。

データベースサービス	1 か月あたりのコスト USD*	AWS Pricing Calculator (が必要 AWS アカウント)
Amazon RDS for SQL Server Enterprise Edition	3,750 USD	見積り
Amazon RDS for SQL Server Standard エディション	2,318 USD	見積り

データベースサービス	1 か月あたりのコスト USD*	AWS Pricing Calculator (が必要 AWS アカウント)
Amazon EC2 の SQL Server Enterprise Edition	2,835 USD	見積り
Amazon EC2 の SQL Server Standard Edition	1,345 USD	見積り
Amazon RDS for PostgreSQL	742 USD	見積り
Amazon RDS for MySQL	712 USD	見積り
Aurora PostgreSQL	1,032 USD	見積り
Aurora MySQL	1,031 USD	見積り

* ストレージ料金はインスタンス料金に含まれています。コストは us-east-1 リージョンに基づきます。スループットと IOPS は前提条件です。計算は r6i.2xlarge インスタンスと r6g.2xlarge インスタンス用です。

コスト最適化に関する推奨事項

異種データベース移行では、通常、データベーススキーマをソースからターゲットデータベースエンジンに変換し、ソースからターゲットデータベースにデータを移行する必要があります。移行の最初のステップは、SQL Server スキーマとコードオブジェクトを評価し、ターゲットデータベースエンジンに変換することです。

[AWS Schema Conversion Tool \(AWS SCT\)](#) を使用して、Amazon RDS for MySQL や Amazon RDS for PostgreSQL MySQL、PostgreSQL などのさまざまなターゲットオープンソースデータベースオプションとの互換性を評価および評価できます。Babelfish for Aurora PostgreSQL との互換性を評価するには、Babelfish Compass ツールを使用することもできます。これにより、AWS SCT と Compass の強力なツールが、移行戦略を決定する前に、関連する事前作業を理解できるようになります。続行する場合は、スキーマに必要な変更が によって AWS SCT 自動化されます。Babelfish Compass の中核となる哲学は、SQL データベースを Aurora に移動させ、変更を加えることなく、またはほとんど加えないことです。Compass は既存の SQL データベースを評価して、これを実現できるかどうかを判断します。このようにして、SQL Server から Aurora へのデータの移行に何らかの労力が費やされる前に、結果が明らかになります。

AWS SCT は、データベーススキーマとコードをターゲットデータベースエンジンに変換および移行するのを自動化します。Babelfish for Aurora PostgreSQL を使用すると、スキーマを変更せずに、または最小限で、データベースとアプリケーションを SQL Server から Aurora PostgreSQL に移行できます。これにより、移行が高速化されます。

スキーマを移行したら、AWS DMS を使用してデータを移行できます。AWS DMS は、完全なデータロードを実行し、変更をレプリケートして、最小限のダウンタイムで移行を実行できます。

このセクションでは、以下のツールについて詳しく説明します。

- AWS Schema Conversion Tool
- Babelfish for Aurora PostgreSQL
- Babelfish コンパス
- AWS Database Migration Service

AWS Schema Conversion Tool

を使用して AWS SCT、既存の SQL Server データベースを評価し、Amazon RDS または Aurora との互換性を評価できます。移行プロセスを簡素化 AWS SCT するために、を使用して、異種データベース移行でスキーマをあるデータベースエンジンから別のデータベースエンジンに変換することもできます。AWS SCT を使用してアプリケーションを評価し、C#、C++、Java、およびその他の言語で記述されたアプリケーションの埋め込みアプリケーションコードを変換できます。詳細については、ドキュメントの「[を使用したアプリケーション SQL AWS SCT](#)の AWS SCT 変換」を参照してください。

AWS SCT は、多くのデータベース[ソース](#)をサポートする無料の AWS ツールです。を使用するには AWS SCT、ソースデータベースにポイントしてから評価を実行します。次に、はスキーマ[AWS SCT](#)を評価し、評価レポートを生成します。評価レポートには、エグゼクティブサマリー、複雑さと移行の労力、適切なターゲットデータベースエンジン、変換に関する推奨事項が含まれます。をダウンロードするには AWS SCT、ドキュメントの「[インストール、検証、更新 AWS SCT](#)」を参照してください。AWS SCT

次の表は、データベースを異なるターゲットプラットフォームに変更する際の複雑さを示すために、によって AWS SCT 生成されたエグゼクティブサマリーの例を示しています。

ターゲット プラットフォーム	自動または最小限の変更	複雑なアクション
-------------------	-------------	----------

トフォー
ム

	ストレージオブジェクト	コードオブジェクト	変換アクション	ストレージオブジェクト		コードオブジェクト	
Amazon RDS for MySQL	60 (98%)	8 (35%)	42	1 (2%)	1	15 (65%)	56
Amazon Aurora MySQL 互換エンジン	60 (98%)	8 (35%)	42	1 (2%)	1	15 (65%)	56
Amazon RDS for PostgreSQL	60 (98%)	12 (52%)	54	1 (2%)	1	11 (48%)	26
Amazon Aurora PostgreSQL 互換エンジン	60 (98%)	12 (52%)	54	1 (2%)	1	11 (48%)	26
Amazon RDS for MariaDB	60 (98%)	7 (30%)	42	1 (2%)	1	16 (70%)	58
Amazon Redshift	61 (100%)	9 (39%)	124	0 (0%)	0	14 (61%)	25
AWS Glue	0 (0%)	17 (100%)	0	0 (0%)	0	0 (0%)	0

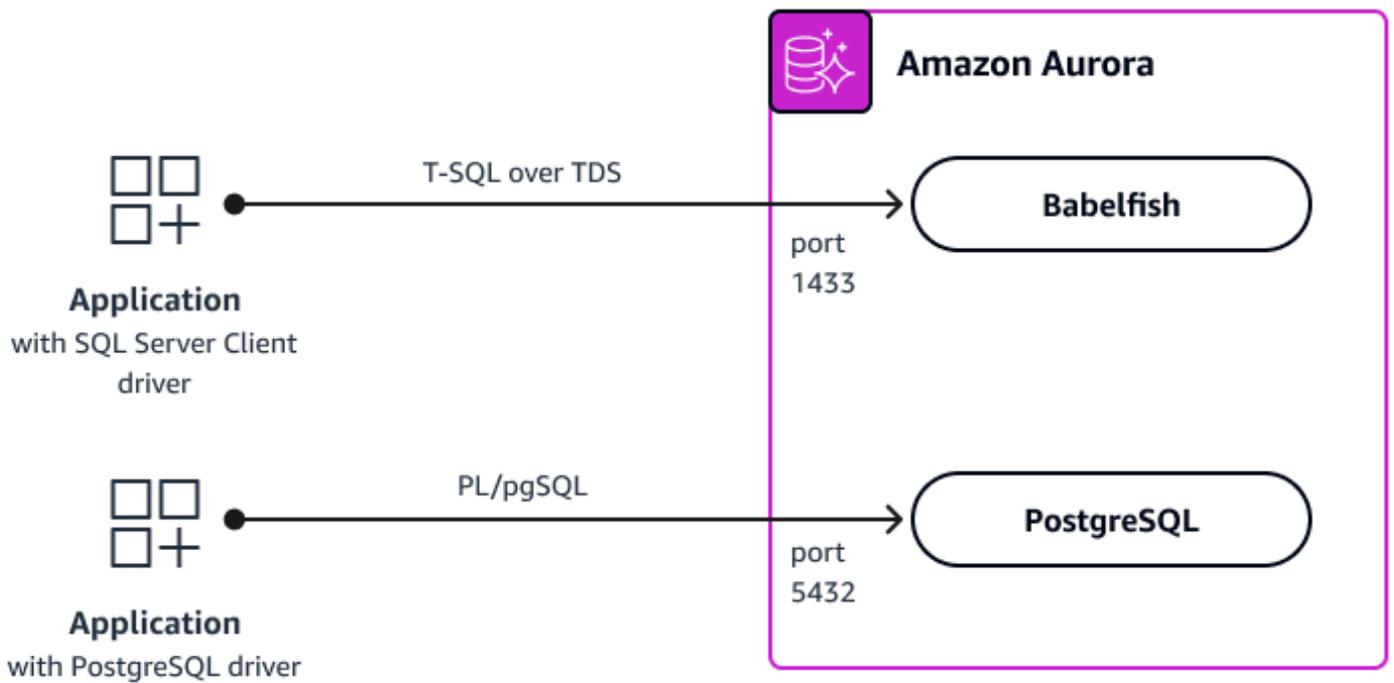
Babelfish 59 (97%) 10 (45%) 20 2 (3%) 2 12 (55%) 30

AWS SCT レポートには、自動的に変換できないスキーマ要素の詳細も表示されます。[AWS 移行ブレイブック](#) を参照して、AWS SCT 変換ギャップを埋め、ターゲットスキーマを最適化できます。異種移行を支援するデータベース移行ブレイブックは多数あります。

Babelfish for Aurora PostgreSQL

Babelfish for Aurora PostgreSQL は、SQL Server クライアントからのデータベース接続を受け入れる機能を使用して Aurora PostgreSQL を拡張します。Babelfish を使用すると、SQL Server 用に最初に構築されたアプリケーションが Aurora PostgreSQL と直接連携し、コードの変更が少なく、データベースドライバーを変更する必要はありません。Babelfish は Aurora PostgreSQL をバイリンガルに変換して、Aurora PostgreSQL が T-SQL と PL/pgSQL の両方の言語を操作できるようにします。Babelfish は、SQL Server から Aurora PostgreSQL への移行作業を最小限に抑えます。これにより、移行が加速され、リスクが最小限に抑えられ、移行コストが大幅に削減されます。移行後も T-SQL を引き続き使用できますが、[PostgreSQL ネイティブツールを開発に使用するオプション](#) もあります。

次の図は、T-SQL を使用するアプリケーションが SQL Server のデフォルトポート 1433 に接続し、Babelfish トランスレーターを使用して Aurora PostgreSQL データベースと通信する方法を示しています。一方、PL/pgSQL を使用するアプリケーションは、Aurora PostgreSQL のデフォルトポート 5432 を使用して Aurora PostgreSQL データベースに直接および同時に接続できます。



Babelfish は、特定の SQL Server T-SQL 機能をサポートしていません。このため、Amazon は SQL ステートメント line-by-line の分析を行い、Babelfish でサポートされていないステートメントがあるかどうかを判断するための評価ツールを提供しています。

Babelfish 評価には 2 つのオプションがあります。は、SQL Server データベースと Babelfish の互換性を評価 AWS SCT できます。もう 1 つのオプションは Babelfish Compass ツールです。これは、Compass ツールが Babelfish for Aurora PostgreSQL の新しいリリースに合わせて更新されるため、推奨されるソリューションです。

Babelfish コンパス

[Babelfish Compass](#) は、Babelfish for Aurora PostgreSQL の最新リリースに合わせて無料でダウンロードできるツールです。これとは対照的に、AWS SCT はしばらくすると新しい Babelfish バージョンをサポートします。[Babelfish Compass](#) は SQL Server データベーススキーマに対して実行されます。SQL Server Management Studio (SSMS) などのツールを使用して、ソース SQL Server データベーススキーマを抽出することもできます。その後、Babelfish Compass を使用してスキーマを実行できます。これにより、SQL Server スキーマと Babelfish との互換性、および移行前に変更が必要かどうかの詳細を示すレポートが生成されます。Babelfish Compass ツールは、これらの変更の多くを自動化し、最終的に移行を加速させることもできます。

評価と変更が完了したら、SSMS や sqlcmd などの SQL Server ネイティブツールを使用してスキーマを Aurora PostgreSQL に移行できます。手順については、AWS データベースブログ

の「[Babelfish を使用して SQL Server から Amazon Aurora に移行する](#)」の記事を参照してください。

AWS Database Migration Service

スキーマが移行されたら、AWS Database Migration Service (AWS DMS) を使用して最小限のダウンタイムでデータを AWS に移行できます。AWS DMS は完全なデータロードを行うだけでなく、ソースシステムの稼働中にソースから宛先への変更をレプリケートします。ソースデータベースとターゲットデータベースの両方が同期された後、アプリケーションが移行を完了するターゲットデータベースを指す場合にカットオーバーアクティビティを実行できます。AWS DMS は現在、Aurora PostgreSQL ターゲットに対して Babelfish でフルデータロードのみを実行し、変更をレプリケートしません。詳細については、AWS DMS ドキュメントの「[ターゲットとして Babelfish を使用する AWS Database Migration Service](#)」を参照してください。

AWS DMS は、同種 (同じデータベースエンジン間) 移行と異種 (異なるデータベースエンジン間) 移行の両方を実行できます。は、多くのソースデータベースエンジンとデスティネーションデータベースエンジン AWS DMS をサポートしています。詳細については、AWS データベースブログの[投稿を使用して SQL Server データベースを Amazon RDS for SQL Server に移行する AWS DMS](#)を参照してください。

追加リソース

- [Microsoft SQL Server、Hello Babelfish](#) (AWS ニュースブログ)
- [CLI を使用したデータベーススキーマとアプリケーション SQL の AWS Schema Conversion Tool 変換](#) (AWS データベースブログ)
- [フィールドから学んだベストプラクティスと教訓を使用して SQL Server を Amazon Aurora PostgreSQL に移行する](#) (AWS データベースブログ)
- [Microsoft SQL Server から Amazon RDS for PostgreSQL および Amazon Aurora PostgreSQL への移行後のデータベースオブジェクトの検証](#) (AWS データベースブログ)

SQL Server のストレージの最適化

概要

このセクションでは、EC2 ワークロード上の SQL Server 用の Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) SSD ストレージのコスト最適化に焦点を当てます。

SQL Server ワークロードを にデプロイして実行するためのさまざまなストレージオプションがあります AWS。適切なストレージの選択は、目的、アーキテクチャ、耐久性、パフォーマンス、容量、コストに基づいて行う必要があります。SQL Server ワークロードを実行する AWS お客様は、通常、Amazon EBS、NVMe、Amazon FSx、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) ストレージの組み合わせを使用します。

Amazon EBS は EC2 コンピューティングインスタンスに接続されたネットワーク接続ストレージで、一般的なオペレーティングシステム、アプリケーション、データベース、バックアップファイルの保存と処理に使用されます。Amazon EBS ソリッドステートドライブ (SSD) ストレージには、汎用 SSD (gp2 および gp3) とプロビジョンド IOPS SSD (io1、io2、io2BX) が含まれています。以下の点を考慮します。

- r5d などの一部の EC2 インスタンスでは、ローカル NVMe SSDs がホストインスタンスに物理的にアタッチされています。これらのボリュームは、SQL Server tempdb またはバッファプール拡張に一般的に使用されるブロックレベルのストレージを提供します。
- Amazon FSx for Windows File Server はフルマネージドファイルストレージサービスであり、Amazon FSx for NetApp ONTAP は NetApp の一般的な ONTAP ファイルシステム上に構築されたフルマネージド共有ストレージです。Amazon FSx は、高可用性の SQL Server フェイルオーバークラスターインスタンス (FCI) 設定で SQL Server ワークロードを実行するためによく使用されます。このソリューションは SQL Server のデータおよびログファイルをホストするため、EC2 インスタンスの EBS パフォーマンス要件が軽減されます。
- Amazon S3 は、業界最高レベルのスケーラビリティ、データ可用性、セキュリティ、パフォーマンスを提供するオブジェクトストレージサービスです。SQL Server のネイティブバックアップファイル、AMIs スナップショット、アプリケーションログなどを Amazon S3 に保存できます。

Amazon EBS の SSD ストレージタイプ、パフォーマンス、コスト

Amazon EBS の SSD ストレージコストは、通常、耐久性とパフォーマンスの向上に伴って増加します。現在、ストレージには 5 つのボリュームタイプがあり、それぞれに [独自のパフォーマンスメトリクス](#) があります。SSD-Backed ボリュームのユースケースと特性の概要については、Amazon EBS ドキュメントの [「ソリッドステートドライブ \(SSD\) ボリューム」](#) セクションの表を参照してください。

Amazon を使用して、SSD のパフォーマンスをモニタリング CloudWatch し、トレンドデータをキャプチャし、特定のしきい値に達したときにアラームを設定できます。で SQL Server ワークロードを実行している場合は AWS、[詳細なモニタリング](#) を有効にし、[CloudWatch カスタムメトリクス](#) をデプロイして、ディスクレイテンシー、IOPS、スループット、ディスクキューの長さ、使用済

み容量と空き容量などの詳細なボリュームパフォーマンスメトリクスをキャプチャすることを検討してください。これらの CloudWatch パフォーマンスメトリクスを使用して、プロビジョニング不足とプロビジョニング過剰のストレージを特定し、履歴データポイントを提供してストレージ要件を正確に定義できます。

Amazon EBS の SSD ストレージコストも、割り当てられた容量によって異なります。次の表は、さまざまなボリュームタイプの比較を示しています。すべてのボリュームタイプには、1 TB の容量と同様のパフォーマンス設定があります。

ボリュームタイプ	最大 IOPS (16 KiB I/O)	最大スループット (128 KiB I/O)	1TB あたりの料金	コスト削減率
gp2	3,000	250	102.40 USD	
gp3	3,000	250	86.92 USD	15%
io1	16,000	500	1,168 USD	
io2	16,000	500	1,168 USD	
gp3	16,000	500	146.92 USD	87%
io2bx	16,000	4,000	1,168 USD	
gp3	16,000	1,000	181.92 USD	84%

Note

前の表のパフォーマンスとコストのメトリクスは、からの[見積もり](#)に基づくボリュームあたりのもので AWS Pricing Calculator。の見積りにアクセスするには、AWS アカウントが必要で AWS Pricing Calculator。

Amazon EBS SSD gp3 ボリュームは、低コストで優れたパフォーマンスを提供します。16,000 IOPS 未満と 500 MiBps スループットを必要とするワークロードに対して、io1 または io2 ボリュームよりも gp3 ボリュームを選択した場合、最大 87% を節約できます。

io2 Block Express (io2BX) ボリュームは、通常の io2 ボリュームよりもパフォーマンスが向上します。16,000 IOPS では、io1 または io2 ボリュームは 500 MiBps スループットしか使用できません

が、io2BX ボリュームは最大 4,000 MiBps スループットまで設定できます。io1 および io2 ボリュームと比較して、io2BX ボリュームは 16,000 ~ 64,000 IOPS のスループットの 4 倍以上を提供し、まったく同じ料金で提供されます。通常の io2 ボリュームは、io2BX が io2BX-supported ボリュームに変換できます。EC2 io2BX-supported EC2 インスタンスのリストについては、Amazon EBS ドキュメントの「[プロビジョンド IOPS SSD ボリューム](#)」を参照してください。新しいストレージ [AWS Pricing Calculator](#) をデプロイする前に、を使用して毎月のコストを見積もり、耐久性、パフォーマンス、容量のトレードオフに基づいてコストへの影響を理解できます。

Amazon EBS の一般的な SSD コスト最適化

保存しているものを評価し、適切なストレージタイプとクラスを使用していることを確認することをお勧めします。例えば、Amazon S3 は、SQL Server のバックアップに最適な優れた価格ポイント、組み込みライフサイクルポリシー、レプリケーションオプションを提供します。SQL Server 2022 には Amazon S3 に直接バックアップする機能がありますが、以前のバージョンの SQL Server はネイティブのローカルバックアップに依存しています。古いバージョンの SQL Server を実行している場合は、Amazon EBS HDD ボリュームにバックアップしてから、バックアップを Amazon S3 にコピーすることを検討してください。このソリューションでは、バックアップに gp3 ボリュームを使用するのではなく、53% を節約できます。

次の表は、Amazon EBS gp3、Amazon EBS HDD st1、および Amazon S3 の 1 TB ストレージの料金差を示しています。

ストレージタイプ	容量	料金 pm
EBS gp3 500 MiBps	1 TB	96.92 USD
EBS st1 バースト 500 MiBps		46.08 USD
S3 Standard		23.55 USD
S3 標準 (低頻度アクセス)		12.80 USD
S3 Glacier Deep Archive		1.03 USD

Note

前の表のコストメトリクスは、[の見積り](#)に基づいています AWS Pricing Calculator。の見積りにアクセスするには、AWS アカウント が必要です AWS Pricing Calculator。

次の点を考慮することをお勧めします。

- 詳細なモニタリングを有効にし、CloudWatch カスタムメトリクスをデプロイして、ストレージのパフォーマンス要件を正確にキャプチャします。
- Amazon EBS ストレージを gp2 から gp3 にアップグレードして、コストを削減し、柔軟性を高め、パフォーマンスを向上させます。
- Amazon EBS ストレージを io1 から io2 にアップグレードして、耐久性とパフォーマンスの柔軟性を高めます。
- 耐久性とパフォーマンスを向上させるために、可能であれば io1 または io2 の代わりに io2BX を使用してください。
- 容量要件と高性能ボリュームのコストを削減するために、ストレージを選択するときは mix-and-match アプローチを検討してください。例えば、ルートボリューム (オペレーティングシステム)、SQL Server のインストール、システムデータベース (tempdb を除く)、およびパフォーマンスの低いユーザーデータベースに低コストの gp3 ボリュームを使用できます。これにより、io2 ボリュームの容量とコストを削減できます。これは、高性能ユーザーデータベース専用です。
- SQL Server データベースをホストしている場合は AWS、データベースごとに複数の SQL Server データファイルを使用することをお勧めします。これにより、読み取り/書き込みワークロードを複数のボリュームに分散できるため、ボリュームあたりのパフォーマンスと容量の要件が軽減され、その結果、コストを削減できます。
- 実稼働ワークロードで io1 や io2/io2BX などの高性能ストレージが必要な場合でも、コストを削減するために非実稼働ワークロードの gp3 ボリュームを検討してください。
- ストレージの使用率を経時的に追跡して傾向を把握し、使用量の急増や予期しないコストを簡単に特定できます。
- 実際の使用率に基づいて EBS ボリュームをスケールアップまたはスケールダウンするためのレコメンデーション [AWS Compute Optimizer](#) を使用します。
- の伸縮性を使用して AWS、Amazon EBS の SSD ボリュームのパフォーマンスと容量のニーズを調整します。オンプレミス環境とは異なり、将来のワークロード用にストレージのパフォーマンスと容量を過剰にプロビジョニングする必要はありません。データベースをオンラインのまま、既存の SQL Server ワークロードをに移行 AWS し、必要に応じてパフォーマンスまたは容量を調整できます。

追加リソース

- [Amazon EBS ボリュームタイプ](#) (Amazon EBS ドキュメント)

- [Amazon Elastic Block Store \(Amazon EBS\)](#) (Amazon EBS ドキュメント)
- [プロビジョンド IOPS SSD ボリューム](#) (Amazon EBS ドキュメント)
- [SSD インスタンスストアボリューム](#) (Amazon EC2 ドキュメント)
- [Amazon EBS の Amazon CloudWatch メトリクス](#) (Amazon EBS ドキュメント)
- [Amazon EC2 ストレージ最適化インスタンスの仕様](#) (Amazon EC2 ドキュメント)
- [Amazon FSx for NetApp ONTAP NetApp SnapCenter を使用して SQL Server ワークロードを保護する](#) (AWS ストレージブログ)
- [Amazon EC2 に関するよくある質問](#) (AWS 製品ページ)

Compute Optimizer を使用して SQL Server ライセンスを最適化する

を使用して SQL Server のライセンスを最適化する方法に関するガイド AWS Compute Optimizer。

概要

[AWS Compute Optimizer](#) では、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の Microsoft SQL Server ワークロードのライセンス最適化の機会を推奨できます。Compute Optimizer は、ライセンスコストを削減するための自動レコメンデーションを提供できます。Compute Optimizer からの推奨事項は、Microsoft SQL Server ライセンスを持つ各 EC2 インスタンスの横に表示されます。提供される情報には、推奨される節約の機会、EC2 インスタンスのオンデマンド料金、時間単位のライセンス持ち込み (BYOL) 料金が含まれます。この情報は、ライセンスエディションをダウングレードするかどうかを決定するのに役立ちます。

Compute Optimizer は、Amazon EC2 上の SQL Server インスタンスを推定ワークロードタイプで自動的に検出します。ライセンスの推奨事項を表示するには、Compute Optimizer で SQL Server インスタンスを選択し、読み取り専用データベース認証情報を使用して [Amazon CloudWatch Application Insights](#) で認証します。Compute Optimizer は、SQL Server Enterprise Edition の機能を使用しているかどうかを分析します。Enterprise Edition の機能が使用されていない場合、Compute Optimizer では、ライセンスコストを削減するために Standard Edition にダウングレードすることをお勧めします。

Compute Optimizer を使用して、SQL Server ワークロードを実行する Amazon EC2 インスタンスのサイズ設定に関するレコメンデーションを作成することもできます。詳細については、このガイドの「[Compute Optimizer を使用して SQL Server のサイズを最適化する](#)」を参照してください。

コスト最適化に関する推奨事項

Compute Optimizer のライセンスレコメンデーションは、Microsoft SQL Server で使用している機能を評価し、ワークロードに最も費用対効果の高いエディションを選択するのに役立ちます。SQL Server Enterprise Edition は、Standard Edition よりも大幅に高価です。詳細については、このガイドの「[SQL Server エディションの比較](#)」および Microsoft ウェブサイトの「[SQL Server 2022 の料金](#)」を参照してください。SQL Server フリートを評価してレコメンデーションを提供するように Compute Optimizer を設定する時間をかけると、ライセンスコストを大幅に削減できます。

ライセンスの詳細ページには、次の情報が表示されます。

- テーブルを使用して、現在のライセンス設定 (エディション、モデル、インスタンスコア数など) を Compute Optimizer の推奨事項と比較します。
- 使用率グラフを使用して、分析期間中に使用された Enterprise Edition の機能の数を確認します。

詳細については、Compute Optimizer ドキュメントの「[商用ソフトウェアライセンスのレコメンデーションの詳細の表示](#)」を参照してください。

Compute Optimizer の設定

Compute Optimizer は、`mssql_enterprise_features_used`メトリクスを使用して商用ソフトウェアライセンスを分析します。このメトリクスの詳細については、「[商用ソフトウェアライセンスのメトリクス](#)」を参照してください。

1. Compute Optimizer にオプトインするための適切なアクセス許可があることを確認してください。詳細については、次を参照してください。
 - [Compute Optimizer にオプトインするポリシー](#)
 - [スタンドアロンの Compute Optimizer へのアクセスを許可するポリシー AWS アカウント](#)
 - [組織の管理アカウントに Compute Optimizer へのアクセスを許可するポリシー](#)
2. CloudWatch Application Insights に必要なインスタンスロールとポリシーをアタッチします。手順については、「[商用ソフトウェアライセンスのレコメンデーションを有効にするポリシー](#)」を参照してください。
3. Microsoft SQL Server データベース認証情報を使用して CloudWatch Application Insights を有効にします。手順については、「[Amazon CloudWatch Application Insights の開始方法](#)」を参照してください。

Note

商用ソフトウェアライセンスのレコメンデーションを生成するには、少なくとも 30 時間の CloudWatch メトリクスデータが連続して必要です。詳細については、「[CloudWatch メトリクスの要件](#)」を参照してください。

4. 次の SQL クエリを使用して、CloudWatch Application Insights の最小特権アクセスを設定します。

```
GRANT VIEW SERVER STATE TO [LOGIN];  
GRANT VIEW ANY DEFINITION TO [LOGIN];
```

これにより、新しいサービスである PrometheusSqlExporterSQL が有効になります。

5. ターゲット AWS アカウント または組織管理アカウントから、Compute Optimizer にオプトインします。手順については、「[アカウントでのオプトイン](#)」を参照してください。

Note

オプトイン後の検出結果と最適化のレコメンデーションの生成には、最大 24 時間かかることがあります。

6. [Compute Optimizer コンソール](#) で、ナビゲーションペインでライセンスを選択します。
7. 検出結果 列で、不十分なメトリクスの検出結果があるインスタンスを検索します。Compute Optimizer は、CloudWatch Application Insights が有効になっていないか、アクセス許可が不十分であることを検出した場合に、この検出結果を返します。詳細については、「[理由の検索](#)」を参照してください。これらの検出結果を解決するには、次の手順を実行します。
 - a. インスタンスを選択します。
 - b. シークレットを追加します。
 - c. インスタンスロールとポリシーがアタッチされていることを確認します。
 - d. ライセンスレコメンデーションを有効にする を選択します。
8. 検出結果 列で、最適化されていない検出結果があるインスタンスを検索します。Compute Optimizer は、Amazon EC2 インフラストラクチャが、支払い対象の Microsoft SQL Server ライセンス機能を使用していないことを検出した場合、この検出結果を返します。詳細については、「[理由の検索](#)」を参照してください。これらの検出結果を解決するには、次の手順を実行します。

- a. インスタンスを選択します。
- b. 現在のライセンスエディションと推奨エディションを比較します。
- c. 現在のライセンス使用率グラフを確認します。
- d. ライセンスをダウングレードする場合は、「[レコメンデーションを実装する](#)」を選択します。
- e. 要件を確認し、指示に従ってライセンスをダウングレードします。プロセスを自動化する場合は、[「ドキュメントを使用して AWS Systems Manager SQL Server Enterprise Edition をダウングレードしてコストを削減する」](#) (AWS ブログ) を参照してください。

追加リソース

- [による Microsoft SQL Server ライセンスコストの削減 AWS Compute Optimizer](#) (AWS ブログ)
- [とは AWS Compute Optimizer](#) (AWS ドキュメント)
- [商用ソフトウェアライセンスのレコメンデーションの表示](#) (AWS ドキュメント)
- [Microsoft SQL Server エディションのダウングレード](#) (AWS ドキュメント)
- [\(AWS\) での Microsoft SQL Server AWS](#)
- [での Microsoft ライセンス AWS](#) (AWS)
- [Microsoft SQL Server 2019 の料金](#) (Microsoft)
- [Microsoft SQL Server 2022 の料金](#) (Microsoft)

Compute Optimizer を使用して SQL Server のサイズを最適化する

概要

[AWS Compute Optimizer](#) は、データベース管理者 (DBAs) が Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 上の Microsoft SQL Server ワークロードを検出し、EC2 インスタンスのサイズを適正化してライセンスコストを最大 25% 削減するのに役立ちます。Compute Optimizer の[推定ワークロードタイプ](#)機能は、機械学習 (ML) を使用して、AWS リソースで実行されている可能性のあるアプリケーションを自動的に検出します。Compute Optimizer には、推定ワークロードタイプとして SQL Server のサポートが含まれています。推定ワークロードタイプ機能を使用すると、Amazon EC2 インスタンスで実行されている特定のワークロードに基づいてコスト削減の機会を特定できます。

この機能を使用すると、SQL Server など、サポートされている推定ワークロードタイプ別にコスト削減の機会を分類できます。Compute Optimizer は、過剰にプロビジョニングされた SQL Server

EC2 インスタンスを自動的に検出できます。EC2 コンソールに切り替えてインスタンスをダウンサイズすることで、ライセンスとインフラストラクチャのコストを削減できます。

Compute Optimizer を使用して SQL Server ライセンスのレコメンデーションを作成することもできます。詳細については、このガイドの「[Compute Optimizer を使用して SQL Server ライセンスを最適化する](#)」を参照してください。

Compute Optimizer の設定

SQL Server の推定ワークロードで Compute Optimizer を使用する手順については、「[パフォーマンスの最適化とライセンスコストの削減: Amazon EC2 SQL Server インスタンスの活用 AWS Compute Optimizer](#)」(AWS ブログ)を参照してください。スタンドアロンアカウント、組織のメンバーであるアカウント、および組織の管理アカウントをオプトインできます。スタンドアロンアカウントとメンバーアカウントの場合、オプトインすると、そのアカウントに対してのみ Compute Optimizer が有効になります。組織管理アカウントでは、そのアカウントでのみ Compute Optimizer を有効にするか、組織内のすべてのメンバーアカウントに対して有効にするかを選択できます。

Compute Optimizer のオプトインプロセスでは、AWS Identity and Access Management (IAM) サービスにリンクされたロールが自動的に作成されます。詳細については、「[AWS Compute Optimizer のサービスにリンクされたロールの使用](#)」を参照してください。

Compute Optimizer は、CPU、I/O、ネットワーク、Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) の使用状況などの Amazon CloudWatch メトリクスに基づいてリソースを分析します。レコメンデーションを生成するには、過去 14 日間に 30 時間以上連続した CloudWatch メトリクスデータが必要です。拡張インフラストラクチャメトリクス機能を有効にすると、使用率メトリクスが 93 日に延長されます。詳細については、Compute Optimizer ドキュメントの「メトリクス[CloudWatch要件](#)」と「[拡張インフラストラクチャメトリクス](#)」を参照してください。

Compute Optimizer は、vCPU、メモリ、ストレージ、ネットワーク、リスク、移行の労力に基づいて、オプションと各オプションに関連する削減額を提供します。CloudWatch メトリクスダッシュボードを使用して、レコメンデーションの作成に使用されているデータを分析できます。このデータを使用すると、SQL Server ワークロードを実行している EC2 インスタンスのサイズを適正化できます。インスタンスタイプを変更する方法の詳細については、Amazon EC2 [ドキュメントの「インスタンスタイプを変更する」](#)を参照してください。

追加リソース

- [AWS Compute Optimizer Microsoft SQL Server ワークロードを識別してフィルタリングする \(AWS\)](#)

- [パフォーマンスの最適化とライセンスコストの削減: Amazon EC2 SQL Server インスタンス AWS Compute Optimizer の活用 \(AWS ブログ\)](#)
- [とは AWS Compute Optimizer \(AWS ドキュメント\)](#)
- [EC2 インスタンスのレコメンデーションの表示 \(AWS ドキュメント\)](#)

SQL Server ワークロードの Trusted Advisor レコメンデーションを確認する

概要

[AWS Trusted Advisor](#)は、ベストプラクティスに従う AWS のに役立つ推奨事項を提供します。は、使用状況、設定、支出を分析することで、コスト削減、システムの可用性とパフォーマンスの向上、セキュリティギャップの解消に役立つ実用的な推奨事項 Trusted Advisor を提供します。このセクションでは、での SQL Server ワークロードの運用コストを削減するのに役立つ Trusted Advisor チェックに焦点を当てます AWS クラウド。

コスト最適化に関する推奨事項

Trusted Advisor は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) で SQL Server ワークロードを最適化するのに役立つレコメンデーションを提供します。チェックでは、SQL Server ワークロードを検査し、最適化が必要なインスタンスを自動的に一覧表示します。Trusted Advisor レコメンデーションを運用することで、コストを削減し、組織のセキュリティ体制を改善できます。

以下は、Microsoft SQL Server に焦点を当てた Trusted Advisor チェック項目です。

- [Microsoft SQL Server 用に過剰にプロビジョニングされた Amazon EC2 インスタンス](#) – このチェックでは、SQL Server を実行している Amazon EC2 インスタンスを分析し、インスタンスが SQL Server ソフトウェアの vCPU 制限を超えた場合に警告します。例えば、SQL Server Standard Edition のインスタンスは、最大 48 個の vCPUs を使用できます。SQL Server Web を使用するインスタンスでは、最大 32 個の vCPU を使用できます。

エディション	vCPU 最小	vCPU 最大。
Web	4	32
標準	4	48

エディション	vCPU 最小	vCPU 最大。
エンタープライズ	4	OS の制限

- [Microsoft SQL Server 用の Amazon EC2 インスタンスの統合](#) – このチェックでは、Amazon EC2 インスタンスを分析し、インスタンスの SQL Server ライセンスの最小数よりも少ない場合に警告します。小さめの SQL Server インスタンスを統合して、コストの削減に役立てることができません。ライセンスに含まれる小さな SQL Server インスタンスが多数ある場合は、統合を検討してください。「[Microsoft SQL Server 2019 ライセンスガイド](#)」によると、SQL Server ではインスタンスごとに最低 4 つの vCPU ライセンスが必要です。これらのデータベースを統合すると、ライセンスコストを節約できます。インスタンス上のデータベースの数、データベースの最大サイズ、データベースの合計サイズに基づいて決定できます。統合は、SQL Server の Web、Standard、および Enterprise エディションでサポートされています。詳細については、「[SQL Server データベースの統合](#)」(Microsoft ブログ記事) を参照してください。

AWS では、大規模な本番稼働用データベースを 1 つのサーバーにのみ配置することはお勧めしません。ただし、開発、テスト、ステージングなど、非本番環境に使用される小規模なものを統合することはできます。これは、現在の SQL Server の使用状況によって異なります。使用率の低いデータベースがある場合は、1 つのサーバーに統合できます。

Trusted Advisorを設定する

で SQL Server に焦点を当てたチェックを評価するには、次の手順を実行します Trusted Advisor。

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. [AWS Trusted Advisor コンソール](#)を開きます。
3. ナビゲーションペインのレコメンデーションで、コスト最適化を選択します。
4. コスト最適化チェックリストで、Microsoft SQL Server の Amazon EC2 インスタンス統合と、Microsoft SQL Server チェックの過剰プロビジョニングされた Amazon EC2 インスタンスのステータスを確認します。
 - 緑色のチェック記号は、Amazon EC2 インスタンスが最適に設定されていることを示します。
 - オレンジ色のアラート記号は、改善の機会があることを示します。
5. チェックを選択すると、詳細と推奨事項が表示されます。
6. SQL Server ワークロードを実行している Amazon EC2 インスタンスを最適化するには、チェックの指示に従います。
7. インスタンスを定期的にモニタリングし、チェックを定期的に更新します。

追加リソース

- [Trusted Advisor チェックリファレンス](#) (AWS ドキュメント)
- (AWS) [での Microsoft SQL Server AWS](#)
- [での Microsoft ライセンス AWS](#) (AWS)
- [SQL Server 2019 の料金](#) (Microsoft)
- [AWS Launch Wizard for SQL Server](#) (AWS ドキュメント)

コンテナ

モダナイゼーションは、モノリスをマイクロサービスに分解する、サーバーレス関数 (AWS Lambda) を使用してイベント駆動型にアプリケーションを再設計する、SQL Server から Amazon Aurora または専用のマネージドデータベースにデータベースを再利用するなど、多くのオプションを提供するトランスフォーメーションジャーニーです。 .NET Framework アプリケーションを Linux および Windows コンテナにリプラットフォームするモダナイゼーションパスは、他のモダナイゼーションオプションよりも労力がかかりません。コンテナには次の利点があります。

- イノベーションを加速する — コンテナに移行すると、アプリケーションの構築、テスト、デプロイなど、開発ライフサイクルの段階を簡単に自動化できます。これらのプロセスを自動化することで、開発チームと運用チームはイノベーションに集中する時間が増えます。
- 総所有コスト (TCO) の削減 — コンテナへの移行により、ライセンス管理ツールとエンドポイント保護ツールへの依存度も低下します。コンテナは一時的なコンピューティング単位であるため、パッチ適用、スケーリング、バックアップと復元などの管理タスクを自動化および簡素化できます。これにより、コンテナベースのワークロードの管理と運用の TCO が削減されます。最後に、コンテナは仮想マシンと比較して効率的です。これは、コンテナを使用して、分離性を向上させることでアプリケーションの配置を最大化できるためです。これにより、アプリケーションのインフラストラクチャリソースの使用率が向上します。
- リソース使用率の向上 – コンテナを使用してアプリケーションの配置を最大化できるため、コンテナは仮想マシンに比べて効率的です。これにより、分離性が向上し、アプリケーションのインフラストラクチャリソースの使用率が向上します。
- スキルギャップを埋める – イメージオンデマンド AWS を提供し、開発チームにコンテナテクノロジーと DevOps プラクティスのスキルを高めます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [Windows アプリケーションをコンテナに移動する](#)
- [Amazon ECS での AWS Fargate タスクのコストの最適化](#)
- [Amazon EKS のコストを可視化する](#)
- [Windows アプリケーションを App2Container でリプラットフォームする](#)

ライセンス情報については、「Amazon Web Services and Microsoft: よくある質問」の「ライセンス」セクションを参照するか、microsoft@amazon.com にメールでお問い合わせください。 <https://aws.amazon.com/windows/faq/#licensing-q>

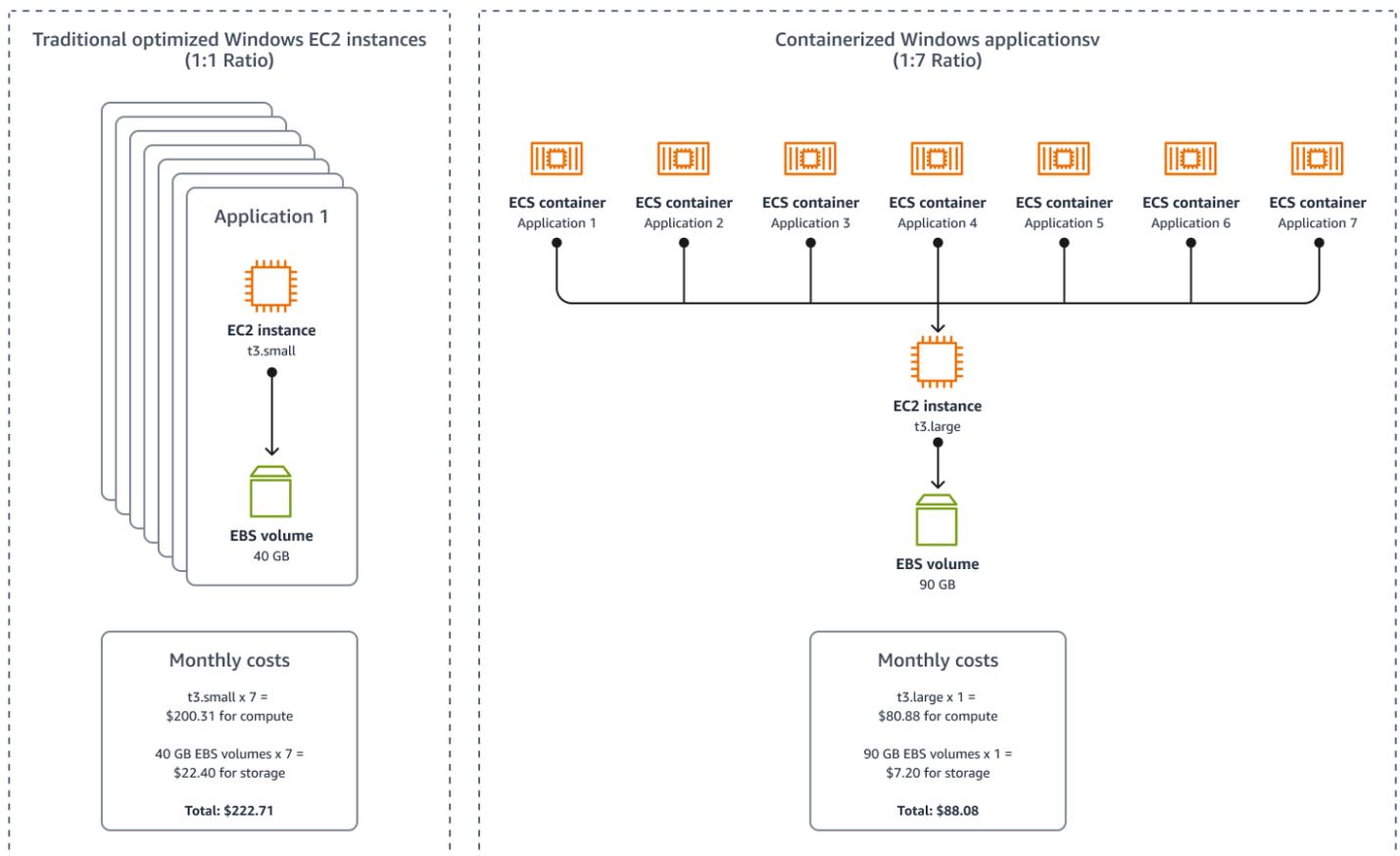
Windows アプリケーションをコンテナに移動する

概要

[CNCF 年次調査 2021](#)によると、組織の 96% がコンテナを使用して、または評価してインフラストラクチャをモダナイズしています。これは、コンテナが組織のリスクを軽減し、運用効率とスピードを向上させ、俊敏性を実現するのに役立つためです。コンテナを使用して、アプリケーションを実行するコストを削減することもできます。このセクションでは、[Amazon Elastic Container Service \(Amazon ECS\)](#)、[Amazon Elastic Kubernetes Service \(Amazon EKS\)](#)、など、AWS コンテナサービス全体でコスト効率の高い方法でコンテナを実行するための推奨事項を提供します [AWS Fargate](#)。

コスト上の利点

次のインフォグラフィックは、[AWS 最適化とライセンス評価 \(AWS OLA\)](#) の推奨事項に基づいて ASP.NET Framework アプリケーションを Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに統合することで、企業が達成できるコスト削減を示しています。次のインフォグラフィックは、アプリケーションを Windows コンテナに移動することで達成できる追加の節約額を示しています。



AWS OLA は、企業が個々の t3.small インスタンスにリフトアンドシフトすることを推奨しました。次のパフォーマンス使用率分析で示されているように、オンプレミスサーバーで 7 つの ASP.NET アプリケーションを実行することで、企業はこれらの節約を実現できます。

Server name	Storage	Operating system	On-premises CPU AVG utilization	On-premises CPU peak utilization	On-premises RAM (GB)	On-premises RAM AVG utilization (GB)	On-premises RAM peak utilization (GB)	Instance size	vCPU	RAM (GB)
1 AppServer01	60	Windows Server 2012	7.00%	17.00%	8	13.50%	17.10%	t3.small	2	2
2 AppServer02	39	Windows Server 2012	20.07%	22.00%	16	7.50%	12.40%	t3.small	2	2
3 AppServer03	39	Windows Server 2012	24.00%	25.50%	16	8.80%	11.90%	t3.small	2	2
4 AppServer04	4	Windows Server 2012	21.40%	24.00%	16	7.80%	10.70%	t3.small	2	2
5 AppServer05	40	Windows Server 2012	21.30%	23.00%	16	8.20%	12.00%	t3.small	2	2
6 AppServer06	39	Windows Server 2012	21.50%	23.50%	16	7.90%	10.90%	t3.small	2	2
7 AppServer07	39	Windows Server 2012	21.60%	22.90%	16	8.40%	11.50%	t3.small	2	2

詳細な分析では、コンテナでワークロードを実行することで、コストをさらに削減できることが明らかになりました。コンテナは、CPU、RAM、ディスク使用量などのシステムリソースのオペレーティングシステムのオーバーヘッドを削減します (次のセクションで説明します)。このシナリオでは、7 つのアプリケーションすべてを 1 つの t3.large インスタンスに統合し、予備の 3 GB の RAM を保持できます。コンテナに移行すると、Amazon EC2 の代わりにコンテナを使用することで、コンピューティングとストレージ全体で平均 64% のコスト削減を実現できます。

コスト最適化に関する推奨事項

次のセクションでは、アプリケーションを統合してコンテナを使用することでコストを最適化するための推奨事項を示します。

Amazon EC2 の Windows フットプリントを削減する

Windows コンテナを使用すると、より多くのアプリケーションを少数の Amazon EC2 インスタンスに統合できるため、Windows on Amazon EC2 のフットプリントを削減できます。例えば、ASP.NET アプリケーションが 500 個あるとします。Amazon EC2 で Windows 用のアプリケーションごとに 1 つのコアを実行している場合、これは 500 個の Windows インスタンス (t3.small) に相当します。Windows コンテナ (t3.large を使用) を使用するための 1:7 の比率 (EC2 インスタンスのタイプ/サイズによって大幅に増加する可能性がある) を想定した場合、必要な Windows インスタンスは約 71 個のみです。これは、Windows on Amazon EC2 のフットプリントが 85.8% 減少することを意味します。

Windows ライセンスコストの削減

Windows インスタンスのライセンスを取得する場合、そのインスタンスで実行されているコンテナのライセンスは必要ありません。その結果、Windows コンテナを使用して ASP.NET アプリケーションを統合することで、Windows ライセンスコストを大幅に削減できます。

ストレージフットプリントの削減

新しい EC2 インスタンスを起動するたびに、新しい Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) ボリュームを作成して支払い、オペレーティングシステムを格納します。これにより、コストはそれに合わせてスケールされます。コンテナを使用すると、すべてのコンテナが同じ基本オペレーティングシステムを共有するため、ストレージコストを削減できます。さらに、コンテナはレイヤーの概念を使用して、コンテナイメージのイミュータブルな部分を、そのイメージに基づいて実行中のすべてのコンテナに再利用します。前述のシナリオ例では、すべてのコンテナが .NET Framework を実行しているため、すべて中間およびイミュータブルな ASP.NET フレームワークレイヤーを共有しています。

end-of-support サーバーをコンテナに移行する

Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 のサポートは、2023 年 10 月 10 日に終了しました。Windows Server 2012 以前のバージョンで実行されているアプリケーションは、新しいオペレーティングシステムで実行するようにコンテナ化することで移行できます。これにより、コンテナが提供するコスト効率、リスクの軽減、運用効率、スピード、俊敏性を活用しながら、非標準のオペレーティングシステムでアプリケーションを実行する必要がなくなります。

このアプローチで考慮すべき注意点は、アプリケーションが現在使用中のオペレーティングシステムのバージョンに関連する特定の APIs (COM Interop など) を必要とする場合です。この場合、アプリケーションを新しい Windows バージョンに移行することをテストする必要があります。Windows コンテナは、ベースコンテナイメージ (Windows Server 2019 など) をコンテナホストのオペレーティングシステム (Windows Server 2019 など) に合わせます。テストしてコンテナに移動すると、Dockerfile 内のベースイメージを変更し、最新バージョンの Windows を実行している新しいホストのセットにデプロイすることで、将来的にオペレーティングシステムのアップグレードが簡単になります。

サードパーティーの管理ツールとライセンスを削除する

サーバーフリートを管理するには、パッチ適用と設定管理に複数のサードパーティーのシステムオペレーションツールを使用する必要があります。これにより、インフラストラクチャ管理が複雑になり、サードパーティーのライセンスコストが発生することがよくあります。でコンテナを使用する場合 AWS、オペレーティングシステム側で何も管理する必要はありません。コンテナランタイムはコ

テナを管理します。つまり、基盤となるホストは一時的なものであり、簡単に置き換えることができます。テナホストを直接管理しなくても、テナを実行できます。さらに、などの無料のツールを使用して、ホスト AWS Systems Manager Session Manager に簡単にアクセスし、問題をトラブルシューティングできます。

コントロールと移植性の向上

テナを使用すると、EC2 インスタンスよりも CPU や RAM などのサーバーリソースをよりきめ細かく制御できます。EC2 インスタンスの場合、インスタンスファミリー、インスタンスタイプ、CPU [オプションを選択することで](#)、CPU と RAM を制御できます。ただし、テナでは、ECS タスク定義のテナまたは [Amazon EKS のポッド](#) に割り当てる CPU または RAM の正確な量を定義できます。実際には、Windows [テナのテナレベルの CPU とメモリを指定](#) することをお勧めします。このレベルの粒度により、コスト上の利点が得られます。次のコード例を考えてみましょう。

```
json
{
  "taskDefinitionArn": "arn:aws:ecs:us-east-1:123456789012:task-definition/demo-
service:1",
  "containerDefinitions": [
    {
      "name": "demo-service",
      "image": "mcr.microsoft.com/dotnet/framework/samples:aspnetapp-
windowsservercore-ltsc2019",
      "cpu": 512,
      "memory": 512,
      "links": [],
      "portMappings": [
        {
          "containerPort": 80,
          "hostPort": 0,
          "protocol": "tcp"
        }
      ]
    }
  ],
}
```

イノベーションを加速する

テナに移行すると、アプリケーションの構築、テスト、デプロイなど、開発ライフサイクルのステージの自動化が容易になります。これらのプロセスを自動化すると、開発チームと運用チームがイノベーションに集中する時間が増えます。

TCO の削減

コンテナに移行すると、ライセンス管理ツールやエンドポイント保護ツールへの依存が減ることがよくあります。コンテナは一時的なコンピューティング単位であるため、パッチ適用、スケーリング、バックアップと復元などの管理タスクを自動化および簡素化できます。これにより、コンテナベースのワークロードの管理と運用の TCO を削減できます。コンテナは、アプリケーションのインフラストラクチャリソースの使用率を高めることができるように、アプリケーションの配置を最大化できるため、仮想マシンと比較して効率的です。

スキルギャップを埋める

AWS は、コンテナと DevOps テクノロジーに関するカスタマー開発チームをスキルアップするためのプログラムとイマージョンデーを提供しています。これには、実践的なコンサルティングと有効化が含まれます。

.NET 5+ へのリファクタリングと Linux コンテナの使用

.NET Framework アプリケーションをコンテナに移動することでコストを削減できますが、レガシー .NET アプリケーションをクラウドネイティブな代替手段にリファクタリングすると、さらにコスト削減を実現できます AWS。

ライセンスコストの削減

Windows の .NET Framework から Linux の .NET Core にアプリケーションをリファクタリングすると、約 45% のコスト削減になります。

最新の機能強化にアクセスする

Windows の .NET Framework から Linux の .NET Core にアプリケーションをリファクタリングすると、Graviton2 などの最新の機能強化にアクセスできます。Graviton2 は、同等のインスタンスよりもパフォーマンスの価格が 40% 向上します。

セキュリティとパフォーマンスの向上

Windows の .NET Framework から Linux の .NET Core コンテナにアプリケーションをリファクタリングすると、セキュリティとパフォーマンスが向上します。これは、最新のセキュリティパッチを取得し、コンテナを分離して、新機能にアクセスできるためです。

IIS の 1 つのインスタンスで多数のアプリケーションを実行する代わりに Windows コンテナを使用する

Internet Information Services (IIS) を使用して 1 つの EC2 Windows インスタンスで複数のアプリケーションを実行する代わりに Windows コンテナを使用するという次の利点を考慮してください。

- **セキュリティ** — コンテナは、IIS レベルでの分離では実現されない、すぐに使えるレベルのセキュリティを提供します。1 つの IIS ウェブサイトまたはアプリケーションが侵害された場合、他のすべてのホストサイトが公開され、脆弱になります。コンテナエスケープはまれであり、ウェブ脆弱性を通じてサーバーをコントロールするよりも悪用するほど難しい脆弱性です。
- **柔軟性** — コンテナをプロセス分離で実行し、独自のインスタンスを持つ機能により、より詳細なネットワークオプションが可能になります。コンテナは、多くの EC2 インスタンスにまたがる複雑な分散メソッドも提供します。アプリケーションを 1 つの IIS インスタンスに統合しても、これらの利点は得られません。
- **管理オーバーヘッド** — サーバーネーム表示 (SNI) は、管理と自動化を必要とするオーバーヘッドを作成します。また、パッチ適用、BSOD のトラブルシューティング (自動スケーリングがない場合)、エンドポイント保護など、一般的なオペレーティングシステム管理オペレーションにも対処する必要があります。[セキュリティのベストプラクティス](#)に従って IIS サイトを設定することは、時間がかかり、継続的なアクティビティです。場合によっては、[信頼レベル](#)を設定する必要があります。これにより、管理オーバーヘッドも増加します。コンテナはステートレスでイミュータブルなように設計されています。最終的に、Windows コンテナを代わりに使用すれば、デプロイはより高速で、より安全で、繰り返し可能です。

次のステップ

最新のインフラストラクチャに投資してレガシーワークロードを実行すると、組織に大きなメリットがもたらされます。AWS コンテナサービスを使用すると、オンプレミスでもクラウドでも、基盤となるインフラストラクチャを簡単に管理できるため、イノベーションとビジネスニーズに集中できます。クラウド内のすべてのコンテナのほぼ 80% が AWS 今日稼働しています。は、ほぼすべてのユースケースに対して豊富なコンテナサービス AWS を提供します。開始するには、「」の「[コンテナ AWS](#)」を参照してください。

追加リソース

- [ECS キャパシティープロバイダーと EC2 スポットインスタンスを使用してコンテナワークロードのコストを最適化する](#) (AWS ブログ)
- [Amazon ECS とのコスト最適化チェックリスト AWS Fargate](#) (AWS ブログ)

- [Amazon EKS on AWS Graviton2 の一般提供: マルチアーキテクチャアプリケーションに関する考慮事項 \(AWS ブログ\)](#)
- [での Kubernetes のコスト最適化 AWS \(AWS ブログ\)](#)
- [Karpenter 統合による Kubernetes コンピューティングコストの最適化 \(AWS ブログ\)](#)

Amazon ECS での AWS Fargate タスクのコストの最適化

概要

適切なサイジング AWS Fargate タスクは、コスト最適化の重要なステップです。多くの場合、アプリケーションは Fargate タスクの任意のサイズで構築され、再検討されることはありません。これにより、Fargate タスクのオーバープロビジョニングや不要な支出が発生する可能性があります。このセクションでは、[AWS Compute Optimizer](#)を使用して実用的なレコメンデーションを提供し、Fargate で実行されている Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) サービスのタスク CPU とメモリを最適化する方法を示します。Compute Optimizer は、これらのレコメンデーションを採用した場合のコストへの影響も定量化します。これにより、節約の機会のサイズに基づいて最適化作業に優先順位を付けることができます。Compute Optimizer のレコメンデーションは、タスクをダウンサイジングするためのコンテナレベルの CPU とメモリの設定を提供します。

コスト上の利点

Fargate で Amazon ECS タスクのサイズを適切に設定すると、長時間実行されるタスクのコストを 30~70% 削減できます。アプリケーションのパフォーマンスメトリクスを確認してタスクサイズを適切に設定しなくても、EC2 コンピューティングインスタンスで使用されているのと同じ考え方をコンテナのサイズ設定に適用できます。これにより、Fargate タスクがオーバーサイズになり、アイドル状態のリソースのコストが増加します。Compute Optimizer を使用すると、適切なサイジングの機会を積極的に表示できます。理想的には、アプリケーション所有者は特定のアプリケーションパフォーマンスメトリクスを確認し、オペレーティングシステムのオーバーヘッドを削除して、適切なタスクサイズが指定されていることを確認します。詳細については、このガイドの「[Windows アプリケーションをコンテナに移動する](#)」セクションを参照してください。

コスト最適化に関する推奨事項

このセクションでは、Compute Optimizer を使用して Fargate タスクで Amazon ECS を適切なサイズに設定するための推奨事項を示します。

コスト最適化プロセスの一環として、以下を実行することをお勧めします。

- Compute Optimizer を有効にする
- Compute Optimizer の結果を消費する
- 適切なサイズにタスクをタグ付けする
- コスト配分タグによる AWS 請求ツールの使用を有効にする
- 適切なサイジングのレコメンデーションを実装する
- Cost Explorer でコストの前後に確認する

Compute Optimizer を有効にする

組織 [AWS Compute Optimizer](#) レベルまたは の単一アカウントレベルで を有効にできます AWS Organizations。組織全体の設定では、すべてのメンバーアカウントのフリート全体の新規および既存のインスタンスの継続的なレポートが提供されます。これにより、適切なサイジングをアクティビティではなく繰り返しのアクティビティに point-in-time することができます。

組織レベル

ほとんどの組織では、Compute Optimizer を使用する最も効率的な方法は組織レベルです。これにより、マルチアカウントおよびマルチリージョンで組織を可視化し、レビューのためにデータを 1 つのソースに一元化できます。これを組織レベルで有効にするには、次の手順を実行します。

1. [必要なアクセス許可](#) を持つロールを使用して [AWS Organizations 管理](#) アカウントにサインインし、この組織内のすべてのアカウントをオプトインすることを選択します。組織で、[すべての機能が有効になっている](#) 必要があります。
2. 管理アカウントを有効にしたら、アカウントにサインインし、他のすべてのメンバーアカウントを表示して、レコメンデーションを参照できます。

Note

Compute Optimizer の [委任管理者アカウント](#) を設定するのがベストプラクティスです。これにより、最小特権の原則を実行し、組織全体のサービスへのアクセスを提供しながら、AWS Organizations 管理アカウントへのアクセスを最小限に抑えることができます。

単一アカウントレベル

コストの高いアカウントをターゲットにしているが、にアクセスできない場合は AWS Organizations、そのアカウントとリージョンで Compute Optimizer を有効にできます。オプトインプロセスの詳細については、「[の開始方法 AWS Compute Optimizer](#)」を参照してください。

Note

レコメンデーションは毎日更新され、生成に最大 12 時間かかる場合があります。Compute Optimizer では、Fargate で Amazon ECS のレコメンデーションを生成するために、過去 14 日間に 24 時間のメトリクスが必要であることを注意してください。詳細については、Compute Optimizer ドキュメントの「[Fargate での Amazon ECS サービスの要件](#)」を参照してください。

Compute Optimizer は、Fargate の Amazon ECS サービスの次の Amazon CloudWatch および Amazon ECS 使用率メトリクスを自動的に分析します。

- CPUUtilization – サービスで使用される CPU 容量の割合。
- MemoryUtilization – サービスで使用されるメモリの割合。

Compute Optimizer の結果を消費する

1 つのアカウントと 1 つのリージョン内で適切なサイジング変更を行うことに焦点を当てた例を考えてみましょう。この例では、Compute Optimizer はすべてのアカウントで組織レベルで有効になっています。適切なサイジングは破壊的なプロセスであり、ほとんどの場合、数週間にわたるスケジュールされたメンテナンス期間中にアプリケーション所有者が正確に実行することに注意してください。

組織の管理アカウント内から Compute Optimizer に移動する場合 (次の手順を参照)、調査するアカウントを選択できます。この例では、1 つのタスクがでオーバースプロビジョニングされている 1 つのアカウントで実行されています us-east-1。焦点は、Amazon ECS サービスの推奨サイズへのサイズ変更です。

1. [Compute Optimizer コンソール](#) を開きます。
2. ダッシュボードページで、検出結果=過剰プロビジョニングでフィルタリングして、Fargate 上のすべての Amazon ECS サービスを表示します。
3. Fargate でオーバースプロビジョニングされた ECS サービスの詳細な推奨事項を確認するには、下にスクロールし、「推奨事項を表示」を選択します。

4. エクスポート を選択し、後で使用するためにファイルを保存します。

Note

今後のレビューのためにレコメンデーションを保存するには、Compute Optimizer が各リージョンで書き込むことができる S3 バケットが必要です。詳細については、Compute Optimizer ドキュメントの「[の Amazon S3 バケットポリシー AWS Compute Optimizer](#)」を参照してください。

Compute Optimizer からのレコメンデーションを表示するには、次の手順を実行します。

1. [Compute Optimizer コンソール](#) で、推奨事項のエクスポートページに移動します。
2. S3 バケットの送信先 で、S3 バケットを選択します。
3. エクスポートフィルターセクションのリソースタイプ で、Fargate の ECS サービスを選択します。
4. Fargate の「ECS サービスの推奨事項」ページで、Fargate の ECS サービスの 1 つをドリルダウンし、Compute Optimizer からの CPU とメモリの推奨事項を確認します。例えば、「推奨タスクサイズと現在の設定の比較」セクションの推奨事項と、「推奨コンテナサイズと現在の設定の比較」セクションを参照してください。

適切なサイズが必要な Fargate の ECS サービスのリストを取得するには、次の手順を実行します。

1. [Amazon S3 コンソール](#)を開きます。
2. ナビゲーションペインで、バケット を選択し、結果をエクスポートしたバケットを選択します。
3. オブジェクト タブで、オブジェクトを選択し、ダウンロード を選択します。
4. ダウンロードした結果で、結果列をフィルタリングして、Fargate の OVER_PROVISIONED Amazon ECS サービスのみを表示します。これは、適切なサイジングをターゲットにする予定の Amazon ECS サービスを示しています。
5. 後で使用するために、タスク定義をテキストエディタに保存します。

タグタスクの適切なサイジング

ワークロードにタグを付けることは、でリソースを整理するための強力なツールです AWS。タグを使用すると、コストをきめ細かく可視化し、チャージバックを有効にできます。チャージバックと自動化を処理するために AWS リソースにタグを追加する方法は多数あります。詳細については、

「リソースのタグ付けに関する AWS ホワイトペーパーのベストプラクティス」を参照してください。AWS 次の例では、を使用して [AWS CloudShell](#)、ターゲットアカウントおよび内の任意の Amazon ECS サービスの一部であるすべてのタスクにタグを付けます AWS リージョン。

```
#!/bin/bash
# Set variables
TAG_KEY="rightsizing"
TAG_VALUE="enabled"
# Get a list of ECS Clusters
ClustersArns=$( w secs list-clusters -query 'clusterArns' -output text)
for ClustersArn in $ClustersArns; do
  ServiceArns=$( w secs list-services -cluster $ClustersArn -query 'serviceArns' -output text)
  for ServiceArn in $ServiceArns; do
    TasksArns=$( w secs list-tasks -cluster $ClustersArn -service-name $ServiceArn -query 'taskArns' -output text)
    for TasksArn in $TasksArns; do
      w secs tag-resource -resource-arn $TasksArn -tags key=$TAG_KEY,value=$TAG_VALUE
    done
  done
done
```

次のコード例は、すべての Amazon ECS [サービスへのタグ伝達](#)を有効にする方法を示しています。

```
#!/bin/bash
# Set variables
TAG_KEY="rightsizing"
TAG_VALUE="enabled"
# Get a list of ECS Clusters
ClustersArns=$(aws ecs list-clusters --query 'clusterArns' --output text)
for ClustersArn in $ClustersArns; do
  ServiceArns=$(aws ecs list-services --cluster $ClustersArn --query 'serviceArns' --output text)
  for ServiceArn in $ServiceArns; do
    aws ecs update-service --cluster $ClustersArn --service $ServiceArn --propagate-tags SERVICE &>/dev/null
    aws ecs tag-resource --resource-arn $ServiceArn --tags key=$TAG_KEY,value=$TAG_VALUE
  done
done
```

コスト配分タグによる AWS 請求ツールの使用を有効にする

ユーザー定義のコスト配分タグをアクティブ化することをお勧めします。これにより、ライツサイジングタグが認識され、AWS 請求ツール (や など) AWS Cost Explorer でフィルタリングできるようになります AWS Cost and Usage Report。これを有効にしない場合、タグフィルタリングオプションとデータは使用できなくなります。コスト配分タグの使用については、ドキュメントの「[ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化](#)」を参照してください。AWS Billing and Cost Management

24 時間待ってから、次のセクションで適切なサイジングレコメンデーションを実装する前に、Cost Explorer で タグを確認できます。これを行うには、Cost Explorer で Rightsizing タグを検索します。

適切なサイジングのレコメンデーションを実装する

Compute Optimizer は、タスクまたはコンテナサイズのレコメンデーションを提供します。適切なサイジングレコメンデーションを実装するには、次の手順を実行します。

1. [Amazon ECS コンソール](#)を開きます。
2. ナビゲーションバーから、タスク定義を含むリージョンを選択します。
3. ナビゲーションペインで、[Task Definitions] を選択します。
4. [Task definitions] (タスク定義) ページでタスクを選択し、[Create new revision] (新しいリビジョンを作成する) を選択します。
5. [Create new task definition revision (タスク定義の新しいリビジョンの作成) ページで変更を加えます。コンテナサイズのレコメンデーションを更新するには、ECS タスク定義 memory の containerDefinitions ブロックで cpu と を更新します。 https://docs.aws.amazon.com/AmazonECS/latest/developerguide/task_definition_parameters.html#task_size例:

```
"containerDefinitions": [  
  {  
    "name": "your-container-name",  
    "image": "your-image",  
    "cpu": 1024,  
    "memory": 2048,  
  }  
],
```

6. 情報を確認し、[Create] (作成) を選択します。

Amazon ECS サービスを更新するには、次の手順を実行します。

1. [Amazon ECS コンソール](#)を開きます。
2. [Clusters] (クラスター) ページで、クラスターを選択します。
3. [Cluster overview] (クラスターの概要ページ) で、サービスを選択し、[Update] (更新) を選択します。
4. [Task definition] (タスク定義) の場合、使用するタスク定義ファミリーとリビジョンを選択します。

高度な演算子の場合は、CloudShell を使用して Amazon ECS サービスを更新できます。例:

```
bash
#!/bin/bash
# Set variables
ClustersName="workshop-cluster"
ServiceName="lab7-fargate-service"
TaskDefinition="lab7-fargate-demo:3"
# update the service
aws ecs update-service --cluster $ClustersName --service $ServiceName --task-definition
$TaskDefinition
```

コストの前後に確認する

リソースのサイズを適切に設定したら、Cost Explorer を使用して、適切なサイズ設定タグを使用してコストの前後に表示できます。[リソースタグ](#)を使用してコストを追跡できることを思い出してください。複数のタグレイヤーを使用することで、コストをきめ細かく可視化できます。このガイドで説明する例では、ライツサイジングタグを使用して、ターゲットとなるすべてのインスタンスに汎用タグを適用します。次に、チームタグを使用してリソースをさらに整理します。次のステップでは、アプリケーションタグを導入して、特定のアプリケーションの運用に伴うコストへの影響をさらに示します。

単一のアカウントレベルで Rightsizing タグを使用することで実現できるコスト削減の例を考えてみましょう。この例では、運用コストは 1 日あたり 30.26 USD から 1 日あたり 7.56 USD になります。1 か月あたり 744 時間と仮定すると、適切なサイジング前の年間コストは 11,044.9 USD です。適切なサイジングが完了すると、年間コストは 2,759.4 USD に削減されます。これにより、このアカウントのコンピューティングコストが 75% 削減されます。これを大規模な組織全体に与えた影響を想像してみてください。

適切なサイジングジャーニーを開始する前に、次の点を考慮してください。

- AWS には、コスト削減のための多くのオプションがあります。これには [AWS OLA](#) が含まれます。は、に移行する前にオンプレミスインスタンス AWS を確認します AWS。AWS OLA では、適切なサイズのレコメンデーションとライセンスガイドも提供されます。
- [Savings Plans](#) を購入する前に、すべての適切なサイズ設定を完了してください。これにより、Savings Plans コミットメントでの購入超過を回避できます。

次のステップ

次のステップを実行することをお勧めします。

1. 既存のランドスケープを確認し、Amazon EBS gp2 ボリュームを gp3 ボリュームに変換することを検討してください。
2. [Savings Plans](#)を確認します。

追加リソース

- [Compute Optimizer の開始方法](#) (AWS ドキュメント)
- [AWS リソースのタグ付けのベストプラクティス](#) (AWS ホワイトペーパー)
- [の Windows コンテナ AWS](#) (AWS Workshop Studio)

Amazon EKS のコストを可視化する

概要

Kubernetes デプロイのコストを効果的にモニタリングするには、全体像を把握する必要があります。唯一の固定コストと既知のコストは、Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) コントロールプレーンです。これには、コンピューティングやストレージからネットワークまで、デプロイを構成する他のすべてのコンポーネントが含まれます。これは、アプリケーションのニーズに応じて可変量です。

[Kubecost](#) を使用して、[名前空間](#)と[サービス](#)から個々の[ポッド](#)まで、Kubernetes インフラストラクチャのコストを分析し、ダッシュボードにデータを表示できます。Kubecost は、コンピューティングやストレージなどのクラスター内のコストと、[Amazon Simple Storage Service \(Amazon S3\)](#) バケットや [Amazon Relational Database Service \(Amazon RDS\)](#) インスタンスなどの out-of-cluster コストを表面化します。Kubecost は、このデータに基づいて適切なサイズのレコメンデーションを行い、システムに影響を与える可能性のある重要なアラートを表示します。Kubecost は [と統合AWS](#)

[Cost and Usage Report](#)して、[Compute Savings Plans](#)リザーブドインスタンス、およびその他の割引プログラムによる節約額を表示できます。

コスト上の利点

Kubecost は、Amazon EKS デプロイのコストを視覚化するレポートとダッシュボードを提供します。これにより、クラスターから、コントローラー、サービス、ノード、ポッド、ボリュームなどのさまざまな各コンポーネントにドリルダウンできます。これにより、Amazon EKS 環境で実行されているアプリケーションの全体像を把握できます。この可視性を有効にすると、Kubecost の推奨事項に基づいて行動したり、各アプリケーションのコストをきめ細かく表示したりできます。Amazon EKS ノードグループの適切なサイズ設定は、標準 EC2 インスタンスと同じ削減額を提供します。コンテナとノードのサイズを適切に設定できる場合は、コンテナの実行に必要なインスタンスのサイズと、自動スケーリンググループに必要な EC2 インスタンスの数からコンピューティングの肥大化を削除できます。

コスト最適化に関する推奨事項

Kubecost を利用するには、以下を実行することをお勧めします。

1. Kubecost を環境にデプロイする
2. Windows アプリケーションの詳細なコスト内訳を取得する
3. 適切なサイズのクラスターノード
4. 適切なサイズのコンテナリクエスト
5. 使用率の低いノードを管理する
6. 「放棄されたワークロード」
7. レコメンデーションに基づく行動
8. セルフマネージド型ノードの更新

Kubecost を環境にデプロイする

[Amazon EKS Finhack Workshop](#) では、AWS 所有アカウントで Kubecost を使用するように設定された Amazon EKS 環境をデプロイする方法について説明します。これにより、テクノロジーを実際に体験できます。組織でこのワークショップを実行することに関心がある場合は、アカウントチームにお問い合わせください。

[Helm](#) を使用して Kubecost を Amazon EKS クラスターにデプロイするには、[AWS と Kubecost が共同で EKS のお客様にコストモニタリングを提供する](#) AWS ブログ記事を参照してください。ま

たは、[Kubecost のインストールと設定の手順については、公式の Kubecost ドキュメント](#)を参照してください。Windows ノードの Kubecost サポートの詳細については、Kubecost ドキュメントの「[Windows ノードのサポート](#)」を参照してください。

Windows アプリケーションの詳細なコスト内訳を取得する

[Amazon EC2 スポットインスタンスを使用すると大幅なコスト削減を実現できますが、Windows ワークロードがステータスフルである傾向があることからメリットを得られます。スポットインスタンスの使用はアプリケーションによって異なります。ユースケースに該当するかどうかを確認することをお勧めします。](#)

Windows アプリケーションの詳細なコスト内訳を取得するには、[Kubecost にログイン](#)します。ナビゲーションページで、Savings を選択します。

適切なサイズのクラスターノード

[Kubecost](#) で、ナビゲーションバーから Savings を選択し、クラスターノードの適切なサイズを選択します。

Kubecost が vCPU と RAM の両方でクラスターが過剰にプロビジョニングされていることを報告する例を考えてみましょう。次の表は、Kubecost の詳細と推奨事項を示しています。

	Current	推奨事項: シンプル	推奨事項: 複雑
合計数	1 か月あたり 3,462.57 USD	1 か月あたり 137.24 USD	1 か月あたり 303.68 USD
ノード数	4	5	4
CPU	74 VCPUs	10 VCPUs	8 VCPUs
RAM	152 GB	20 GB	18 GB
インスタンスの内訳	2 c5.xlarge + 2 その他	5 t3a.medium	c5n.large 2 個 + その他 1 個

Kubecost ブログ記事「[Kubernetes クラスターに最適なノードセットを見つける](#)」で説明されているように、シンプルなオプションは単一のノードグループを使用し、複雑なオプションはマルチノードグループアプローチを使用します。「導入方法を学ぶ」ボタンを使用すると、ワンクリックでクラス

ターのサイズ変更を実行できます。[Kubecost クラスターコントローラー](#) をインストールする必要があります。

[eksctl](#) によって作成されていない[セルフマネージド型 Windows ノード](#)を使用している場合は、「[既存のセルフマネージド型ノードグループの更新](#)」を参照してください。これらの手順は、[Auto Scaling グループ](#) で使用される Amazon EC2 起動テンプレートでインスタンスタイプを変更する方法を示しています。

適切なサイズのコンテナリクエスト

[Kubecost](#) で、ナビゲーションバーから Savings を選択し、「適切なサイズのレコメンデーションをリクエストする」ページに移動します。このページには、ポッドの[効率](#)、適切なサイズのレコメンデーション、推定コスト削減が表示されます。カスタマイズ ボタンを使用して、クラスター、ノード、名前空間コントローラーなどでフィルタリングできます。

例として、Kubecost が CPU と RAM (メモリ) に関して一部のポッドがオーバプロビジョニングされていると計算したとします。次に、Kubecost では、新しい CPU 値と RAM 値に調整して、月間削減額の見積もりを達成することを推奨しています。CPU と RAM の値を変更するには、[デプロイマニフェスト](#) ファイルを更新する必要があります。

使用率の低いノードを管理する

[Kubecost](#) で、ナビゲーションバーから Savings を選択し、使用率の低いノードの管理 を選択します。

このページで、クラスター内の 1 つのノードが CPU と RAM (メモリ) の点で十分に活用されていないため、ドレインして終了またはサイズ変更できる例を考えてみましょう。ノードとポッドのチェックに合格しないノードを選択すると、ドレインできない理由に関する詳細情報が得られます。

「放棄されたワークロード」

[Kubecost](#) で、ナビゲーションバーから Savings を選択し、Abandoned Workloads ページを選択します。この例では、Windows という名前空間でフィルタリングします。このページには、トラフィックのしきい値に達しておらず、中止されたと見なされるポッドが表示されます。ポッドは、定義された期間に一定量のネットワークトラフィックを送受信する必要があります。

1 つ以上のポッドが中止されたことを慎重に検討した後、レプリカ数をスケールダウンしたり、デプロイを削除したり、リソースを消費しないようにサイズを変更したり、デプロイが中止されたと思われることをアプリケーション所有者に通知したりすることで、コストを節約できます。

レコメンデーションに基づく行動

「クラスターノードの適切なサイズ」セクションで、Kubecost はクラスター内のワーカーノードの使用状況を分析し、コストを削減するためにノードの適切なサイズ設定に関するレコメンデーションを行います。Amazon EKS で使用できるノードグループには、[セルフマネージド型](#)と[マネージド型の 2 種類](#)があります。

セルフマネージド型ノードの更新

セルフマネージド型ノードの更新については、Amazon EKS ドキュメントの「[セルフマネージド型ノードの更新](#)」を参照してください。で作成されたノードグループは更新eksctlできないため、新しい設定で新しいノードグループに移行する必要があることが示されます。

例として、(m5.2xlarge EC2 インスタンスng-windows-m5-2xlarge を使用する) という名前の Windows ノードグループがあり、ポッドを ng-windows-t3-large (コストを節約するために t3.large EC2 インスタンスによってバックアップされる) という名前[の新しいノードグループ](#)に移行するとします。

によってデプロイされたノードグループを使用するときに新しいノードグループに移行するにはeksctl、次の手順を実行します。

1. ポッドが現在存在するノードを見つけるには、`kubectl describe pod <pod_name> -n <namespace>` コマンドを実行します。
2. `kubectl describe node <node_name>` コマンドを実行します。出力は、ノードが m5.2xlarge インスタンスで実行されていることを示しています。また、ノードグループ名 () と一致しますng-windows-m5-2xlarge。
3. ノードグループを使用するようにデプロイを変更するにはng-windows-t3-large、ノードグループを削除ng-windows-m5-2xlargeして を実行しますkubectl describe svc,deploy,pod -n windows。ノードグループが削除された時点で、デプロイはすぐに再デプロイを開始します。

Note

ノードグループを削除すると、サービスのダウンタイムが発生します。

4. 数分後に`kubectl describe svc,deploy,pod -n windows`コマンドを再度実行します。出力は、ポッドがすべて再び実行状態であることを示しています。

5. ポッドがノードグループで実行されていることを表示するには `ng-windows-t3-large`、`kubectl describe pod <pod_name> -n <namespace>` および `kubectl describe node <node_name>` コマンドを再度実行します。

代替のサイズ変更方法

この方法は、セルフマネージド型またはマネージド型ノードグループの任意の組み合わせに適用されます。ブログ記事「[EKS セルフマネージド型ノードグループから EKS マネージド型ノードグループへのワークロードのシームレスな移行](#)」では、オーバーサイズのインスタンスタイプの 1 つのノードグループから、ダウンタイムなしで適切なサイズのノードグループにワークロードを移行する方法に関するガイドを提供しています。

次のステップ

Kubecost を使用すると、Amazon EKS 環境のコストを簡単に視覚化できます。Kubecost と Kubernetes および AWS APIs の深い統合は、潜在的なコスト削減を見つけるのに役立ちます。これらは、Kubecost の Savings ダッシュボードでレコメンデーションとして確認できます。Kubecost は、[クラスターコントローラー機能](#) を通じてこれらの推奨事項の一部を実装することもできます。

「」の step-by-step デプロイを確認することをお勧めします。[AWS また、「コンテナブログ」のブログ記事「Kubecost collaborate to deliver cost monitoring for EKS customers」](#) を参照してください。AWS

追加リソース

- [Amazon EKS ワークショップ](#) (Amazon EKS ワークショップ)
- [AWS と Kubecost が共同で EKS のお客様にコストモニタリングを提供](#) (AWS ブログ)
- [Amazon EKS Finhack Workshop](#) (AWS Workshop Studio)
- [の Windows コンテナ AWS](#) (AWS Workshop Studio)

Windows アプリケーションを App2Container でリプラットフォームする

概要

[AWS App2Container](#) は、Java および .NET ウェブアプリケーションをコンテナに移行およびモダナイズするためのコマンドラインツールです。App2Container は、ベアメタル、仮想マシン、Amazon

Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンス、またはその他のクラウドプロバイダーで実行されているすべてのアプリケーションのインベントリを分析して構築します。コンテナ化するアプリケーションを選択します。App2Container は、アプリケーションのアーティファクトと依存関係をコンテナイメージにパッケージ化し、ネットワークポートを設定し、Infrastructure as Code (IaC) テンプレートである必要な Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) と Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) のデプロイアーティファクトを生成します。App2Container は、コンテナ化されたアプリケーションを本番環境にデプロイするために必要なクラウドインフラストラクチャと CI/CD パイプラインをプロビジョニングします。詳細については、[App2Container ドキュメントの「App2Container の仕組みApp2Container」](#) を参照してください。

App2Container を使用すると、アプリケーションのデプロイ AWS とオペレーションを標準化しながら、アプリケーションをコンテナとして移行してモダナイズできます。App2Container を使用すると、概念実証 (PoC) を迅速に構築したり、コンテナへの本番ワークロードのデプロイを高速化したりできます。

Windows アプリケーションを使用する際に留意すべき点がいくつかあります。App2Container は、Microsoft Internet Information Services (IIS) にデプロイされた ASP.NET アプリケーションのコンテナ化をサポートしています。これには、Windows Server 2016、Windows Server 2019、または Windows Server Core 2004 で実行される IIS がホストする Windows Communication Foundation (WCF) アプリケーションが含まれます。詳細については、App2Container ドキュメントの[「Windows でサポートされているアプリケーション」](#) を参照してください。App2Container は、コンテナアーティファクトのベースイメージとして Windows Server Core を使用し、Windows Server Core コンテナバージョンを、コンテナ化コマンドを実行するサーバーのオペレーティングシステム (OS) バージョンと一致させます。このアプローチは、アプリケーションを基盤となる OS から切り離し、従来の移行を実行せずに OS をアップグレードできるようにします。

ワーカーマシンを使用してアプリケーションをコンテナ化する場合、Windows Server 2019 長期サービスチャネル (LTSC) などのコンテナベースイメージは、Windows Server 2019 などのワーカーマシン OS と一致します。アプリケーションサーバーで直接コンテナ化を実行している場合、バージョンはアプリケーションサーバーの OS と一致します。アプリケーションが Windows Server 2008 または 2012 R2 で実行されている場合でも、コンテナ化とデプロイのステップ用にワーカーマシンを設定することで、App2Container を使用できます。App2Container は、Windows 7 や Windows 10 などの Windows クライアントオペレーティングシステムで実行されているアプリケーションをサポートしていません。App2Container は、Java プロセス用の Tomcat、TomEEJBoss (スタンドアロンモード) フレームワークをサポートしています。詳細については、[App2Container の互換性](#)」を参照してください。

コスト上の利点

アプリケーションをコンテナ化して統合すると、one-application-to-oneサーバーのデプロイ設計パターンと比較して、[コンピューティングコストが最大 60% 削減](#)されます。App2Container は、アプリケーションのコンテナ化プロセスを迅速化するために役立ちます。以下は、モダナイゼーションのニーズに合わせて App2Container を使用する利点の一部です。

- App2Container は追加料金なしで提供されます。
- App2Container は、コンテナイメージ内の複数のアプリケーションをサポートします。
- App2Container を使用してレガシー .NET アプリケーションをコンテナに移動することで、サポート終了に近づいているオペレーティングシステムに対処します。より新しいオペレーティングシステムに移行し、延長サポートの費用を回避し、セキュリティリスクを軽減できます。
- コンテナは、.NET アプリケーションをパッケージ化する効率的で費用対効果の高い方法です。[MACO レコメンデーション - コンテナへの移行のコンテナの利点を確認します](#)。
- アプリケーションの統合とコンテナ化は、コンピューティングリソースをより効率的に使用することで、コンピューティング、ストレージ、ライセンスのフットプリントを削減するのに役立ちます。
- コンテナに移行すると、運用上のオーバーヘッドとインフラストラクチャのコストを削減し、開発の移植性とデプロイの俊敏性を高めることができます。

コスト最適化に関する推奨事項

App2Container の使用方法については、「[「の開始方法 AWS App2Container」](#)」を参照してください。App2Container コマンドの詳細については、「[App2Container コマンドリファレンス](#)」を参照してください。

次のステップ

App2Container は、アプリケーションをコンテナ化し、Amazon EKS または Amazon ECS にデプロイするプロセスを高速化できます。コンテナへのアプリケーションのデプロイにより、コンピューティング、ネットワーク、ストレージのコストを削減し、アプリケーションオペレーターの運用オーバーヘッドを削減できます。

App2Container の実践的なエクスペリエンスについては、「[Modernize with AWS App2Container Workshop](#)」を参照してください。深層学習の経験が必要な場合は、AWS アカウントチームに App2Container のイメージondeer を設定するよう依頼してください。

追加リソース

- [を使用した複雑な多層 Windows アプリケーションのコンテナ化 AWS App2Container](#) (AWS ブログ記事)
- [を使用したレガシー ASP.NET アプリケーションのコンテナ化 AWS App2Container](#) (AWS ブログ記事)
- [App2Container がサポートするアプリケーション](#) (AWS ドキュメント)
- [Modernize with AWS App2Container Workshop](#) (AWS Workshop Studio)
- [AWS App2Container FAQs](#) (AWS ウェブサイト)

[Storage (ストレージ)]

Microsoft ワークロードに適したストレージを選択することは、アーキテクチャ上の重要な決定事項です。意思決定プロセスの一環として、ストレージプランを作成し、アプリケーションとサービスの機能要件を決定することをお勧めします。この章では、計画に反映される可能性のある以下のストレージオプションの概要を説明します。

セクション:

- [Amazon EBS](#)
- [Amazon FSx](#)
- [AWS Storage Gateway](#)

Amazon EBS

Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスで使用できる永続的なブロックレベルのストレージボリュームを保存できる、フルマネージド型のブロックストレージサービスです。Amazon のいくつかの機能を活用して EBS、クラウド内の Windows ワークロードのストレージリソースを効果的に管理および最適化できます。例えば、Amazon を使用してワークロードに必要な正確な量 IOPS とスループットを EBS プロビジョニングし、ワークロードの要件に合わせてさまざまなボリュームタイプから選択し、ツールを使用して無駄なストレージリソースを特定して排除できます。ストレージのパフォーマンスと使用状況をきめ細かく制御することで、不要なコストを回避しながらストレージリソースを最適化できます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [Amazon EBS ボリュームを gp2 から gp3 に移行する](#)
- [Amazon EBS スナップショットの変更](#)
- [アタッチされていない Amazon EBS ボリュームを削除する](#)

Amazon EBS ボリュームを gp2 から gp3 に移行する

概要

ソリッドステートドライブ (SSD) は、本番稼働用および高性能ワークロード用の標準ストレージオプションです。Amazon EBS は、中～高パフォーマンスのワークロード向けに [汎用 SSD ボリューム](#)

△を提供しています。多くの AWS のサービス (Amazon を含む EC2) の標準は、これらの汎用 SSD ポリユームの第 2 世代である [gp2](#) です。[gp3](#) SSDs と呼ばれる第 3 世代の汎用は、2020 年 12 月にリリースされました。

gp3 の提供は、前世代と比較してパフォーマンスのカスタマイズの側面を大幅に改善しました。Amazon gp2 EBS ポリユームの場合、パフォーマンスはポリユームのサイズと密接に結合されます。1 GB の容量ごとに、gp2 ポリユームは 3 IOPS ずつのパフォーマンスを取得します。つまり、2,000 GB の gp2 ポリユームは 6,000 個まで可能です。IOPS。gp3 ポリユームの場合、パフォーマンスはストレージ容量とは別にカスタマイズできます。これにより、少量の容量でも最大 16,000 IOPS および 1,000 Mb/秒のスループットのパフォーマンス機能を実現できます。

gp3 ポリユームのもう 1 つの大きな変化は、ベースライン IOPS パフォーマンスです。gp3 ポリユームは 3,000 から始まります。IOPS。これに対して、gp2 ポリユームは、同じパフォーマンス機能に到達する前に 1 TiB のサイズに達する必要があります。通常 C: ドライブが 1 TiB よりはるかに小さい Windows Server の場合、gp2 から gp3 へのアップグレードはパフォーマンスを大幅に向上させます。

最後に、gp3 ポリユームの料金は、gp2 ポリユームと比較して最も大きな改善点の 1 つです。gp3 ポリユームは、gp2 ポリユームのコストの 20% で強化されたパフォーマンス機能をすべて提供します。

コストへの影響

パフォーマンスを容量から独立してスケーリングできるため、IOPS とスループットを追加する際の料金面を理解することが重要です。gp2 ポリユームの場合、料金は、GiB - 月あたり 0.10 USD のプロビジョニングされた容量に基づいています。gp3 ポリユームの場合、料金は高性能 [プロビジョニングされた容量](#) に似ています。この IOPS SSD ポリユームには容量に 1 つのコストがかかり、追加 IOPS とスループットに別のコストがかかります。

次の表で示すように、gp3 ポリユームの容量料金は GiB - 月あたり 0.08 USD (gp2 より 20% 安価) で、個別のコストは IOPS のプロビジョニング済み IOPS - 月あたり 0.005 USD が 3,000 を上回り、プロビジョニング済み MiBs - 月あたり 0.04 USD がスループット MiBs 用です。

	gp3	gp2
ポリユームサイズ	1 GiB – 16 TiB	1 GiB – 16 TiB
ベースライン IOPS	3,000	3 IOPS/GiB (最小 100 IOPS) ~ 最大 16,000 IOPS

	gp3	gp2
		1 TiB 未満のボリュームは最大 3,000 までバーストできます IOPS
最大 IOPS/ ボリューム	16,000	16,000
ベースラインスループット	125 MiBs	スループット制限は MiBs、ボリュームサイズに応じて 128 MiBs ~ 250 です。
最大スループット/ボリューム	1,000 MiBs	250 MiBs
価格	0.08 USD/GiB - 月 3,000 件以上の IOPS 無料 3,000 件、0.005 USD/プロビジョニング済み IOPS- 月 125 を上回って 1 MiBs か月あたり 125 MiBs 無料、0.04 USD/プロビジョニング MiBs	月あたり 0.10 USD/GiB

⚠ Important

gp3 ボリュームには容量とパフォーマンスのコストが別途ありますが、gp3 ボリュームが同じパフォーマンスレベルで設定されている場合、gp2 ボリュームよりも常に安価です。

次の表は、さまざまな容量およびパフォーマンス設定で gp2 ボリュームを gp3 ボリュームに変換することで実現できるコスト削減の例を示しています。

gp2 設定の例

ボリュームサイズ (GiB)	最大 IOPS	スループット (MiBs)	コスト (USD/月)
30	3000	128	3.00 USD
100	3000	128	10.00 USD
500	3000	250	50.00 USD
1,000	3000	250	100.00 USD
2000	6000	250	200.00 USD
6000	16000	250	600.00 USD

gp3 (ベースライン) 設定の例

最大 IOPS	スループット (MiBs)	コスト (USD/月)	コスト削減 (gp2 と比較)
3000	125	2.40 USD	20%
3000	125	8.00 USD	20%
3000	125	40.00 USD	20%
3000	125	80.00 USD	20%
3000	125	160.00 USD	20%
3000	125	480.00 USD	20%

gp3 (gp2 マッチング) 設定の例

最大 IOPS	スループット (MiBs)	コスト (USD/月)	コスト削減 (gp2 と比較)
3000	128	2.52 USD	16%

最大 IOPS	スループット (MiBs)	コスト (USD/月)	コスト削減 (gp2 と比較)
3000	128	8.12 USD	19%
3000	250	45.00 USD	10%
3000	250	85.00 USD	15%
6000	250	180.00 USD	10%
16000	250	550.00 USD	8%

コスト分析については、[Amazon EBSリソース](#) EBS の「gp2 から gp3 への移行コスト削減計算ツール」セクションを参照してください。計算ツールをダウンロードし、それを使用して gp2 ボリュームを gp3 に移行することで節約できる量を確認できます。

コスト最適化に関する推奨事項

移行プロセスを完了する方法については、AWS ストレージブログの「[Amazon EBSボリュームを gp2 から gp3 に移行し、コストを最大 20% 削減する](#)」を参照してください。

追加リソース

- [Amazon EBSボリュームを gp2 から gp3 に移行し、コストを最大 20% 削減](#) (AWS ストレージブログ)
- [Amazon EBSボリュームタイプを最適化するための AWS Config カスタムルール](#)の構築 (AWS クラウド運用と移行ブログ)
- [未使用の Amazon EBSボリュームを削除して AWS コストを制御する](#) (AWS クラウドオペレーションと移行ブログ)
- [Amazon EBS Migration Utility](#) (GitHub)
- [2020 年の re:Invent 発表からのコスト削減](#)の発見 (AWS クラウド財務管理)
- [コスト最適化ワークショップ](#) (AWS Well-Architected Labs)
- [gp2 から gp3 への移行コスト削減計算ツール](#) (ダウンロード)

Amazon EBSスナップショットの変更

概要

EBS ボリュームを削除し、スナップショットの保持とアーカイブを管理することは、最初からコストを制御する上で重要な側面です。point-in-time スナップショットを作成することで、EBS ボリュームのデータを Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) にバックアップできます。スナップショットは増分バックアップであるため、最新のスナップショットの後に変更されたデバイスのブロックのみを保存します。これにより、スナップショットを作成するのに要する時間が最小限に抑えられ、データを複製しないことで、ストレージコストが節約されます。各スナップショットには、データを新しいEBSボリュームに (スナップショットが作成された時点から) 復元するために必要なすべての情報が含まれています。

EBS スナップショットの料金はギガバイト月単位で計算されます。スナップショットのサイズとスナップショットの保持期間に対して課金されます。料金はストレージ層によって異なります。[標準階層](#)の場合、保存されている変更されたブロックに対してのみ課金されます。アーカイブ階層の場合、保存されているすべてのスナップショットブロックに対して課金されます。また、[アーカイブ階層](#)からスナップショットを取得するためにも課金されます。各ストレージ階層のシナリオの例を次に示します。

- 標準階層 – 100 GB のデータを保存しているボリュームがあります。最初のスナップショット (スナップ A) の 100 GB の全データに対して課金されます。次のスナップショット (スナップ B) の時点では、105 GB のデータがあります。その後、増分スナップ B の追加ストレージ 5 GB に対してのみ課金されます。
- アーカイブ階層 – スナップ B をアーカイブします。スナップショットはアーカイブ階層に移動され、105 GB のスナップショットブロック全体に対して課金されます。

[Amazon Data Lifecycle Manager](#) を使用すると、スナップショットをスケジュールどおりに保持および管理するためのライフサイクルを設定できます。

コストへの影響

EBS ボリュームとスナップショットの料金は個別に管理されます。EBS スナップショットは、アクティブなEBSボリュームよりも低いレートで請求されます。インスタンスが終了すると、アタッチされた各EBSボリュームの [DeleteOnTermination 属性](#)の値が、ボリュームを保持するか削除するかを決定します。デフォルトでは、ルートボリュームの DeleteOnTermination 属性は True に設定されます。他のすべてのボリュームタイプ False ではに設定されます。これにより、オペレータが

EC2インスタンスを削除しようとしたが、ルートボリュームに加えてインスタンスに追加されたボリュームを残す状況が発生します。不要になったボリューム (および関連するスナップショット) を確認する手順については、Amazon EBSドキュメントの「[Amazon EBSボリュームに関する情報](#)を表示する」を参照してください。

デフォルトでは、スナップショットを作成すると、そのスナップショットは Amazon EBS Snapshot Standard 階層 (標準階層) に保存されます。標準階層に保存されるスナップショットは、増分です。これは、最新のスナップショットが作成された後に変更された、ボリューム内のブロックのみが保存されることを意味します。[Amazon EBS Snapshots Archive](#) は、アクセス頻度の低いスナップショットや高速取得を必要としないスナップショットを低コストで長期保存するために使用できる新しいストレージ階層です。標準とアーカイブの料金の違いは大きく、スナップショット戦略を設定する際の重要な考慮事項となるはずですが、Amazon EBS Snapshots Archive では、90 日以上保存する予定で、ほとんどアクセスする必要のないスナップショットのスナップショットストレージコストが最大 75% 削減されます。

Amazon EBS スナップショットストレージ	コスト
標準	0.05 USD/GB/月
アーカイブ	0.0125 USD/GB/月

小規模な環境では、コスト削減はそれほど大きくない場合があります。EBS ボリュームが削除された場合でも、複数のアカウントと数千TBsのEBSスナップショットがあるEC2インスタンスが存在する大規模な環境では、節約額がより大きくなります。

次の表は、1 か月あたりの標準階層とアーカイブ階層の使用量をわずか 50 TB で比較したものです。この低い規模でも、年間数千ドルの節約になります。

Amazon EBS スナップショットストレージ	1 か月あたりのコスト	1 年あたりのコスト
スタンダード 50 TB	312.50 USD	3,750 USD
アーカイブ 50 TB	78.13 USD	937.60 USD
	年間削減額	2,812.40 USD

コスト最適化に関する推奨事項

スナップショットを削除しても、組織のデータストレージコストが減少しない場合があります。他のスナップショットはそのスナップショットのデータを参照する場合があります。参照されたデータは常に保持されます。たとえば、最初にデータボリュームが 10 GiB のスナップショットを取得した場合は、スナップショットのサイズも 10 GiB になります。スナップショットは増分バックアップであるため、2 回目に同じボリュームのスナップショットを取得した場合は、最初のスナップショットを取得後に変更したデータブロックのみ含まれます。2 回目のスナップショットで、最初のスナップショットのデータを参照することもできます。4 GiB のデータを変更して 2 番目のスナップショットを作成する場合、2 番目のスナップショットのサイズは 4 GiB です。また、2 番目のスナップショットでは、最初に取得した、変更していない 6 GiB のスナップショットを参照できます。詳細については、「[AWS ナレッジセンター](#)」の EBS「[ボリュームのスナップショットを削除してからボリューム自体を削除した後、ストレージコストが削減されなかったのはなぜですか？](#)」を参照してください。

以下の点を考慮します。

- 別の AWS アカウント 所有し、自分のアカウントと共有しているスナップショットに対しては請求されません。共有スナップショットをアカウントにコピーした場合にのみ請求されます。また、共有スナップショットから作成した EBS ボリュームに対しても課金されます。
- スナップショット (スナップ A) が別のスナップショット (スナップ B) から参照されている場合、スナップ B を削除してもストレージコストは削減されない可能性があります。スナップショットを削除すると、そのスナップショットに固有のデータのみが削除されます。他のスナップショットによって参照されるデータは残り、この参照されたデータに対して課金されます。増分スナップショットを削除するには、Amazon EBS ドキュメントの「[増分スナップショットの削除](#)」を参照してください。

でワークロードを実行する場合、スナップショットの冪等性は標準的な運用方法です AWS。時間の経過とともに、スナップショットは不要なデータに対して合計してコストがかかる可能性があります。

追加リソース

- [未使用の Amazon EBS ボリュームを削除して AWS コストを制御する](#) (AWS クラウドオペレーションと移行ブログ)
- [Amazon EBS スナップショットの削除](#) (Amazon EBS ドキュメント)
- [コスト最適化ワークショップ](#) (AWS Well-Architected Labs)

- [Amazon Data Lifecycle Manager EBS を使用して Amazon スナップショットを自動的にアーカイブする \(AWS ストレージブログ\)](#)

アタッチされていない Amazon EBS ボリュームを削除する

概要

ボリュームがアタッチされていない (孤立している) と、AWS 環境に不要なストレージコストが発生する EBS 可能性があります。使用していないボリュームや使用されていない EBS ボリュームの定期的なレビューと削除は、AWS 環境の健全性の一環として組み込むことが不可欠です。EBS ボリュームの使用状況を継続的に確認するためのプロセスを設定するのがベストプラクティスです。を使用して [AWS Compute Optimizer](#)、使用率の低いインスタンスを確認できます。このセクションでは、アタッチされていないボリュームや十分に活用されていない EBS ボリュームを特定、管理、削除します。

Amazon EBS

[Amazon Elastic Block Store \(Amazon EBS\)](#) は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスのストレージボリュームを提供するブロックレベルのデバイスです。EBS は永続的ストレージを提供し、EC2 インスタンスとのアタッチとデタッチを柔軟に行うことができます。つまり、EC2 インスタンスが終了しても、EBS ボリュームのライフサイクルは保持されます。[DeleteOnTermination](#) 属性は、インスタンスの終了時にアタッチされた EBS ボリュームを保持するか削除するかを制御する機能です。デフォルトでは、ルートボリューム `True` の属性は `True` に設定され、削除されます。他のボリューム `False` では `False` に設定され、保存されます。

コストへの影響

アタッチされていない EBS ボリュームは、未使用ボリュームまたは孤立したボリュームとも呼ばれ、プロビジョニングされたストレージサイズとストレージタイプに基づいてアタッチされたボリュームと同じ料金が発生します。Amazon の EBS 料金の平均コストは 1 GB あたり 0.10 USD と最小限に見える場合がありますが、未使用の EBS ボリュームが蓄積されると、時間の経過とともに多大なコストが発生する可能性があることを認識することが重要です。

例えば、次の表に示すように、それぞれが 100 GB のストレージサイズでプロビジョニングされた 50 個の未使用の EBS ボリュームを保持することによる影響を考えてみましょう。

ストレージポリシーの数	ポリシータイプ	サイズ	合計月額コスト
50 ポリシー	gp2 (0.10 USD)	100 GB	100 GB 50.00 EBS ポリシー月 \$0.10 USD = \$500.00 USD

前の表のシナリオでは、1 か月あたり約 500 USD、つまり年間 6,000 USD のコスト削減が得られます。これはコスト削減のための効果的なステップです。アタッチされていない EBS ポリシーの削除は、通常のプラクティスとして AWS 環境の健全性に組み込んでください。

コスト最適化に関する推奨事項

を使用して AWS、アタッチされていない EBS ポリシーの削除を簡単に自動化できます。例えば、AWS Lambda、AWS Config、Amazon CloudWatch、および Amazon CloudWatch を使用して CloudWatch、経過時間、タグ、その他の仕様に基づいて、アタッチされていないポリシーを削除する基準 AWS Systems Manager を定義できます。これらを使用して AWS のサービス、クリーンアッププロセスを大規模に自動化することもできます。

意図しない結果を避けるため、添付されていない EBS ポリシーを削除する前に、デューデリジェンスを実行することをお勧めします。

アタッチされていない EBS ポリシーの管理

以下のベストプラクティスを検討することをお勧めします。

- コンプライアンス要件を満たす – アタッチされていない EBS ポリシーの削除が組織のガバナンスおよびコンプライアンス要件に準拠していることを確認します。
- データのバックアップポリシーと保持ポリシーを設定する – アタッチされていない EBS ポリシーを削除する前に、重要なデータを別のストレージリポジトリ ([Amazon S3](#)) にバックアップします。データ保持の場合、[Amazon EBS スナップショット](#) は EBS ポリシーよりもコスト効率の高い方法でデータを保持し、将来必要に応じてポリシーを復元できます。スナップショットの効果的な管理の詳細については、このガイドの「[Amazon EBS スナップショットの変更](#)」セクションを参照してください。
- 依存関係をチェックする – アタッチされていない EBS ポリシーと他の AWS リソースの間に依存関係がないか確認します。[AWS Management Console](#) または [API](#) を使用して、サイズ、ステータス、関連リソースなど、EBS ポリシーに関する説明情報を収集できます。これは、一時的にアタッチされていないリソースを削除しないようにするための重要なステップです。

- 保持ポリシーを作成する – アタッチされていないEBSボリュームの保持期間を設定します。これにより、アタッチされていないボリュームを削除する適切な時間を特定し、AWS 環境を最適化し続けることができます。例えば、スケジュールに基づいて Lambda 関数を開始する [Amazon EventBridge](#) ルールを作成できます。Lambda 関数は、AWS SDK を使用して、アタッチされていないEBSボリュームをアクティブに識別し、追跡を容易にするためのタグ付けメカニズムを適用し、アタッチされていないEBSボリュームが定義されたしきい値に達したか超えたときに通知を送信できます。
- アタッチされていないEBSボリュームのタグ付け — [ボリュームのタグ付け](#)は、環境、アプリケーション、所有者などの属性に基づいてボリュームを整理および識別するのに役立つ便利なプラクティスです。EBSこれは、どの未アタッチボリュームを削除するかを決定するときに特に役立ちます。タグに基づいて不要になったボリュームをすばやく特定できるためです。
- 安全な削除の確認 — EBSボリュームが最後にアタッチされた日時を確認すると、ボリュームを削除しても安全かどうかを判断するのに役立ちます。詳細については、AWS ナレッジセンターの [AWS CLI 「コマンドを使用して特定の Amazon EBSボリュームの添付ファイルまたはデタッチ履歴を一覧表示する方法」](#) を参照してください。
- 使用率の低いEBSボリュームの特定と削除 — 使用率の低いEBSボリュームの特定と削除は、ストレージコストを削減し、最適化された AWS 環境を維持するために強く推奨されるプラクティスです。AWS Trusted Advisor また、[AWS Compute Optimizer](#)は、使用率の低いEBSボリュームを特定し、コストを削減し、効率を向上させるためのレコメンデーションを提供するのに役立ちます。例えば、「[\(GitHub\) によるEBSボリュームの最適化の自動化の設定 AWS Trusted Advisor](#)」、[Trusted Advisor 「組織 \(TAO\) ダッシュボードの確立 \(AWS Workshop Studio\)」](#)、「[を使用した Amazon EBSボリュームのコスト最適化 AWS Compute Optimizer](#)」 (AWS ストレージブログ) を参照してください。

アタッチされていないEBSボリュームのクリーニングを自動化する

アタッチされていないEBSボリュームのクリーニングを自動化するには、次のツールを検討することをお勧めします。

- [AWS APIs \(DescribeVolumes\)](#) – AWSSDKsまたは AWS Command Line Interface () を使用して、アタッチされていないEBSボリュームをフィルタリングして検索できますAWS CLI。スケジュールに従って実行されるスクリプトまたは [Lambda 関数](#)を使用してこのプロセスを自動化することで、時間と労力を節約できます。[のサンプルスクリプト](#) GitHub は、この仕組みを示しています。このスクリプトは Lambda を使用して AWS CloudTrail ログを分析し、アタッチされていないEBSボリュームを識別します。

- [AWS Systems Manager 自動化](#) — これにより、インフラストラクチャの定期的なメンテナンスと修復タスクを自動化できます。開始するには、[オートメーションランブックを作成します。このランブック](#)は、特定の順序で実行する一連のステップを定義します。例えば、まずアタッチされていないEBSボリュームのスナップショットを作成し、ボリューム自体を削除するランブックを作成できます。これにより、手動で実行すると時間がかかり、エラーが発生しやすいタスクを自動化できます。
- [AWS Config](#) – これにより、AWS リソースの変更を経時的に評価、監査、追跡できます。設定の変更をキャプチャすることで、AWS Config を使用して環境のコンプライアンス、ガバナンス、リソース使用率を評価できます。例えば、は[未使用のEBSボリューム](#)を識別 AWS Config できます。さらに、AWS Systems Manager オートメーションを [関連付け AWS Config](#) て、未使用のEBSボリュームの削除を自動的に修正できます。

追加リソース

- [AWS Config および を使用して未使用の Amazon Elastic Block Store \(Amazon EBS\) ボリュームを削除する AWS Systems Manager \(AWS 規範ガイド\)](#)
- [未使用の Amazon EBSボリュームを削除して AWS コストを制御する \(AWS クラウドオペレーションと移行ブログ\)](#)
- [AWSConfigRemediation-DeleteUnusedEBSVolume](#) (AWS Systems Manager オートメーションランブックリファレンス)

Amazon FSx

Amazon FSx for Windows File Server は、Windows ワークロード用に最適化されたフルマネージド型のファイルストレージサービスです。複雑なストレージインフラストラクチャ管理を必要とせず、Windows ベースのアプリケーションとワークロードを実行するためのシンプルでスケラブルなソリューションを提供します。FSx for Windows File Server を使用すると、Microsoft SQL Server、Microsoft、カスタム アプリケーションなど、Windows アプリケーションをネイティブにサポートする共有ファイルストレージを簡単にプロビジョニングしてアクセスできます。NETさらに、FSx for Windows File Server は、pay-as-you-go やストレージクォータなどの柔軟な料金オプションと、ストレージフットプリントを削減し、パフォーマンスとコストを最適化するための自動データ重複排除を提供することで、コストの管理に役立ちます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [適切なSMBファイルストレージを選択する](#)

- [Amazon でデータ重複排除を有効にする FSx](#)
- [FSx for Windows File Server のデータシャーディングを理解する](#)
- [Amazon でのHDDボリューム使用量を理解する FSx](#)
- [1つのアベイラビリティゾーンを使用する](#)

適切なSMBファイルストレージを選択する

概要

AWS は、最新の AWS インフラストラクチャのイノベーションとセキュリティを組み合わせながら、業界トップのファイルサービスの豊富な機能を提供するさまざまなフルマネージドストレージサービスを提供します。サービスをコードとしてのインフラストラクチャ (IaC) ワークフローに組み込み AWS、AWS コンピューティング、モニタリング、データ保護サービスと統合できます。Windows ワークロードでは、アプリケーションのニーズに応じて使用できる 2 つのフルマネージドファイルサービスから選択できます。Windows File Server FSx の場合は、Amazon FSx for の場合は NetApp ONTAP。

FSx for Windows File Server

Amazon FSx for Windows File Server は、Windows Server 上に構築されたフルマネージド型の共有ストレージを提供し、幅広いデータアクセス、データ管理、管理機能を提供します。FSx for Windows File Server は Windows ネイティブサービスであるため、Windows 環境と簡単に統合できます。ユーザーおよびグループ共有FSxには Windows File Server のを使用し、SQLサーバー、Windows アプリケーション、仮想デスクトップインフラストラクチャ (VDI) には Always On フェイルオーバークラスターインスタンスを使用することをお勧めします。FSx for Windows File Server は、Amazon FSx File Gateway、Amazon Kendra、Amazon S3 の監査ログ、および Amazon Data Firehose とも適切に統合されています。

ONTAP に関する FSx

FSx の ONTAPは、NetApp独自のONTAPファイルシステムに基づいています。ある程度のスキルアップが必要で、主に既存のオンプレミス NetApp ユーザーに推奨されます。一般的なユースケースには、ユーザーおよびグループ共有、SQLサーバー用 Always On フェイルオーバークラスターインスタンス、Windows アプリケーションなどがあります。FSx for ONTAP は、64 TB を超えるファイルシステム (DFS名前空間サーバーのない PB スケール)、クローン作成、レプリケーション、スナップショット、圧縮 (ストレージ効率)、およびデータのインテリジェントな階層化など、複数のプロトコルをサポートします。

コストへの影響

FSx for Windows File Server

FSx for Windows File Server は、SQLサーバー用のフェイルオーバークラスターインスタンスをデプロイ AWS するための最初の共有ストレージソリューションでした。FSx for Windows File Server では、SQLスタンダードエディションライセンスを使用してフェイルオーバークラスターインスタンスを起動できます。ただし、これにより、SQLサーバーエンタープライズエディションのライセンスを必要とする Always On 可用性グループに依存することができなくなります。SQL Server Enterprise Standard Edition から SQL Server Standard Edition に切り替えることで、[SQLサーバーライセンス](#) を 65~75% 節約できます。

for FSx Windows File Server for Failover Cluster Instances を使用して、ストレージ I/O を一般的な EBSストレージからオフロードできます。Windows File Server FSxの に I/O をオフロードすることで、ストレージスループットに影響を与えIOPSずに、Amazon の高EBSスループットと に依存する EC2インスタンスをスケールダウンできます。

ONTAP に関する FSx

FSx の ONTAPを使用して、ブロックプロトコル iSCSI で Microsoft フェイルオーバークラスターを実行し、SQLサーバーインスタントファイル初期化、 を使用したクロスリージョンレプリケーション SnapMirror、ウイルス対策サポート、クローン作成のメリットを受けることができます。テスト用のデータベースのコピーを複数作成する場合、クローンを作成すると、スペースの消費とそれらのデータベースコピーの作成速度の両方に大きな違いが生じる可能性があります。さらに、 を使用して NetApp SnapCenter、 のを使用して Server のEC2インスタンスのバックアップ、復元SQL、クローン機能を管理するFSxことができますONTAP。FSx の は、パフォーマンスとコスト効率を混在させるために、 から低コストの容量プールストレージSSDへの自動階層化ONTAPも提供します。

FSx for ONTAPは、Windows ネイティブ NetAppファイルシステムをサポートする FSx Windows File Server とは異なり、 のNTFSファイルシステム (ONTAP) をサポートします。FSx の最小サイズ ONTAPは 1024 GB ですが、Windows File Server FSxの は最低 32 GB で起動できます。

Microsoft 分散ファイルシステムとの統合

FSx for Windows File Server および FSx for は、Microsoft の[分散ファイルシステム \(DFS\)](#) と ONTAP統合して、既存のデプロイにシームレスに統合できます。アーキテクチャを計画するときは、次の点に注意してください。

- FSx Windows File Server 用の と FSx用の は、両方のデプロイタイプ (複数のアベイラビリティゾーンと単一のアベイラビリティゾーン [DFSDFS](#)) で [名前空間](#) () ONTAPをサポートします。

- Windows File Server FSxの のみがレ¹[DFSアプリケーション \(DFSR\)](#) をサポートし、単一のアベイラビリティゾーンを使用する場合にのみサポートされます。

コスト最適化に関する推奨事項

Windows File Server と FSxの両方のパフォーマンスFSxONTAPは、料金と同様に、設定によって大きく異なります。FSx for Windows File Server の料金は、主にストレージ容量とストレージタイプ、スループット容量、バックアップ、および転送されたデータによって異なります。for では FSxONTAP、SSDストレージ、キャパシティープールの使用量SSDIOPS、スループットキャパシティー、バックアップに対して料金が発生します。

ファイルサービス	5 TB ストレージのコスト	構成	リージョン
FSx for Windows File Server	982.78 USD	単一のアベイラビリティゾーン SSD (15,000 IOPS) 32 MBps 5 TB バックアップ (重複排除による節約なし)	米国東部 (バージニア北部)
ONTAP に関する FSx	979.28 USD	単一のアベイラビリティゾーン 100% SSD 15,000 読み込み/書き込みキャパシティー階層 15,000 SSD IOPS 128 MBps	米国東部 (バージニア北部)

ファイルサービス	5 TB ストレージのコスト	構成	リージョン
		5 TB バックアップ (重複排除による節約なし)	

以下に留意してください。

- 重複排除と圧縮により、データサイズを縮小することで物理デバイスにより多くのデータを保存できますが、プロビジョニングされたソリッドステートドライブ (SSD) またはハードディスクドライブ (HDD) ストレージに対して料金が発生します。
- FSx の を使用してデータを ONTAP 階層化できます。100% のデータに定期的にアクセスし、SSD ストレージを必要とすることは非常にまれです。コールドデータとアクセス頻度の低いデータをキャパシティー層に移動して、コスト削減を実現できます。
- ここで説明する料金は、階層の 100% のデータと SSD 階層の 15,000 SSD IOPS のデータで計算されます。

バックアップ

デフォルトでは、Windows File Server FSx の ONTAP と の両方 FSx がフルマネージドバックアップを Amazon S3 に保存します。ただし、FSx for では、 を使用してバックアップするための追加オプション ONTAP があります。これにより SnapVault、容量層内に存在するようにバックアップを設定できます。によるバックアップ SnapVault は、デフォルトのフルマネージドバックアップオプションよりもコスト効率の高いセルフマネージドメカニズムです。フルマネージドバックアップオプションは、1 GB あたり 0.05 USD です。FSx の SnapVault バックアップ ONTAP (容量プールストレージ SSD への 10:1) は 0.03221 USD ($0.9 \times 0.0219 + 0.1 \times 0.125$) です。

以下に留意してください。

- AWS マネージドバックアップは、1 時間の精度を提供します。[SnapVault](#) では、最低 5 分まで短縮できます。
- NetApp のツール (CLI や など API) を使用して、SnapVault 関係とスナップショットのレプリケーションを設定できます。
- SnapVault ボリュームの all 階層化ポリシーを有効にして、容量階層をバックアップデータのストレージとして使用します。

- SnapVault 送信先は、同じ AWS リージョン、クロスリージョン、またはオンプレミスにすることができます。これは通常、1つのアベイラビリティゾーンまたは複数のアベイラビリティゾーンのファイルシステムのバックアップ先です。これに対して、AWS Backup は Amazon S3 のリージョンの耐障害性にに基づいています。

適切なサイジング

また、適切なサイジングとオーバープロビジョニングの防止により、コストを節約し、ファイルシステムを最大限に活用することもできます。

適切なサイズにするには、次の操作を行います。

1. データに基づいて現在のニーズを特定します。一般的な Windows ワークロードでは、[Performance Monitor](#) などの組み込みオペレーティングシステムツールを使用できます。
2. Performance Monitor では、次のカウンターを使用して現在のパフォーマンスニーズを測定します。キャプチャ間隔は 1 秒に設定され、最大ログサイズは 1,000 MB で、上書きが有効になります。

```
Logman.exe create counter PerfLog-Short -o "c:\perflogs\PerfLog-Long.blg" -f bincirc -v mmdhmm -max 1024 -c "\LogicalDisk(*)\*" "\Memory\*" "\.NET CLR Memory(*)\*" "\Cache\*" "\Network Interface(*)\*" "\Paging File(*)\*" "\PhysicalDisk(*)\*" "\Processor(*)\*" "\Processor Information(*)\*" "\Process(*)\*" "\Thread(*)\*" "\Redirector\*" "\Server\*" "\System\*" "\Server Work Queues(*)\*" "\Terminal Services\*" -si 00:00:01
```

3. ログキャプチャを開始するには、`logman start PerfLog-Short` コマンドを実行します。ログキャプチャを停止するには、`logman stop PerfLog-Short` コマンドを実行します。

Note

パフォーマンスログファイルは、キャプチャを実行しているサーバーの `c:\perflogs` にあります。詳細については、Microsoft ドキュメントの「[Windows Performance Monitor の概要](#)」を参照してください。

4. 正しい設定を特定したら、Microsoft などのディスクストレスツールを使用して、Amazon FSx ファイルシステムで見積りが正しいかどうかをテストします [DISKSPD](#)。
5. パフォーマンスに満足している場合は、ファイル共有にカットオーバーします。

ストレージ容量はスケールアップのみできるため、控えめにアプローチすることをお勧めします。スループットキャパシティは、必要に応じてスケールアップおよびスケールダウンできます。

追加リソース

- [Amazon FSx for NetApp ONTAP FAQs](#) (AWS ウェブサイト)
- [新しいメトリクスによる Amazon FSx for Windows File Server のパフォーマンスの最適化](#) (AWS ストレージブログ)

Amazon でデータ重複排除を有効にする FSx

概要

データ重複排除は、データをより効率的に、より少ない容量要件で保存できる機能です。これには、データの忠実度や完全性を損なうことなく、データ内の重複を見つけて削除することが含まれます。データ重複排除では、サブファイル可変サイズのチャンク化と圧縮を使用します。これにより、一般的なファイルサーバーでは 2:1、仮想化データでは最大 20:1 の最適化率が得られます。データ重複排除は、NTFS 圧縮よりもはるかに効果的です。重複排除アーキテクチャには、ハードウェア障害時の回復性があります。メタデータの冗長性や最もアクセス頻度の高いデータチャンクなど、データとメタデータに対する完全なチェックサム検証があります。

FSx for Windows File Server は、データ重複排除を完全にサポートしています。これを使用すると、汎用ファイル共有の平均削減率が 50~60% になります。共有内では、削減額はユーザードキュメントで 30~50%、ソフトウェア開発データセットで最大 70~80% の範囲です。データ重複排除で実現できるストレージの節約は、ファイル間での重複量など、データセットの性質によって異なることを理解することが重要です。保存されるデータが本質的に動的である場合、重複排除は適切なオプションではありません。

コストへの影響

エンタープライズにおけるデータストレージの増加に対応するために、管理者はサーバーを統合し、容量スケールリングとデータ最適化の主要な目標を作成します。データ重複排除のデフォルト設定により、すぐに節約できます。また、管理者が設定を微調整して、追加のメリットを確認することもできます。例えば、特定のファイルタイプでのみ実行するように重複除外を設定したり、カスタムジョブスケジュールを作成したりできます。

大まかに言うと、重複排除には、最適化、ガベージコレクション、スクラブの 3 種類のジョブがあります。最適化後にガベージコレクションジョブを実行するまで、スペースは解放されないことに注

意してください。ジョブはスケジュールすることも、手動で実行することもできます。データ重複排除ジョブをスケジュールするときには使用できるすべての設定は、ジョブを手動で開始するときにも利用できます (スケジュール固有の設定を除く)。

重複排除による実質的な削減率は 25% にすぎませんが、FSx for Windows File Server では大幅なコスト削減が可能です。これらの削減額は、「」の[見積り](#)に基づいています AWS Pricing Calculator。

コスト最適化に関する推奨事項

FSx for Windows File Server ファイルシステムの重複排除は、デフォルトでは有効になっていません。[リモート管理 PowerShell](#)を使用して重複排除を有効にするには、Enable-FSxDedup コマンドを実行してから、Set-FSxDedupConfiguration コマンドを使用して設定を行う必要があります。詳細については、for Windows File Server ドキュメントの「[ファイルシステムの管理FSx](#)」を参照してください。

重複排除を有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
PS C:\Users\Admin> Invoke-Command -ComputerName amznfsxxxxxxx.corp.example.com -  
ConfigurationName FSxRemoteAdmin -ScriptBlock {Enable-FsxDedup }
```

重複排除設定を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
Invoke-Command -ComputerName amznfsxxxxxxx.corp.example.com -ConfigurationName  
FSxRemoteAdmin -ScriptBlock {  
Set-FSxDedupSchedule -Name "CustomOptimization" -Type Optimization -Days  
Mon,Tues,Wed,Sat -Start 09:00 -DurationHours 7  
}
```

コマンドレットを実行する PowerShell Measure-DedupFileMetadata ことで、フォルダのグループ、単一のフォルダ、または単一のファイルを削除し、ガベージコレクションジョブを実行した場合に、ボリュームで再利用可能なディスク容量を決定できます。具体的には、これらのファイルを削除するとどれだけの容量が戻るかが DedupDistinctSize の値によって決まります。ファイルには他のフォルダ間で共有されるチャンクがあることが多いため、重複排除エンジンはどのチャンクが一意で、ガベージコレクションジョブの後に削除されるかを計算します。

デフォルトの[データ重複排除ジョブスケジュール](#)は、推奨ワークロードに対して適切に機能し、可能な限り非侵入的であるように設計されています (バックアップ使用タイプで有効になっている優先度最適化ジョブを除く)。ワークロードのリソース要件が大きい場合は、アイドル時間中のみジョブを実行するようにスケジュールするか、データ重複排除ジョブが消費できるシステムリソースの量を減らすか、増やすことをお勧めします。

デフォルトでは、データ重複排除は使用可能なメモリの 25% を使用します。ただし、これは `memory switch` を使用して増やすことができます。最適化ジョブでは、15~50 の範囲を設定することをお勧めします。スケジュールされたジョブでは、より高いメモリ消費量を使用できます。例えば、ガベージコレクションジョブとスクラブジョブ (通常はオフ時間で実行するようにスケジュール) では、メモリ消費量を増やすことができます (50 など)。

データ重複排除設定の詳細については、for Windows File Server ドキュメントの [「データ重複排除によるストレージコストの削減FSx」](#) を参照してください。

追加リソース

- [「データ重複排除について」](#) (Microsoft ドキュメント)
- [データ重複排除によるストレージコストの削減](#) (FSx for Windows File Server ドキュメント)

FSx for Windows File Server のデータシャーディングを理解する

概要

FSx for Windows File Server のパフォーマンスは設定によって異なります。主にストレージタイプ、ストレージ容量、スループット設定に基づいています。選択したスループットキャパシティによって、ネットワーク I/O 制限、CPU とメモリ、ファイルサーバーによって課されるディスク I/O 制限など、ファイルサーバーで使用できるパフォーマンスリソースが決まります。選択したストレージ容量とストレージタイプによって、ストレージボリュームで使用できるパフォーマンスリソース、つまりストレージディスクによって課されるディスク I/O 制限が決まります。パフォーマンスに加えて、設定の選択もコストに影響します。FSx for Windows File Server の料金は、主にストレージ容量とストレージタイプ、スループット容量、バックアップ、および転送されたデータによって異なります。

ファイルストレージとパフォーマンスの要件が比較的大きい場合は、データシャーディングのメリットを受けることができます。データシャーディングでは、[ファイルデータを小さなデータセット \(シャード\) に分割](#)し、異なるファイルシステム間で保存します。複数のインスタンスからデータにアクセスするアプリケーションは、これらのシャードに対して並行して読み取りと書き込みを行うことで、高いレベルのパフォーマンスを設定できます。同時に、共通の名前空間下で統一されたビューをアプリケーションに表示することもできます。さらに、ファイルデータストレージを、各ファイルシステムがサポートするサイズ (64 TB) を超えて、数百ペタバイトまで拡張することもできます。

コストへの影響

大規模なデータセットの場合、通常、同じレベルのパフォーマンスを実現するために、1 つの大きな SSD 共有ではなく、Windows File Server ファイルシステム FSx 用に複数の小さな をデプロイする方

が効果的です。FSx for Windows File Server HDDとSSDストレージタイプを組み合わせると、コスト削減が向上し、ワークロードを基盤となる最適なディスクサブシステムと一致させることができます。次の表では、1つの 17 TB ファイルシステムの違いを確認し、同じ容量に追加する複数の小さなファイルシステムと比較します。

複数のワークロードを持つ大規模なSSDファイルシステム

[Server name] (サーバー名)	コスト	構成	リージョン
Amazon FSx for Windows File Server	5,716 USD USD	17 TB SSD 重複排除 30% 256 Mbps 17 TB バックアップ	米国東部 (バージニア北部)

を使用したパーティション化されたワークロード DFSN

[Server name] (サーバー名)	コスト	構成	リージョン	共有
Amazon FSx for Windows File Server	1,024 USD USD	2 TB SSD 重複排除 20% 128 Mbps 2 TB バックアップ マルチ AZ	米国東部 (バージニア北部)	共有 1
Amazon FSx for Windows File Server	2,132 USD USD	5 TB SSD 重複排除 30% 256 Mbps	米国東部 (バージニア北部)	共有 2

[Server name] (サーバー名)	コスト	構成	リージョン	共有
		5 TB バックアップ マルチ AZ		
Amazon FSx for Windows File Server	1,036 USD USD	10 TB HDD 40% 重複排除 128 Mbps 10 TB バック アップ マルチ AZ	米国東部 (バージ ニア北部)	共有 3
DFSN Windows EC2インスタ ンス	27 USD USD	t3a.medium 2 vCPUs 4 GiB メモリ	米国東部 (バージ ニア北部)	DFSN インスタ ンス

大規模なSSDファイルシステムの年間コストは 68,592 USD です。パーティション化されたワークロードの年間コストは 50,640 USD です。この例では、ワークロードを適切なバックエンドストレージと照合しながら、26% の節約を実現できます。料金見積りの詳細については、見積りを参照してください [AWS Pricing Calculator](#)。

コスト最適化に関する推奨事項

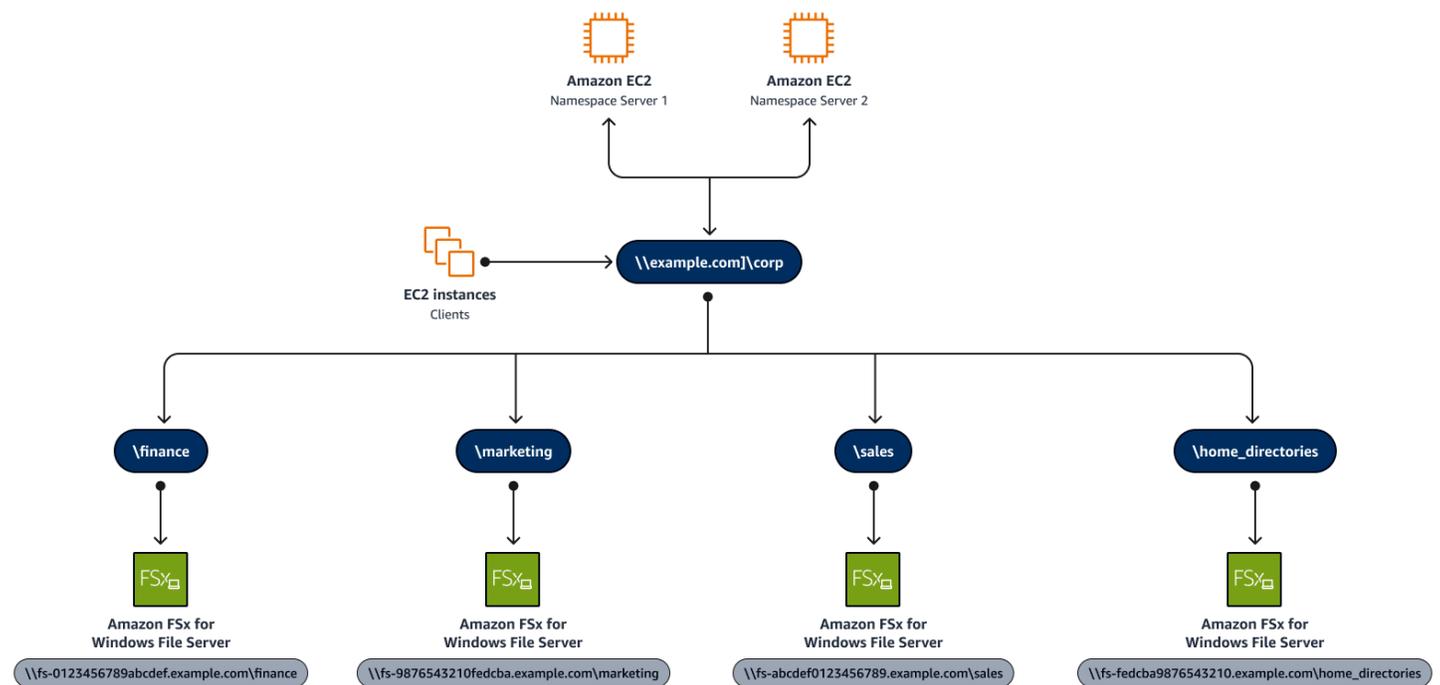
データ重複排除ソリューションをデプロイするには、データタイプ、I/O サイズ、I/O アクセスパターンに基づいて [Microsoft DFS名前空間](#) を設定する必要があります。各名前空間は、最大 50,000 のファイル共有と数百ペタバイトのストレージ容量を集約してサポートします。

使用する予定のすべてのファイルシステムに I/O を均等に分散するシャーディング規則を選択するのが最も効率的です。ワークロードをモニタリングすると、追加の最適化やコスト削減に役立ちます。Amazon FSx ファイルシステムのパフォーマンス情報の測定に関するヘルプが必要な場合は、

「for [FSx Windows File Server ドキュメント](#)」の「for Windows File Server performanceFSx」を参照してください。

シャーディング戦略を選択したら、DFS名前空間を使用して共有に簡単にアクセスできるようにファイルシステムをグループ化できます。これにより、ユーザーは、実際には専用のユースケースでさまざまなファイルシステムにアクセスしているときに、1つの同種ファイルシステムを表示できます。エンドユーザーが共有の設計対象ワークロードを簡単に解釈できるように、適切な命名規則で共有を作成することが重要です。また、エンドユーザーが誤って間違ったファイルシステムにファイルを配置しないように、本番共有と非本番共有にラベルを付けることも重要です。

次の図は、1つのDFS名前空間を複数の Amazon FSx ファイルシステムのアクセスポイントとして使用する方法を示しています。



以下に留意してください。

- Windows File Server 共有FSx用の既存の DFS をツリーに追加できます。
- Amazon FSx を共有DFSパスのルートに追加することはできません。サブフォルダは 1つだけです。
- DFS 名前空間設定を処理するには、EC2インスタンスをデプロイする必要があります。

DFS-N 設定の詳細については、Microsoft ドキュメントの [DFS 「名前空間の概要」](#) を参照してください。DFS 名前空間の使用の詳細については、の [「Amazon FSx for Windows File Server でDFSの名前空間の使用」](#) ビデオを参照してください YouTube。

追加リソース

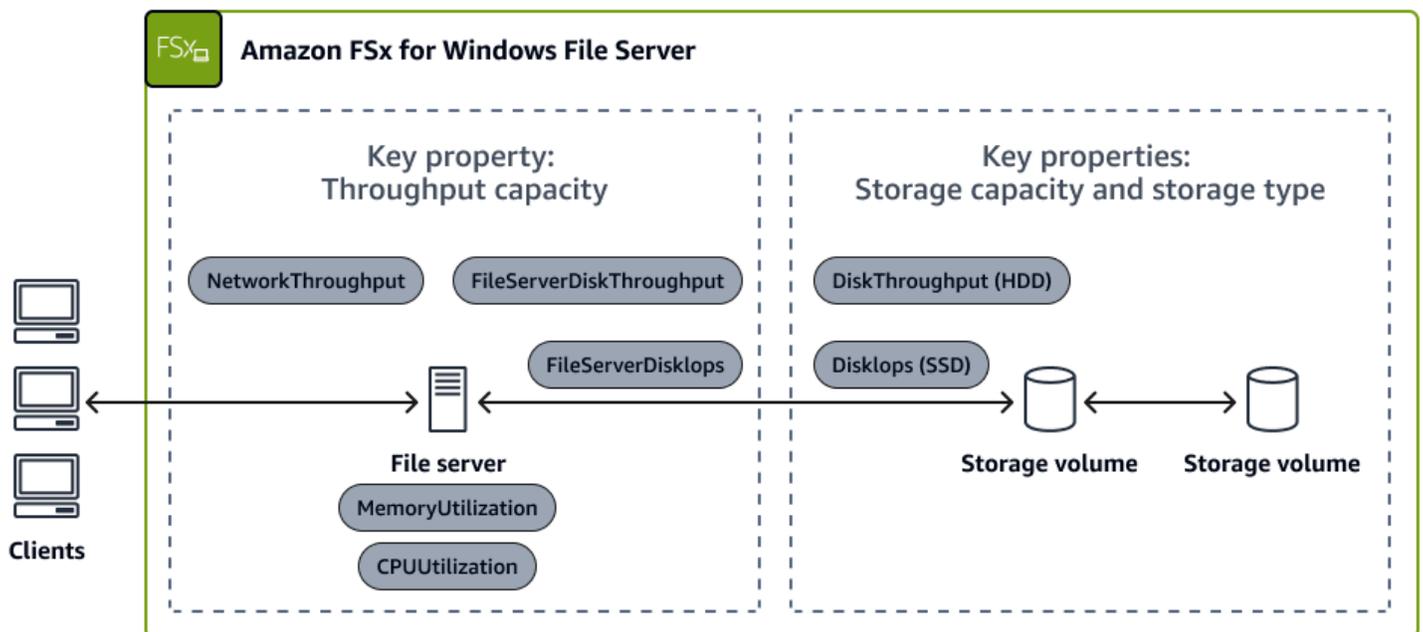
- [複数のファイルシステムをDFS名前空間でグループ化する](#) (Amazon FSxドキュメント)
- [チュートリアル 6: シャードによるパフォーマンスのスケールアウト](#) (Amazon FSxドキュメント)
- [Amazon FSx for Windows File Server でDFSの名前空間の使用](#) (AWS ラボ)

Amazon でのHDDボリューム使用量を理解する FSx

概要

Amazon FSx for Windows File Server では、ファイルシステムの容量に関係なくスループットを柔軟に選択できます。(ハードディスクドライブ)と HDD (ソリッドステートドライブ) の 2 SSD つの容量設定を使用できます。[EBS st1 ドライブ](#)は、のファイルシステムストレージに使用されます HDD。[EBS io1 ドライブ](#)は に使用されます SSD。

次の図は、スループットとストレージ設定の関係を示しています。



HDDベースのストレージでは、80 バーストディスク IOPS (IOPSストレージの TiB あたり) の 12 IOPSベースラインと、80 バーストメガバイト/秒 (ストレージの TiB あたり) の 12 MB/秒のスルー

プットが得られます。例えば、共有のサイズが 50 TB の場合、スループットと の両方のベースラインとして $50 * 12 = 600$ が得られます IOPS。

Amazon FSx for Windows File Server には 80 バースト が用意されています IOPS。バーストクレジットは、使用率がベースラインレートを下回ると自動的に補充され、使用率がベースラインレートを超えると自動的に消費されます。例えば、ワークロードが 10 IOPS/TB を 1 時間しか利用していない場合 (ベースラインレートより 2 IOPS/TB 低い場合)、バーストクレジットが再び不足する前に、次の 1 時間 14 IOPS/TB (ベースラインより 2 IOPS/TB 高い場合) を利用できます。

ファイルオペレーションの場合、Amazon FSx for Windows File Server は、SSDストレージで一貫したミリ秒未満のレイテンシーを提供し、HDDストレージで 1 桁ミリ秒のレイテンシーを提供します。HDD ストレージを含むすべてのファイルシステムについて、Amazon FSx for Windows File Server はファイルサーバーに高速 (インメモリ) キャッシュを提供するため、ストレージタイプに関係なく、アクティブにアクセスされるデータに対して高いパフォーマンスとミリ秒未満のレイテンシーを実現できます。

必要に応じて、HDDストレージを使用すると、ストレージ容量全体のコストを削減し、ニーズに合った信頼性の高いストレージプラットフォームを提供できます。

コストへの影響

Amazon FSx for Windows File Server のパフォーマンスは、ストレージ容量、ストレージタイプ、スループットの 3 つの要素によって異なります。ネットワーク I/O パフォーマンスとインメモリキャッシュサイズはスループットキャパシティによってのみ決まり、ディスク I/O パフォーマンスはスループットキャパシティ、ストレージタイプ、ストレージキャパシティの組み合わせによって決まります。

I/O 集約型ワークロードには SSDが推奨されますが、HDDパフォーマンス仕様でニーズを満たせるワークロードはさまざまです。HDD ストレージは、ホームディレクトリ、ユーザーと部門の共有、コンテンツ管理システムなど、幅広いワークロード向けに設計されています。例えば、ユーザーが現在のプロジェクトをサポートするデータへの低レイテンシーアクセスのみを必要とする場合、保存しているほとんどのデータへのアクセスはまれです。

を使用して [AWS Pricing Calculator](#)、20 TB SSDと のHDDファイルシステムを比較できます us-east-1。次の表に示されているように、重複排除による節約がなくても、HDDファイルシステムと SSDファイルシステムを比較する場合、コスト差は大きくなります。

Amazon FSx ファイルシステム設定	月額コスト
20 TB マルチ AZ SSD (us-east-1)	4,699.30 USD
20 TB マルチ AZ HDD (us-east-1)	542.88 USD
月間削減額の見積もり	4,156.42 USD

Note

Windows File Server FSxのその他の節約については、このガイドの「[Amazon でデータ重複排除を有効にするFSx](#)」セクションを参照してください。

パフォーマンスのニーズを正しく特定することで、ワークロードに適したストレージを選択し、コストを削減できます。

コスト最適化に関する推奨事項

HDD ストレージを使用する場合は、ファイルシステムをテストして、パフォーマンス要件を満たしていることを確認します。HDD ストレージはストレージに比べて低コストですが、SSDストレージ単位IOPSあたりのディスクスループットとディスクレベルは低くなります。I/O 要件の低い汎用ユーザー共有やホームディレクトリ、データの取得頻度の低い大規模なコンテンツ管理システム、またはサイズの大きいファイルが少ないデータセットに適しています。

既存のファイルシステムのストレージタイプは変更できません。Amazon FSx for Windows File Server ファイルシステムのストレージタイプを変換するには、既存のファイルシステムをバックアップし、目的のストレージタイプの新しいファイルシステムに復元する必要があります。既存のSSDファイルシステムをHDDファイルシステムに変換する場合は、の最小容量HDDがはるかに高い2 TB であることに注意してください。

別のストレージタイプのバックアップを復元するには、次の手順を実行します。

1. [既存のファイルシステムをバックアップします。](#)
2. HDD ストレージタイプで[新しい Amazon FSx ファイルシステムを作成します。](#)
3. 必要なストレージタイプを使用して、バックアップを新しいファイルシステムに復元します。
4. 新しいファイルシステムが正しいストレージタイプであり、データがそのままであることを確認してください。

変更を本番環境に移行する前に、Amazon FSx ファイルシステムのパフォーマンスを分析し、変更が許容できることを確認することをお勧めします。詳細については、AWS ストレージブログの「[新しいメトリクスによる Amazon FSx for Windows File Server のパフォーマンスの最適化](#)」の投稿を参照してください。

追加リソース

- [「Amazon によるコストの最適化FSx」](#) (Amazon FSxドキュメント)

1つのアベイラビリティーゾーンを使用する

概要

このセクションでは、[Amazon FSx for Windows File Server](#) の単一のアベイラビリティーゾーン実装を使用する方が有益な場合について説明します。ここでは、単一のアベイラビリティーゾーンに移行することでコストを削減しながら、Amazon FSx for Windows File Server をマネージドファイルストレージサービスとして使用できるようにするシナリオについて説明します。本番ワークロードFSxには、Amazon 用に単一のアベイラビリティーゾーンを実装することをお勧めします。これにより、複数のアベイラビリティーゾーンの冗長性を確保できます。

コストへの影響

1つのアベイラビリティーゾーンファイルシステムは、複数のアベイラビリティーゾーンの実装と比較して約 40% のコスト削減を実現します。複数のアベイラビリティーゾーンファイルシステムでは、1つのアベイラビリティーゾーンファイルシステムで GB 月あたり 0.230 USD SSD、GB 月あたり 0.025 USD HDDを支払うのに対しSSD、HDDでは GB 月あたり 0.130 USD、では GB 月あたり 0.013 USD を支払うこととなります。を使用して、コストの比較を確認し、独自の見積りを作成できます[AWS Pricing Calculator](#)。

10 TB ファイルシステムの場合、複数のアベイラビリティーゾーンに対して 1 か月あたり約 1,200 USD、または 1つのアベイラビリティーゾーンに対して 1 か月あたり 680 USD を支払うことの違いが考えられます。[この例では](#)、で 10 TB FSx の Windows File Server ファイルシステムを使用していますSSD。重複排除の推定削減額は 50% です。全体として、1つのアベイラビリティーゾーンのエントリコストは低くなりますが、次のセクションで説明するいくつかの注意点があります。

コスト最適化に関する推奨事項

単一アベイラビリティゾーンのデプロイ

1つのアベイラビリティゾーンが適切であることを確認するには、for Windows File Server FSx に保存されているデータSLAsについて、独自の内部を考慮してください。これには、顧客 (内部および外部) に SLAs を提供する必要があるかどうか、および Amazon FSx1つのアベイラビリティゾーンの9つのアベイラビリティでそれらのを満たすことができるかどうかについての理解が必要ですSLAs。FSx 1つのアベイラビリティゾーンを持つ Windows File Server の稼働時間は、99.9%です。複数のアベイラビリティゾーンFSxの SLA Amazon のは 99.99% を超えています。ミッションクリティカルなワークロードでは、追加料金がかかる場合でも、1つのアベイラビリティゾーンで複数のアベイラビリティゾーンを使用することをお勧めします。

単一アベイラビリティゾーンのデプロイは、SQLサーバーデータベースのバックアップなどのワークロードに最適です。HDD 階層で低コストのストレージを提供しながら、一貫した稼働時間を実現できます。可用性の高いSQLサーバーや本番稼働用アプリケーションへのアクセスなど、本番稼働用ワークロードに対してより高いレベルの可用性が必要な場合は、1つのアベイラビリティゾーンがワークロードに適していません。バックアップ、非本番環境のテスト、開発環境では、Amazon 1 FSxつのアベイラビリティゾーンを実装することで運用コストを削減できます。

Amazon FSx1つのアベイラビリティゾーンファイルシステムがうまく機能する1つのユースケースは、Always On 可用性グループを使用する高可用性SQLサーバークラスター内のサーバーごとのストレージとして、複数の Amazon FSx1つのアベイラビリティゾーンファイルシステムが使用されている本番環境です。詳細については、AWS ストレージブログの記事の「[高可用性SQLサーバーデプロイのコストの最適化 AWS](#)」を参照してください。

マルチリージョンレプリケーション

単一のアベイラビリティゾーンファイルシステム (単一のアベイラビリティゾーンファイルシステムのみが機能するシステム) でコストを削減するための潜在的なオプションは、Amazon とのマルチリージョンレプリケーションを利用する場合ですFSx。ネイティブ Microsoft [-R での使用をサポートするシングル AZ ファイルシステム](#)をデプロイできます。DFS-R には、リージョンや複数のサイトにまたがってデータを自動的にレプリケートする機能があります。DFSAmazon を使用して DFS-R を設定する方法の詳細についてはFSx、Amazon FSxドキュメントの「[Microsoft 分散ファイルシステムレプリケーションの使用](#)」を参照してください。

マルチリージョンのコスト削減のもう1つの方法は、を使用することです AWS Storage Gateway。これにより、[Amazon FSx ファイルゲートウェイ](#)を別のリージョンに実装して、Amazon のマルチリージョンアクセスが可能になりますFSx。詳細については、このガイドの「[AWS Storage Gateway](#)」セクションを参照してください。

リージョン間で作業する場合は、リージョン間のデータトラフィックのデータ転送コストを考慮する必要があります。リージョン間でトラフィックを移動すると、0.02 USD/Gb の料金が発生します。したがって、大量のデータに一貫した変更がある場合、全体的なコストが増加します。[例えば](#)、1 TB のデータ転送は約 20.48 USD に相当します。

メンテナンスウィンドウ

Amazon で単一アベイラビリティゾーンを使用している場合、メンテナンスウィンドウが重要な考慮事項です。メンテナンス期間中、基盤となる Windows Server の定期的なソフトウェアパッチ適用により、Amazon FSx ファイルシステムは約 20 分間使用できなくなります。夜間バックアップにファイルシステムを使用している場合は、バックアップ中の中断を避けるために、Amazon FSx メンテナンスウィンドウを調整します。Amazon FSx ファイルシステムを作成した後、[メンテナンスウィンドウ](#)を調整できます。

追加リソース

- [可用性と耐久性: シングル AZ およびマルチ AZ ファイルシステム](#) (Amazon FSxドキュメント)
- [Amazon FSx for Windows File Server の料金](#) (AWS ウェブサイト)

AWS Storage Gateway

AWS Storage Gateway は、オンプレミス環境をクラウドストレージに接続するハイブリッド AWS クラウドストレージサービスです。これにより、既存のオンプレミスインフラストラクチャをとシームレスに統合できるため AWS、クラウドからデータを保存および取得し、ハイブリッド環境でアプリケーションを実行できます。Windows ワークロードの場合、Storage Gateway を使用して、[SMB](#)などのネイティブ Windows プロトコルを使用してデータを保存SMBおよびアクセスできます。Storage Gateway を使用すると、オンプレミスのハードウェアとソフトウェアをクラウドへのブリッジとして使用 AWS することで、での Windows ワークロードの実行に関連するコストを削減できます。これにより、既存のインフラストラクチャに大きな変更を加える AWS ことなく、のスケラビリティとコスト効率を活用できます。

Storage Gateway の傘下に、Amazon S3 ファイルゲートウェイ、Amazon FSx ファイルゲートウェイ、テープゲートウェイ、ボリュームゲートウェイがあります。S3 File Gateway と FSx File Gateway は、Microsoft ワークロードで最もよく使用されます。

Amazon S3 File Gateway

[Amazon S3 File Gateway](#) を使用すると、従来のSMB共有を使用してユーザーにアクセス権を提供しながらAmazon S3 にファイルを保存できます。これにより、使い慣れたユーザーインターフェイ

スが提供され、Amazon S3 にデータを保存し、さまざまな Amazon S3 ストレージ階層を活用することでコストを削減できます。S3 Intelligent Tiering を使用して Storage Gateway を実装すると、ライフサイクルファイルを低コストのストレージ階層に自動的に移動して、コストをさらに削減できます。スケールアウト、読み取り専用アクセス、高速反復読み取り (キャッシュから)、およびデータベースダンプには、S3 File Gateway をお勧めします。一般的に、高性能または高可用性の書き込み、ファイルの編集、または部門共有にはお勧めしません。

Amazon FSx File Gateway

[Amazon FSx File Gateway](#) では、Amazon FSx Windows ファイルシステムを使用する際のコスト削減も可能です。FSx ファイルゲートウェイを立ち上げて、別のリージョンの Amazon FSx ファイルシステムへのローカライズされたアクセスを提供して、2 つの独立したファイルシステムを持つコストを回避できます。これは、オンプレミスのファイルサーバーが複数あり、複数のハードウェアデバイスに料金がかからないように統合する場合にも役立ちます。

コストへの影響

Amazon S3 File Gateway

Storage Gateway の起動ウィザードを使用できるため、S3 File Storage Gateway の設定は簡単です。AWS 環境内の EC2 インスタンスを使用して、ゲートウェイを数分でデプロイできます。ゲートウェイを設定したら、SMB および NFS プロトコルを介してアクセスできるように Storage Gateway 共有を設定できます。一般的な Windows ワークロードでは、この設定を使用して Active Directory 環境を活用し、ファイル共有に対するアクセス許可を設定することもできます。Storage Gateway は一般的な Windows ファイル共有として機能するため、通常の使用状況に効果的に統合できます。ファイルとフォルダはオブジェクトとして、NTFS アクセスコントロールリスト (ACLs) はメタデータとして保存されます。

次の表は、10 TB のストレージのコストと 3 つの使用可能なストレージオプションを比較したものです。

- FSx for Windows File Server
- Amazon S3 File Gateway
- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)

Amazon S3 を使用すると、データをさまざまな使用階層に分割できるため、10 TB のストレージをかなり安価に保存できます。料金見積りでは、S3 Intelligent Tiering が料金の柔軟性に使用されます。これには、S3 Standard では 80%、低頻度アクセスでは 10%、Amazon S3 Glacier では 10% が

含まれます。S3 Glacier を使用できますが、S3 Glacier に移動したファイルにすぐにアクセスする必要がないように、適切なライフサイクルルールを設定することが重要です。S3 Glacier はアーカイブでの使用のみを目的としており、通常のアクセス使用ではありません。

ストレージシステム	10 TB のストレージのコスト	リージョン
FSx for Windows File Server (重複排除で 50% の節約を想定)	683.20 USD USD SSD	米国東部 (バージニア北部)
Amazon S3 File Gateway	USDインテリジェント階層化 449.51 USD	米国東部 (バージニア北部)
Amazon EBS	1,335.69 USD USD GP3	米国東部 (バージニア北部)

以下の点を考慮します。

- S3 Glacier では、[RestoreObject](#) API を Amazon S3 に復元しない限り、汎用 I/O エラーが発生します。Amazon CloudWatch Events を使用して、この I/O エラーの通知を使用することをお勧めします。これにより、オペレーションチームは、アクセスする必要があるファイルでこのエラーが発生したユーザーに回答できます。これらのエラーの詳細については、Amazon S3 File Gateway ドキュメントの「[エラー：InaccessibleStorageClass](#)」を参照してください。
- S3 Glacier のアクセス制限に加えて、Storage Gateway [のオブジェクト/フォルダごとに ACLs 許可されるのは 10 個のみです](#)。Storage Gateway を使用する前に、10 を超える ACL エントリが必要でないことを確認してください。

Amazon FSx File Gateway

Amazon S3 File Gateway と同様に、FSx ファイルゲートウェイはデータを長期的に保持するファイルシステムへのアクセスを提供します。Amazon S3 ファイルゲートウェイでは、データは Amazon S3 にあります。FSx File Gateway の場合、データは for Windows File Server FSx にあります。for Windows File Server FSx ではマルチ AZ オプションを使用できますが、マルチリージョンオプションはありません。グローバル企業またはリモートオフィスがある場合は、レイテンシーを回避するために、エンドユーザーに地理的に近い共有ストレージプラットフォームを提供する必要がある場合があります。別の Amazon FSx ファイルシステムをデプロイする場合、まったく新しい Amazon FSx for Windows File Server ファイルシステムと必要なストレージのコストがかかります。まったく新し

ファイルシステムの作成とコストの重複を避けるために、FSxファイルゲートウェイをセカンダリリージョンにデプロイできます。これにより、ユーザーにファイルへのローカライズされたアクセスが提供され、全体的なコストを削減できます。

ストレージシステム	10 TB のストレージのコスト	リージョン
Amazon FSx for Windows File Server	683.20 USD USD SSD	米国東部 (バージニア北部)
Amazon FSx File Gateway	503.70 USD/シングルゲートウェイ	米国東部 (バージニア北部)

Note

前の表の料金は、[Storage Gateway の料金](#)に基づいています。

以下に留意してください。

- FSx File Gateway を使用すると、マルチリージョンワークロードの月額約 180 USD (または年間 2,100 USD) を節約できます。
- FSx ファイルゲートウェイでは、定期的にアクセスされるファイルをキャッシュするだけで済み、完全なセカンダリコピーをキャッシュする必要がないため、データ転送料金ははるかに低くなります。
- FSx for Windows File Server の 2 つのデプロイを異なるリージョンに作成し、AWS Backup またはで更新しておくことはできますが AWS DataSync、どちらのオプションもほぼリアルタイムではありません。

コスト最適化に関する推奨事項

Amazon S3 File Gateway

S3 File Gateway にはファイルを保存するための低コストのオプションがありますが、ファイルシステムの実装方法と使用方法に関して考慮すべき問題がいくつかあります。例えば、S3 File Gateway では、Storage Gateway ソフトウェアを実行するために仮想マシンを使用する必要があります。では AWS、Storage Gateway はデフォルトで m5.xlarge インスタンス EC2 を使用して Amazon にデプロイ

イされます。オンプレミスのストレージコストを削減したい場合は、Storage Gateway を VMware や Hyper-V などの仮想化プラットフォームに仮想アプライアンスとしてデプロイできます。

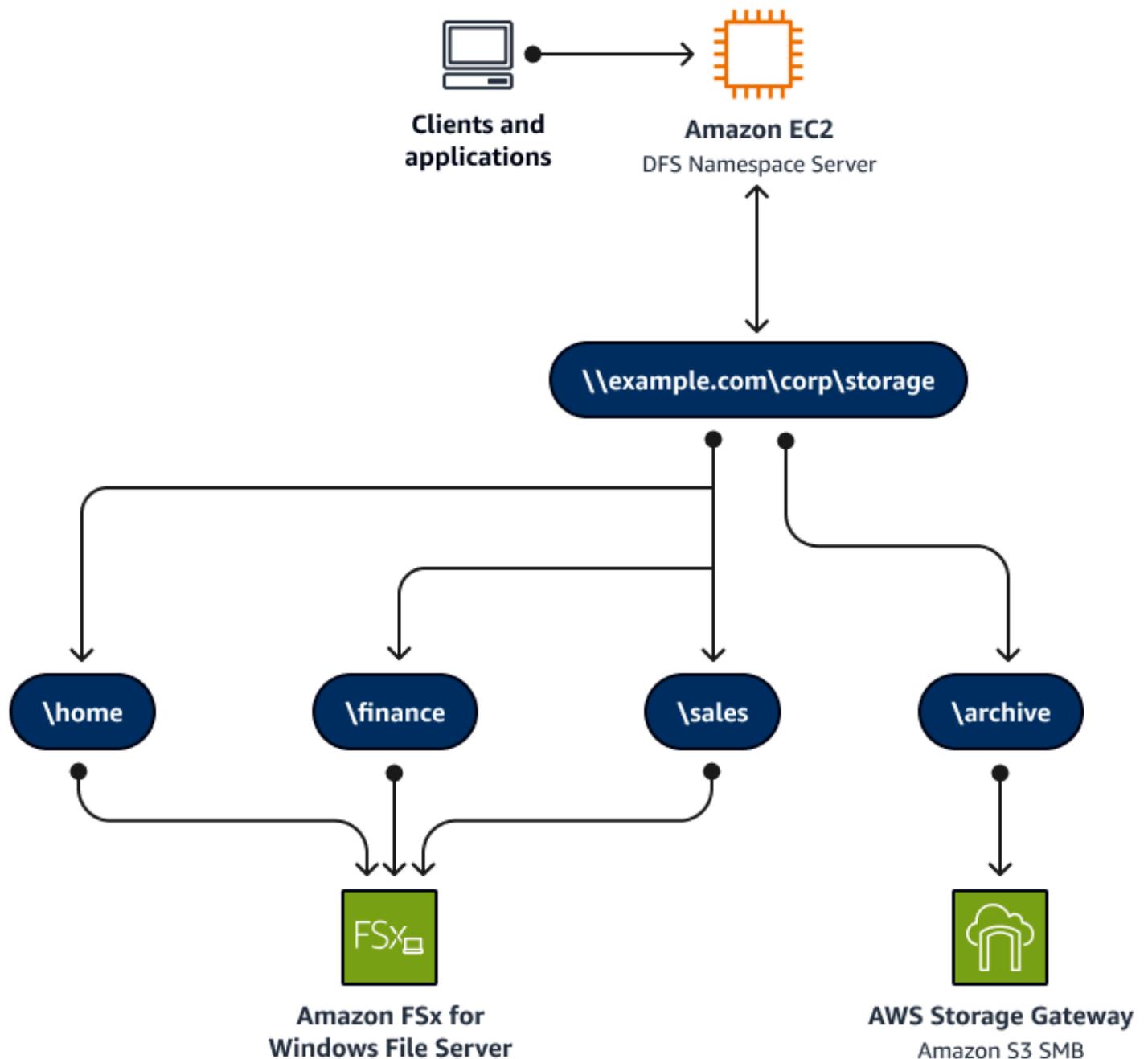
高可用性に関する考慮事項

Storage Gateway の実行は、ファイルへのアクセスの単一障害点です。不要なダウンタイムを防ぐため、Storage Gateway インスタンスを変更または停止および起動できる厳格なアクセスコントロールを実装することをお勧めします。さらに、でのデプロイでは AWS、Amazon Data Lifecycle Manager を使用してルーティングスナップショットを作成し、Storage Gateway の実装を迅速に復旧することをお勧めします。を使用してオンプレミスで Storage Gateway を実行している場合は VMware、[高可用性](#) に設定できます。

複数のファイルシステムの実行

日常的に使用するファイルワークロードをアーカイブワークロードから分離することで、不要なストレージコストを回避できます。Storage Gateway は、for FSx Windows File Server ファイルシステムと一緒にデプロイできます。[DFS 名前空間](#) を使用すると、for FSx Windows File Server で実行されているプライマリの日次使用ストレージと Amazon S3 で実行されているストレージ (Storage Gateway 経由でアクセス) を表示できます。

次の図は、1 つの DFS 名前空間をさまざまなバックエンドストレージオプションのフロントエンドアクセスポイントとして使用する方法を示しています。



クライアントは、\\example.com\storage などのフォルダ構造に誘導されます。このメインディレクトリには、サブディレクトリが含まれています。FSx for Windows File Server ファイルシステムには、通常アクセスされるファイル共有が含まれています。Storage Gateway で作成されたファイル共有をアーカイブデータに使用できます。ユーザーは項目を手動でアーカイブフォルダにアーカイブすることも、通常ファイル共有からアーカイブフォルダへの一部のファイルの移動を自動化するプロセスを構築することもできます。

以下の点を考慮します。

- ストレージ要件を確認し、[キャッシュに適切なストレージ](#)を提供します。
- ゲートウェイを Active Directory 設定に追加し、[標準の Windows を使用してファイル ACLs にアクセスします](#)。

FSx ファイルゲートウェイ

FSx File Gateway のデプロイは S3 File Gateway のデプロイに似ていますが、起動ウィザードを使用するとさらに簡単になります。詳細な手順については、[Amazon FSx File Gateway ドキュメントの「ステップ 3: Amazon File Gateway を作成してアクティブ化する」](#)を参照してください。FSx 環境に FSx File Gateway をデプロイした後、既存の Amazon FSx ファイルシステムに関連付けて、ファイルにアクセスできます。

ストレージは、FSx ファイルゲートウェイをデプロイする際の主な考慮事項です。デフォルトのストレージは 150 GB で、ファイルをキャッシュするための十分な容量です。空き領域が少ない場合のモニタリングアラートを作成すると、ストレージの適切なサイジングに過剰に割り当てることなく役立ちます。

追加リソース

- [AWS Storage Gateway リソース](#) (AWS ドキュメント)

アクティブディレクトリ

Windows Server を実行する Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) は、Windows ベースのアプリケーションとワークロードをデプロイするための、安全で信頼性が高く、高性能な環境です。インスタンスを迅速にプロビジョニングし、使用量に対してのみ料金を支払うと同時に、必要に応じてスケールアップまたはスケールダウンできます。Active Directory サービスは、Windows Server 環境でのアイデンティティ管理の主要なソースとして使用されます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [Amazon EC2 のセルフマネージド Active Directory](#)
- [AWS Managed Microsoft AD](#)
- [AD Connector](#)

Amazon EC2 のセルフマネージド Active Directory

概要

このセクションでは、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) で Active Directory を実行するコストを削減するための推奨事項を提供します。主な目的は、Active Directory ドメインコントローラーのサイズを適切に設定し、柔軟性を使用して環境に合わせて必要に応じて AWS クラウド 調整できるようにすることです。AWS は、インスタンスを簡単に停止して、変化するニーズに合わせてサイズ変更したり、スケールアップが速すぎる場合はインスタンスをダウンサイズしたりできます。適切なインスタンスサイズとタイプを選択すると、大幅な削減につながります。

コストへの影響

次の表は、汎用インスタンスよりもバーストインスタンスファミリーインスタンスを選択する場合の違いを示しています。この選択により、毎月かなりの金額を節約できます。インスタンスの適切な計画とサイズ設定は、コストの管理に役立ちます。

インスタンスタイプ	インスタンス数	vCPU	「メモリ」	コスト
t3a.medium	2	2	8	81.76 USD/月

インスタンスタイプ	インスタンス数	vCPU	「メモリ」	コスト
m5a.large	2	2	8	259.88 USD/月

コストの詳細については、「の AWS Pricing Calculator [見積り](#)」を参照してください。

1 か月あたり 178.12 USD の節約により、ドメインコントローラーの年間 2,000 USD を超える節約になります。は、1 つのアカウントで 2 つのドメインコントローラーのみの小さなフットプリント用であることに注意してください。複数のアカウントや追加のドメインコントローラーで大規模に、このような削減は大幅なコスト削減につながる可能性があります。

コスト最適化に関する推奨事項

Microsoft は、Active Directory 環境をデプロイする場合の[容量計画に関する推奨事項](#)を提供します。Active Directory 環境を計画またはスケーリングするときは、次の主要コンポーネントを考慮することをお勧めします。

- 「メモリ」
- ネットワーク
- [Storage (ストレージ)]
- プロセッサ

これらの主要コンポーネントを念頭に置いて、の Active Directory 環境に適したインスタンスタイプを選択することができます AWS。このセクションでは、Active Directory から AWS デプロイまでのシナリオの例をいくつか説明します。これらのシナリオでは、オンプレミス環境と同じ数のユーザーとコンピュータを処理する予定がない場合 AWS、でオンプレミス環境をレプリケートする必要がないことが明確になります。

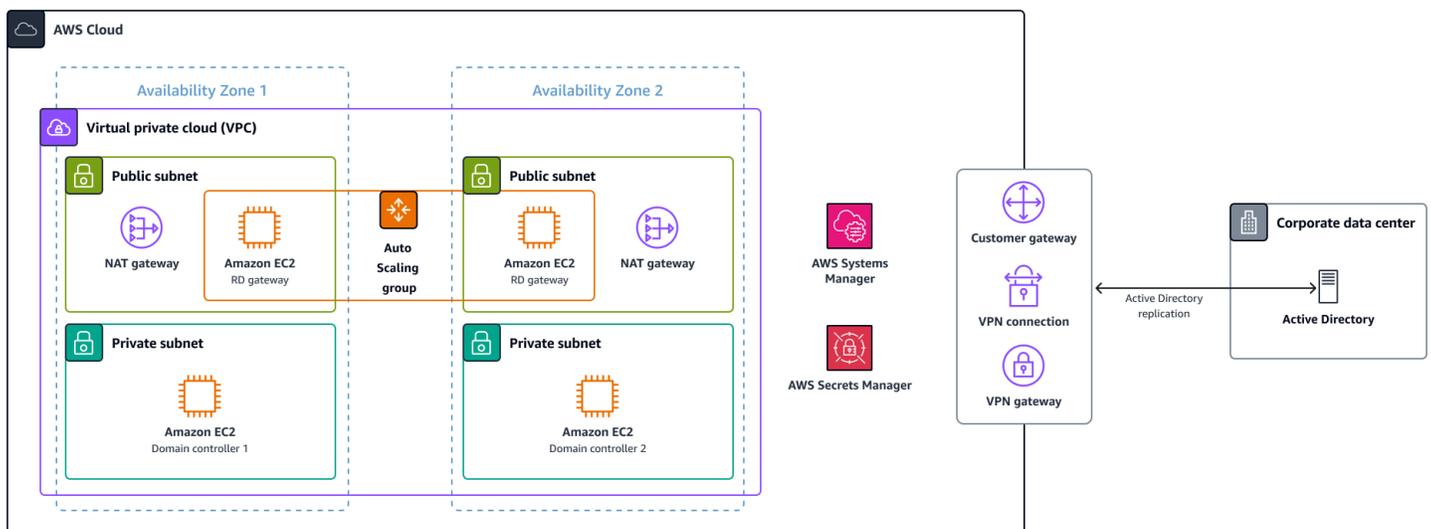
次の表は、AWS フットプリントの vCPU、メモリ、ディスクに関する重要なコンポーネントを示しています。

コンポーネント	見積り
ストレージ/データベースサイズ	ユーザーごとに 40 ~ 60 KB
RAM	データセットのサイズ

コンポーネント	見積り
	基本オペレーティングシステムの推奨事項 サードパーティーアプリケーション
ネットワーク	1 GB
CPU	コアごとに 1,000 人の同時ユーザー

ハイブリッドデプロイシナリオ

次の図は、Active Directory のハイブリッドデプロイのアーキテクチャの例を示しています。



図に示すように、通常、オンプレミスのフットプリントがあり、これをに展開します AWS クラウド。移行の初期フェーズでは、通常、すべてのユーザーとサーバーがにデプロイされるわけではありません AWS。そのため、移行作業のコストを節約するために、最初は小さなサイズのフットプリントをデプロイすることが重要です。

サーバーとユーザーがオンプレミスで認証するオンプレミスフットプリントを維持する場合、のドメインコントローラーに同じフットプリントは必要ありません AWS。Active Directory のベストプラクティスに従うことで、適切な [Active Directory サイトとサービス](#) を実装して、オンプレミスのフットプリントに対してユーザーとコンピュータを認証しながら、のドメインコントローラーに対してのみフットプリントを認証できます AWS。これにより、すべてのオンプレミスインフラストラクチャではなく、AWS リソースのみの使用に制限 AWS することで、での Active Directory のフットプリントの過剰サイズを回避できます。ハイブリッドセットアップの設計に関するガイド

については、Microsoft ドキュメントの「[ドメインコントローラーの適切な配置](#)」と「[サイトに関する考慮事項](#)」を参照してください。

適切なサイジングによる AWS 移行の最適化

ユーザー用に Active Directory の新しいインスタンスをデプロイする場合、または Active Directory インフラストラクチャ AWS 用に完全に移行する場合は、前の表で選択したインスタンスの vCPU、メモリ、ディスク容量に関する Microsoft の推奨事項に照らしてサイジングを計画することをお勧めします。

これが新しいフットプリントである場合は、小規模から始めて、[インスタンスタイプを簡単に変更](#)して、で拡大するにつれて環境のサイズを変更する機能を活用できます AWS。このガイドの「Windows [on Amazon EC2](#)」セクションでは、で CPU とメモリの使用率をモニタリングおよび確認する方法について説明します AWS。これにより、EC2 インスタンスのサイズを増やすタイミングがわかります。

オンプレミスの Active Directory 環境を完全に移行する場合は AWS、同じサイジングプランを実装して、適切なパフォーマンスを確保できます。オンプレミスにあるものを複製する前に AWS、Active Directory 環境の詳細なレビューを完了することをお勧めします。これにより、オーバープロビジョニングを防ぐことができます。Performance Monitor を使用して、既存のドメインコントローラーのトラフィック量と使用率に関する情報を収集してください。これにより、全体的な使用状況を把握できるため、適切なサイズで最終的にコストを削減できます。

での Active Directory の最適化 AWS

で Active Directory を実行している場合は AWS、使用率を継続的にモニタリングし、必要に応じてインスタンスサイズを変更して、支出を削減することも重要です。を使用して AWS Compute Optimizer、で実行しているリソースに関する情報を取得できます AWS。Compute Optimizer を使用して Windows ワークロードを適切にサイズ設定する方法については、このガイドの「[Windows on Amazon EC2](#)」セクションを参照してください。より包括的な詳細分析のために、Performance Monitor を使用して Active Directory ドメインコントローラーの使用率をモニタリングし、パフォーマンスを評価し、それに応じてサイズを変更することができます。

CloudWatch を使用してドメインコントローラーのパフォーマンスをモニタリングすることもできます。ドメインコントローラーを最適化 (スケールアップまたはスケールダウン) するには、で利用可能なメトリクスを使用して CloudWatch、適切な意思決定を行うことができます。エージェントを使用して CloudWatch、データ収集のために送信されるカスタム Performance Monitor メトリクスを設定できます。手順については、[「ナレッジセンター」の CloudWatch 「エージェントを使用し](#)

て [Windows サーバーで Performance Monitor のメトリクスを表示する方法](#)」を参照してください。

AWS

CloudWatch エージェントをデプロイしたら、 のエージェント設定ファイル内で次のメトリクスを設定できます `metrics_collected`。

メトリクスカテゴリ	メトリクス名
Database to Instance (NTDSA)	データベースキャッシュ % ヒット
I/O データベースの読み取り平均レイテンシー	
I/O データベースの読み取り/秒	
I/O ログ書き込みの平均レイテンシー	
DirectoryServices (NTDS)	LDAP バインド時間
DRA 保留中のレプリケーションオペレーション	
DRA 保留中のレプリケーション同期	
DNS	再帰クエリ/秒
再帰クエリの失敗/秒	
TCP クエリ受信/秒	
受信したクエリの合計/秒	
送信されたレスポンスの合計/秒	
UDP クエリ受信/秒	
LogicalDisk	平均ディスクキュー長
% 空き領域	
メモリ	使用中のコミットバイト数の割合
長期平均スタンバイキャッシュ有効期間 (s)	

メトリクスカテゴリ	メトリクス名
ネットワークインターフェイス	送信バイト数/秒
Bytes Received/sec	
現在の帯域幅	
NTDS	ATQ 推定キュー遅延
ATQ リクエストのレイテンシー	
DS ディレクトリの読み取り/秒	
DS ディレクトリ検索/秒	
DS ディレクトリの書き込み/秒	
LDAP クライアントセッション	
LDAP 検索/秒	
LDAP 成功バインド/秒	
プロセッサ	% プロセッサ時間
セキュリティシステム全体の統計	Kerberos 認証
NTLM 認証	

追加リソース

- [での Active Directory ドメインサービス AWS: パートナーソリューションデプロイガイド \(AWS ドキュメント\)](#)
- [Active Directory Domain Services のキャパシティプランニング \(Microsoft ドキュメント\)](#)
- [EC2 インスタンスで Active Directory を実行する際の設計上の考慮事項 \(AWS ホワイトペーパー\)](#)

AWS Managed Microsoft AD

概要

AWS Directory Service for Microsoft Active Directoryとも呼ばれるは AWS Managed Microsoft AD、Windows Server Active Directory を搭載し、 によって管理されます AWS。 AWS Managed Microsoft AD を使用して、さまざまな Active Directory 対応アプリケーションを に移行できます AWS クラウド。 AWS Managed Microsoft AD は、さまざまなネイティブ Active Directory アプリケーションおよびサービスで動作します。また、[AWS マネージドアプリケーションとサービス](#) もサポートしています。サービスとその請求メカニズム AWS Managed Microsoft AD のために のコスト最適化手段はあまりありませんが、コストを最小限に抑えるのに役立ついくつかの設計原則があります。

コストへの影響

AWS Managed Microsoft AD は現在の SKUs に基づくマネージドサービスであるため、サイズ設定は比較的簡単なプロセスです。現在、Standard Edition と Enterprise Edition の SKUs が利用可能です。その他の SKUsには、ディレクトリ共有、ドメインコントローラーの追加 (追加のリージョンを含む) 、リージョン間のデータ転送が含まれます。

コスト最適化に関する推奨事項

AWS Managed Microsoft AD Standard Edition と AWS Managed Microsoft AD Enterprise Edition には違いがあります。Enterprise Edition は、最大 500,000 個の Active Directory オブジェクト、125 個のアカウント共有 (ソフト制限) をサポートし、マルチリージョンをサポートしています。Standard Edition は、最大 30,000 個の Active Directory オブジェクト、5 つのアカウント共有 (ソフト制限は約 30 個) をサポートし、マルチリージョンをサポートしていません。

ディレクトリタイプを選択する前に考慮すべき質問は次のとおりです。

- マルチリージョンのサポートは必要ですか？
- ディレクトリは 30 を超えるアカウントと共有されますか？
- Active Directory のオブジェクト数は 30,000 を超えていますか？

上記の質問のいずれかに対する回答が「はい」の場合は、Enterprise Edition が必要です。すべての質問に対する回答が「いいえ」の場合は、Standard Edition から始めることをお勧めします。

Note

ディレクトリは Standard Edition から Enterprise Edition にアップグレードできますが、ダウングレードすることはできません。Standard Edition をデプロイしても、一方向のドアは通過しません。ディレクトリを Enterprise Edition にアップグレードする場合は、お問い合わせください AWS。

Enterprise Edition でディレクトリ AWS Managed Microsoft AD を共有する場合、共有ごとにコストが発生します。これは、各アカウントにディレクトリをデプロイするコストよりも安くなりますが、チェックしないとコストが急増する可能性があることに注意してください。Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) と Amazon FSx for Windows File Server を含むアカウントとのみディレクトリを共有することをお勧めします。これらのサービスのみがこの機能をサポートしているためです。FSx for Windows File Server をなどのセルフマネージド Active Directory と統合するオプションがあることに注意してください AWS Managed Microsoft AD。別のアカウントで Amazon FSx のみが必要な場合は、ディレクトリを共有しなくても、AWS Managed Microsoft AD に対して自己管理型の Amazon FSx デプロイを実行できます。

追加のドメインコントローラーをデプロイするタイミングを決定するときは、[同じ VPC 内の別々のアベイラビリティーゾーンで 2 つのサブネットのみ AWS Managed Microsoft AD をサポートすることに注意してください](#)。ドメインコントローラーを追加しても、サブネットを追加することはできません。パフォーマンスの問題によりドメインコントローラーを追加する必要があるかどうかを判断するには、「」の[ドメインコントローラーのパフォーマンスメトリクス CloudWatch](#)を確認してください。これにより、1 つまたはすべてのドメインコントローラーが圧倒されているかがわかります。1 つのドメインコントローラーだけが圧倒されていると判断した場合、ドメインコントローラーを追加しても負荷は軽減されないため、現在利用可能なドメインコントローラー間で負荷分散されていないアプリケーションを深く掘り下げる必要があります。すべてのドメインコントローラーが大量に使用されている場合、ドメインコントローラーを追加すると、既存のドメインコントローラーの負荷が軽減される可能性があります。スケーリングを自動化する方法については、AWS セキュリティログの[「使用率メトリクスに基づいて AWS Managed Microsoft AD スケーリングを自動化する方法」](#)を参照してください。

ディレクトリを複数のリージョンに拡張する場合は、ファイルストレージにディレクトリ NETLOGON または SYSVOL 共有を使用しないことをお勧めします。すべてのドメインコントローラーは、これらの共有のコンテンツをレプリケートします。ファイルストレージに共有を使用しないと、データ転送コストを最小限に抑えることができます。

また、とのエンタープライズ契約に登録することもできます AWS。エンタープライズ契約では、ニーズに最適な契約を調整できます。詳細については、「[エンタープライズカスタマー](#)」を参照してください。

追加リソース

- [AWS Managed Microsoft AD クォータ](#) (AWS Directory Service ドキュメント)
- [AWS Directory Service 料金](#) (AWS ウェブサイト)
- [での Active Directory ドメインサービス AWS](#) (AWS ホワイトペーパー)

AD Connector

概要

[AD Connector](#) は、既存のオンプレミス Microsoft Active Directory を、Amazon、Amazon WorkSpaces、QuickSight および Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスのシームレスなドメイン結合などの互換性のある [AWS アプリケーション](#) に簡単に接続できるプロキシサービスです。クラウドに情報をキャッシュする必要はありません。AD Connector を使用して、Active Directory に 1 つのサービスアカウントを追加できます。AD Connector を使用すると、ディレクトリの同期や、フェデレーションインフラストラクチャのホスティングにかかるコストと複雑さがなくなります。サービスの性質とその請求メカニズムにより、AD Connector のコスト最適化手段はあまりありませんが、このセクションの設計上の推奨事項に従ってコストを最小限に抑えることができます。

コストへの影響

AD Connector は、プリセット SKUs。これにより、サイズ設定が簡単になります。サイズ設定 SKUs には、スモールサイズとラージサイズの 2 つがあります。AD Connector に関連するコストの見積もり [AWS Pricing Calculator](#) には、を使用できます。

コスト最適化に関する推奨事項

バックエンドコンピューティングリソース以外には、コネクタのサイズが小さくても大きい場合でも違いはありません。

ディレクトリタイプを選択する前に考慮すべき質問は次のとおりです。

- AD Connector と統合された AWS アプリケーションを使用しているアクティブなユーザーは多数 (10,000 人以上) ですか？
- ユーザーは、ネストされた多数のグループ、ディープグループ、または循環グループのメンバーですか？

両方の質問に対する回答が「いいえ」の場合は、小さいサイズから始めることをお勧めします。上記の質問のいずれかに「はい」と答えた場合は、大きなサイズを検討することをお勧めします。小さいサイズの AD Connector から始めて、パフォーマンスが原因でディレクトリに障害が発生した場合は、ディレクトリを大きなサイズにアップグレードするようにリクエストできます。

Note

AD Connector は小さいものから大きいものにアップグレードできますが、AD Connector をダウングレードすることはできません。

パフォーマンスの問題のほとんどは AD Connector には関連していませんが、多くのユーザーが多くの、深い、または円形のネストされたグループのメンバーであるため、オンプレミスの Active Directory ドメインコントローラーは圧倒されています。

また、とのエンタープライズ契約に登録することもできます AWS。エンタープライズ契約では、ニーズに最適な契約を調整できます。詳細については、[「エンタープライズカスタマー」](#)を参照してください。

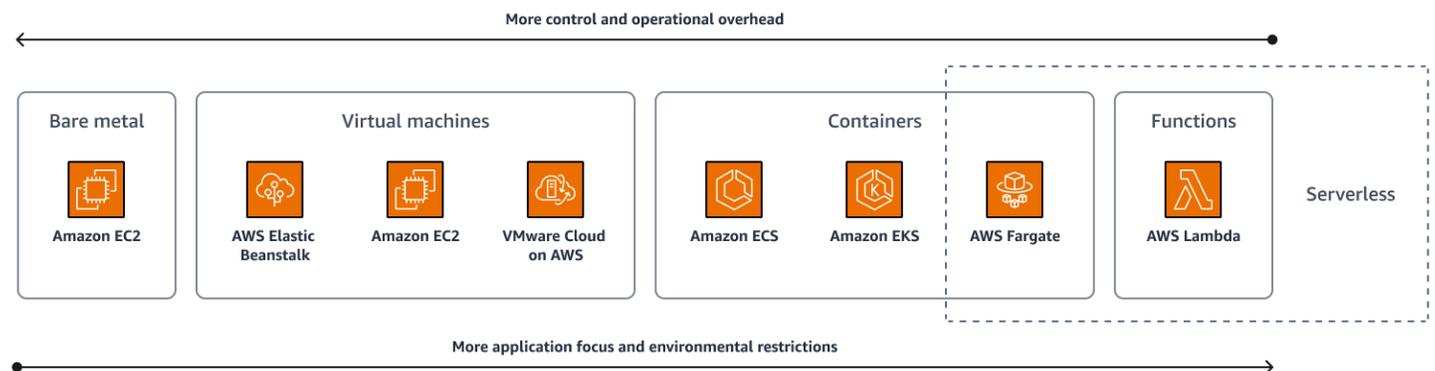
追加リソース

- [AD Connector クォータ](#) (AWS Directory Service ドキュメント)
- [その他のディレクトリタイプの料金](#) (AWS ウェブサイト)
- [での Active Directory ドメインサービス AWS](#) (AWS ホワイトペーパー)

.NET

の開発とデプロイ。NET アプリケーションは、クラウドコンピューティングが提供するスケールと俊敏性を実現する上で重要な鍵です。多くのレガシー アプリケーションでは、NETでアプリケーションを実行するのに最適なコンピューティング選択肢 AWS は、AWS Elastic Beanstalk または Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) のいずれかを介して仮想マシンを使用することで EC2。Windows および Linux コンテナで NETアプリケーションを実行することもできます。

.NET core の導入により、すべてのクラウドのメリットを活用する最新の .NET アプリケーションを設計できます。最新のアプリケーションでは、従来のコンピューティング選択セットを使用するだけでなく、AWS Fargate や など、さまざまなタイプのサーバーレス環境をターゲットにすることもできます AWS Lambda。NET6+ では、Graviton2 EC2ファミリーなどのARM64EC2インスタンスでワークロードのパフォーマンスの高いホスティングが提供されるようになりました。これにより、Amazon で利用可能な最新世代のプロセッサにアクセスできます EC2。つまり、ビデオエンコーディング、ウェブサーバー、ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC) など、ワークロードタイプに特化したコンピューティングでアプリケーションをホストできます HPC。



このセクションでは、の適応に役立つレコメンデーションを提供します。NET アプリケーションは、コスト効率を重視してクラウドの利点を活用できます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [最新の .NET にリファクタリングし、Linux に移行する](#)
- [.NET アプリケーションをコンテナ化する](#)
- [Graviton インスタンスとコンテナを使用する](#)
- [静的 .NET の動的スケーリングをサポートします。NET フレームワークアプリケーション](#)
- [キャッシュを使用してデータベースの需要を減らす](#)

- [サーバーレスを検討してください。NET](#)
- [専用データベースを検討する](#)

最新の にリファクタリングしNET、Linux に移行する

概要

レガシー のモダナイズ。NET フレームワークアプリケーションは、セキュリティ、パフォーマンス、スケーラビリティの向上に役立ちます。をモダナイズする効果的な方法。NET フレームワークアプリケーションは、最新のバージョン (6+) に移行します。NETこれらのアプリケーションをオープンソース に移行する際の主な利点は次のとおりです。NET

- Linux オペレーティングシステムで Windows ライセンスコストを削減するには
- 最新の言語の可用性を活用する
- Linux で実行するように最適化されたパフォーマンスを得る

多くの組織では、まだ古いバージョンの を実行しています。NET フレームワーク。古いバージョンの脆弱性は Microsoft によって対処されなくなったため、これはセキュリティ上のリスクをもたらす可能性があります。Microsoft は、 の最新バージョンのサポートを終了しました。NET フレームワーク 4.5.2、4.6、および 4.6.1。古いバージョンのフレームワークを引き続き実行する際のリスクと利点を評価することが重要です。リスクを軽減しコストを削減するには、時間と労力を の最新バージョンへのリファクタリングに費やす価値がありますNET。

コストへの影響

コンピューティング、メモリ、ネットワークリソースのバランスを提供する汎用EC2インスタンスタイプ (m5) を検討してください。これらのインスタンスは、ウェブサーバー、中規模のデータベース、ソースコードリポジトリなどのさまざまなアプリケーションに適しています。

例えば、米国東部 (バージニア北部) の Windows Server (ライセンス込み) のメモリが 4 GB vCPUs および 16 GB のオンデマンド m5.xlarge インスタンスには、月額 274.48 USD かかります。Linux サーバー上の同じリソースの料金は、月額 140.16 USD です。この例では、 からアプリケーションを移行するとコストが 49% 削減されます。NET を最新バージョンの にフレームワークし、NETLinux サーバーでアプリケーションを実行します。コストは、インスタンス を選択するときに選択したオプション (インスタンスタイプ、オペレーティングシステム、ストレージなど) [EC2](#) によって異なる場合があります。[Savings Plans](#) または [リザーブドインスタンス](#) を使用して、コストをさらに最適化できます。詳細については、 を使用してコスト見積もり [AWS Pricing Calculator](#) を実

行します。Windows に含まれるインスタンスの場合、料金モデルに関係なく、ライセンスコストは [vCPU あたり 1 時間あたり 0.046 USD](#) です。

これらの の移植。NET アプリケーションを最新の にフレームワーク化します。NET には開発者の労力が必要です。アプリケーションとその依存関係を評価して、ターゲットプラットフォームのバージョンと互換性があるかどうかを確認する必要があります。 [AWS Porting Assistant for .NET](#) は、 をスキャンする補助ツールです。NET アプリケーションをフレームワークして を生成します。NET 互換性評価により、アプリケーションを Linux とより迅速に互換性を持たせることができます。Porting Assistant for .NET は の非互換性を識別しNET、既知の代替品を見つけて、詳細な互換性評価を生成します。ソリューションを移植した後、依存関係を使用してプロジェクトを正常にコンパイルするには、手動でコードを変更する必要があります。これにより、アプリケーションを Linux にモダナイズする際の手動作業が軽減されます。アプリケーションがARMプロセッサをサポートしている場合、Linux に移行すると、Graviton インスタンスを使用する機能がロック解除されます。これにより、さらなるコスト削減でさらに 20% を実現できます。詳細については、AWS コンピューティングブログの [「Powering .NET 5 with AWS Graviton2: Benchmarks」](#) を参照してください。

[AWS Toolkit for .NET](#) など、他のツールもあります。NET リファクタリングと [.NET Upgrade Assistant](#) 。レガシー フレームワークアプリケーションを最新の NETに移行するのに役立ちますNET。

コスト最適化に関する推奨事項

を移行するには。NET フレームワークアプリケーションは、次の操作を行います。

1. 前提条件 – Porting Assistant for .NET を使用するにはNET、アプリケーションのソースコードを分析するマシンに .NET 5+ をインストールする必要があります。マシン上のリソースには、1.8 GHz以上の処理速度、4 GB のメモリ、5 Gb のストレージスペースが必要です。詳細については、 [「Porting Assistant for .NET」](#) ドキュメントの「前提条件」を参照してください。NET
2. 評価 — Porting Assistant for .NET [を実行可能ファイル](#) (ダウンロード) としてダウンロードします。ツールをダウンロードしてマシンにインストールすると、アプリケーションの評価を開始できます。評価ページには、最新の と互換性APIsのない移植されたプロジェクト、パッケージ、が含まれていますNET。このため、評価後にソリューションでビルドエラーが発生します。評価結果を表示またはCSVファイルにダウンロードできます。詳細については、「Porting Assistant for .NET」ドキュメントの [「ソリューションの移植」](#) を参照してください。NET
3. リファクタリング — アプリケーションを評価した後、プロジェクトをターゲットフレームワークバージョンに移植できます。ソリューションを移植すると、プロジェクトファイルと一部のコードは Porting Assistant によって変更されます。ログを確認して、ソースコードの変更を確認できます。ほとんどの場合、コードは移行とテストを完了して本番環境の準備を整えるために、追

加の労力を必要とします。アプリケーションによっては、エンティティフレームワーク、アイデンティティ、認証などの変更が含まれる場合があります。詳細については、「Porting Assistant for .NET」ドキュメントの「[ソリューションの移植](#)」を参照してください。

これは、アプリケーションをコンテナにモダナイズするための最初のステップです。をモダナイズするには、ビジネスや技術の推進要因が多数存在する可能性があります。NET Linux コンテナにアプリケーションをフレームワークします。重要な要因の 1 つは、Windows オペレーティングシステムから Linux に移行することで、総所有コストを削減することです。これにより、アプリケーションをクロスプラットフォームバージョンの NET に移行する際のライセンスコストを削減し、コンテナに移行してリソース使用率を最適化できます。

アプリケーションが Linux に移植されたら、[AWS App2Container](#) を使用してアプリケーションをコンテナ化できます。App2Container は、直接デプロイできるエンドポイントサービス EKS として Amazon ECS または Amazon Fargate を使用します。App2Container は、アプリケーションを繰り返しコンテナ化するために必要なすべての infrastructure as code (IaC) デプロイアーティファクトを提供します。

その他の考慮事項とリソース

- VB.NET 上にアプリケーションが構築されており (2002 年のレガシーフレームワーク)、それらを NET に移植する場合は、[「レガシー VB.NET アプリケーションの移植」を参照してください。NET 6.0 with Porting Assistant for .NET](#) ブログの「Microsoft Workloads」への投稿 AWS。
- Windows Communication Foundation (WCF) にレガシーアプリケーションがあり、それらを最新のもので実行したい場合は NET Core を導入できます WCF。詳細については、ブログの Microsoft ワークロードの「[Porting Assistant for .NET を使用してレガシー WCF アプリケーションを Core WCF にモダナイズする](#)」を参照してください AWS。
- 移植アシスタントを Visual Studio の拡張機能として追加できます IDE。これにより、IDE と Porting Assistant for .NET ツールを切り替えることなく、コードの変換に必要なすべてのタスクを実行できます。NET 詳細については、「[Accelerate .NET application modernization with Porting Assistant for .NET](#)」を参照してください。NET ブログの Microsoft ワークロードに関する Visual Studio IDE 拡張機能の投稿。AWS
- [AWS Porting Assistant for .NET は、評価のソースコードと互換性分析コンポーネントを備えたオープンソースツールになりました](#)。これにより、デベロッパーがを使用して共有することを促すことができます。NET は知識とベストプラクティスを移行します。
- AWS Toolkit for Linux を使用して、Linux で .NET フレームワークアプリケーションを最新の .NET に移植できます。NET リファクタリング。詳細については、「[Accelerate .NET modernization with](#)

[AWS Toolkit for 」を参照してください。NET ブログの Microsoft ワークロードに関するリファクタリング記事 AWS。](#)

- [のコンテナ化と移行を高速化できますASP。NET AWS を使用してアプリケーションを にコア化します AWS App2Container。](#)

.NET アプリケーションをコンテナ化する

概要

コンテナは、一貫して再現可能な方法でアプリケーションをパッケージ化してデプロイするための軽量で効率的な方法です。このセクションでは AWS Fargate、サーバーレスコンテナサービスであるを使用して のコストを削減する方法を説明します。NET アプリケーションは、スケーラブルで信頼性の高いインフラストラクチャも提供します。

コストへの影響

コスト削減のためのコンテナの使用の有効性に影響する要因には、アプリケーションのサイズと複雑さ、デプロイする必要があるアプリケーションの数、アプリケーションのトラフィックと需要のレベルなどがあります。小規模または単純なアプリケーションでは、コンテナの管理や関連サービスのオーバーヘッドによって実際にコストが増加する可能性があるため、コンテナは従来のインフラストラクチャアプローチと比較して大幅なコスト削減を実現できない場合があります。ただし、大規模または複雑なアプリケーションでは、コンテナを使用すると、リソース使用率を向上させ、必要なインスタンスの数を減らすことでコスト削減を実現できます。

コスト削減のためにコンテナを使用する場合は、次の点に注意してください。

- アプリケーションのサイズと複雑さ — 大規模で複雑なアプリケーションは、より多くのリソースを必要とする傾向があり、リソース使用率の向上からより多くの利点を得ることができるため、コンテナ化に適しています。
- アプリケーション数 — 組織がデプロイする必要があるアプリケーションが多いほど、コンテナ化によってコスト削減を実現できます。
- トラフィックと需要 — トラフィックと需要が高いアプリケーションは、コンテナが提供するスケーラビリティと伸縮性からメリットを得ることができます。これにより、コスト削減につながる可能性があります。

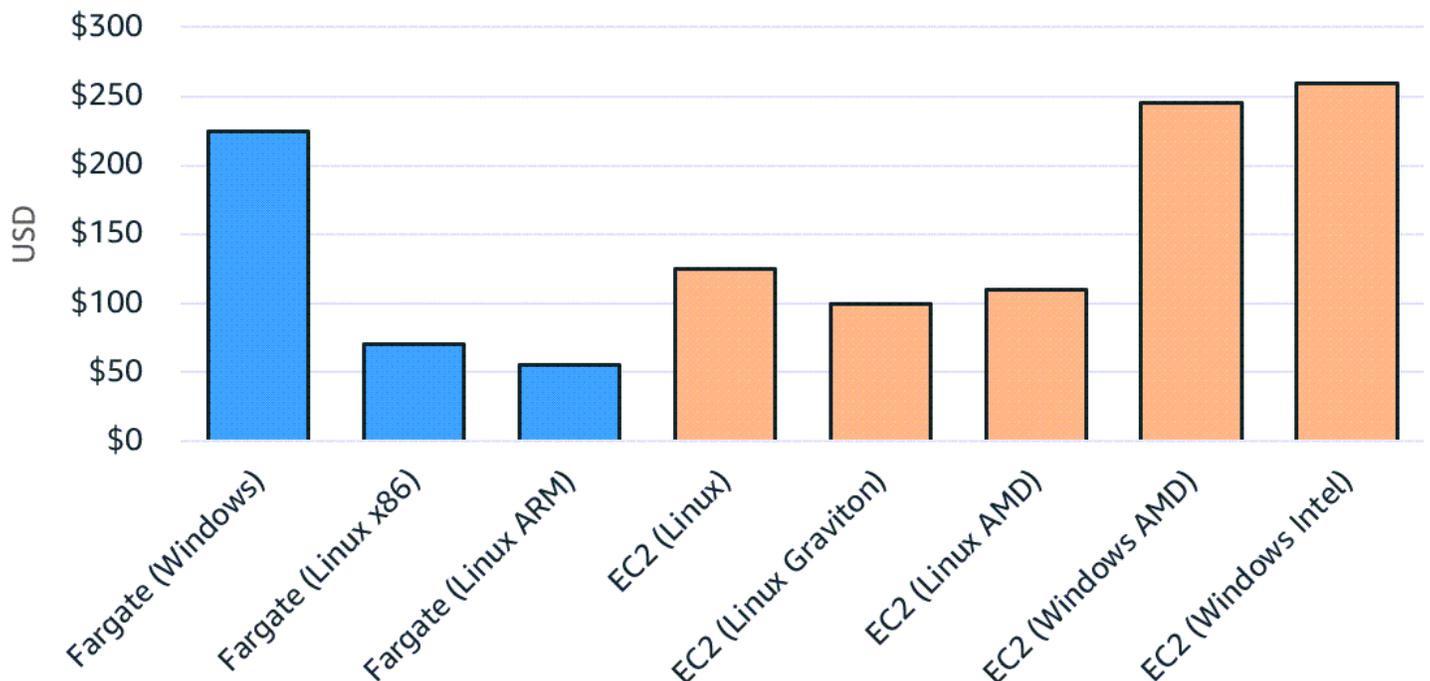
アーキテクチャやオペレーティングシステムが異なると、コンテナのコストに影響します。Windows コンテナを使用している場合、ライセンス上の考慮事項により、コストが削減され

ない場合があります。Linux コンテナでは、ライセンスコストが安くなったり、コストがかからなかったりします。次のグラフでは、米国東部 (オハイオ) リージョン AWS Fargate の の基本的な設定と、それぞれ 12 時間実行される 1 か月あたり 30 個のタスク、4 GB vCPUs と 8 GB のメモリが割り当てられます。

でコンテナを実行するには、2 つのプライマリコンピューティングプラットフォームから選択できます AWS。 [EC2ベースのコンテナホストとサーバーレス](#) または [AWS Fargate](#)。 Fargate の代わりに Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) を使用する場合は、実行中のコンピューティング (インスタンス) を維持し、プレイスメントエンジンが必要に応じてコンテナをインスタンス化できるようにする必要があります。代わりに Fargate を使用する場合は、必要なコンピューティング性能のみがプロビジョニングされます。

次のグラフは、Fargate と Amazon を使用した同等のコンテナの違いを示しています EC2。 Fargate の柔軟性により、アプリケーションのタスクは 1 日 12 時間実行でき、オフ時間中は使用率はゼロです。ただし、Amazon では ECS、 [Auto Scaling インスタンスグループ](#) を使用してコンピューティング性能を制御する必要があります。 EC2 これにより、容量が 1 日 24 時間稼働し、最終的にコストが増加する可能性があります。

Monthly costs of Fargate and Amazon EC2



コスト最適化に関する推奨事項

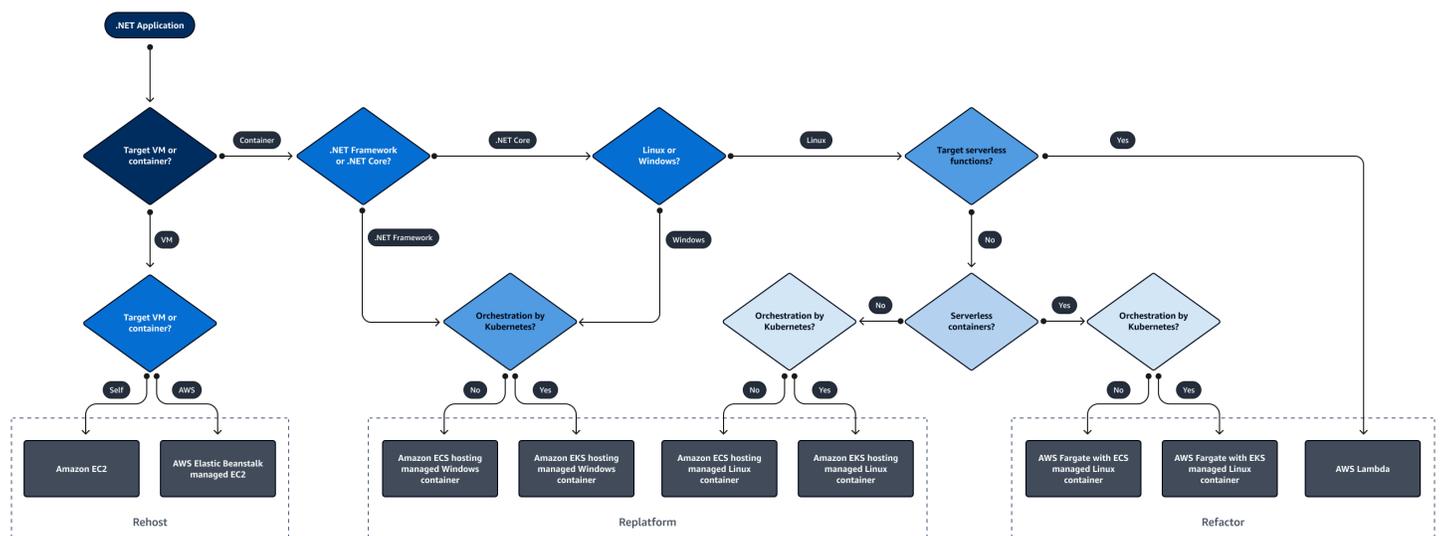
Windows ではなく Linux コンテナを使用する

Windows コンテナの代わりに Linux コンテナを使用すると、大幅なコスト削減を実現できます。例えば、`dotnet run` を実行すると、コンピューティングコストを約 45% 削減できます。NET を実行する代わりに EC2 Linux 上の Core。NET EC2 Windows のフレームワーク。x86 の代わりに ARMアーキテクチャ (AWS Graviton) を使用すると、さらに 40% の割引を受けることができます。

既存の .NET アプリケーションに対して Linux ベースのコンテナを実行する予定がある場合。NET フレームワークアプリケーションでは、これらのアプリケーションを最新のクロスプラットフォームバージョンの .NET に移植する必要があります (NET [など](#)、[NET 6.0](#)) Linux コンテナを使用するための。主な考慮事項は、Linux コンテナのコスト削減と比較して、リファクタリングのコストを比較検討することです。アプリケーションを最新の .NET に移植する方法の詳細についてはNET、AWS ドキュメントの「[Porting Assistant for NET](#)」を参照してください。

最新の .NET に移行するもう 1 つの利点はNET、(つまり、.NET から離れていることです。NET フレームワーク) は、追加のモダナイゼーションの機会が利用可能になることです。例えば、アプリケーションのアーキテクチャを、よりスケラブルで俊敏性があり、費用対効果の高いマイクロサービスベースのアーキテクチャに再設計することを検討できます。

次の図は、モダナイゼーションの機会を検討するための意思決定プロセスを示しています。



Savings Plans を利用する

コンテナを使用すると、[Compute Savings Plans](#)を活用して Fargate コストを削減できます。柔軟な割引モデルでは、コンバーティブルリザーブドインスタンスと同じ割引が提供されます。Fargate

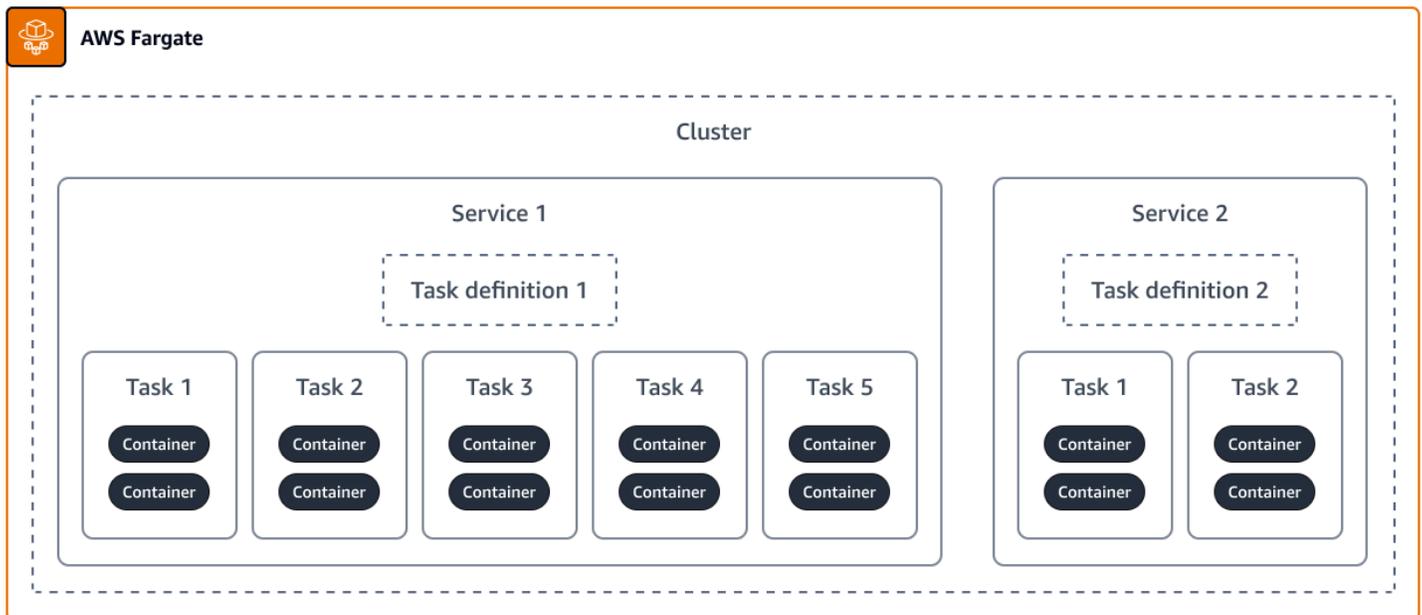
の料金は、コンテナイメージのダウンロードを開始した時点から Amazon ECS タスクが終了するまで (最も近い秒に切り上げ) に使用される vCPU とメモリリソースに基づいています。[Fargate の Savings Plans](#) は、1 年または 3 年の期間に特定の量のコンピューティング使用量 (1 時間あたりドルで測定) を使用するというコミットメントと引き換えに、Fargate の使用を最大 50% 削減できます。を使用すると[AWS Cost Explorer](#)、Savings Plan を選択できます。

Compute Savings Plans は、最も大きな節約を最初に得られる使用量に適用されることを理解することが重要です。例えば、で t3.medium Linux インスタンス us-east-2 を実行し、同じ Windows t3.medium インスタンスを実行している場合、Linux インスタンスは最初に Savings Plan のメリットを受け取ります。これは、Linux インスタンスのコスト削減の可能性が 50% あるのに対し、同じ Windows インスタンスのコスト削減の可能性が 35% あるためです。Amazon EC2 や Lambda など AWS アカウント、他の Savings Plan 対象リソースが で実行されている場合、Savings Plan を最初に Fargate に適用する必要はありません。詳細については、[Savings Plans ドキュメント](#) の「[Savings Plans AWS が使用状況にどのように適用されるか](#)」を理解すると、このガイドの「[Amazon での Windows の支出を最適化する EC2](#)」セクションを参照してください。Savings Plans

適切なサイズの Fargate タスク

Fargate タスクのサイズが正しく設定され、コスト最適化の最大限のレベルを実現することが重要です。多くの場合、デベロッパーは、アプリケーションで使用される Fargate タスクの設定を最初に決定する際に、必要な使用情報をすべて把握していません。これにより、タスクのオーバープロビジョニングが発生し、不要な支出が発生する可能性があります。これを回避するには、Fargate で実行されているテストアプリケーションをロードして、さまざまな使用シナリオで特定のタスク設定がどのように実行されるかを理解することをお勧めします。負荷テスト結果、vCPU、タスクのメモリ割り当て、自動スケーリングポリシーを使用して、パフォーマンスとコストの適切なバランスを見つけることができます。

次の図は、Compute Optimizer が最適なタスクとコンテナサイズのレコメンデーションを生成する方法を示しています。



1つのアプローチは、「での分散負荷テスト」で説明されているような負荷テスト AWS ツールを使用して、vCPU とメモリ使用率のベースラインを確立することです。負荷テストを実行して一般的なアプリケーションの負荷をシミュレートした後、ベースライン使用率に達するまでタスクの vCPU とメモリの設定を微調整できます。

追加リソース

- [Amazon ECS と のコスト最適化チェックリスト AWS Fargate](#) (AWS コンテナブログ記事)
- [Amazon ECS 起動タイプ別の理論コスト最適化: Fargate vs EC2](#) (AWS コンテナブログ記事)
- [Porting Assistant for .NET](#) (AWS ドキュメント)
- (AWS ソリューションライブラリ) [での分散負荷テスト AWS](#)
- [AWS Compute Optimizer が で Amazon ECS サービスのサポートを開始 AWS Fargate](#) (AWS Cloud Financial Management ブログ記事)

Graviton インスタンスとコンテナを使用する

概要

AWS Graviton インスタンスは、 で実行されているコンテナを含め、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) で実行されているクラウドワークロードに最適な価格のパフォーマンスを提供する AWS ように によって設計された ARM プロセッサを搭載しています AWS。現在、Amazon で使用できる Graviton は 3 世代あります EC2。このガイドでは、 での Graviton 2 および 3 の使用に焦点を

当てています。NET最新バージョンの Graviton を使用すると、大幅なコスト削減が可能になるためです。Graviton インスタンスは Linux オペレーティングシステムのみを実行することに注意してください。その結果、Graviton インスタンスは Linux で実行されている NET向けの強力なサービスですが、Windows オペレーティングシステムやレガシー のオプションではありません。NET フレームワークアプリケーション。

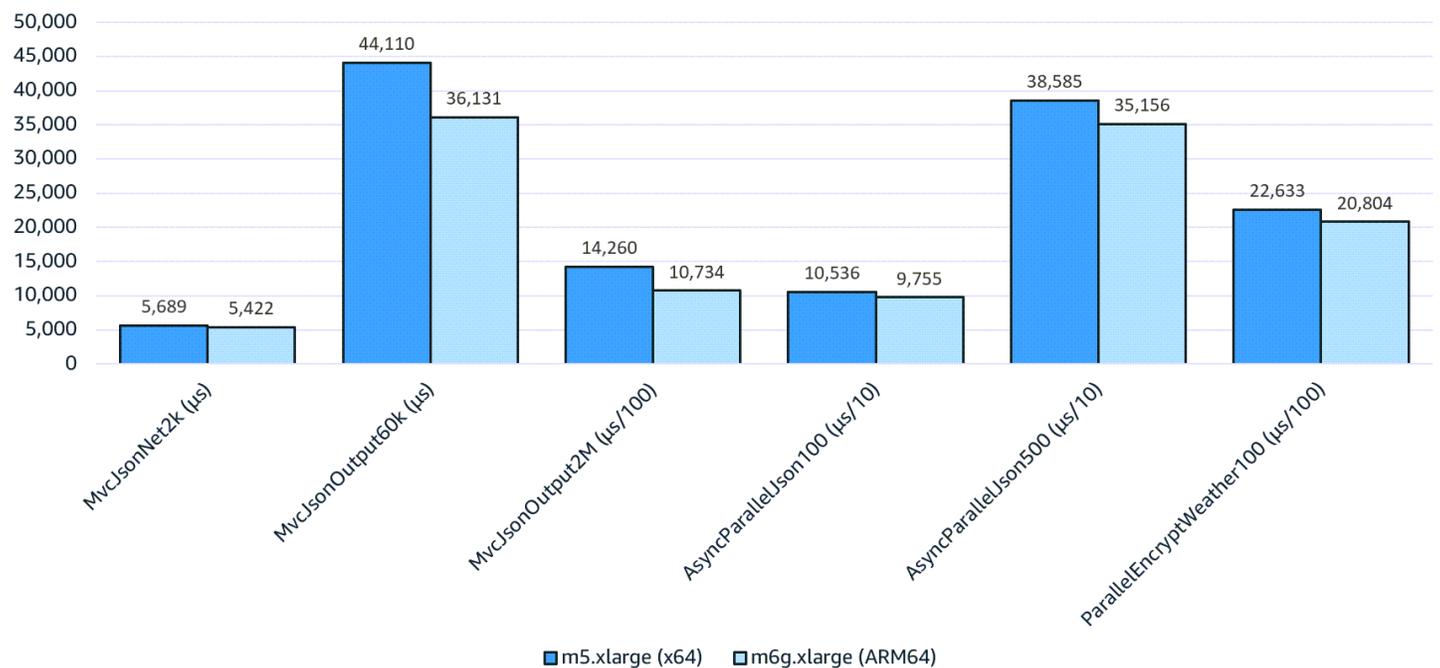
Graviton 3 は、同等のEC2インスタンスよりも 60% 効率的であり、パフォーマンスは最大 40% 向上します。このガイドでは、Graviton の使用によるコスト上の利点に焦点を当てていますが、Graviton にはパフォーマンスの向上と環境の持続可能性の向上という追加の利点があることに注意してください。

コストへの影響

Graviton に切り替えると、最大 45% の節約を実現できます。レガシー をリファクタリングした後、NET アプリケーションを最新の NETバージョンにフレームワークすると、Graviton インスタンスを使用する機能を利用できます。Graviton への移行は、デベロッパーにとって効果的なコスト最適化手法です。NET

次の表の例は、Graviton インスタンスに移行することで達成できるパフォーマンス向上の可能性を示しています。

Mean latency (μs , $\mu\text{s}/10$, or $\mu\text{s}/100$ for scaling)



前の図の結果の作成に使用されるベンチマークアプローチの完全な内訳と説明については、AWS コンピューティングブログの「[Powering .NET 5 with AWS Graviton2: Benchmarks](#)」を参照してください。

効率を向上させる理由の 1 つは、x86 と Graviton の間の vCPU の意味の違いです。x86 アーキテクチャでは、vCPU はハイパースレッドによって達成される論理コアです。Graviton では、vCPU は物理コアに相当し、vCPU がワークロードに完全にコミットできるようにします。

Graviton2 は、同等の x86/x64 インスタンスよりも 40% 優れた価格パフォーマンスを実現します。Graviton3 は、Graviton2 に対して以下を提供します。

- パフォーマンスが 25% 向上したパフォーマンスプロファイルの向上
- 浮動小数点パフォーマンスが最大 2 倍向上
- 暗号化ワークロードのパフォーマンスが最大 2 倍向上
- 機械学習のパフォーマンスが最大 3 倍向上

さらに、Graviton3 は DDR5、メモリを搭載したクラウド内の最初のインスタンスです。

次の表は、Graviton ベースのインスタンスと同等の x86 ベースのインスタンスとのコスト削減の違いを示しています。

この表は、Graviton が 19.20% 削減されたことを示しています。

インスタンスタイプ	アーキテクチャ	vCPU	メモリ (GB)	時間単位のコスト (オンデマンド)
t4g.xlarge	ARM	4	16	0.1344 USD
t3.xlarge	x86	4	16	0.1664 USD

この表は、Graviton が 14.99% 削減されたことを示しています。

インスタンスタイプ	アーキテクチャ	vCPU	メモリ (GB)	時間単位のコスト (オンデマンド)
c7g.4xlarge	ARM	16	32	0.5781 USD
c6i.4xlarge	x86	16	32	0.6,800 USD

Graviton を検討するときは、アプリケーションのパフォーマンスプロファイルをテストすることが重要です。Graviton は、強固なソフトウェア開発プラクティスに代わるものではありません。テストを使用して、基盤となるコンピューティングリソースを最大限に活用しているかどうかを確認できます。

コスト最適化に関する推奨事項

Graviton プロセッサ/インスタンスを利用するには、いくつかの方法があります。このセクションでは、x86 アーキテクチャマシンの使用から Graviton (ARM) インスタンスへの移行に必要な変更点について説明します。

Lambda でランタイム設定を変更する

でランタイム設定を切り替えることをお勧めします AWS Lambda。詳細については、Lambda [ドキュメント](#)の「[ランタイム環境の変更](#)」を参照してください。はNETコンパイルされた言語であるため、これを機能させるにはビルドプロセスに従う必要があります。これを行う方法の例については、「」の[NET「Graviton」](#)の「」を参照してください GitHub。

コンテナ

コンテナ化されたワークロードの場合は、マルチアーキテクチャコンテナイメージを作成します。これを行うには、Docker ビルドコマンドで複数のアーキテクチャを指定します。例:

```
docker buildx build -t "myImageName:latest" --platform linux/amd64,linux/arm64 --push .
```

また、[などのツール](#)を使用して AWS Cloud Development Kit (AWS CDK)、[ビルドのオーケストレーション](#)に役立てることもできます。Docker の例については、Docker ドキュメントの「[Building Multi-Arch Images for Arm and x86 with Docker Desktops](#)」を参照してください。

Amazon EC2

x86/x64 ARMから移行するには、コンパイルステップでARMアーキテクチャをターゲットにします。Visual Studio では、ARM64 を作成できますCPU。手順については、Microsoft [ドキュメントの Arm64 およびその他のプラットフォームをターゲットとするプロジェクトを設定するには](#)」を参照してください。

を使用している場合、NET ARMマシンでビルドを実行するとCLI、Graviton 互換ビルドが生成されます。デモを見るには、[Accelerate をご覧ください。NET6 performance with Arm64 on AWS Graviton2 on YouTube](#)。依存関係の問題により、コンパイル時のエラーが発生し、個別に対処できません。依存関係のARMライブラリがある限り、移行は比較的簡単です。

追加リソース

- [Amazon の Graviton ARMインスタンスとスポットインスタンスを使用してコンテナを構築し、保存する方法 ECS \(AWS ブログ\)](#)
- [AWS LambdaAWS Graviton2 プロセッサを搭載した関数 – 関数を Arm で実行し、最大 34% 優れた価格パフォーマンスを得る \(AWS ブログ\)](#)
- [Arm ベースの AWS Graviton2 プロセッサへの AWS Lambda 関数の移行 \(AWS ブログ\)](#)
- [\(ブログ\) を使用して .NET ウェブアプリケーションを構築して ARMを搭載した AWS Graviton 2 Amazon ECS クラスターにデプロイする AWS CDKAWS](#)
- [Graviton Fast Start – ワークロードを AWS Graviton に移動するための新しいプログラム \(AWS ブログ\)](#)
- [AWS Graviton2 による .NET 5 の強化: ベンチマーク \(AWS ブログ\)](#)

静的 の動的スケーリングをサポートします。NET フレームワークアプリケーション

概要

アプリケーションにクラウドを使用する主な利点の 1 つは、伸縮性、または需要に応じてコンピューティングをスケールインまたはスケールアウトする機能です。これにより、ピーク時の使用量に合わせてプロビジョニングするのではなく、必要なコンピューティング容量に対してのみ料金を支払うことができます。オンライン小売業者が通常よりも何倍も多く多くのトラフィックをすばやく得ることができるサイバーマンデー (例えば、[数分以内に何千パーセントも](#)) は、伸縮性の良い例です。

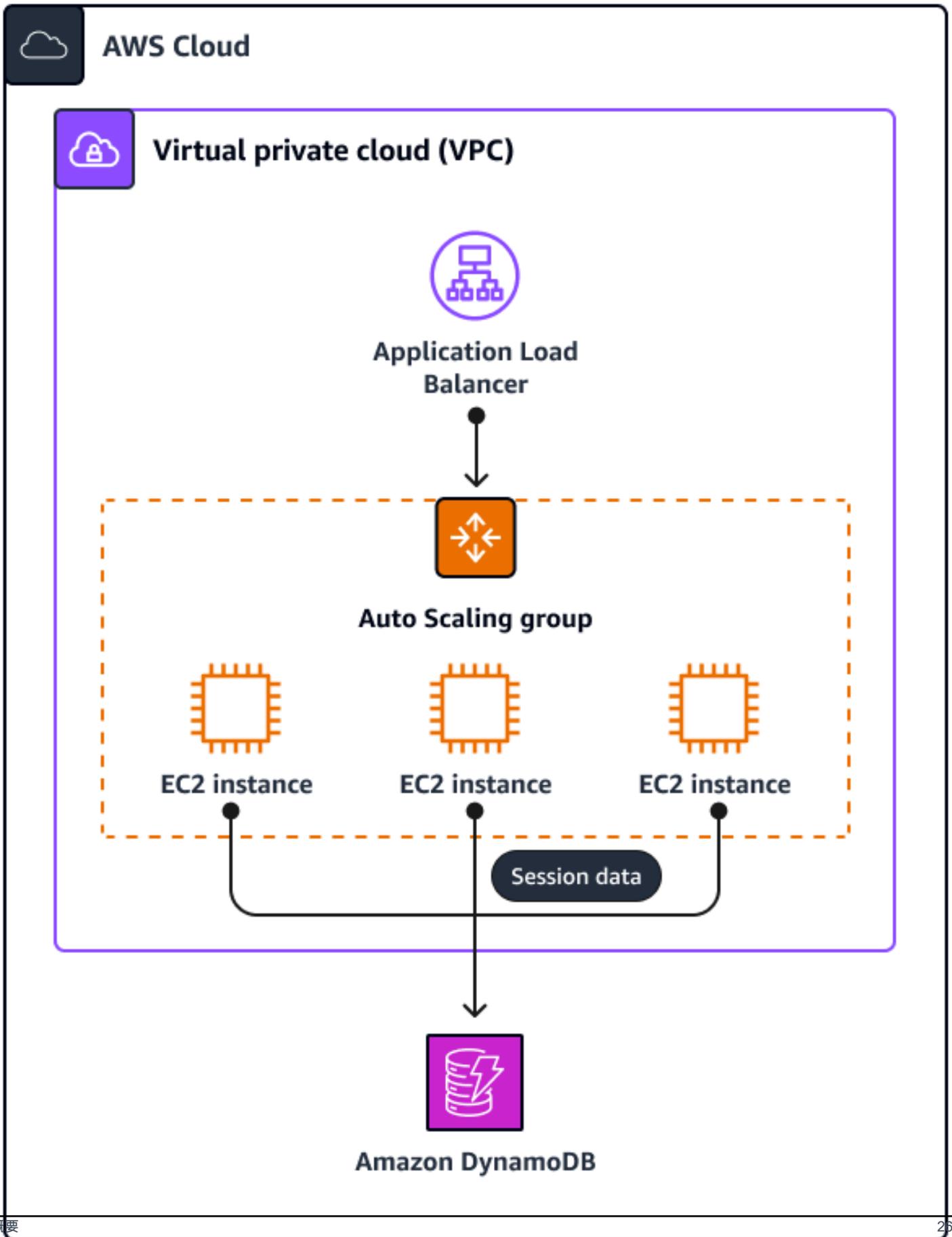
レガシー ウェブNETアプリケーションをクラウドに持ち込む場合 (例: ASP。NET IIS) で実行されているフレームワークアプリケーションは、アプリケーションのステートフルな性質上、ロードバランシングされたサーバーファームを迅速にスケーリングするのが困難または不可能な場合があります。ユーザーセッションデータは、アプリケーションのメモリ内に保存されます。[ASP。NET通常は、保持する必要があるクロスリクエストデータを保持するセッション状態または静的変数です。](#)ユーザーセッションのアフィニティは、通常、ロードバランサーステイキーセッションを通じて維持されません。

これは運用上困難であることが証明されています。容量を増やす必要がある場合は、意図的にサーバーをプロビジョニングして追加する必要があります。これは遅いプロセスである可能性があります。パッチ適用や予期しない障害が発生した場合にノードをサービス停止にすると、エンドユーザーエクスペリエンスに問題が発生し、影響を受けるノードに関連付けられているすべてのユーザーの状態が失われる可能性があります。そのためには、ユーザーが再度ログインする必要があります。

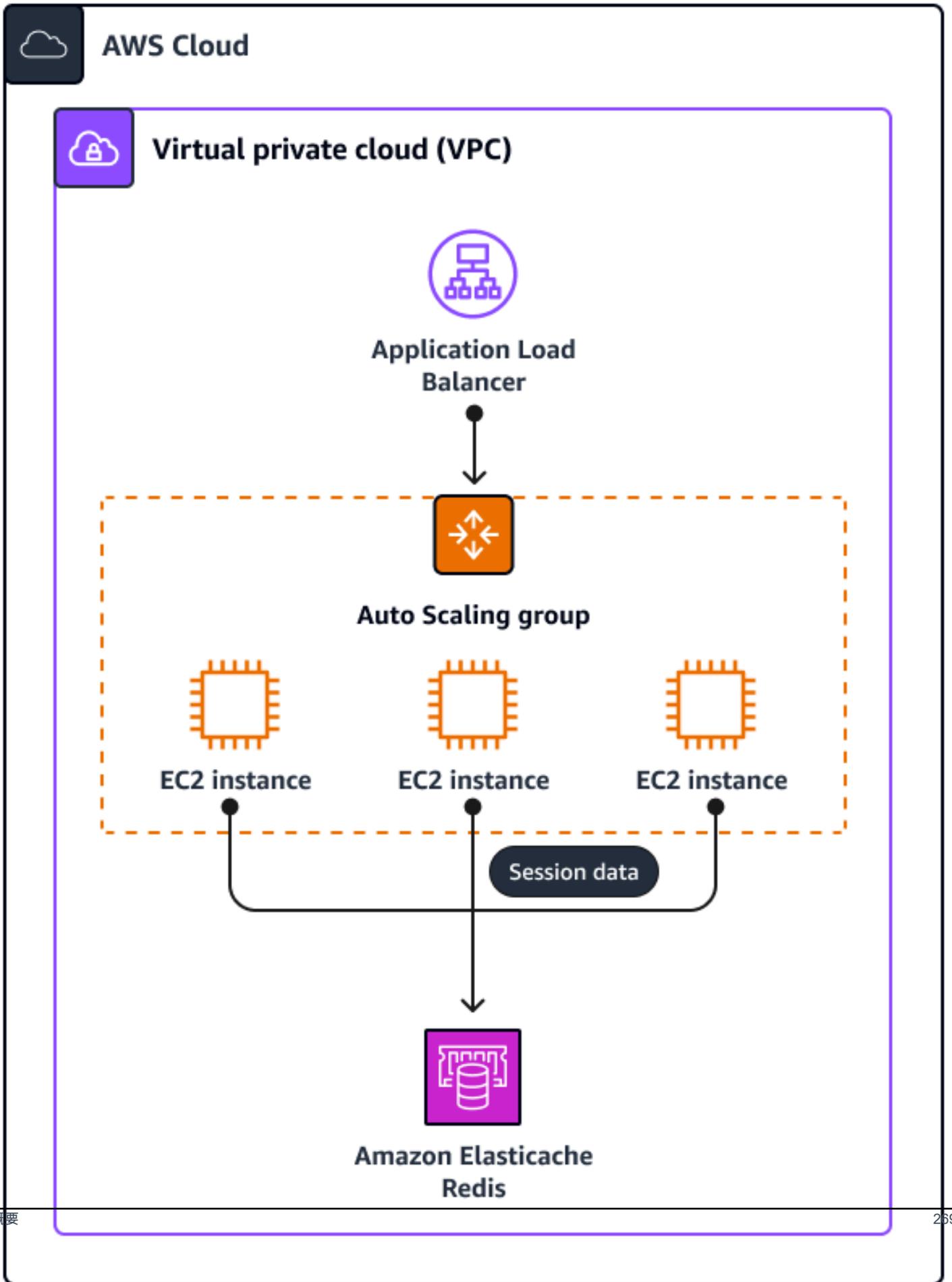
のセッション状態を一元化することでASP、NET アプリケーションと Auto Scaling ルールをレガシーに適用できませんASP。NET アプリケーションでは、クラウドの伸縮性を活用し、アプリケーションの実行時にコスト削減を活用できます。例えば、コンピューティングのスケーラビリティによってコスト削減を実現できますが、[リザーブドインスタンスの使用量を減らしたり、Amazon スポットインスタンスの料金を使用したりなど、利用可能なさまざまな料金モデルから選択することもできます。](#)

2つの一般的な手法には、[セッションステートプロバイダーとして Amazon DynamoDB](#) を使用することと、[. session store として Amazon ElastiCache \(Redis OSS\) を使用することASPがありますNET。](#)

次の図は、セッション状態プロバイダーとして DynamoDB を使用するアーキテクチャを示しています。



次の図は、ElastiCache (Redis OSS) をセッション状態プロバイダーとして使用するアーキテクチャを示しています。



コストへの影響

本番稼働用アプリケーションのスケージングのメリットを判断するには、実際の需要をモデル化することをお勧めします。このセクションでは、サンプルアプリケーションをモデル化するために、以下の仮定を行います。

- ロードに追加および削除されるインスタンスは同一であり、インスタンスサイズのバリエーションは導入されません。
- アプリケーションの高可用性を維持するために、サーバーの使用率が 2 つのアクティブなサーバーを下回ることはありません。
- サーバーの数は、トラフィックに合わせて直線的にスケージングされます (つまり、トラフィックの 2 倍にはコンピューティングの 2 倍が必要です)。
- トラフィックは 1 か月にわたって 6 時間単位でモデル化され、1 日の変動と 10 倍のトラフィックの 1 日分の異常なピーク (プロモーションセールなど) があります。週末のトラフィックは、基本使用率に基づいてモデル化されます。
- 夜間トラフィックは基本使用率でモデル化され、平日トラフィックは 4 倍の使用率でモデル化されます。
- リザーブドインスタンスの料金は、前払いなしの 1 年間の料金を使用します。通常の日中の料金はオンデマンド料金を使用し、バースト需要はスポットインスタンス料金を使用します。

次の図は、このモデルがピーク時の使用のためにプロビジョニングするのではなく、.NET アプリケーションで伸縮性をどのように活用するかを示しています。これにより、約 68% の節約になります。

Comparison of cumulative costs for peak provisioning and autoscaling



セッション状態ストレージメカニズムとして DynamoDB を使用する場合は、次のパラメータを使用します。

Storage: 20GB
 Session Reads: 40 million
 Session Writes: 20 million
 Pricing Model: On demand

このサービスの推定月額料金は、1 か月あたり約 35.00 USD です。

ElastiCache (Redis OSS) をセッション状態のストレージメカニズムとして使用する場合は、次のパラメータを使用します。

Number of Nodes: 3
 Node size: cache.t4g.medium
 Pricing Model: 1y reserved

このサービスの推定月額料金は、1 か月あたり約 91.00 USD です。

コスト最適化に関する推奨事項

最初のステップは、レガシー .NET アプリケーションにセッション状態を実装することです。ステートストレージメカニズム ElastiCache としてを使用している場合は、AWS SDK for .NET ドキュメントの「[とは AWS SDK for .NET](#)」のガイドランスに従ってください。DynamoDB を使用している

場合は、のガイドンスを [ElastiCache](#) として実行しますASP。NET デベロッパーツールブログの「[セッションストア](#)」。AWS

アプリケーションがInProcセッションを使用してで開始する場合は、セッションに保存する予定のすべてのオブジェクトをシリアル化できることを確認してください。これを行うには、`SerializableAttribute` 属性を使用して、インスタンスがセッションに保存されるクラスをデコレートします。例:

```
[Serializable()]
public class TestSimpleObject {
    public string SessionProperty {get;set;}
}
```

さらに、。NET は、使用中のすべてのサーバー間で同じMachineKeyである必要があります。これは通常、インスタンスが共通の Amazon マシンイメージ () から作成された場合ですAMI。例:

```
<machineKey
    validationKey="some long hashed value"
    decryptionKey="another long hashed value"
    validation="SHA1"/>
```

ただし、ベースイメージが変更された場合は、同じマシンNETイメージ (IISまたはサーバーレベルで設定可能) で設定されていることを確認することが重要です。詳細については、Microsoft ドキュメントの[SystemWebSectionGroup「.MachineKey Property」](#)を参照してください。

最後に、スケーリングイベントに応じて Auto Scaling グループにサーバーを追加するメカニズムを決定する必要があります。これを実現するには、いくつかの方法があります。をシームレスにデプロイするには、次の方法をお勧めします。NET Auto Scaling グループ内のEC2インスタンスへのアプリケーションのフレームワーク:

- [EC2 Image Builder](#) を使用して、完全に設定されたサーバーとアプリケーションAMIを含むを設定します。その後、これを使用して [Auto Scaling グループの起動テンプレートAMI](#)を設定できます。
- を使用して[AWS CodeDeploy](#)、Application. CodeDeploy enables と [Amazon EC2 Auto Scaling](#) の統合を直接デプロイします。これにより、アプリケーションのリリースAMIごとに新しいを作成する代わりに使用できます。

追加リソース

- [EC2 Image Builder でイメージを作成する](#) (EC2 Image Builder ドキュメント)
- [のデプロイ。NET Visual Studio Team Services AWS CodeDeploy で使用するウェブアプリケーション](#) (デAWS ベロツパーツールブログ)

キャッシュを使用してデータベースの需要を減らす

概要

キャッシュを効果的な戦略として使用して、NETアプリケーションのコストを削減できます。アプリケーションがデータに頻繁にアクセスする必要がある場合、多くのアプリケーションは SQL Server などのバックエンドデータベースを使用します。これらのバックエンドサービスを維持して需要に対応するためのコストは高い可能性があります。効果的なキャッシュ戦略を使用して、サイジングとスケーリングの要件を減らすことでバックエンドデータベースの負荷を軽減できます。これにより、コストを削減し、アプリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

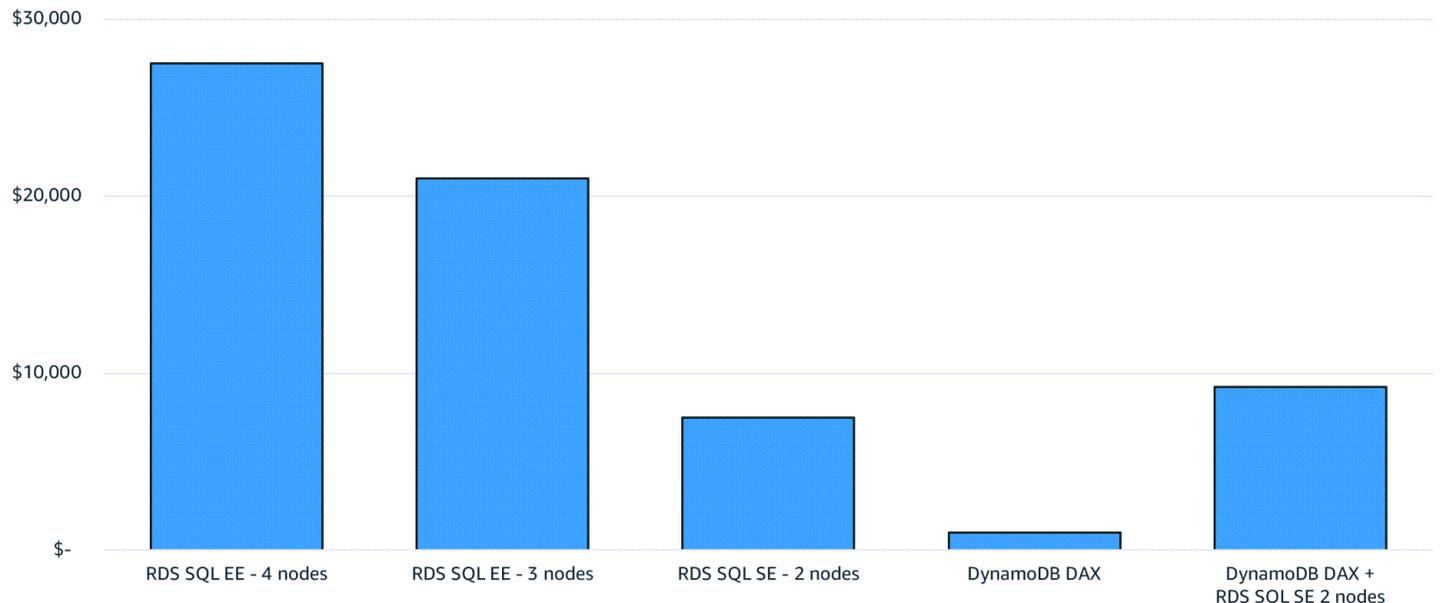
キャッシュは、SQL Server などのより高価なリソースを使用する読み込み負荷の高いワークロードに関連するコストを節約するための便利な手法です。ワークロードに適した手法を使用することが重要です。例えば、ローカルキャッシュはスケーラブルではないため、アプリケーションのインスタンスごとにローカルキャッシュを維持する必要があります。基盤となるデータソースのコストが低いほど、キャッシュメカニズムに関連する追加コストが相殺されるように、パフォーマンスへの影響を潜在的なコストと比較検討する必要があります。

コストへの影響

SQL サーバーでは、データベースのサイズ設定時に読み取りリクエストを考慮する必要があります。これは、ロードに対応するためにリードレプリカを導入する必要があるため、コストに影響する可能性があります。リードレプリカを使用している場合は、SQL Server Enterprise Edition でのみ使用できることを理解することが重要です。このエディションには、SQL サーバースタンドアードエディションよりも高価なライセンスが必要です。

次の図は、キャッシュの有効性を理解するのに役立つように設計されています。Server Enterprise Edition を実行している 4 つの db.m4.2xlarge ノード SQL を持つ Amazon RDS for SQL Server を示しています。これは、1 つのリードレプリカを持つマルチ AZ 設定にデプロイされます。排他的リードトラフィック (SELECT クエリなど) はリードレプリカに送信されます。これに対して、Amazon DynamoDB は r4.2xlarge の 2 ノード DynamoDB Accelerator (DAX) クラスターを使用します。

次の表は、高読み取りトラフィックを処理する専用リードレプリカが不要になった結果を示しています。



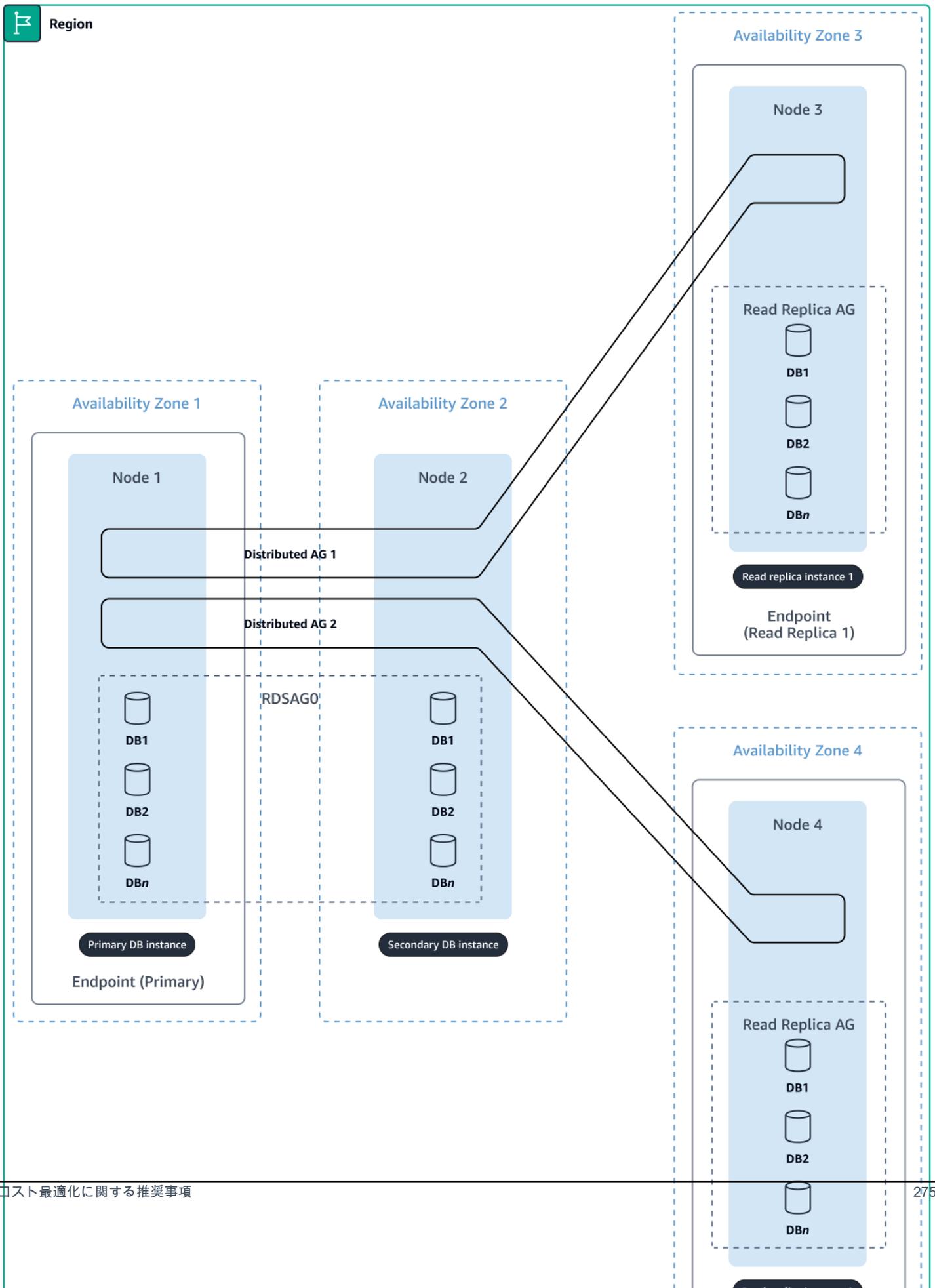
リードレプリカなしでローカルキャッシュを使用するか、Amazon の SQL Server をキャッシュレイヤーRDSとしてDAX並行して導入することで、大幅なコスト削減を実現できます。このレイヤーは SQL Server からオフロードし、データベースの実行に必要な SQL Server のサイズを縮小します。

コスト最適化に関する推奨事項

ローカルキャッシュ

ローカルキャッシュは、オンプレミス環境またはクラウドの両方でホストされているアプリケーションのコンテンツをキャッシュするために最も一般的に使用される方法の1つです。これは、実装が比較的簡単で直感的であるためです。ローカルキャッシュでは、データベースやその他のソースからコンテンツを取得し、ローカルでメモリまたはディスクにキャッシュして、より迅速にアクセスできるようにします。このアプローチは実装は簡単ですが、一部のユースケースには適していません。例えば、これには、アプリケーションの状態やユーザーの状態を保持するなど、キャッシュコンテンツを長期間保持する必要がある場合のユースケースが含まれます。もう1つのユースケースは、キャッシュされたコンテンツに他のアプリケーションインスタンスからアクセスする必要がある場合です。

次の図は、4つのノードと2つのリードレプリカを持つ高可用性SQLサーバークラスターを示しています。



ローカルキャッシュでは、複数のEC2インスタンス間でトラフィックの負荷分散が必要になる場合があります。各インスタンスは、独自のローカルキャッシュを維持する必要があります。キャッシュにステートフルな情報が格納されている場合、データベースへの定期的なコミットが必要であり、後続のリクエスト (スティッキーセッション) ごとに同じインスタンスにユーザーを転送する必要があります。これは、トラフィックの分散が不均等であるため、一部のインスタンスが過剰に利用される可能性がある一方で、一部のインスタンスが十分に利用されていないために、アプリケーションのスケーリングを試みる際に課題となります。

アプリケーションではNET、インメモリまたはローカルストレージのいずれかでローカルキャッシュを使用できます。そのためには、ディスクにオブジェクトを保存して必要に応じて取得するか、データベースからデータをクエリしてメモリに保持する機能を追加できます。例えば、C# のSQLサーバーからのデータのローカルキャッシュインメモリとローカルストレージでローカルキャッシュを実行するには、MemoryCacheとLiteDBライブラリの組み合わせを使用できます。はインメモリキャッシュMemoryCacheを提供しますが、LiteDBSQLは高速で軽量な組み込みのデータベースのデータベースではありません。

インメモリキャッシュを実行するには、を使用します。NET ライブラリ System.Runtime.MemoryCache。次のコード例は、System.Runtime.Caching.MemoryCache クラスを使用してメモリ内のデータをキャッシュする方法を示しています。このクラスは、アプリケーションのメモリにデータを一時的に保存する方法を提供します。これにより、データベースや など、より高価なリソースからデータを取得する必要性を減らすことで、アプリケーションのパフォーマンスを向上させることができますAPI。

コードの仕組みは次のとおりです。

1. MemoryCache という名前のプライベート静的インスタンス_memoryCacheが作成されます。キャッシュには、識別するための名前 (dataCache) が付けられます。次に、キャッシュはデータを保存して取得します。
2. GetData メソッドは、stringキーと というFunc<T>代理の 2 つの引数を取る汎用メソッドですgetData。キーはキャッシュされたデータを識別するために使用されますが、getData代理はデータがキャッシュに存在しない場合に実行されるデータ取得ロジックを表します。
3. メソッドはまず、_memoryCache.Contains(key)メソッドを使用してキャッシュにデータが存在するかどうかを確認します。データがキャッシュにある場合、メソッドはを使用してデータを取得し_memoryCache.Get(key)、それを期待されるタイプ T にキャストします。
4. データがキャッシュにない場合、メソッドはgetData代理を呼び出してデータを取得します。次に、を使用してキャッシュにデータを追加します_memoryCache.Add(key, data, DateTimeOffset.Now.AddMinutes(10))。この呼び出しでは、キャッシュエントリが 10 分

後に期限切れになることを指定します。期限切れになると、データはキャッシュから自動的に削除されます。

5. ClearCache メソッドはstringキーを引数として受け取り、を使用してそのキーに関連付けられたデータをキャッシュから削除します `_memoryCache.Remove(key)`。

```
using System;
using System.Runtime.Caching;

public class InMemoryCache
{
    private static MemoryCache _memoryCache = new MemoryCache("dataCache");

    public static T GetData<T>(string key, Func<T> getData)
    {
        if (_memoryCache.Contains(key))
        {
            return (T)_memoryCache.Get(key);
        }

        T data = getData();
        _memoryCache.Add(key, data, DateTimeOffset.Now.AddMinutes(10));

        return data;
    }

    public static void ClearCache(string key)
    {
        _memoryCache.Remove(key);
    }
}
```

次のコードを使用できます。

```
public class Program
{
    public static void Main()
    {
        string cacheKey = "sample_data";

        Func<string> getSampleData = () =>
        {
```

```
        // Replace this with your data retrieval logic
        return "Sample data";
    };

    string data = InMemoryCache.GetData(cacheKey, getSampleData);
    Console.WriteLine("Data: " + data);
}
}
```

次の例は、[LiteDB](#) を使用してローカルストレージにデータをキャッシュする方法を示しています。LiteDB は、インメモリキャッシュの代替または補完として使用できます。次のコードは、LiteDB ライブラリを使用してローカルストレージにデータをキャッシュする方法を示しています。LocalStorageCache クラスには、キャッシュを管理するための主要な関数が含まれています。

```
using System;
using LiteDB;

public class LocalStorageCache
{
    private static string _liteDbPath = @"Filename=LocalCache.db";

    public static T GetData<T>(string key, Func<T> getData)
    {
        using (var db = new LiteDatabase(_liteDbPath))
        {
            var collection = db.GetCollection<T>("cache");
            var item = collection.FindOne(Query.EQ("_id", key));

            if (item != null)
            {
                return item;
            }
        }

        T data = getData();

        using (var db = new LiteDatabase(_liteDbPath))
        {
            var collection = db.GetCollection<T>("cache");
            collection.Upsert(new BsonValue(key), data);
        }
    }
}
```

```
        return data;
    }

    public static void ClearCache(string key)
    {
        using (var db = new LiteDatabase(_liteDbPath))
        {
            var collection = db.GetCollection("cache");
            collection.Delete(key);
        }
    }
}

public class Program
{
    public static void Main()
    {
        string cacheKey = "sample_data";

        Func<string> getSampleData = () =>
        {
            // Replace this with your data retrieval logic
            return "Sample data";
        };

        string data = LocalStorageCache.GetData(cacheKey, getSampleData);
        Console.WriteLine("Data: " + data);
    }
}
```

頻繁に変更されない静的キャッシュまたは静的ファイルがある場合は、これらのファイルを Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) オブジェクトストレージに保存することもできます。アプリケーションは、起動時に静的キャッシュファイルを取得してローカルで使用できます。を使用して Amazon S3 からファイルを取得する方法の詳細については NET、Amazon S3 ドキュメントの「[オブジェクトのダウンロード](#)」を参照してください。

によるキャッシュ DAX

すべてのアプリケーションインスタンスで共有できるキャッシュレイヤーを使用できます。[DynamoDB Accelerator \(DAX\)](#) は、DynamoDB 用のフルマネージドで可用性の高いインメモリキャッシュで、10 倍のパフォーマンス向上を実現できます。DynamoDB テーブルで読み込みキャパシティユニットを過剰にプロビジョニングする必要性を減らすことで、を使用して DAX コストを

削減できます。これは、読み取り負荷が高く、個々のキーに対して繰り返し読み取りが必要なワークロードに特に役立ちます。

DynamoDB はオンデマンドまたはプロビジョンドキャパシティーで価格設定されるため、1 か月あたりの読み取りと書き込みの数がコストに影響します。大量のワークロードを読み取る場合、DAX クラスターは DynamoDB テーブルの読み取り数を減らすことでコストを削減できます。を設定する方法についてはDAX、[DynamoDB ドキュメントの「DynamoDB Accelerator によるインメモリアクセラレーション \(DAX\) DynamoDB」](#)を参照してください。アプリケーションNET統合の詳細については、[「Amazon DynamoDB の DAXへの統合」](#)を参照してくださいASP.NET 上のアプリケーション YouTube。

追加リソース

- [DynamoDB Accelerator によるインメモリアクセラレーション \(DAX\) - Amazon DynamoDB \(DynamoDB ドキュメント\)](#)
- [Amazon DynamoDB DAXを に統合しますASP.NET アプリケーション \(YouTube\)](#)
- [オブジェクトのダウンロード \(Amazon S3 ドキュメント\)](#)

サーバーレス を検討してください。NET

概要

サーバーレスコンピューティングは、アプリケーションを構築およびデプロイするための一般的なアプローチとなっています。これは主に、最新のアーキテクチャを構築するときにサーバーレスアプローチが提供するスケーラビリティと俊敏性によるものです。ただし、一部のシナリオでは、サーバーレスコンピューティングのコストへの影響を考慮することが重要です。

Lambda は、デベロッパーが専用サーバーを必要とせずにコードを実行できるようにするサーバーレスコンピューティングプラットフォームです。Lambda は にとって特に魅力的なオプションです。NET は、インフラストラクチャコストの削減を検討しているデベロッパーにとって特に魅力的なオプションです。Lambda を使用すると、NETデベロッパーは、スケーラビリティが高く、費用対効果が高い可能性のあるアプリケーションを開発およびデプロイできます。サーバーレスアプローチを使用することで、開発者はアプリケーションリクエストを処理するサーバーをプロビジョニングしなくなります。代わりに、開発者はオンデマンドで実行される関数を作成できます。これにより、サーバーレスアプローチは、仮想マシンの実行、管理、スケーリングよりもスケーラブルで管理しやすく、潜在的に費用対効果も高くなります。その結果、使用率の低いリソースやサーバーのメンテナ

ンスコストを心配することなく、アプリケーションが使用するリソースに対してのみ料金が発生します。

開発者は、最新のクロスプラットフォームの .NET バージョンを使用して、高速、効率的、費用対効果の高いサーバーレスアプリケーションを構築できます。 .NET Core 以降のバージョンは、以前のよりもサーバーレスプラットフォームでの実行に適した、無料のオープンソースフレームワークです。 .NET フレームワークのバージョン。これにより、デベロッパーは開発時間を短縮し、アプリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。最新の .NET は、C# や F# など、さまざまなプログラミング言語もサポートしています。このため、クラウドで最新のアーキテクチャを構築しようとしているデベロッパーにとって魅力的なオプションです。

このセクションでは、Lambda をサーバーレスオプションとして使用してコスト削減を実現する方法について説明します。 Lambda 関数の実行プロファイルを微調整し、Lambda 関数のメモリ割り当てを適切なサイジングにし、 [ネイティブ AOT](#) を使用して、Graviton ベースの関数に移行することで、コストをさらに最適化できます。

コストへの影響

コストを削減できる量は、割り当てられたメモリの量と各関数の所要時間に加えて、サーバーレス関数が実行する実行数など、いくつかの要因によって異なります。 は、1 か月あたり 100 万件の無料リクエストと 1 か月あたり 400,000 GB 秒のコンピューティング時間を含む無料利用枠 AWS Lambda を提供します。これらの無料利用枠の制限前後にあるワークロードの月額コストを大幅に削減できます。

Lambda 関数をターゲットとしてロードバランサーを使用する場合も、追加料金が発生する可能性があります。これは、 [Lambda ターゲット](#) のロードバランサーによって処理されるデータの量として計算されます。

コスト最適化に関する推奨事項

Lambda 関数の適切なサイズ

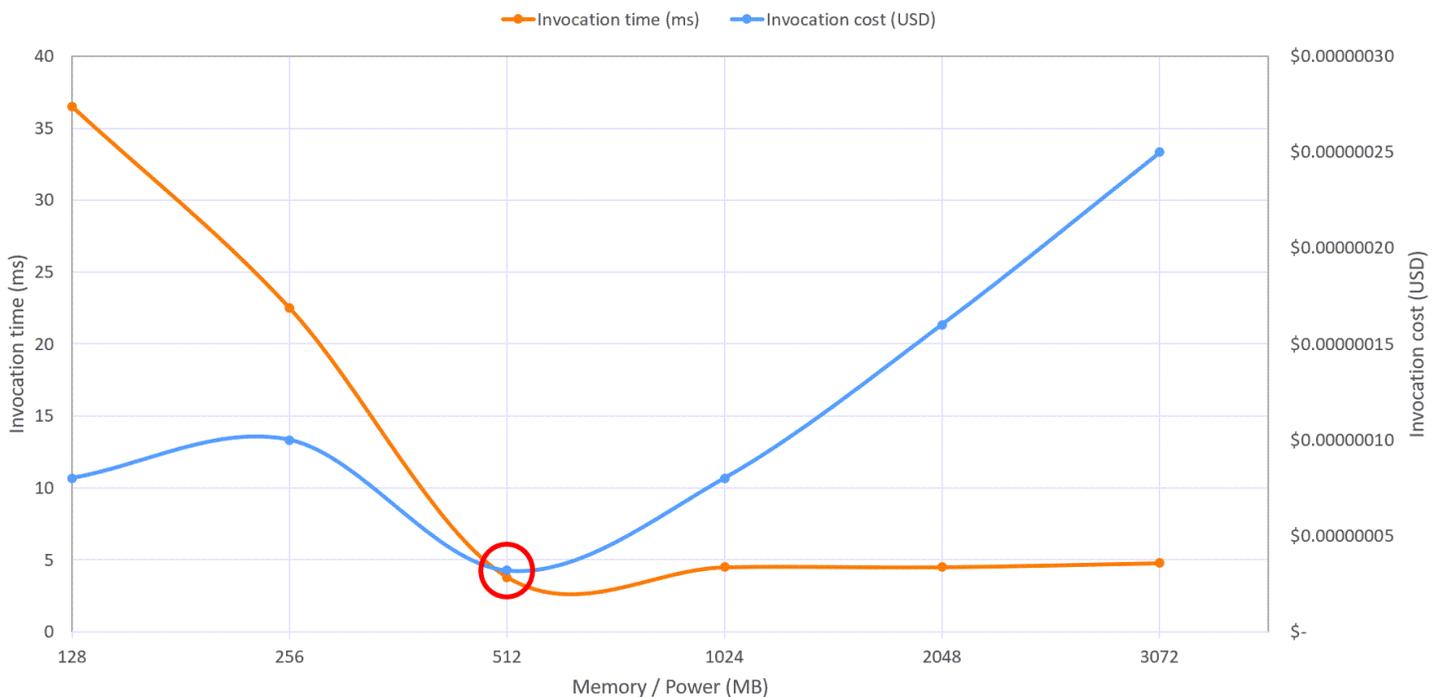
適切なサイジングは、.NET ベースの Lambda 関数のコスト最適化に不可欠なプラクティスです。このプロセスでは、コードを変更することなく、パフォーマンスとコスト効率のバランスを取る最適なメモリ構成を特定します。

Lambda 関数のメモリを 128 MB から 10,240 MB まで設定することで、呼び出し中に使用可能な vCPU の量も調整できます。これにより、メモリまたは CPU にバインドされたアプリケーションが実行中に追加のリソースにアクセスできるようになり、呼び出し時間と全体的なコストが削減される可能性があります。

ただし、.NETベースの Lambda 関数に最適な設定を特定することは、特に変更が頻繁に行われる場合、手動および時間のかかるプロセスになる可能性があります。[AWS Lambda Power Tuning ツール](#)は、ペイロードの例に対して一連のメモリ設定を分析することで、適切な設定を特定するのに役立ちます。

例えば、.NETベースの Lambda 関数のメモリを増やすと、パフォーマンスに影響を与えずに合計呼び出し時間が短縮され、コストを削減できます。関数に最適なメモリ構成は異なる場合があります。AWS Lambda Power Tuning ツールは、各関数の最も費用対効果の高い設定を特定するのに役立ちます。

次のグラフ例では、この Lambda 関数のメモリが増加すると、合計呼び出し時間が長くなります。これにより、関数の元のパフォーマンスに影響を与えずに、実行全体のコストを削減できます。この関数の場合、関数の最適なメモリ設定は 512 MB です。これは、各呼び出しの合計コストに対してリソース使用率が最も効率的であるためです。これは関数ごとに異なり、Lambda 関数でツールを使用すると、適切なサイジングのメリットがあるかどうかを特定できます。



新しい更新がリリースされたときに、統合テストの一環として、この演習を定期的に完了することをお勧めします。更新頻度が低い場合は、この演習を定期的に行って、関数が調整され、適切なサイズになるようにします。Lambda 関数に適したメモリ設定を特定したら、プロセスに適切なサイジングを追加できます。AWS Lambda Power Tuning ツールは、新しいコードのリリース中に CI/CD ワークフローで使用できるプログラムによる出力を生成します。これにより、メモリ設定を自動化できます。

[AWS Lambda Power Tuning ツール](#)を無料でダウンロードできます。ツールの使用方法については、「」の「[ステートマシンの実行方法](#)」を参照してください GitHub。

Lambda はネイティブ もサポートしているためAOT、NETアプリケーションは事前にコンパイルできます。これにより、NET関数の実行時間を短縮することでコストを削減できます。ネイティブAOT関数の作成の詳細については、Lambda [NETドキュメントの「ネイティブコンパイルによるAOT 関数」](#)を参照してください。

アイドル待機時間の回避

Lambda 関数の期間は、請求の計算に使用される 1 つのディメンションです。関数コードがブロック呼び出しを行うと、レスポンスの受信を待機する時間に対して課金されます。この待機時間は、Lambda 関数が連鎖されている場合、または関数が他の関数のオーケストレーターとして動作している場合に長くなる可能性があります。バッチオペレーションや注文配送システムなどのワークフローがある場合、管理オーバーヘッドが増加します。さらに、Lambda の最大タイムアウト 15 分以内にすべてのワークフローロジックとエラー処理を完了できない場合があります。

このロジックを関数コードで処理する代わりに、ワークフローのオーケストレーター [AWS Step Functions](#)として使用するソリューションを再設計することをお勧めします。標準ワークフローを使用する場合、ワークフローの合計期間ではなく、ワークフロー内の状態遷移ごとに課金されます。さらに、再試行、待機条件、エラーワークフロー、[コールバック](#)のサポートを状態に移行して、Lambda 関数がビジネスロジックに集中できるようにします。詳細については、AWS コンピューティングブログの[AWS Lambda 「コストの最適化 - パート 2」](#)を参照してください。

Graviton ベースの関数に移動する

次世代の Graviton2 プロセッサを搭載した Lambda 関数が一般利用可能になりました。ARMベースのプロセッサアーキテクチャを使用する Graviton2 関数は、さまざまなサーバーレスワークロードで最大 19% のパフォーマンスを向上させ、20% のコスト削減を実現するように設計されています。レイテンシーが低く、パフォーマンスが向上する Graviton2 プロセッサを搭載した関数は、ミッションクリティカルなサーバーレスアプリケーションの駆動に最適です。

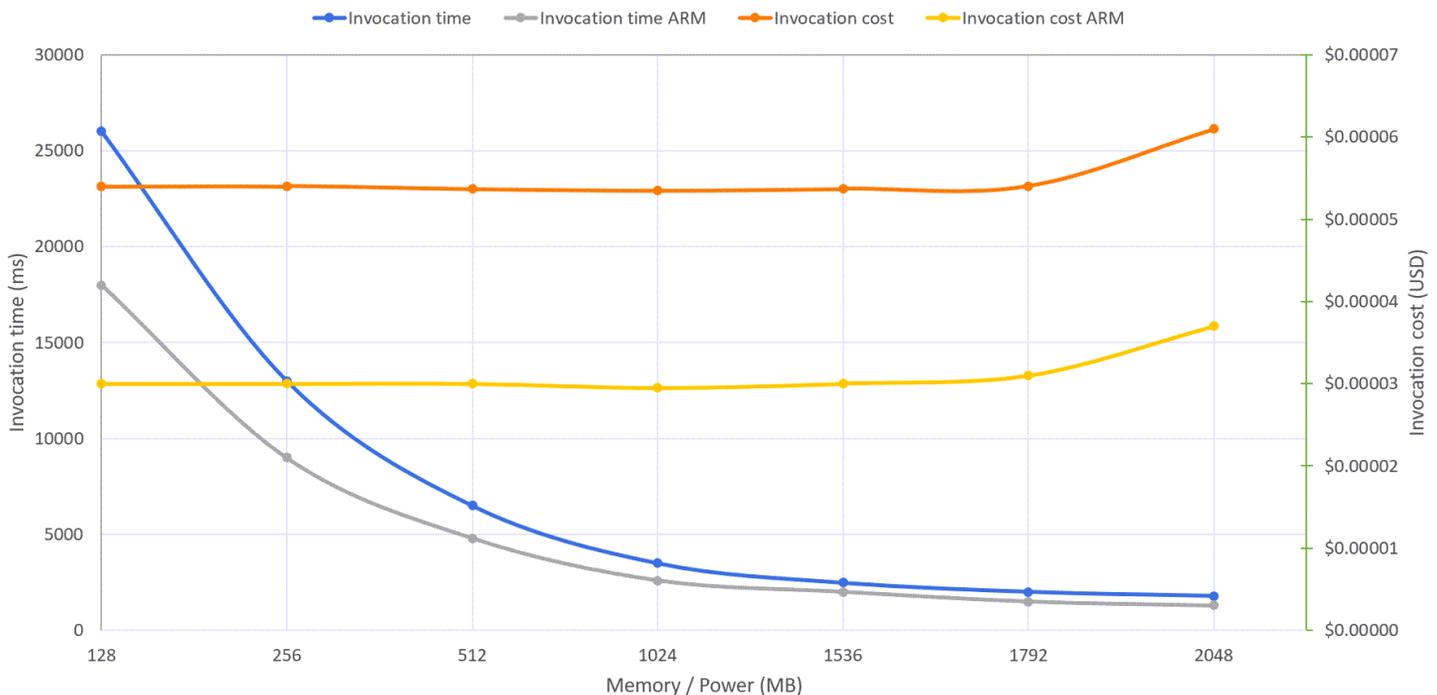
Graviton ベースの Lambda 関数への移行は、費用対効果の高いオプションです。NET のデベロッパーは、Lambda コストを最適化しようとしています。Graviton ベースの関数は、従来の x86 プロセッサの代わりに ARMベースのプロセッサを使用します。これにより、パフォーマンスを犠牲にすることなく、大幅なコスト削減につながります。

Graviton ベースの関数への移行にはいくつかの利点がありますが、考慮すべき課題と考慮事項もいくつかあります。例えば、Graviton ベースの関数では Amazon Linux 2 を使用する必要がありますが、これはすべてのアプリケーションと互換性があるとは限りません。NETさらに、ARMベースの

プロセッサと互換性のないサードパーティライブラリや依存関係との互換性に問題がある可能性があります。

を実行している場合。NET アプリケーションをフレームワークし、Lambda でサーバーレスを活用したい場合は、の Porting Assistant NETを使用してアプリケーションを最新のに移行することを検討できます。[NET](#)これにより、レガシー アプリケーションの最新の NETへの移植を高速化しNET、アプリケーションを Linux で実行できるようになります。

次のグラフは、素数を計算する関数の x86 アーキテクチャと ARM/Graviton2 アーキテクチャの結果を比較します。



関数は単一のスレッドを使用しています。メモリが 1.8 GB で設定されている場合、両方のアーキテクチャの最小継続時間が報告されます。さらに、Lambda 関数は 1 v 以上にアクセスできませんが CPU、この場合、関数は追加のパワーを使用できません。同じ理由で、コストは最大 1.8 GB のメモリで安定しています。メモリが増えると、このワークロードには追加のパフォーマンス上の利点がないため、コストが増加します。Graviton2 プロセッサは、この計算集約型関数のパフォーマンスを向上させ、コストを削減します。

Graviton で および ARM ベースのプロセッサを使用するように関数を設定するには、次の手順を実行します。

1. にサインインし AWS Management Console、[Lambda コンソール](#)を開きます。
2. [Create function (関数の作成)] を選択します。

3. [関数名] に名前を入力します。
4. ランタイム で、 を選択します。NET 6 (C#/PowerShell)。
5. アーキテクチャ で arm64 を選択します。
6. 必要な追加設定を行い、関数の作成 を選択します。

追加リソース

- [ターゲットとしての Lambda 関数 \(AWS ドキュメント\)](#)
- [を使用した AWS Lambda コストとパフォーマンスの最適化 AWS Compute Optimizer \(AWS コンピューティングブログ\)](#)
- [AWS Lambda コストの最適化 – パート 1 \(AWS コンピューティングブログ\)](#)
- [AWS Lambda コストの最適化 – パート 2 \(AWS コンピューティングブログ\)](#)
- [サーバーレスの構築。NET AWS Lambda を使用したでのアプリケーション。NET 7 \(AWS コンピューティングブログ\)](#)

専用データベースを検討する

概要

Microsoft ベースのワークロードを実行する際の最もコストのかかる側面の 1 つは、SQL Server などの商用データベースのライセンスです。多くの場合、ビジネスは選択したデータベースプラットフォームとして SQL Server を標準化し、組織の開発文化に深く根付いています。デベロッパーは通常、ユースケースに関係なく、リレーショナルSQLサーバーベースのモデルを選択します。その理由には次のようなものがあります。

- ビジネスでは既にSQLサーバーインスタンスやライセンスが利用可能です。
- チームは、共有ライブラリ、ORMsビジネスロジックを使用してSQLプログラミングモデルに慣れています。
- 管理は代替案を認識しません。
- 開発者は代替案を認識しません。

専用データベースは、ユースケースのデータアクセスパターンに対応できます。これらのデータベースは、より最新のアーキテクチャ (マイクロサービスなど) を採用し、個々のアプリケーションの範囲が狭まるにつれて、ビジネスで採用されるようになっていきます。

専用に構築されているデータベースは、リレーショナルモデルを除外したり、いいえSQL (非リレーショナル) モデルを必要としたりしません。実際、リレーショナルデータベースは、ワークロードの特定のニーズに応じて選択されると、専用であると見なされます。専用データベースを使用すると、チームは NET アプリケーションに関連するデータベースコストを削減できると同時に、スケーラビリティ、耐障害性、未分化の重労働の削減など、標準的なクラウド上のメリットを得ることができます。

次の表は、が提供する専用データベースを示しています AWS。

データベース	タイプ	特性
Amazon Aurora PostgreSQL L または Amazon Aurora MySQL	リレーショナル	<p>データが固定構造を持つユーザーケース</p> <p>リレーショナルデータベースはACID、トランザクションを通じてデータの一貫性を自然に維持する</p>
Amazon DynamoDB	キーと値のペア	<p>ハッシュテーブルのデータ構造を使用してデータを保存するデータベースがないSQL</p> <p>高性能ストレージと非構造化データの取得</p> <p>ユーザーケースには、ユーザープロフィール、セッション状態、ショッピングカートデータが含まれます。</p>
Amazon ElastiCache	インメモリ	<p>ハイパフォーマンス SQL非構造化データをミリ秒未満のアクセス時間でメモリに保存するデータベースはありません</p> <p>ユーザーセッションなどの頻繁にアクセスされるエフェメラルデータ、および他の低速</p>

データベース	タイプ	特性
		<p>データストアの前でのキャッシュレイヤーとして使用されます。</p> <p>ElastiCache (Redis OSS) と ElastiCache (Memcached) の両方のサポートが含まれます</p>
Amazon MemoryDB	耐久性のあるインメモリ	耐久性の高いストレージを備えた Redis 互換の専用データベース
Amazon Timestream	時系列	<p>高スループットのデータインジェストを時間順に行うように設計されたデータベース</p> <p>ユースケースには、モノのインターネット (IoT) アプリケーションやメトリクスやテレメトリデータの保存が含まれます。</p>
Amazon DocumentDB	ドキュメント	<p>規定の構造や他のデータとの関係が強制されることなくデータを保存するデータベースがないSQL</p> <p>製品カタログなどの読み取り負荷の高いワークロードによく使用されます。</p>

データベース	タイプ	特性
Amazon Neptune	グラフ	<p>データおよびデータ項目間の接続の表現の両方を保持するデータベースがないSQL</p> <p>ユースケースには、不正検出、レコメンデーションエンジン、ソーシャルアプリケーションなどがあります。</p>
Amazon Quantum 台帳データベース (Amazon QLDB)	台帳	<p>トランザクションデータを保存し、各トランザクションの暗号化検証を提供し、監査可能でイミュータブルな履歴を提供します</p> <p>検証可能な信頼できる単一のソースが必要な場合にアプリケーションによってよく使用されます。</p>
Amazon Keyspaces	ワイド列	<p>Apache Cassandra に基づく高性能分散データベース</p> <p>IoT IoT アプリケーション、イベント処理、ゲームアプリケーションなどのユースケース</p>

専用データベースの採用の大きな要因は、商用ライセンスの排除に起因する可能性があります。ただし、[DynamoDB \(オンデマンドモードを含む\)](#)、[Aurora](#)、[Amazon Neptune](#)、[Amazon Keyspaces](#)などのデータベースの自動スケーリング機能により、ピーク時の使用ではなく、平均的なケースの容量をプロビジョニングできます。Timestream や Amazon などの専用データベースはサーバーレスで QLDB、事前プロビジョニングなしで需要に合わせて自動的にスケーリングされます。

AWS は、専用のオープンソース互換リレーショナルデータベースを使用するが、アプリケーションに大幅なコード変更を行うことができない、または行おうとしない場合は、[Babelfish for Aurora](#)

[PostgreSQL](#) を提供します。場合によっては、Babelfish で既存のSQLサーバーアクセスコードを使用でき、ほとんど変更されません。

アプリケーション専用リレーショナルデータベースを選択するときは、アプリケーションに必要なのと同じ (または機能的に同等の) 機能を保持することが重要です。このレコメンデーションは、アプリケーションの主要なデータストアとして専用データベースに対処します。特定のアプリケーション (キャッシュなど) については、他の推奨事項に記載されています。

コストへの影響

専用データベースをにNET導入すると、ワークロードがコンピューティングの消費/コストに直接影響する可能性は低くなりますが、アプリケーションが消費するデータベースサービスのコストに直接影響する可能性があります。NET実際、俊敏性、スケーラビリティ、耐障害性、データ耐久性という付加的な利点と比較すると、コスト削減は副次的な目標になる可能性があります。

アプリケーション専用データベースを選択し、それらを効果的に使用するためのデータ戦略を再設計する完全なプロセスを説明することは、このガイドの範囲外です。詳細については、チュートリアルディレクトリの「[専用データベース AWS](#)」を参照してください。

次の表は、SQLサーバーを専用データベースに置き換えることでアプリケーションコストがどのように変化するかを示すいくつかの例を示しています。これらは単なる概算見積りであることに注意してください。正確な生産コストを計算するには、実際のワークロードのベンチマークと最適化が必要です。

これらは、オンデマンドコンピューティングと の 100 GB の単一インスタンスデータベースを含むSSD、一般的に使用される専用データベースの見積もりですus-east-1。ライセンスコストには、SQLサーバーライセンスとソフトウェア保証が含まれます。

次の表は、商用データベースの例の推定コストを示しています。

データベースエンジン	ライセンスモデル	インスタンスタイプ/仕様	AWS コンピューティング + ストレージコスト	ライセンスコスト	合計月額コスト
SQL Amazon でのサーバースタンダード	ライセンスインクルード	r6i.2xlarge (8CPU/64GBRAM)	1,345.36 USD	0.00 USD	1,345.36 USD

データベースエンジン	ライセンスモデル	インスタンスタイプ/仕様	AWS コンピューティング + ストレージコスト	ライセンスコスト	合計月額コスト
エディション EC2					
SQL Amazon での Server Enterprise Edition EC2	ライセンスインクルード	r6i.2xlarge (8CPU/64GBRAM)	2,834.56 USD	0.00 USD	2,834.56 USD
SQL Amazon でのサーバー標準エディション EC2	BYOL	r6i.2xlarge (8CPU/64GBRAM)	644.56 USD	456.00 USD	1,100.56 USD
SQL Amazon での Server Enterprise Edition EC2	BYOL	r6i.2xlarge (8CPU/64GBRAM)	644.56 USD	1,750.00 USD	2,394.56 USD
SQL Amazon でのサーバー標準エディション RDS		db.r6i.2xlarge (8CPU/64GBRAM)	2,318.30 USD	0.00 USD	2,318.30 USD
SQL Amazon での Server Enterprise Edition RDS		db.r6i.2xlarge (8CPU/64GBRAM)	3,750.56 USD	0.00 USD	3,750.56 USD

次の表は、専用の例の推定コストを示しています。

データベースエンジン	インスタンスタイプ/仕様	AWS コンピューティング + ストレージコスト	ライセンスコスト	合計月額コスト
Amazon Aurora PostgreSQL	r6g.2xlarge (8/CPU64 GB RAM)	855.87 USD	0.00 USD	855.87 USD
DynamoDB	プロビジョニングされたベース 100 WCU/400 RCU	72.00 USD		72.00 USD
Amazon DocumentDB	db.r6i.2xlarge (8CPU/64 GB RAM)	778.60 USD		778.60 USD
Amazon QLDB	80M回の書き込み 400M読み取り 2 TB ジャーナル 600 GB インデックス	320.00 USD		320.00 USD

⚠ Important

この表は、購入後最初の 3 年間のソフトウェアアシュアランス付き SQL サーバーの推定ライセンスコストに基づいています。SQL Server Standard Edition の場合: 4,100 USD、2 コアパック、3 年。SQL Server Enterprise Edition の場合: 15,700 USD、2 コアパック、3 年。

専用データベースを採用する前に、コストへの影響を考慮することをお勧めします。例えば、専用データベースを使用するようにアプリケーションを更新するコストは、アプリケーションとソースデータベースの複雑さに関連しています。このアーキテクチャスイッチを計画するときは、総所有コストを必ず考慮してください。これには、アプリケーションのリファクタリング、新しいテクノロ

ジーに関するスタッフのスキル向上、各ワークロードで予想されるパフォーマンスと消費の綿密な計画が含まれます。そこから、投資がコスト削減に値するかどうかを決定できます。ほとんどの場合、製品を維持するの end-of-support はセキュリティとコンプライアンスのリスクであり、それを修復するコストは労力と初期投資に値します。

コスト最適化に関する推奨事項

SQL サーバーにアクセスしている NET アプリケーションには、専用のリレーショナルデータベース用の代替ライブラリがあります。これらのライブラリをアプリケーションに実装して、同様の SQL サーバーアプリケーションの機能を置き換えることができます。

次の表は、多くの一般的なシナリオで使用できるライブラリをいくつかまとめたものです。

[Library] (ライブラリ)	データベース	の置き換え	フレームワークの互換性
Npgsql Entity Framework Core プロバイダー	Amazon Aurora PostgreSQL	エンティティフレームワークコア SQL サーバープロバイダー	モダン。NET
Npgsql Entity Framework 6 プロバイダー	Amazon Aurora PostgreSQL	Entity Framework 6.0 SQL サーバープロバイダー	。NET フレームワーク
Npgsql (ADO.NET 互換 PostgreSQL ライブラリ)	Amazon Aurora PostgreSQL	ADO.NET	。NET フレームワーク/モダン。NET
自分の SQL エンティティフレームワークコアプロバイダー	Amazon Aurora MySQL	エンティティフレームワークコア SQL サーバープロバイダー	モダン。NET
Entity Framework Core。MySQL	Amazon Aurora MySQL	エンティティフレームワークコア SQL サーバープロバイダー	モダン。NET

[Babelfish を使用して Amazon Aurora PostgreSQL に接続する場合](#)、接続に特別なコーディングは必要ありません。ただし、使用前にすべてのコードを徹底的にテストする必要があります。

その他の専用データベースには、にアクセスするためのライブラリがあります。NET 互換ライブラリを使用すると、専用データベースにアクセスできます。その例を以下に示します。

- [Amazon DynamoDB SQLの使用 データベースなし](#) (AWS SDK for .NET ドキュメント)
- [MongoDB C# ドライバー](#) (MongoDB ドキュメント)
- [。NET](#) (Timestream ドキュメント)
- [用の Amazon QLDB ドライバー。NET](#) (Amazon QLDB ドキュメント)
- [Cassandra の使用。NET プログラムで Amazon Keyspaces にアクセスするためのコアクライアントドライバ](#) (Amazon Keyspaces ドキュメント)
- [を使用して Neptune DB NET インスタンスに接続する](#) (Neptune ドキュメント)

専用のビルドデータベースに移行する場合は、から以下のツールを使用して移行プロセス AWS に役立てることができます。

- [AWS Schema Conversion Tool \(AWS SCT\)](#) は、SQL サーバースキーマを Amazon Aurora および Amazon DynamoDB に変換するのに役立ちます。
- [AWS Database Migration Service \(AWS DMS\)](#) は、SQL サーバーから Aurora または DynamoDB に 1 回または継続的にデータを移行するのに役立ちます。
- [Babelfish Compass](#) は、Babelfish for Aurora Postgre での使用について SQL、サーバーデータベースの互換性を確認するのに役立ちます SQL。

追加リソース

- [SQL サーバーを Amazon Aurora Postgre に移行するためのガイド SQL](#) (AWS データベースブログ)
- [。NET モダナイゼーションワークショップ](#) (AWS Workshop Studio)
- [Babelfish APP Modernization Immersion Day](#) (AWS Workshop Studio)
- [。NET Immersion Day](#) (AWS Workshop Studio)
- [での Amazon Timestream の開始方法。NET](#) (GitHub)
- [用 Amazon QLDB ドライバー –NET クイックスタートチュートリアル](#) (Amazon QLDB ドキュメント)

- [最新の専用データベース。NET のアプリケーション AWS \(AWS プレゼンテーション\)](#)

次のステップ

このガイドを確認したら、MACO を実装するために次のステップを実行することをお勧めします。

1. MACO エキスパートにお問い合わせください。MACO の専門家が、質問への回答や懸念への対処に役立ちます。すでに AWS アカウントチームと連携している場合は、チームに連絡して MACO エキスパートにサポートを依頼してください。アカウントチームがない場合は、optimize-microsoft@amazon.com にお問い合わせください。
2. レコメンデーションを適用します。このガイドで学習した推奨事項、ベストプラクティス、戦略を適用し、MACO の専門家と話して学習した推奨事項、ベストプラクティス、戦略を適用します。
3. コストの変化を追跡します。ワークロードにタグを付け、AWS Cost Explorer や などのサービスを使用して、詳細なコスト追跡、モニタリング、制御 AWS Budgets を行います。

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
SQL Server とコンテナの更新	Compute Optimizer を使用した SQL Server のサイズ最適化 、 SQL Server ワークロードの Trusted Advisor レコメンデーションの確認 、 App2Container による Windows アプリケーションのリプラットフォームのセクション を追加しました。	2024 年 6 月 29 日
SQL Server ライセンスの最適化	Compute Optimizer を使用して SQL Server ライセンスを最適化するセクション を追加しました。	2024 年 5 月 22 日
初版発行	—	2023 年 12 月 21 日

AWS 規範的ガイドの用語集

以下は、AWS 規範的ガイドが提供する戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行します。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: オンプレミスの Oracle データベースをの Oracle 用 Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行します AWS クラウド。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: カスタマーリレーションシップ管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行します。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: オンプレミスの Oracle データベースをの EC2 インスタンス上の Oracle に移行します AWS クラウド。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。サーバーをオンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスに移行します。例: Microsoft Hyper-Vアプリケーションをに移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれら移行するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。

- 使用停止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

[「属性ベースのアクセスコントロール」](#)を参照してください。

抽象化されたサービス

[「マネージドサービス」](#)を参照してください。

ACID

[「原子性、一貫性、分離性、耐久性」](#)を参照してください。

アクティブ - アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。アクティブ/[パッシブ移行](#)よりも柔軟ですが、より多くの作業が必要です。

アクティブ - パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行の方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

行のグループを操作し、グループの単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、SUMや MAXなどがあります。

AI

[「人工知能」](#)を参照してください。

AIOps

[「人工知能オペレーション」](#)を参照してください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーションコントロール

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の需要要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[の ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドに正常に移行 AWS するための効率的で効果的な計画を立てるのに役立つ、からのガイドラインとベストプラクティスのフレームワーク。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを編成します。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、組織がクラウド導入を成功させるための準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#) と [AWS CAF のホワイトペーパー](#) を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人または組織に混乱や損害を与えることを目的とした[ボット](#)。

BCP

[「事業継続計画」](#)を参照してください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの[Data in a behavior graph](#)を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアンネス](#)も参照してください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

2 つの異なる同一の環境を作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンは 1 つの環境 (青) で実行し、新しいアプリケーションバージョンは他の環境 (緑) で実行します。この戦略は、影響を最小限に抑えながら迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティやインタラクションをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボット

トの中には、個人や組織に混乱を与えたり、損害を与えたりすることを意図しているものがあります。

ポットネット

[マルウェア](#)に感染し、[ポット](#)のヘルダーまたはポットオペレーターと呼ばれる、単一関係者の管理下にあるポットのネットワーク。ポットは、ポットとその影響をスケールするための最もよく知られているメカニズムです。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発したり、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[ブランチについて](#) (GitHub ドキュメント)」を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況や承認されたプロセスを通じて、ユーザーが通常アクセス許可を持たない AWS アカウントにすばやくアクセスできるようにします。詳細については、Well-Architected [ガイド](#)の「[ブレイクグラスプロセスの実装](#)」インジケータ AWS を参照してください。

ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、ホワイトペーパー [AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#) の [ビジネス機能を中心に組織化](#) セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

[AWS 「クラウド導入フレームワーク」を参照してください。](#)

Canary デプロイ

エンドユーザーへのバージョンの低速かつ増分的なリリース。確信できたら、新しいバージョンをデプロイし、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

[「Cloud Center of Excellence」を参照してください。](#)

CDC

[「データキャプチャの変更」を参照してください。](#)

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストします。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS \)](#) を使用して、AWS ワークロードに負荷をかけ、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

[「継続的インテグレーションと継続的デリバリー」を参照してください。](#)

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービスを受信する前に、ローカルでデータを暗号化します。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの[CCoE の投稿](#)を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に[エッジコンピューティング](#)テクノロジーに接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、[「クラウド運用モデルの構築」](#)を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が移行するときに通常実行する 4 つのフェーズ AWS クラウド :

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーンの作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事[「クラウドファーストへのジャーニー」](#)と[「導入のステージ」](#)で Stephen Orban によって定義されました。移行戦略とどのように関連しているかについては、AWS [「移行準備ガイド」](#)を参照してください。

CMDB

[「設定管理データベース」](#)を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub またはが含まれます AWS CodeCommit。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサー

ビスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があります。バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオなどのビジュアル形式から情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、AWS Panorama はオンプレミスのカメラネットワークに CV を追加するデバイスを提供し、Amazon SageMaker は CV の画像処理アルゴリズムを提供します。

設定ドリフト

ワークロードの場合、設定は想定した状態から変化します。これにより、ワークロードが非標準になる可能性があり、通常は段階的かつ意図的ではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョンで単一のエンティティとしてデプロイすることも、組織全体にデプロイすることもできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性

の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

[「コンピュータビジョン」](#)を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、[データ分類](#)を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

一元化された管理とガバナンスにより、分散型の分散型データ所有権を提供するアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。でデータ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスしていることを確認できます。詳細については、[「でのデータ境界の構築 AWS」](#)を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには通常、大量の履歴データが含まれており、クエリや分析によく使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

[「データベース定義言語」](#)を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせる。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

ディープラーニング

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

defense-in-depth

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略をに採用するときは AWS、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。例えば、defense-in-depth アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS Organizations ドキュメントの[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)を参照してください。

デプロイメント

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

[「環境」](#)を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Detective controls](#)を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニユファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#) では、ファクトテーブル内の量的データに関するデータ属性を含む小さなテーブル。ディメンションテーブル属性は通常、テキストフィールドまたはテキストのように動作する離散数値です。これらの属性は、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに一般的に使用されます。

ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[災害によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるために使用する戦略とプロセス](#)。詳細については、AWS Well-Architected [フレームワークの「でのワークロードのディザスタリカバリ AWS: クラウドでのリカバリ」](#) を参照してください。

DML

[「データベース操作言語」](#) を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計: ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ボストン: Addison-Wesley Professional, 2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#) を参照してください。

DR

[「ディザスタリカバリ」](#) を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差の追跡。例えば、AWS CloudFormation を使用して [システムリソースのドリフトを検出したり](#)、を使用して AWS Control Tower ガバナンス要件への準拠に影響を与える可能性のある [ランディングゾーンの変更を検出したり](#) できます。

DVSM

[「開発値ストリームマッピング」](#) を参照してください。

E

EDA

[「探索的データ分析」](#)を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を短縮できます。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティングプロセス。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

[「サービスエンドポイント」](#)を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの「[エンドポイントサービスを作成する](#)」を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (アカウンティング、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) [ドキュメントの「エンベロープ暗号化」](#)を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

ERP

[「エンタープライズリソース計画」](#)を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[スタースキーマ](#) の中央テーブル。事業運営に関する定量的データを保存します。通常、ファクトテーブルには、メジャーを含む列とディメンションテーブルへの外部キーを含む列の 2 種類の列が含まれます。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために頻繁で段階的なテストを使用する哲学。これはアジャイルアプローチの重要な部分です。

障害分離境界

では AWS クラウド、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を向上させるアベイラビリティゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界です。詳細については、[AWS 「障害分離境界」](#) を参照してください。

機能ブランチ

[「ブランチ」](#) を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性 : AWS」](#) を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021 年」、「5 月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

FGAC

[「きめ細かなアクセスコントロール」](#) を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

段階的なアプローチを使用するのではなく、[変更データキャプチャ](#)による継続的なデータレプリケーションを使用して、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

G

ジオブロッキング

[「地理的制限」](#)を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

Amazon では CloudFront、特定の国のユーザーがコンテンツディストリビューションにアクセスできないようにするオプションです。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの[「コンテンツの地理的ディストリビューションの制限」](#)を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローはレガシーと見なされ、[トランクベースのワークフロー](#)はモダンで推奨されるアプローチです。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名[ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装

されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは、AWS Config、Amazon AWS Security Hub、GuardDuty、Amazon Inspector AWS Trusted Advisor、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

[「高可用性」](#)を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。](#)

ハイアベイラビリティ (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性のため、通常、修正は一般的な DevOps リリースワークフローの外で行われます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

IaC

[「Infrastructure as Code」](#) を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

[「産業モノのインターネット」](#) を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存のインフラストラクチャを更新、パッチ適用、または変更するのではなく、本番ワークロード用の新しいインフラストラクチャをデプロイするモデル。イミュータブルなインフラストラクチャは、[本質的にミュータブルなインフラストラクチャ](#) よりも一貫性、信頼性、予測性が高くなります。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの[「イミュータブルインフラストラクチャを使用したデプロイ」](#) のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーションの外部からネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリ

ケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

接続、リアルタイムデータ、自動化、分析、AI/ML の進歩を通じて、のビジネスプロセスのモダナイズを指すために 2016 年に [Klaus Schwab](#) によって導入された用語。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

産業分野における IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[Building an industrial Internet of Things \(IIoT\) digital transformation strategy](#)」を参照してください。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、「[AWS を使用した機械学習モデルの解釈](#)」を参照してください。

IoT

「[モノのインターネット](#)」を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

ITIL

「[IT 情報ライブラリ](#)」を参照してください。

ITSM

「[IT サービス管理](#)」を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロー

ドとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#) を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

[「ラベルベースのアクセスコントロール」](#) を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの[最小特権アクセス許可を適用する](#) を参照してください。

リフトアンドシフト

[「7R」](#) を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアンネス](#) も参照してください。

下位環境

[「環境」](#) を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

[「ブランチ」](#) を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティまたはプライバシーを侵害するように設計されているソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスにつながる

可能性があります。マルウェアの例としては、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスがインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、ユーザーがエンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB は、マネージドサービスの例です。これらは抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するためのソフトウェアシステム。これにより、加工品を現場の完成製品に変換します。

MAP

[「移行促進プログラム」](#) を参照してください。

メカニズム

ツールを作成し、ツールの導入を推進し、調整のために結果を検査する完全なプロセス。メカニズムとは、動作中にそれ自体を強化して改善するサイクルです。詳細については、AWS 「Well-Architected フレームワーク」の [「メカニズムの構築」](#) を参照してください。

メンバーアカウント

内の組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#) を参照してください。

メッセージキューイングテレメトリトランスポート (MQTT)

リソースに制約のある IoT デバイス用の、[パブリッシュ/サブスクライブ](#) パターンに基づく軽量の machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロ

イ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケールできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

コンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。組織がクラウドへの移行のための強固な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立ちます。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、オペレーション、ビジネスアナリストと所有者、移行エンジニア、デベロッパー、スプリントに取り組む DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と[Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例には、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: Application Migration Service を使用して Amazon EC2 AWS への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

に移行するためのビジネスケースを検証するための情報を提供するオンラインツール AWS クラウド。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナーコンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド対応状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#) を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#) の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを に移行するために使用されるアプローチ AWS クラウド。詳細については、この用語集の「[7 Rs エントリ](#)」と「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

[「機械学習」を参照してください。](#)

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「[アプリケーションをモダナイズするための戦略 AWS クラウド](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定され

たギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、[「」の「アプリケーションのモダナイゼーション準備状況の評価 AWS クラウド」](#)を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)を参照してください。

MPA

[「移行ポートフォリオ評価」](#)を参照してください。

MQTT

[「Message Queuing Telemetry Transport」](#)を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2 つ以上の結果の 1 つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

変更可能なインフラストラクチャ

本番ワークロードの既存のインフラストラクチャを更新および変更するモデル。Well-Architected AWS Framework では、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)の使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

[「オリジンアクセスコントロール」](#)を参照してください。

OAI

[「オリジンアクセスアイデンティティ」](#)を参照してください。

OCM

[「組織変更管理」](#)を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「[オペレーション統合](#)」を参照してください。

OLA

「[運用レベルの契約](#)」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「[Open Process Communications - Unified Architecture](#)」を参照してください。

オープンプロセス通信 - 統合アーキテクチャ (OPC-UA)

産業用オートメーション用の machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA は、データの暗号化、認証、認可スキームを備えた相互運用性標準を提供します。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

インシデントや潜在的な障害の理解、評価、防止、または範囲の縮小に役立つ質問とそれに関連するベストプラクティスのチェックリスト。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[運用準備状況レビュー \(ORR\)](#)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業運用、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携するハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造では、OT と情報技術 (IT) システムの統合が、[Industry 4.0](#) トランスフォーメーションの主要な焦点です。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

の組織 AWS アカウント 内のすべての のすべてのイベントをログ AWS CloudTrail に記録する によって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。CloudTrail

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードから、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセスコントロール (OAC)

では CloudFront、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するためのアクセスを制限するための拡張オプションです。OAC は、すべての のすべての S3 バケット AWS リージョン、AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

では CloudFront、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセスを制限するオプションです。OAI を使用すると、は Amazon S3 が認証できるプリンシパル CloudFront を作成します。認証されたプリンシパルは、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみ S3 バケット内のコンテンツにアクセスできます。[OAC](#)も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセスコントロールが可能です。

ORR

[「運用準備状況レビュー」](#)を参照してください。

OT

[「運用技術」](#)を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されるネットワーク接続を処理する VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

PII

[個人を特定できる情報を参照してください。](#)

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

[「プログラム可能なロジックコントローラー」](#)を参照してください。

PLM

[「製品ライフサイクル管理」](#)を参照してください。

ポリシー

アクセス許可の定義 ([アイデンティティベースのポリシー](#) を参照)、アクセス条件の指定 ([リソースベースのポリシー](#) を参照)、または の組織内のすべてのアカウントに対する最大アクセス許可の定義 AWS Organizations ([サービスコントロールポリシー](#) を参照) が可能なオブジェクト。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。詳細については、[マイクロサービスでのデータ永続性の有効化](#)を参照してください。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行準備状況ガイド](#)」を参照してください。

述語

true または を返すクエリ条件。false 通常は WHERE 句にあります。

述語プッシュダウン

転送前にクエリ内のデータをフィルタリングするデータベースクエリ最適化手法。これにより、リレーショナルデータベースから取得して処理する必要があるデータの量が減少し、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Preventative controls](#)を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM ロール AWS アカウント、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの[ロールに関する用語と概念](#)内にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

エンジニアリングプロセス全体を通してプライバシーを考慮に入れたシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1 つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠のリソースのデプロイを防止するように設計された[セキュリティコントロール](#)。これらのコントロールは、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。リソースがコントロールに準拠していない場合、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[でのセキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

設計、開発、発売から成長と成熟まで、製品のデータとプロセスのライフサイクル全体にわたる管理。

本番環境

[「環境」](#)を参照してください。

プログラミング可能ロジックコントローラー (NAL)

製造では、マシンをモニタリングし、承認プロセスを自動化する、信頼性が高く適応可能なコンピュータです。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

パブリッシュ/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。スケーラビリティと応答性を向上させます。例えば、マイクロサービスベースの[MES](#)では、マイクロサービスは他のマイクロサービスがサブスクライブできるチャンネルにイベントメッセージを発行できます。システムは、公開サービスを変更せずに新しいマイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用される手順などの一連のステップ。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設

定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

[責任、説明責任、相談、通知 \(RACI\)](#) を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

[責任、説明責任、相談、通知 \(RACI\)](#) を参照してください。

RCAC

[「行と列のアクセスコントロール」](#) を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

再構築

[「7 Rs」](#) を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービス中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

[「7 Rs」](#) を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のとは分離され、独立しています。詳細については、[AWS リージョン「を使用できるアカウントを指定する」](#)を参照してください。

回帰

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

[「7 Rs」を参照してください。](#)

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

[「7 R」を参照してください。](#)

プラットフォーム変更

[「7 R」を参照してください。](#)

再購入

[「7 R」を参照してください。](#)

回復性

中断に耐えたり、中断から回復したりするアプリケーションの機能。で障害耐性を計画する場合、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が一般的な考慮事項です AWS クラウド。詳細については、[AWS クラウド「レジリエンス」](#)を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任

(A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートを含めると、そのマトリックスは RASCI マトリックスと呼ばれ、サポートを除外すると RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Responsive controls](#)を参照してください。

保持

[「7R」](#)を参照してください。

廃止

[「7Rs」](#)を参照してください。

ローテーション

攻撃者が認証情報にアクセスすることをより困難にするために、[シークレット](#)を定期的に更新するプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「目標[復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

「目標[復旧時間](#)」を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdPs) が使用するオープンスタンダード。この機能により、フェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは [AWS](#)

Management Console したり、組織内のすべてのユーザーを IAM で作成しなくても AWS API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)を参照してください。

SCADA

[「監視コントロールとデータ収集」](#)を参照してください。

SCP

[「サービスコントロールポリシー」](#)を参照してください。

シークレット

では AWS Secrets Manager、暗号化された形式で保存するパスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値は、バイナリ、1つの文字列、または複数の文字列にすることができます。詳細については、[Secrets Manager ドキュメントの「Secrets Manager シークレットの内容」](#)を参照してください。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、[予防的](#)、[検出的](#)、[???応答的](#)、[プロアクティブ](#)の4つの主なタイプがあります。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントに自動的に応答または修正するように設計された、事前定義されたプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスの実装に役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスア

クシヨンの例としては、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報のローテーションなどがあります。

サーバー側の暗号化

送信先にあるデータの、それを受け取る AWS のサービス による暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエントリポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、AWS 全般のリファレンスの「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットなど、サービスのパフォーマンス側面の測定。

サービスレベルの目標 (SLO)

サービスレベルのインジケータによって測定される、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、お客様はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、[責任共有モデル](#)を参照してください。

SIEM

「[セキュリティ情報とイベント管理システム](#)」を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

システムを中断させる可能性のあるアプリケーションの単一の重要なコンポーネントの障害。

SLA

[「サービスレベルアグリーメント」](#)を参照してください。

SLI

[「サービスレベルインジケータ」](#)を参照してください。

SLO

[「サービスレベルの目標」](#)を参照してください。

split-and-seed モデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケールアップと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、[「」の「アプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ AWS クラウド」](#)を参照してください。

SPOF

[単一障害点](#)を参照してください。

star スキーマ

トランザクションデータまたは測定データを保存するために 1 つの大きなファクトテーブルを使用し、データ属性を保存するために 1 つ以上の小さなディメンションテーブルを使用するデータベースの組織構造。この構造は、[データウェアハウス](#)またはビジネスインテリジェンスの目的で使用するように設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主にとって代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler により提唱されました](#)。このパターンの適用方法の例については、[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1 つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視統制とデータ収集 (SCADA)

製造では、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと生産オペレーションをモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーインタラクションをシミュレートして潜在的な問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりする方法でシステムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用してこれらのテストを作成できます。

T

タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

[「環境」](#) を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパター

ンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC と オンプレミス ネットワーク を相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定するサービスへのアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要とときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[AWS Organizations を他の AWS のサービスで使用する AWS Organizations](#)」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2 つのピザを食べることができる小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の 2 つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化](#) ガイドを参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

[「環境」](#)を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2 つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに関連する行のグループに対して計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均の計算や、現在の行の相対位置に基づく行の値へのアクセスなどのタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

[「書き込み 1 回」](#)を参照し、[多くの](#)を読み取ります。

WQF

[「AWS ワークロード認定フレームワーク」](#)を参照してください。

Write Once, Read Many (WORM)

データを 1 回書き込み、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認されたユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは [イミュータブルな](#) と見なされます。

Z

ゼロデイ 익스プロイト

[ゼロデイ脆弱性](#) を利用する攻撃、通常はマルウェア。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。